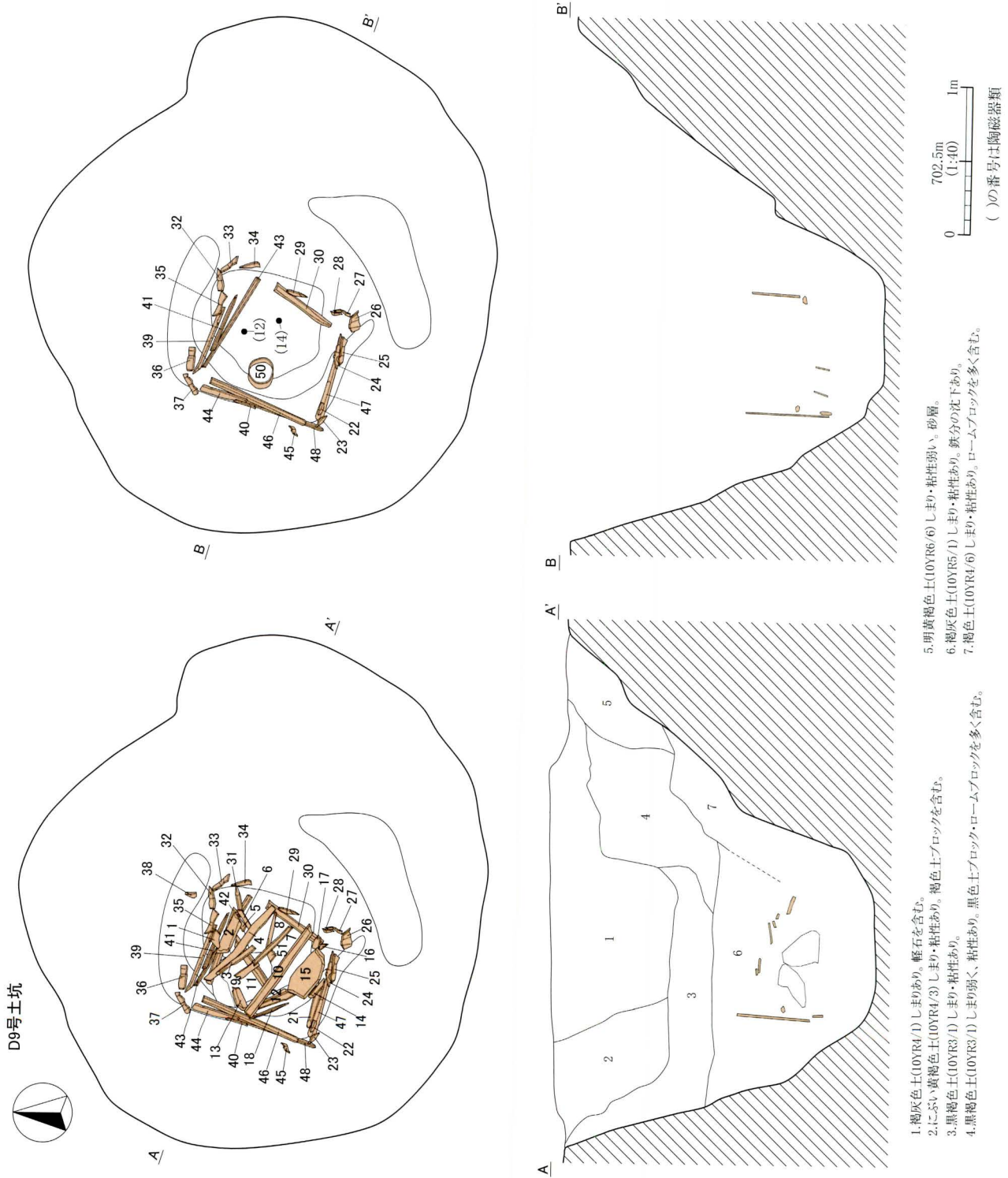
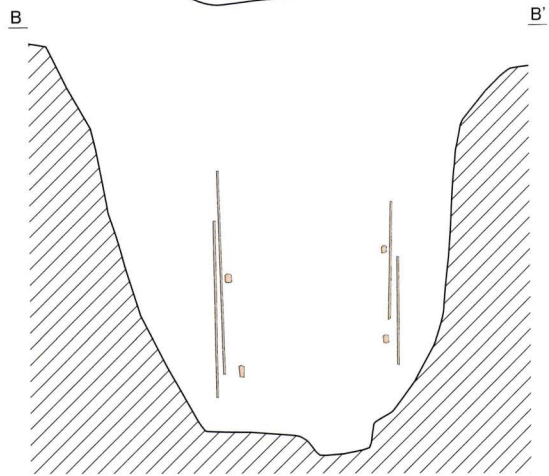
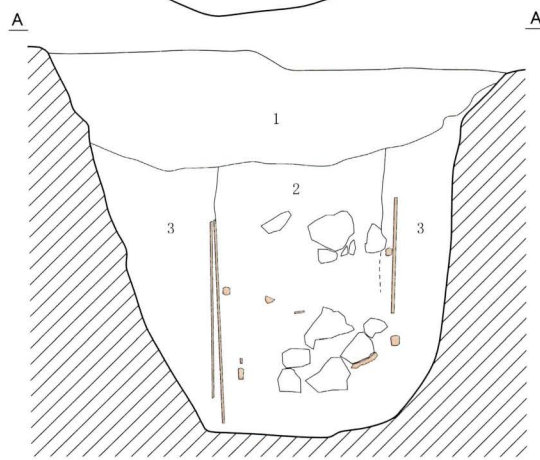
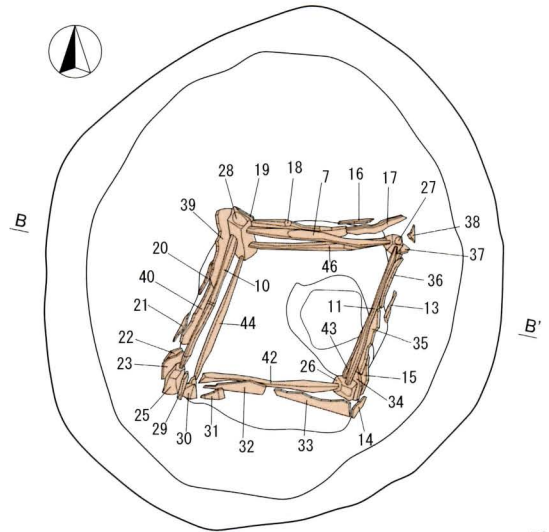
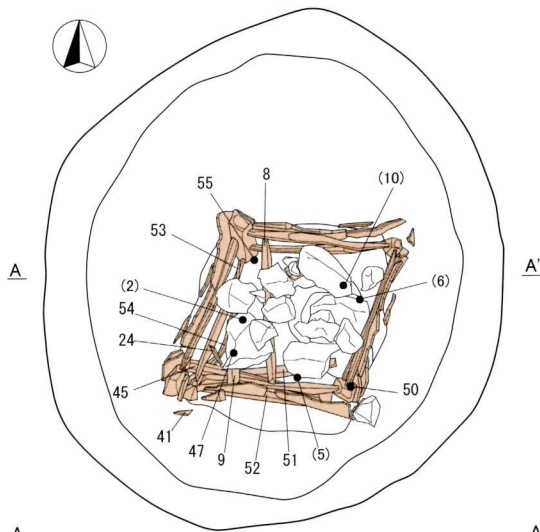


(12) D9号土坑

本址は調査区東側のXIX-19・20Grに位置する。形態は不整形で、規模は本遺跡の中では大型で、長軸3.48mで深さ2.18mを測る。底面はローム層まで掘り込んでいた。土坑下部からはやや崩れた状態であったが、木柵が出土し木柵に囲まれた土坑底面より曲げ物が出土した。このほかの出土遺物としては青磁の碗・皿片や東濃系の山茶碗、カワラケ等があった。これらの遺物から本址は13～14世紀代の所産が考えられる。



第92図 D9号土坑実測図



703.6m
(1:40) 1m

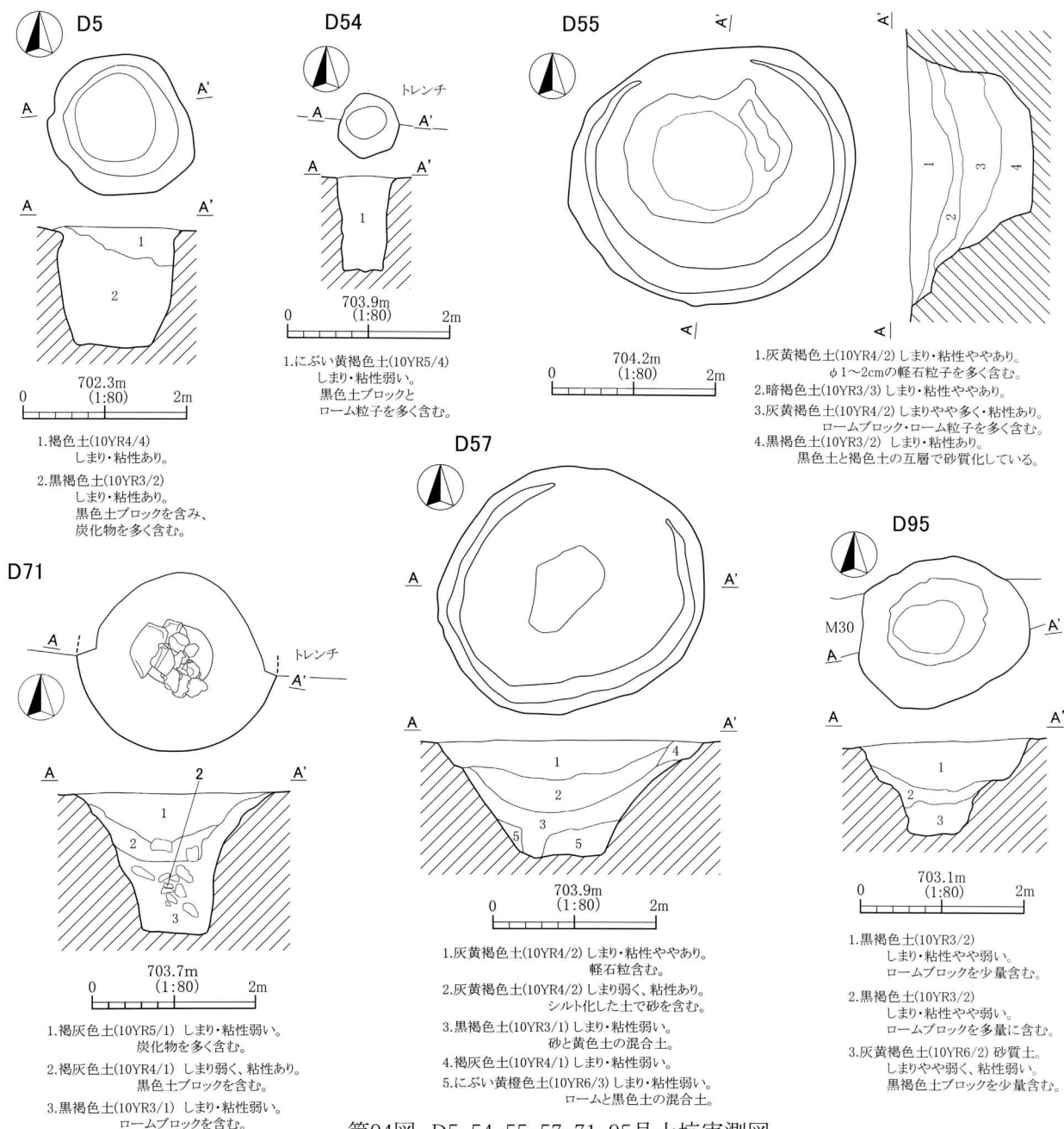
- 1. 褐灰色土(10YR5/1) しまりややあり。粘性あり。
- 2. 褐灰色土(10YR4/1) しまり・粘性あり。炭化物を含む。
- 3. 黄灰色土(2.5Y5/1) しまり・粘性あり。粘土層。

()の番号は実測土器・石器類



1~10 (1:4) 11(1:1)

第93図 D63号土坑及び出土遺物実測図



第94図 D5・54・55・57・71・95号土坑実測図

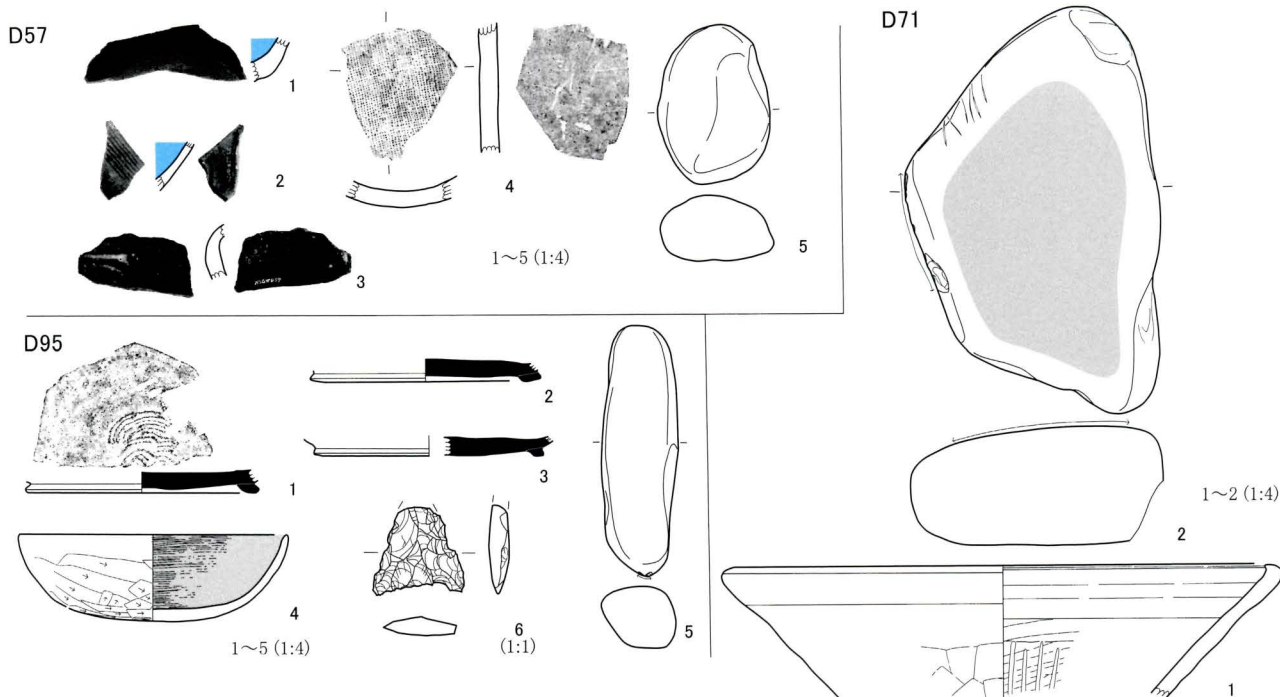
(13) D63号土坑

本址は調査区北側のX-5Grに位置する。残存状況は良好で、形態は円形である。規模は、長軸2.83m・深さ2.12mを測る。本址からは井戸の木枠が組まれた状態で出土した(写真参照)。構造は4本の杭に臍穴で組まれた2段の横木による枠で板を抑える状態で、板は長辺を縦方向に井戸に対して立てる状態で使用している。また、この木枠内からは人頭大の礫が重なるように検出され、底面のみならず中層まで詰まっていた。これらの礫は上層のものに関しては、廃絶時の投げ込みと考えられるが、底面検出の礫も乱雑さがめだつことから廃絶後の投げ込みと考えられる。

本址からの出土遺物は北関東系のすり鉢、中津川系の捏ね鉢、カワラケなどがあった。これらの遺物から本址は13~14世紀代の所産時期が考えられる。

(14) D5・54・55・57・71・95号土坑

本遺跡の井戸址は、掘り込み形態がいずれもすり鉢状の形態が多く、堅坑を深く掘り込むものはなかった。

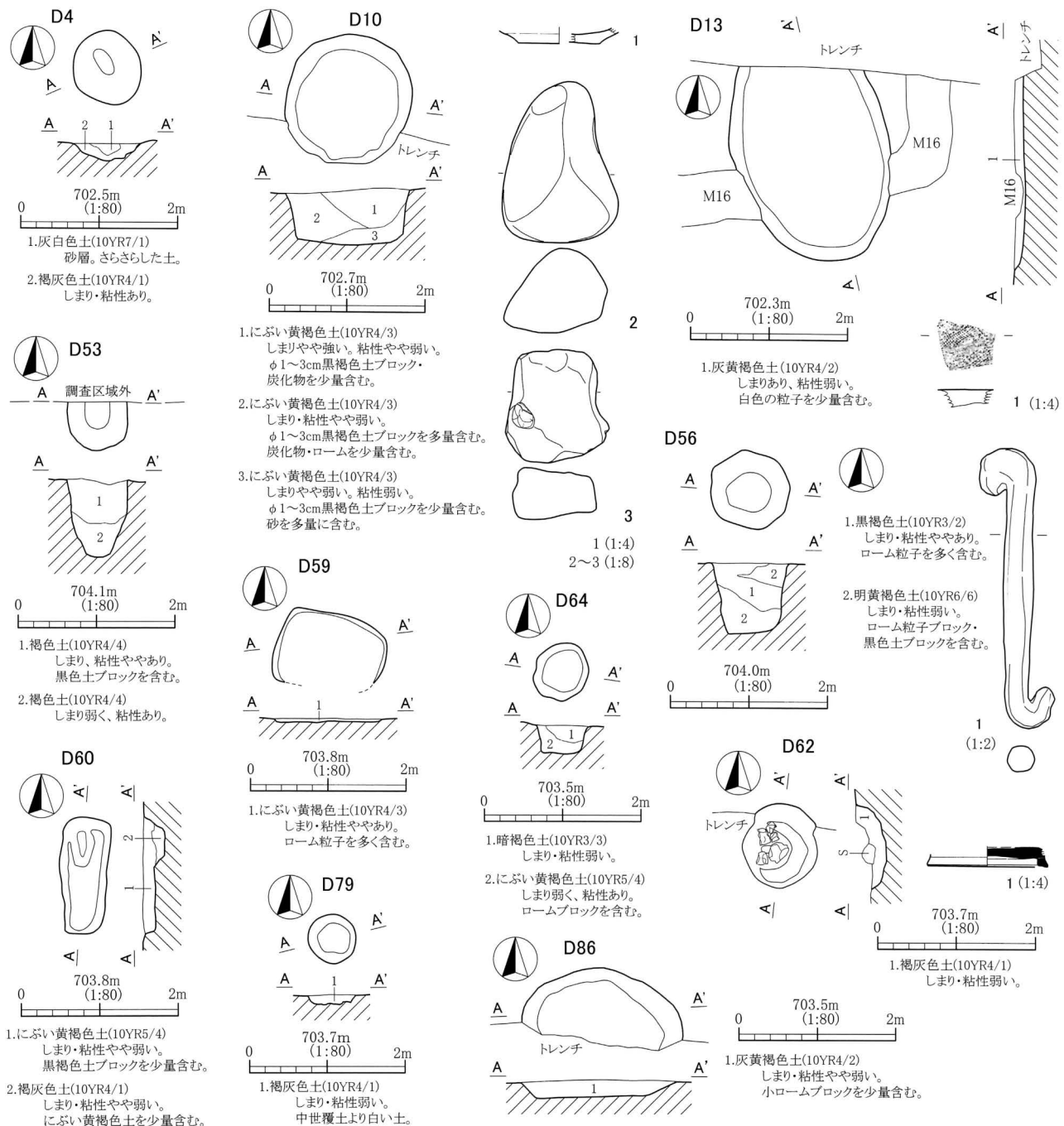


第95図 D57・71・95号土坑出土遺物実測図

第32表 D57・63・71・95号土坑出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値() 丸底● 備 考 ・ 出 土 位 置	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面		
D57	1	青磁	碗	-	-	-	施釉	施釉	断面実測 12C~13C前半 龍泉窯 S区
	2	青磁	碗	-	-	-	施釉	施釉	断面実測 12C後半 同安窯 S区
	3	陶器	壺	-	-	-	ヨコナデ	自然釉付着	断面実測 中世 常滑 S区
	4	瓦質 土器	瓦	(7.9)	(5.9)	(1.7)	布目痕	ナデ	S区
D63	1	須恵質	播り鉢	(28.5)	(14.8)	(12.6)	ヨコナデ→ナデ 磨耗	胴部ヨコナデ→ナデ 底部ナデ	完全実測 13C後半 北関東
	2	須恵質	捏ね鉢	-	(13.8)	(3.8)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測 13C後半 東濃(中津川) 外面底部自然釉付着
	3	土師質	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.8	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測 13C 枠内
D71	1	須恵質	播り鉢	(29.6)	-	(7.0)	ナデ→口縁ロクロナデ→播り目を刻む	口縁ロクロナデ 体部ナデ	回転実測
D95	1	須恵器	有台坏	-	(12.2)	(1.2)	ロクロナデ→当て具痕あり	ロクロナデ→回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリ→高台貼付	回転実測
	2	須恵器	有台坏	-	(12.2)	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り後回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測 外面自然釉付着
	3	須恵器	有台坏	-	(12.2)	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測
	4	土師器	坏	(14.2)	-	4.7	ミガキ→黒色処理	口縁ヨコナデ→ヘラケズリ	完全実測
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出 土 位 置
D63	4	砥石	斑礪岩	(13.7)	(8.7)	(7.4)	(1220)	被熱あり 全体に黒化 上下~裏欠損 正面に浅い条痕	井戸枠内
	5	磨石	輝石安山岩	8.7	6.8	3.8	312.18	正面にすり面	
	6	軽石製品	軽石	8.2	7.9	6.0	182.55	全体にすり	
	7	台石	安山岩	14.9	13.8	5.3	2040.00	被熱あり 正面以外黒化 正面に擦痕	
	8	編物石?	黒色緻密安山岩	(9.5)	(4.8)	(2.5)	(135.47)	下部欠損	井戸枠内
	9	編物石?	硬質砂岩	11.3	4.1	3.3	173.38	右側は挟りか?	井戸枠内
	10	編物石?	粗粒砂岩	9.1	5.2	3.0	207.00	右側は挟りか?	
	11	原石	チャート	2.4	2.0	0.8	3.48		
D57	5	?	安山岩	8.6	6.0	3.5	250.67		S区
D71	2	磨・敲石	輝石安山岩	21.6	13.4	6.4	(2830)	一部欠損 正面にすり面 左側に条痕と敲打痕	
D95	5	敲石	硬質砂岩	13.4	4.1	3.4	303.17	下端部に敲打痕	
	6	石鏃	黒曜石	(1.2)	1.2	0.3	(0.32)	先端部欠損	

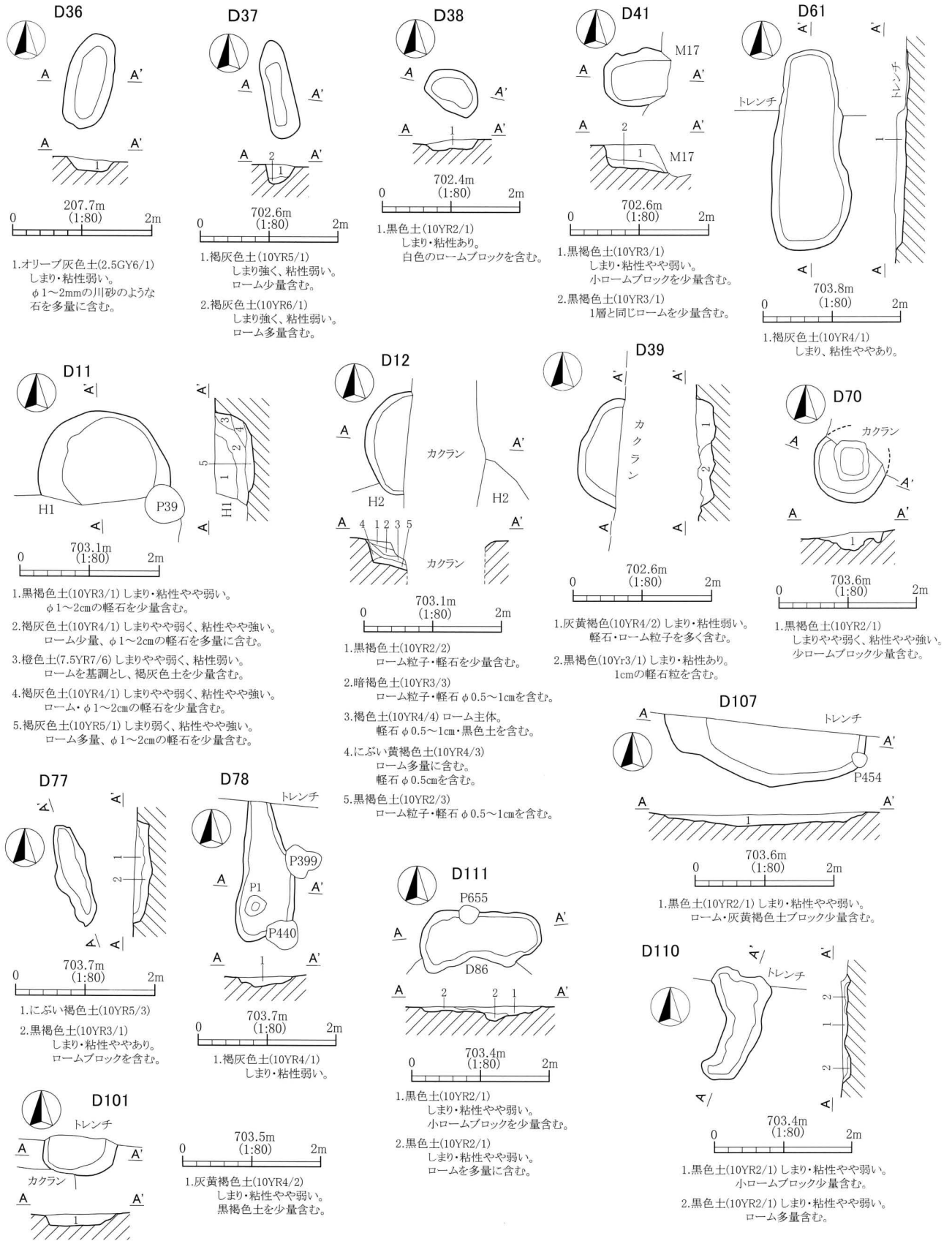


第96図 D4・10・13・53・56・59・60・62・64・79・86号土坑及び出土遺物実測図

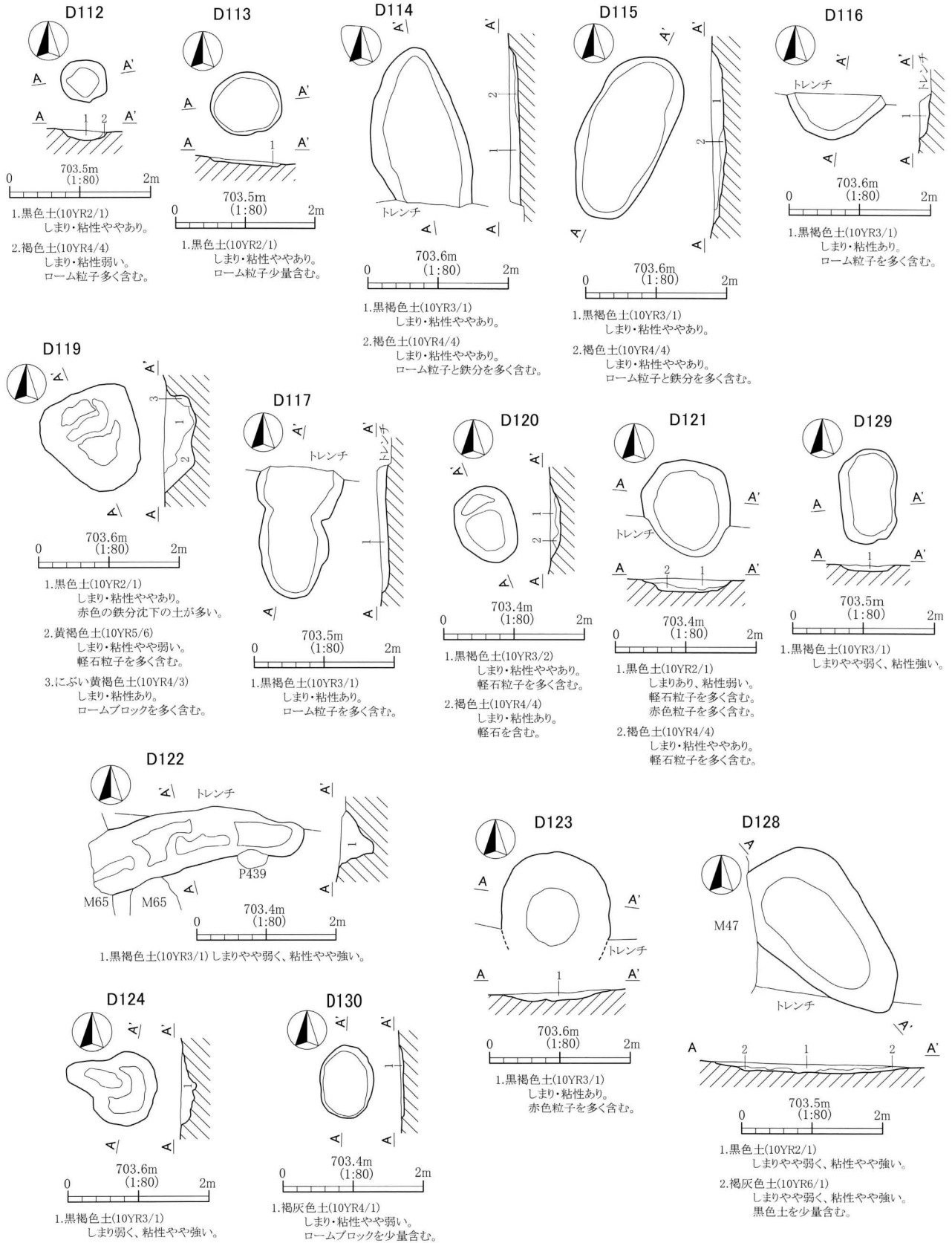
第33表 D10・13・56・62号土坑出土遺物観察表

(cm)

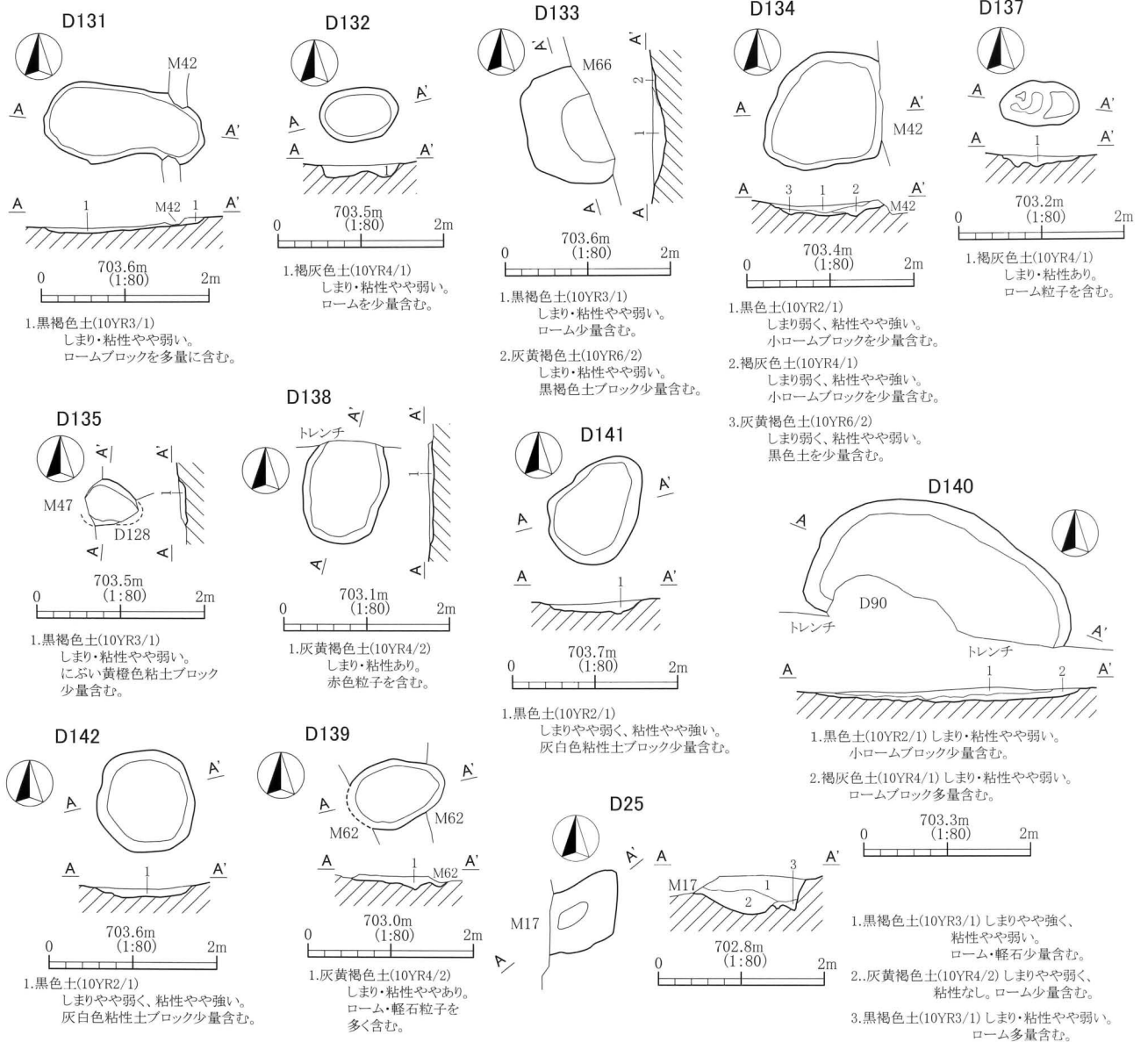
土坑 No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●			
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置		
D10	1	土師質 かわらけ	-	(5.2)	(1.0)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り		回転実測		
D13	1	瓦質 土器 瓦	(3.9)	(3.5)	(1.1)	布目痕	剥離				
D62	1	須恵器 有台坏	-	(7.6)	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付		回転実測		
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置		
D10	2	敲石?	輝石安山岩	20.8	14.8	10.8	3660.00	被熱あり	部分的に黒化		
D10	3	敲石?	輝石安山岩	14.5	13.1	6.6	1880.00	被熱あり	右側以外黒化 被熱割れあり		
D56	1	不明	鉄	9.0	2.3	1.0	16.91				



第97図 D36~39・41・11・12・61・70・77・78・101・107・110・111号土坑実測図



第98図 D112~117・119~124・128~130号土坑実測図



第99図 D25・131～135・137～142号土坑実測図



D20号土坑調査風景

第5節 溝状遺構

本遺跡からは76本の溝状遺構が検出された。検出位置は調査区全体に及ぶが、所産時期により溝状遺構の構築方向に違いがみられた。弥生～古代に属する遺構は調査区の北東方向から南西方向に伸びる状態で検出された。これに対して、中世の所産と考えられる溝状遺構は南北、東西方向を指向しており、各遺構も直角に交わるものも多かった。本項ではこれら遺構を時期に集成し、特徴ある遺構についてはその都度詳細を記載した。その他のものについては、掲載した溝状遺構計測一覧を参照されたい。

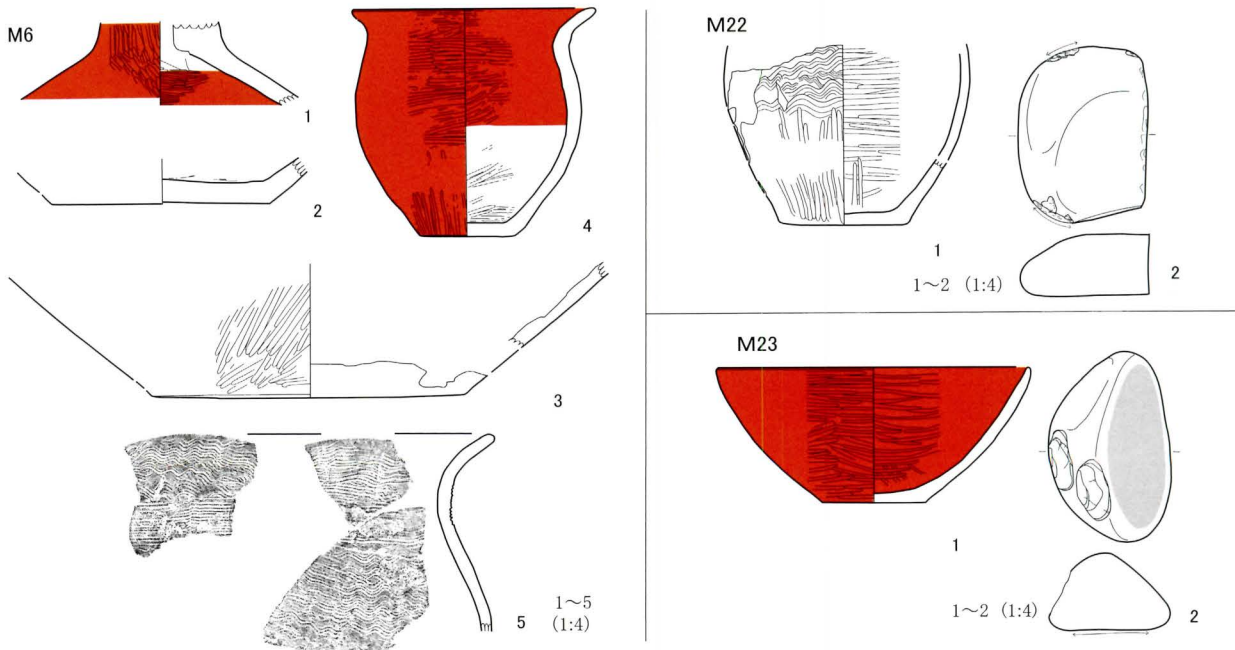
検出された溝状遺構の時期別の内訳は以下の通りである。時期決定に関しては出土遺物や覆土の状況より判断した。なお、遺構番号後ろの()番号は、調査時点で別番号を付与した遺構が後に同一遺構と判断できたものであり、実測図面や出土遺物は旧名称を用いるが同一項で報告する。近世以降の遺構図は全体図を参照されたい。

弥生期	8本	M6.11.22.23.80.87.45.46
古墳期	1本	M7
古代	25本	M8.9.10.16.26.24.25.34.35.39(76).40.41.48.42(69).43.47(51).63.65.66.71.73.74.75.77.78
中世	15本	M1.2.15.17(33).18.19.27.28.29.37.91.49(52.64).54.67.72
近世以降	18本	M12(55).13(14).20.21.30(60).31.32.36(58.59).38.44.53.56.57.61.62.68.89.90
不明	9本	M3.4.5.50.70.79.81.86.88

(1) M6号溝状遺構

本址は調査区東側のX X・X X I区に位置する。本址は調査区北東方向から南西方向に伸びる状態で検出され、東西端は調査区域外となる。溝はやや湾曲する部分もあるがほぼ直線に伸び、掘り込み形態はU字形を呈する。底面は人一人が歩ける幅の状態であった。規模は検出長が97.34m、幅が土手を含めると4.27～4.93m、最小幅で0.87mを測る。溝深さは0.67～0.74mで、東端と西端の標高差は0.74mで、西側の方が低かった。

本址の特徴は、一部西側部分で検出された土手状の高まりである(セクション図B-B'・C-C' 間参照)。この高まりは溝北側で高さ0.14～0.17m、幅0.77～0.97mを測る。土層は砂を含む黒褐色土で、所謂「版築」のような堆積ではないが、写真図版57-⑥で示したように北側から堆積する砂層が盛り上がるのが観察できる。このため、この高まりは、溝掘り直し時の排土等の堆積など、人為的なものと判断した。



第100図 M6・22・23号溝状遺構出土遺物実測図

また、セクション図D-D'間は表土からの観察ができたが、表土耕作土下の2~4層の堆積は溝状の堆積を示している。M6号本体との間には6.7層の間層が堆積するが、この上部の掘り込みも溝掘り直しの可能性が指摘でき、溝の中心が南側にずれていく状態を示していることは、住居地の項でも述べた「弥生期の地殻のズレ」に起因するものかもしれない。本址からの出土遺物は少なく、覆土中より図示した遺物等が出土した。出土した遺物は弥生後期の箱清水式がほとんどであり、4の壺は溝中へ転落したような状態で出土した。これらの出土遺物より本址は弥生後期の所産と考えられる。

(2) M22・23号溝状遺構

本址は調査区東側のXX区を中心に検出され、本址もM6号溝状遺構と同じく調査区東方向から西方向に伸びる状態で検出された。本址は当初の遺構確認面では検出できず、M8・9・10号溝状遺構調査時にその下部に遺構が存在することが確認でき、再度の確認面下げを行い検出した。その結果、古代・中世の確認面である灰白色土層下の黒色土がM22・23号溝状遺構の確認面であることがわかった。

M22号溝状遺構はほぼ同じ幅で伸びており、規模は検出長が56.2m、幅が平均で1.00m、深さが0.16~0.50mを測る。東側で一部に土坑状の大きく掘り込まれた部分が検出された。規模は径2.36m・深さ0.93mを測る。本址は西側と東側でほとんど標高差がなく、標高701.2m前後で掘削されている。溝底面の形状は逆台形状を呈する。

M23号溝状遺構はM22号溝状遺構に沿うように南側で検出された。規模は検出長27.99m、幅が0.33~1.44m、深さは0.08~0.55mを測る。溝の西端は自然に消滅していた。底面の形状は逆台形であり、ほぼ平坦であった。溝の比高差は西端で0.19m低くなるが、約28m間の差であり、M22号溝状遺構と同じく、ほぼ地形に沿って掘削されている。

両遺構からは図示した遺物の他にいずれも弥生後期の箱清水式土器片がわずかながら出土した。これらの事からM22・23号溝状遺構は弥生後期の所産と考えられる。

(3) M7号溝状遺構

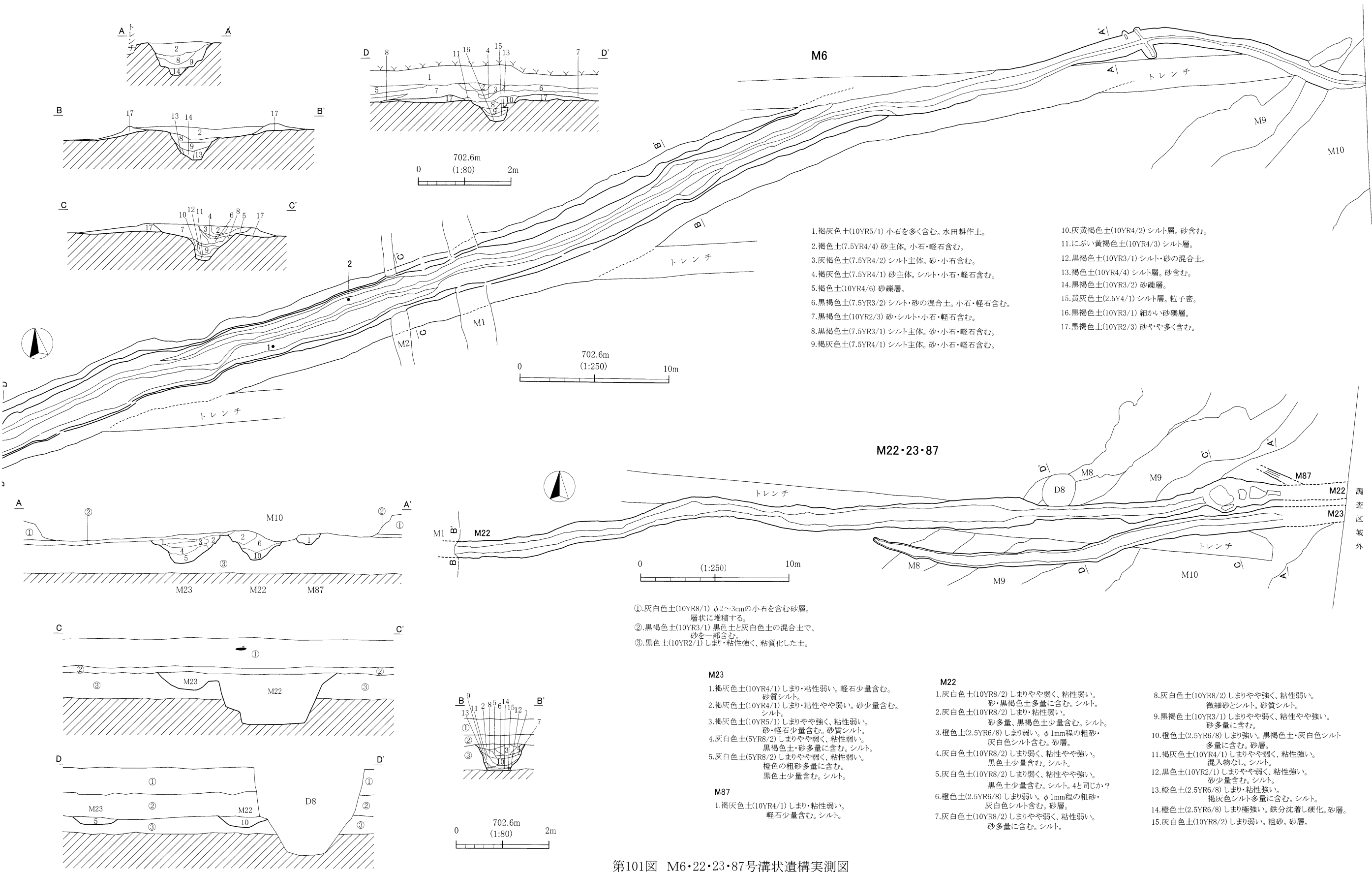
本址は調査区東側のXXI・XXII・XXIII区を中心に検出された。検出部北端は南北方向に伸びる形状で、調査区内は北東から南西方向に伸びている。規模は検出長95.73m・幅1.20~2.00m・深さは0.38~0.88mを測る。形状は逆台形である。溝の比高差は0.58mを測る。

本址からの出土遺物は図示したものがあり、1と2は古墳時代中期の特徴的な坏であり、1は復元の結果ほぼ完形となった。このことから本址の所産時期は古墳時代と考えたい。

第34表 M6・7・22・23号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
M6	1	弥生	蓋	-	-	(4.4)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	回転実測	IV区
	2	弥生	壺	-	11.3	(2.4)	ナデ	ミガキ	完全実測	XXII-16 土手
	3	弥生	壺	-	(16.7)	(7.1)		ミガキ	完全実測 内面剥離	XXII-16 土手 U3-398
	4	弥生	甕	(13.0)	5.0	12.2	ミガキ→口縁から胴上半部赤色塗彩	ミガキ→口縁から胴部赤色塗彩	完全実測	No.2
	5	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	櫛描縞状文 櫛描波状文	断面実測	IV区 XX I-5
M7	1	土師器	坏	(11.9)	-	5.6	ミガキ	口縁ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実測	XXII-7
	2	土師器	坏	-	-	-	体部ナデ→口縁ヨコナデ	体部ナデ→口縁ヨコナデ	破片実測	XXII-7
	3	弥生	鉢	-	6.2	(2.9)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→体部赤色塗彩	完全実測	XXIII-6
	4	弥生	甕	-	-	-	ナデ	RL縄文	断面実測	XXII-13
M22	1	弥生	甕	-	6.8	(9.6)	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測	
M23	1	弥生	鉢	(16.4)	(5.4)	7.2	ヘラミガキ→赤色塗彩	坏部・底部ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M7	5	円板	土製品	4.6	5.5	0.8	26.57	内面ハケナデ 外面ハケナデ→ミガキ		M7
	6	打製石斧	硬質砂岩	(11.9)	(5.8)	(1.8)	(154.70)	基部欠損 刃部付近に磨滅		No.1
	7	凹石	輝石安山岩	32.2	26.9	高さ 16.5	12530.00	中央の凹径10.4×9.3 凹深1.9 すり面3 正裏に凹(正面11コ 裏5コ)		III区
M22	2	敲石	硬質	9.4	7.0	3.3	357.61	上下端部に敲打痕		
M23	2	磨・敲石	輝石安山岩	10.2	6.4	4.2	350.37	正裏にすり面 左側に敲打痕		



1. 褐灰色土(10YR5/1) 小石を多く含む。水田耕作土。
2. 褐色土(7.5YR4/4) 砂主体。小石・軽石含む。
3. 灰褐色土(7.5YR4/2) シルト主体。砂・小石含む。
4. 褐灰色土(7.5YR4/1) 砂主体。シルト・小石・軽石含む。
5. 褐色土(10YR4/6) 砂礫層。
6. 黒褐色土(7.5YR3/2) シルト・砂の混合土。小石・軽石含む。
7. 黒褐色土(10YR2/3) 砂・シルト・小石・軽石含む。
8. 黒褐色土(7.5YR3/1) シルト主体。砂・小石・軽石含む。
9. 褐灰色土(7.5YR4/1) シルト主体。砂・小石・軽石含む。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト層。砂含む。
11. ぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト層。
12. 黒褐色土(10YR3/1) シルト・砂の混合土。
13. 褐色土(10YR4/4) シルト層。砂含む。
14. 黒褐色土(10YR3/2) 砂礫層。
15. 黄灰色土(2.5Y4/1) シルト層。粒子密。
16. 黒褐色土(10YR3/1) 細かい砂礫層。
17. 黒褐色土(10YR2/3) 砂やや多く含む。

- ①. 灰白色土(10YR8/1) φ2~3cmの小石を含む砂層。層状に堆積する。
- ②. 黒褐色土(10YR3/1) 黒色土と灰白色土の混合土で、砂を一部含む。
- ③. 黒色土(10YR2/1) しまり・粘性強く、粘質化した土。

M23

1. 褐灰色土(10YR4/1) しまり・粘性弱い。軽石少量含む。砂質シルト。
2. 褐灰色土(10YR4/1) しまり・粘性やや弱い。砂少量含む。シルト。
3. 褐灰色土(10YR5/1) しまりやや強く、粘性弱い。砂・軽石少量含む。砂質シルト。
4. 灰白色土(5YR8/2) しまりやや弱く、粘性弱い。黒褐色土・砂多量に含む。シルト。
5. 灰白色土(5YR8/2) しまりやや弱く、粘性弱い。橙色の粗砂多量に含む。黒色土少量含む。シルト。

M87

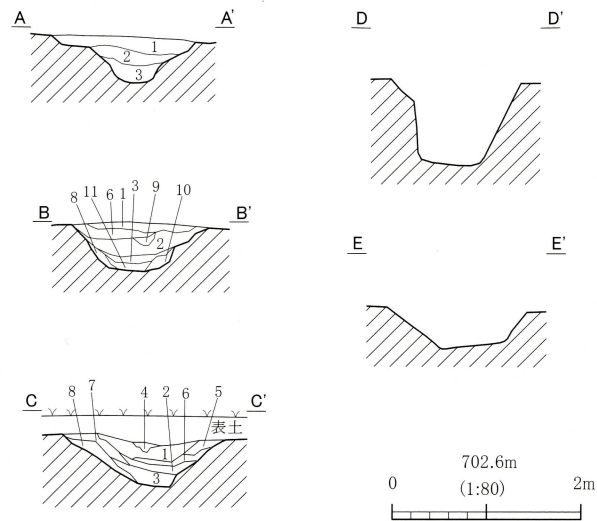
1. 褐灰色土(10YR4/1) しまり・粘性弱い。軽石少量含む。シルト。

M22

1. 灰白色土(10YR8/2) しまりやや弱く、粘性弱い。砂・黒褐色土多量に含む。シルト。
2. 灰白色土(10YR8/2) しまり・粘性弱い。砂多量、黒褐色土少量含む。シルト。
3. 橙色土(2.5YR6/8) しまり弱い。φ1mm程の粗砂・灰白色シルト含む。砂層。
4. 灰白色土(10YR8/2) しまり弱く、粘性やや強い。黒色土少量含む。シルト。
5. 灰白色土(10YR8/2) しまり弱く、粘性やや強い。黒色土少量含む。シルト。4と同じか？
6. 橙色土(2.5YR6/8) しまり弱い。φ1mm程の粗砂・灰白色シルト含む。砂層。
7. 灰白色土(10YR8/2) しまりやや弱く、粘性弱い。砂多量に含む。シルト。

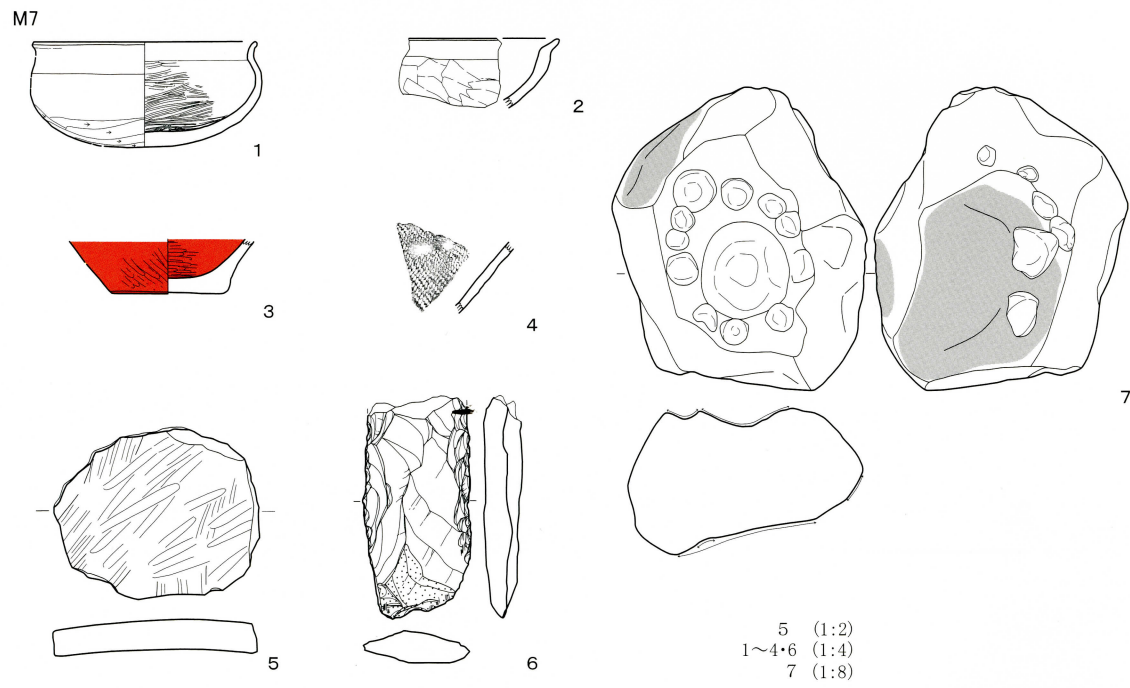
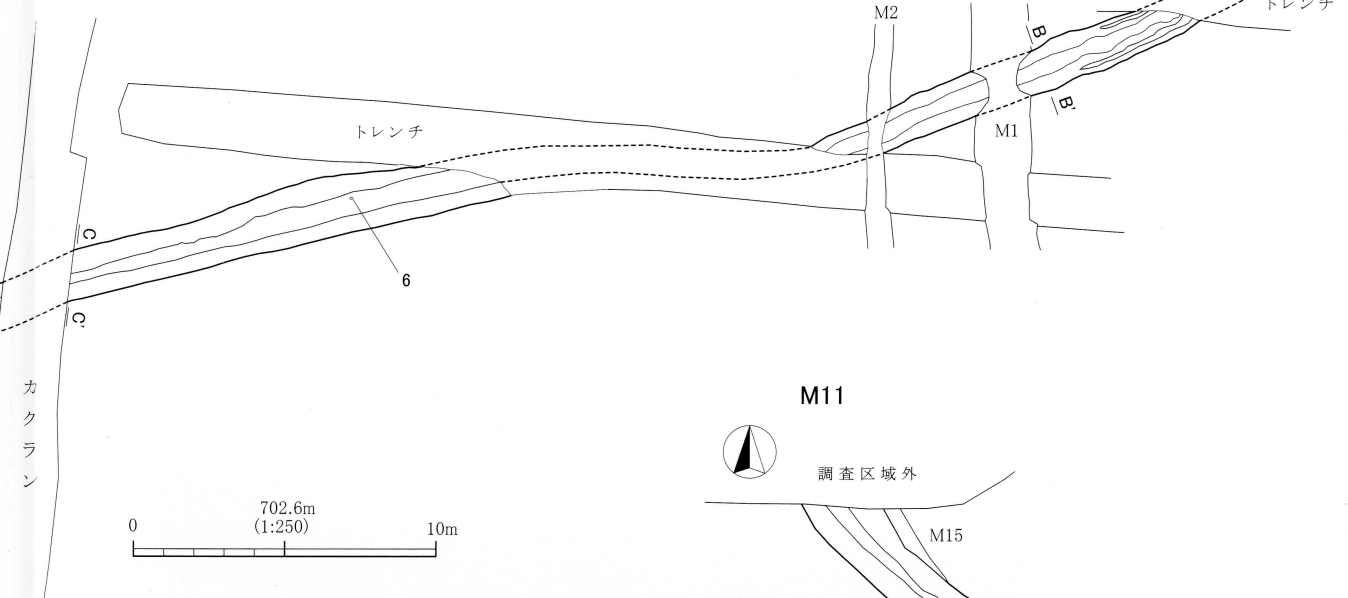
8. 灰白色土(10YR8/2) しまりやや強く、粘性弱い。微細砂とシルト。砂質シルト。
9. 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや弱く、粘性やや強い。砂多量に含む。
10. 橙色土(2.5YR6/8) しまり強い。黒褐色土・灰白色シルト多量に含む。砂層。
11. 褐灰色土(10YR4/1) しまりやや弱く、粘性強い。混入物なし。シルト。
12. 黒色土(10YR2/1) しまりやや弱く、粘性強い。砂少量含む。シルト。
13. 橙色土(2.5YR6/8) しまり・粘性強い。褐灰色シルト多量に含む。シルト。
14. 橙色土(2.5YR6/8) しまり極強い。鉄分沈着し硬化。砂層。
15. 灰白色土(10YR8/2) しまり弱い。粗砂。砂層。

第101図 M6・22・23・87号溝状遺構実測図



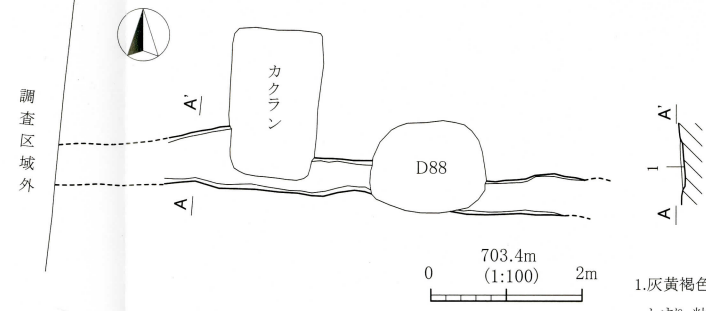
1. 明褐色土(7.5YR7/2)シルト主体。砂を含む。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2)シルト主体。砂・軽石を含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)砂・軽石。
4. 褐色土(7.5YR4/3)シルト・砂を含む。
5. 褐色土(7.5YR4/3)シルト・砂・灰白色シルト。
6. 黒褐色土(7.5YR3/2)シルト・砂・灰白色シルト。
7. 黒褐色土(7.5YR3/2)シルト主体。砂含む。
8. 暗褐色土(7.5YR3/3)砂・軽石。
9. 黒褐色土(7.5YR3/2)シルト・砂。
10. にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム多量。シルト・砂。
11. 黒褐色土(10YR2/3)シルト・砂・軽石。

M7



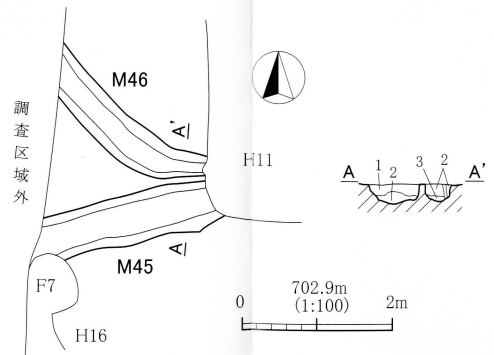
- 5 (1:2)
1~4・6 (1:4)
7 (1:8)

M80



1. 灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い。黒褐色土少量含む。

M45・46

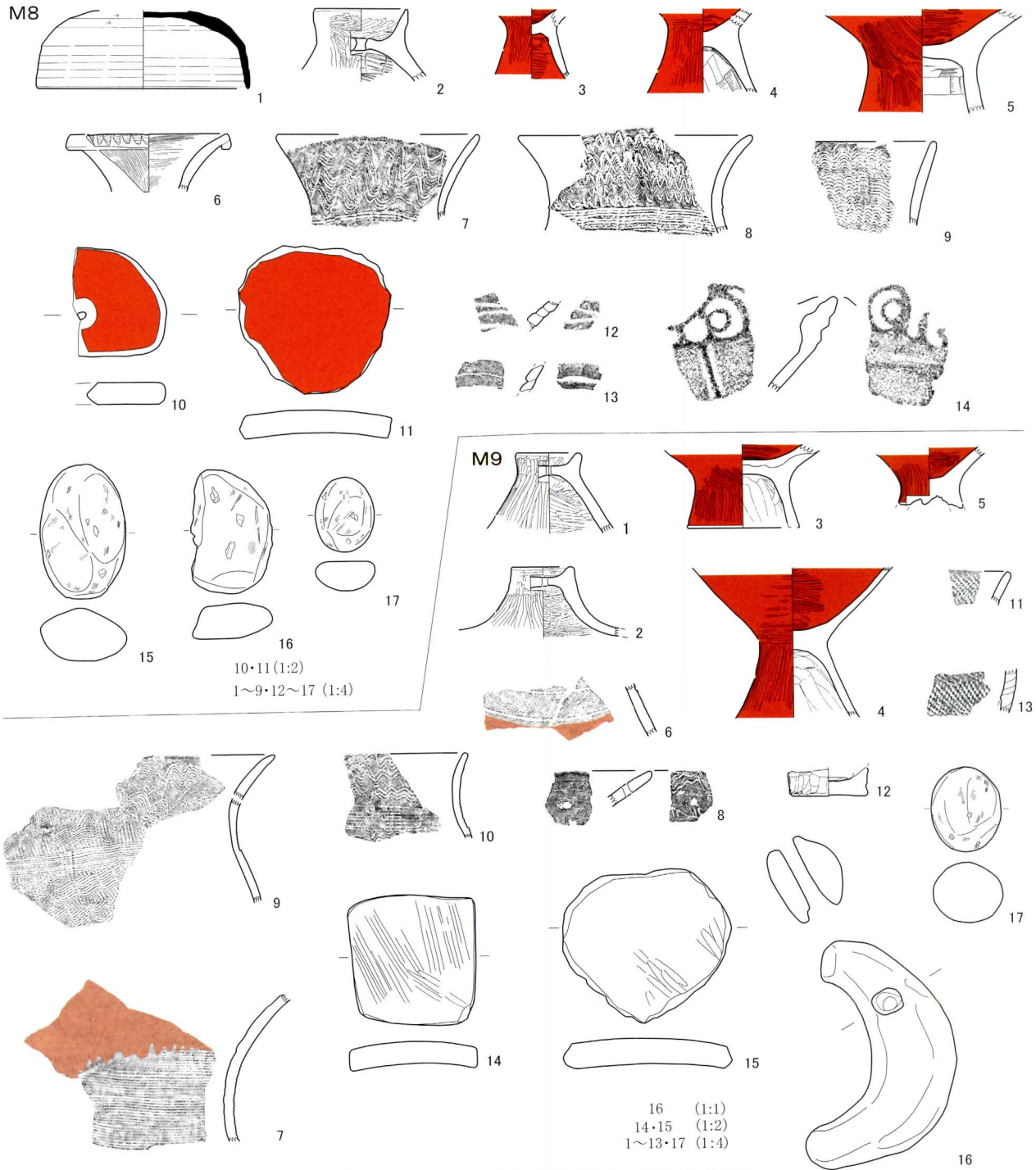


1. 灰黄褐色土(10YR6/2)しまりやや強く、粘性弱い。小黒褐色土ブロックを少量含む。
2. 黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームブロック少量含む。
3. 灰黄褐色土(10YR6/2)しまりやや強く、粘性弱い。黒褐色土少量含む。

第102図 M7・11・45・46・80号溝状遺構及び出土遺物実測図

(4) M8・9・10号溝状遺構

本址は調査区東側端のXIX・XX区を中心に検出された。北東から南西に伸びる形状で、3本の溝状遺構が並ぶように検出された。規模はM8が検出長46.30m・幅0.68~3.55m・深さは0.38~0.73mを測る。M9は検出長52.85m・幅0.70~3.32m・深さ0.32~0.47mを測る。M10は検出長41.23m・幅5.44~8.52m・深さ0.55~0.60mを測る。いずれの溝も北側より南側が0.52~0.96m低くなっている。溝の形状はM8とM9は逆台形状の掘り込みで、底面は凹凸があった。M10は3本の溝の中で最も幅広であり、形状も複雑で底面も凹凸が激しかった。また、セクション図D-D'・E-E'で示したように、何度かの掘り込みの結果が現状の形を示していると考えられる。



第103図 M8・9号溝状遺構出土遺物実測図

第35表 M8・9号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値() 丸底●	備 考	出土位置
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内 面	外 面			
M8	1	須恵器	蓋	(13.8)	-	(5.0)	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	回転実測	I区
	2	弥生	蓋	-	つまみ 6.1	(4.7)	ミガキ	ミガキ	完全実測	焼成前穿孔 II区
	3	弥生	高坏	-	-	(4.5)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	III区
	4	弥生	高坏	-	-	(5.4)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ハケ目の残るナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	IV区
	5	弥生	高坏	-	-	(6.7)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ハケ目の残るナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	III区
	6	弥生	壺	(10.6)	-	(3.7)	頸部ハケ目 口縁ハケ目の残るナデ	口唇部ハケ状工具による圧痕 口縁ハケ目	回転実測	II区
	7	弥生	甕	(13.2)	-	(5.5)	ハケ目→ミガキ	櫛描簾状文 櫛描波状文	回転実測	III区
	8	弥生	甕	(15.2)	-	(6.3)	ミガキ	櫛描簾状文 櫛描波状文 口唇部に刻み	回転実測	II区
	9	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	櫛描波状文	断面実測	I区
	10	弥生	紡錘車	(3.0)	3.5	0.7	ミガキ	ミガキ→赤色塗彩 焼成後穿孔		III区
	12		手づくね土器	-	-	-	ナデ	ナデ	断面実測	I区
	13		手づくね土器	-	-	-	ナデ	ナデ	断面実測	II区
	14	縄文	浅鉢	-	-	-	隆帯	隆帯 沈線	断面実測	I区
	M9	1	弥生	蓋	-	つまみ 4.3	(5.2)	ミガキ	ミガキ→赤色塗彩 焼成前穿孔	完全実測
2		弥生	蓋	-	つまみ 4.1	(4.5)	ミガキ	ミガキ 焼成前穿孔	完全実測	IV区
3		弥生	高坏	-	(7.2)	(5.4)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	IV区
4		弥生	高坏	-	-	(9.7)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ナデ	ミガキ→赤色塗彩 完全実測 脚部内面に赤色顔料付着		I区 IV区
5		弥生	高坏	-	-	(3.8)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	IV区
6		弥生	壺	-	-	-	ハケ目の残るナデ	ミガキ→赤色塗彩 ヘラ描沈線 ヘラ描斜走文	断面実測	III区
7		弥生	壺	-	-	-	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩 櫛描横走平行線文	断面実測	II区
8		弥生	?	-	-	-	櫛描波状文	ヨコナデ→焼成前穿孔	断面実測	II区
9		弥生	甕	-	-	-	ミガキ	櫛描簾状文(10本 2連止め) 櫛描波状文	断面実測	II区 XIX-15
10		弥生	甕	-	-	-	ミガキ	櫛描簾状文(8本 3連止め) 櫛描波状文	断面実測	I区
11		弥生	甕	-	-	-	ミガキ	縄文RL	断面実測	II区
12		弥生	ミナツ鉢	-	5.0	(1.8)	ナデ	ナデ	完全実測	IV区
13		弥生	甕	-	-	-	ミガキ	縄文RL	断面実測	IV区
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M8	11	円板	土製品	4.8	5.0	0.8	20.60	内面ミガキ→赤色塗彩 外面ミガキ→赤色塗彩		III区
	15	軽石製品	軽石	8.7	5.6	3.4	61.05	全体にすり		III区
	16	軽石製品	軽石	8.0	5.4	2.3	46.95	全体にすり		IV区
	17	軽石製品	軽石	4.9	3.8	2.0	14.34	全体にすり		IV区
M9	14	土板	土製品	4.3	4.2	0.7	18.50	内面ハケナデ→ナデ 外面ハケナデ→ミガキ 方形		II区
	15	円板	土製品	5.0	5.4	0.9	25.63	内面ハケナデ 外面ミガキ		III区
	16	勾玉	土製	3.8	1.4	1.5	9.83	孔径0.3 調整ナデ		No.1
	17	軽石製品	軽石	5.5	4.5	4.0	46.65	全体にすり		II区

3本のいずれの覆土も、砂層やシルト層が主体をなしており、堆積状況も水流の影響を受けた様子が観察できた。また、各溝状遺構からの出土遺物は多かったが、そのほとんどは覆土中からのものであり、尚且つ遺物の縁辺部が摩耗した土器片も多く見られた。これらの事から3本の溝状遺構はいずれも水路あるいは自然流路の可能性が指摘でき、現状3本の溝状遺構に分離しているが、本来は一本の溝状遺構が時間経過とともに流れを変えた結果が、現状の姿とも推定できる。

出土遺物はM8号溝状遺構で17点、M9号溝状遺構で同じく17点、M10号溝状遺構で46点を図示した。特徴的な遺物としてはM8の6が弥生時代壺の口縁部破片と考えられるが、在地の箱清水式や栗林式とは形態が異なり、系譜が注目される。また、M9で14の方形の土版や16の土製勾玉は希少な出土例である。M10からは須恵器や土師器の出土が多く、17の須恵器甕はほぼ全容が解る程度に復元された。また、24の弥生箱清水式の蓋は、稲や雑穀等の痕跡が顕著で意図的な混入が考えられる(第V章 科学分析参照)。3遺構の遺物共通点として、いずれの溝からも縄文・弥生・古代までの遺物が出土するのみで、中世以降の出土遺物は含まれていなかった。このことからM8・9・10号溝状遺構は古代まで機能していた溝と考えられる。

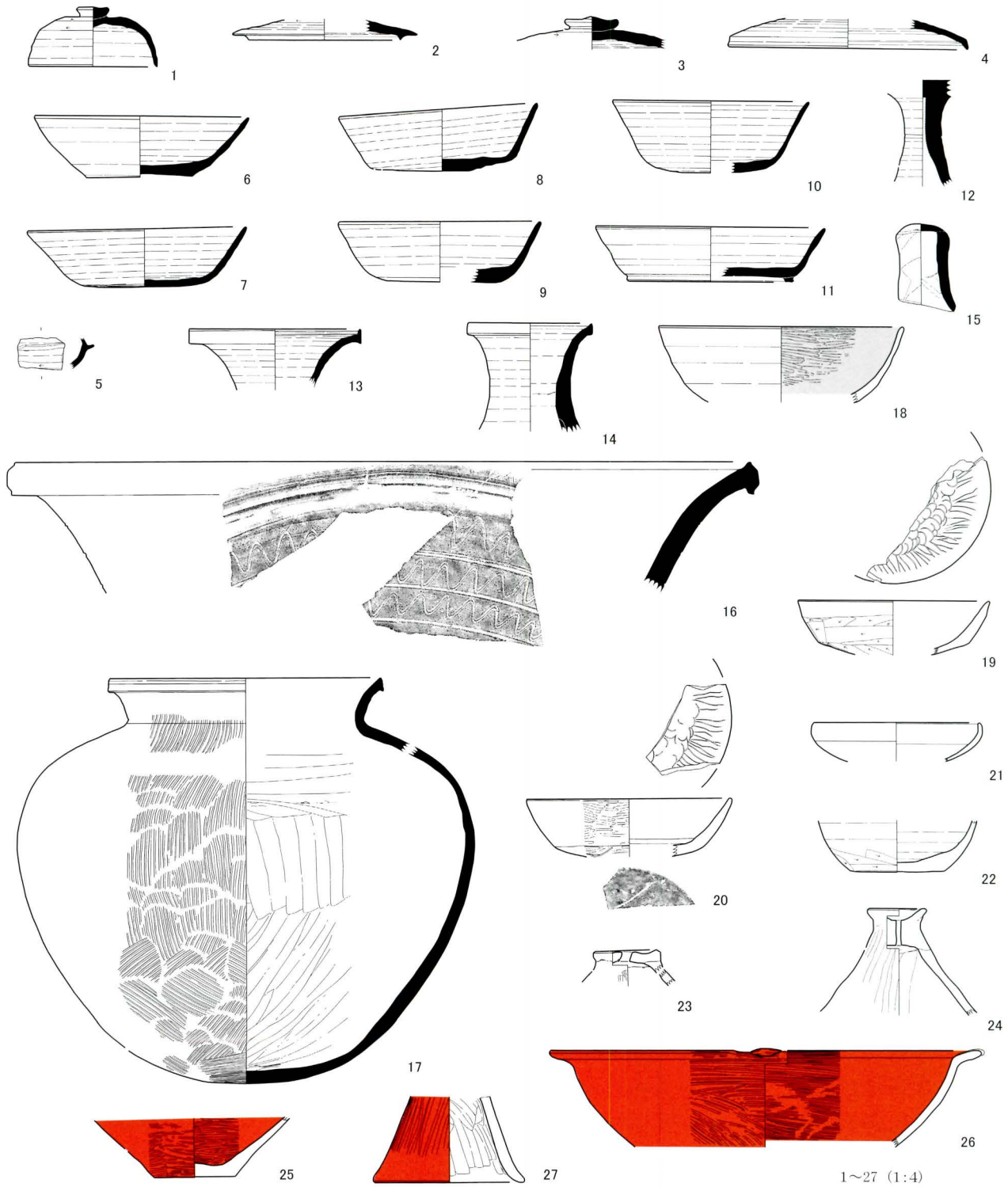
第36表 M10号溝状遺構出土遺物観察表 (1)

(cm)

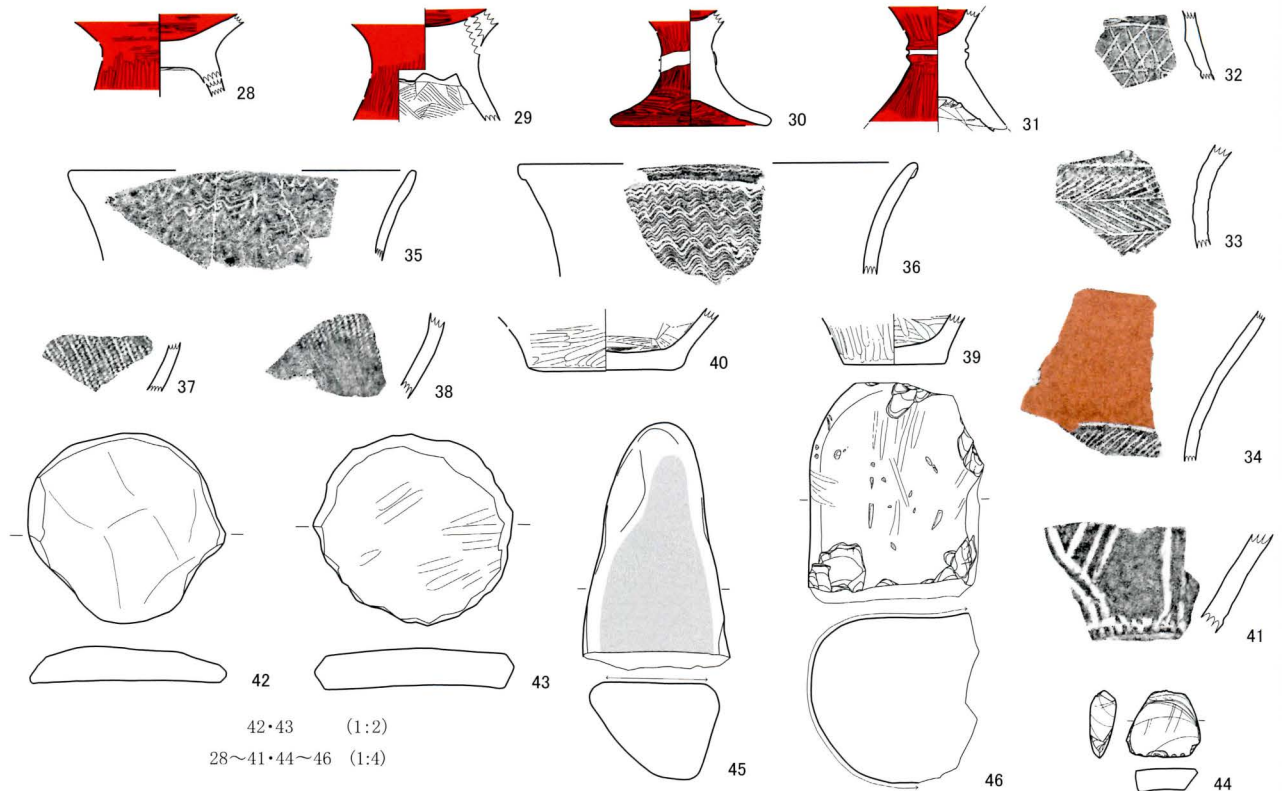
No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値() 丸底●	
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	須恵器	蓋	8.0	つまみ 2.2	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測 外面 自然釉付着	I 区
2	須恵器	蓋	(9.8)	-	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	回転実測	II 区
3	須恵器	蓋	-	つまみ 3.6	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測 外面 自然釉付着	I 区
4	須恵器	蓋	15.0	-	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 外面 自然釉付着	I 区 II 区
5	須恵器	坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	破片実測	II 区
6	須恵器	坏	14.3	7.1	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測 内外 面火だすき有	II 区
7	須恵器	坏	14.6	8.6	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り離し後ハケ目の残るナデ	完全実測	II 区
8	須恵器	坏	13.3	6.9	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラ切り	完全実測	I 区
9	須恵器	坏	13.6	8.8	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	完全実測 内外 面自然釉付着	I・II 区
10	須恵器	坏	(13.1)	(7.3)	4.8	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	回転実測	II 区
11	須恵器	有台坏	(15.3)	(11.1)	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	I・II 区
12	須恵器	高坏	-	-	(7.2)	ヘラナデ	ロクロナデ 沈線あり	完全実測	II 区
13	須恵器	壺	(11.6)	-	(4.1)	ロクロナデ 自然釉付着	ロクロナデ	回転実測	II 区
14	須恵器	壺	(8.4)	-	(7.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 内外 面自然釉付着	III 区
15	須恵器	高坏	-	-	6.0	ナデ	ナデ	完全実測	II 区
16	須恵器	甕	(50.2)	-	(8.8)	ロクロナデ	ヘラ描横走平行線文 櫛描波状文	回転実測	II・III 区
17	須恵器	甕	(18.5)	-	27.4	口縁ヨコナデ 胴から底部ナデ	口縁ヨコナデ→胴から底部タタキ目	回転実測	I・II 区
18	土師器	坏	(16.3)	-	(5.1)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→下部回転ヘラケズリ	回転実測	II 区
19	土師器	坏	(12.7)	(10.0)	(3.7)	ヨコナデ→暗文	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	II 区
20	土師器	坏	(13.7)	(10.0)	(3.9)	ヨコナデ→暗文	ヘラケズリ→ミガキ	回転実測 底部 にヘラ記号?あり	II 区
21	土師器	坏	(11.4)	(10.9)	(2.6)	ナデ→口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ 体部ナデ	回転実測	II 区
22	土師器	坏	-	(6.2)	(3.5)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部と底部外周持ちヘラケズリ	回転実測	II 区
23	弥生	蓋	-	つまみ 4.5	(2.4)	ナデ	ナデ	完全実測	II 区
24	弥生	蓋	-	つまみ 3.9	(7.2)	ナデ 種実痕あり	ミガキ 焼成前穿孔 種実痕あり	完全実測	I 区
25	弥生	鉢	-	5.4	(4.0)	ミガキ→赤色塗彩	底部ミガキ 体部ミガキ→赤色塗彩	完全実測	I 区
26	弥生	高坏	(28.7)	-	(6.6)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩 突起貼付	回転実測	I 区
27	弥生	高坏	-	10.1	(5.8)	裾部ヨコナデ→脚柱部ナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測 外面 磨滅著しい	II 区
28	弥生	高坏	-	-	(4.4)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ナ デ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	III 区
29	弥生	高坏	-	-	(5.9)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ハ ケ目の残るナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	I 区
30	弥生	高坏	-	8.6	(6.1)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ミ ガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩 隆帯貼付?	完全実測	II 区
31	弥生	高坏	-	-	(6.7)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ヘラナデ	ミガキ→赤色塗彩 沈線あり	完全実測	II 区
32	弥生	壺	-	-	-	剥離	ヘラ描横走平行線文 ヘラ描斜走文	断面実測	I 区
33	弥生	壺	-	-	-	剥離	ヘラ描横走平行線文 ヘラ描斜走文	断面実測	III 区
34	弥生	壺	-	-	-	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩 ヘラ描斜走文 沈線	断面実測	I 区
35	弥生	甕	(18.2)	-	(4.8)	ミガキ	櫛描波状文	回転実測	II 区
36	弥生	甕	(21.2)	-	(6.0)	ミガキ	櫛描波状文	回転実測	I 区
37	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	RL縄文	断面実測	I 区
38	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	ミガキ RL縄文	断面実測	II 区
39	弥生	甕	-	5.4	(2.6)	ミガキ	ミガキ	完全実測	II 区
40	弥生	壺	-	(8.2)	(3.3)	ハケ目の残るナデ	ミガキ	完全実測	II 区
41	縄文	深鉢	-	-	-	ナデ	沈線 竹管文	断面実測	II 区

(5) M16・26号溝状遺構

本址は調査区中央部のX X II区を中心に検出された。M16号溝状遺構は南東角をもつ直角に曲がる溝状遺構で、規模は検出長が29.44m、幅が0.46～0.84m、深さが0.14～0.25mを測る。M26号溝状遺構は南北に伸びる溝状遺構で、規模は検出長が24.25m、幅が0.52～0.99m、深さ0.12～0.16mを測る。いずれの遺構も南側で試掘トレンチにより削平され確証を得ないが、溝の規模や形態から同一遺構の可能性はある。出土遺物は図示したM26号溝状遺



第105図 M10号溝状遺構出土遺物実測図(1)



第106図 M10号溝状遺構出土遺物実測図(2)

第37表 M10号溝状遺構出土遺物観察表 (2)

(cm)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
M10	42	円板	土製品	5.1	5.1	0.9	21.23	内部ナデ 外部ヘラケズリ→不明	II区
	43	円板	土製品	5.0	5.3	1.0	33.69	内部ナデ 外部ミガキ	II区
	44	剥片	黒曜石	3.6	3.9	1.2	19.91		II区
	45	磨石	ホルンフェルス	(13.2)	(7.8)	(5.3)	(676.68)	下部欠損 正面にすり面	II区
	46	台石	砂岩	11.8	9.3	9.1	1455.93	正面にすりと条痕 周囲は敲打痕	II区

構から出土した須恵器甕の他には、M16号溝状遺構からは弥生高坏片や壺片が出土している。両遺構の所産時期は覆土の状態や須恵器甕から古代と考えたい。

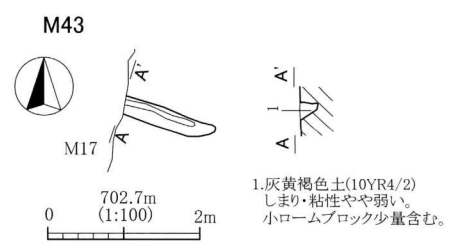
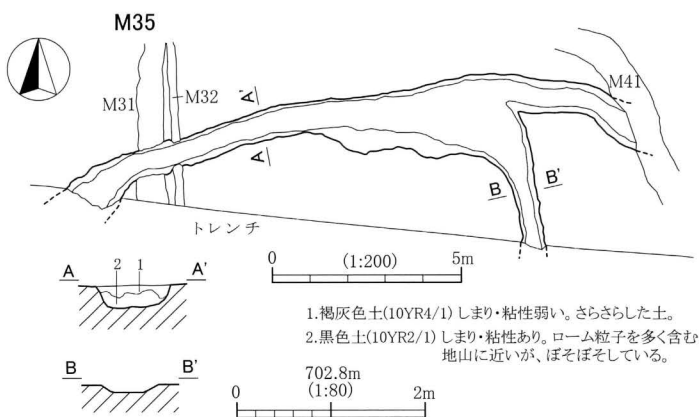
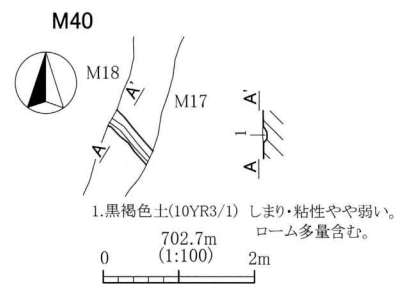
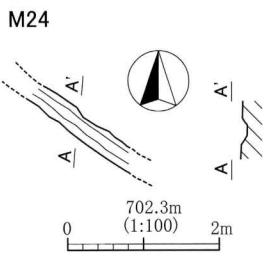
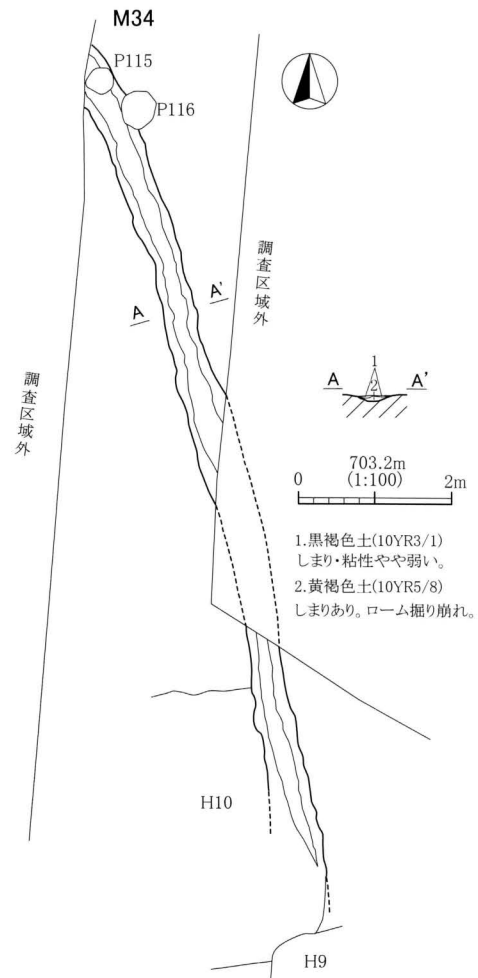
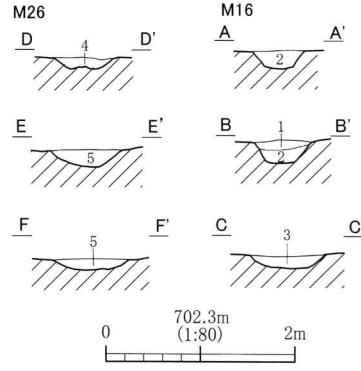
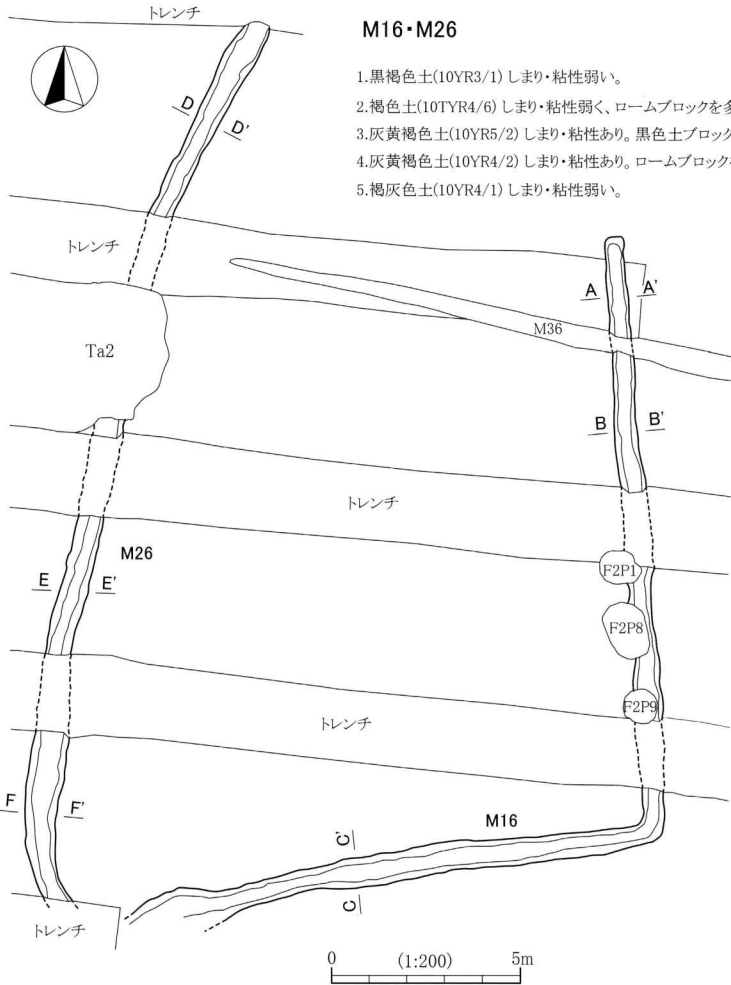
(6) M25号溝状遺構

本址は調査区中央のXVI・XVII・XXIII区を中心に検出された。形態は西側に開く「コ」の字状で、南端はD20号土坑に切られている。規模は検出長が86.95m、幅が0.40~1.71m、深さが0.10~0.46mを測る。北側と南側の溝底面の比高差は0.59mであった。覆土は自然堆積であったが、下層にロームブロックを多く含む部分が多かった。溝底面はやや凹凸があり、水が流れた様子は確認できなかった。本址からの遺物は覆土を中心に多く出土し、14点を図示した。

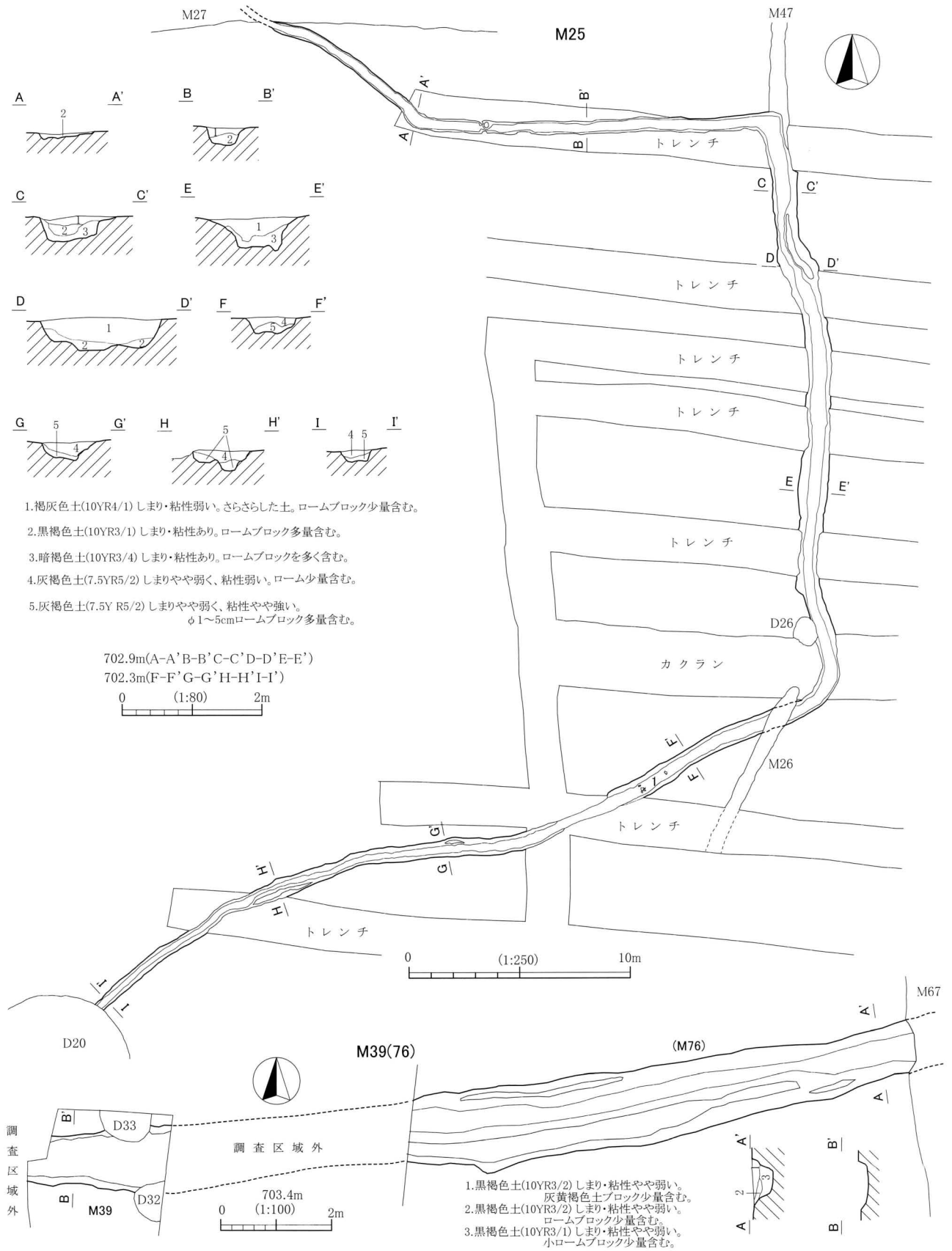
これらの出土遺物から本址の所産時期は古代と考える。

(7) M42(69)・47(51)号溝状遺構

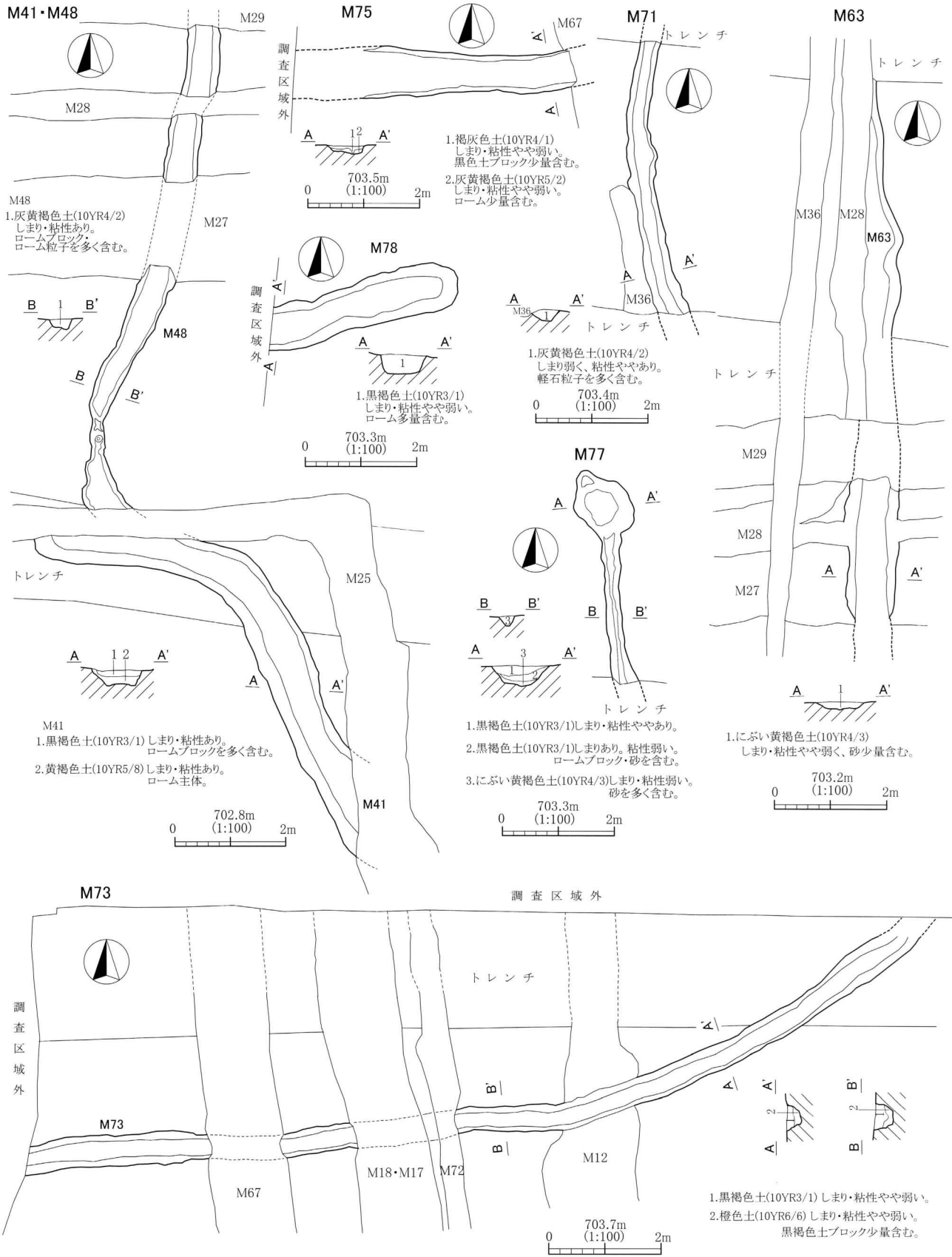
本址は調査区中央のIV・X・XVI区を中心に検出された。M42(69)は南北方向に伸びる形態で、南端でM25と重複するが溝底面の高さは、本址の方が0.23m高い。M47(51)も同じく南北方向に伸びる形態で、南端でM25と重複するが、底面は本址の方が0.18m高い。両遺構ともにM25とは段差が存在する為、別遺構と考え調査を行ったが、覆土は非常によく似ており、出土遺物も須恵器坏や甕片など古代所産のものであった。また、上面からの明瞭な遺構重複ラインは確認できなかった。よってM25.42.47は同時併存の可能性も指摘できる。



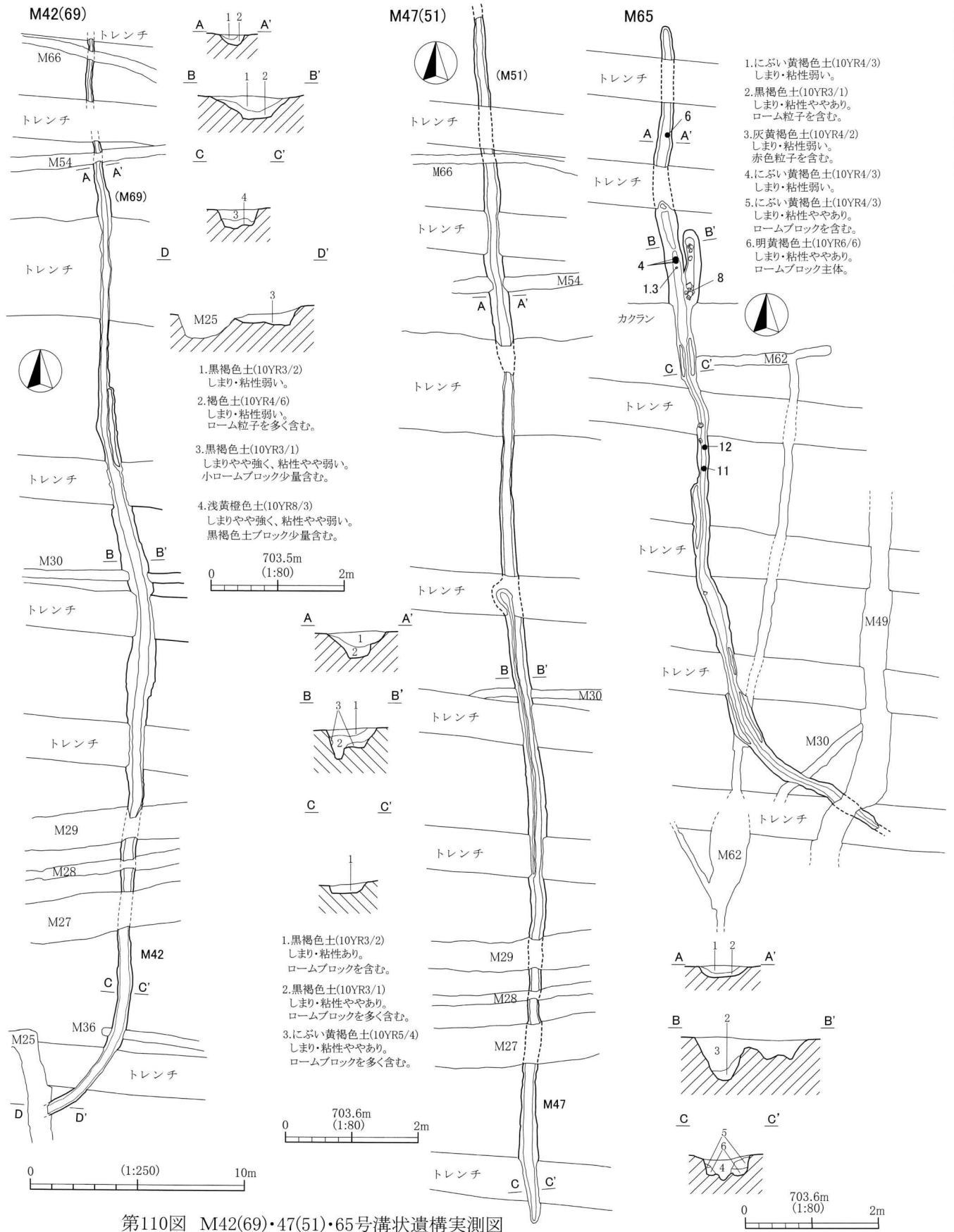
第107図 M16・24・26・34・35・40・43号溝状遺構実測図



第108図 M25・39(76)号溝状遺構実測図

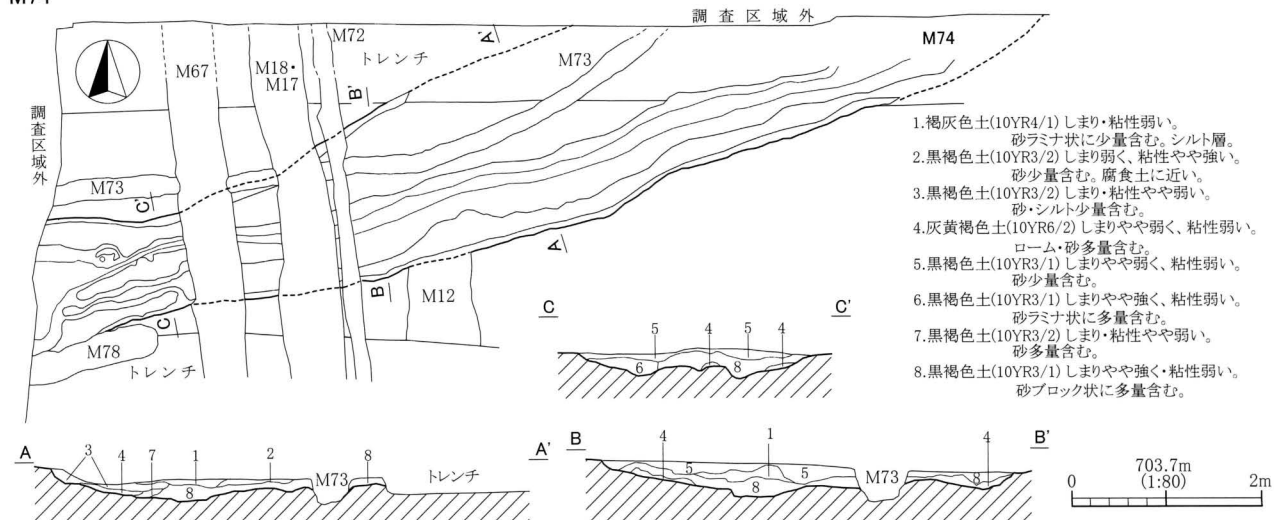


第109図 M41・48・63・71・73・75・77・78号溝状遺構実測図

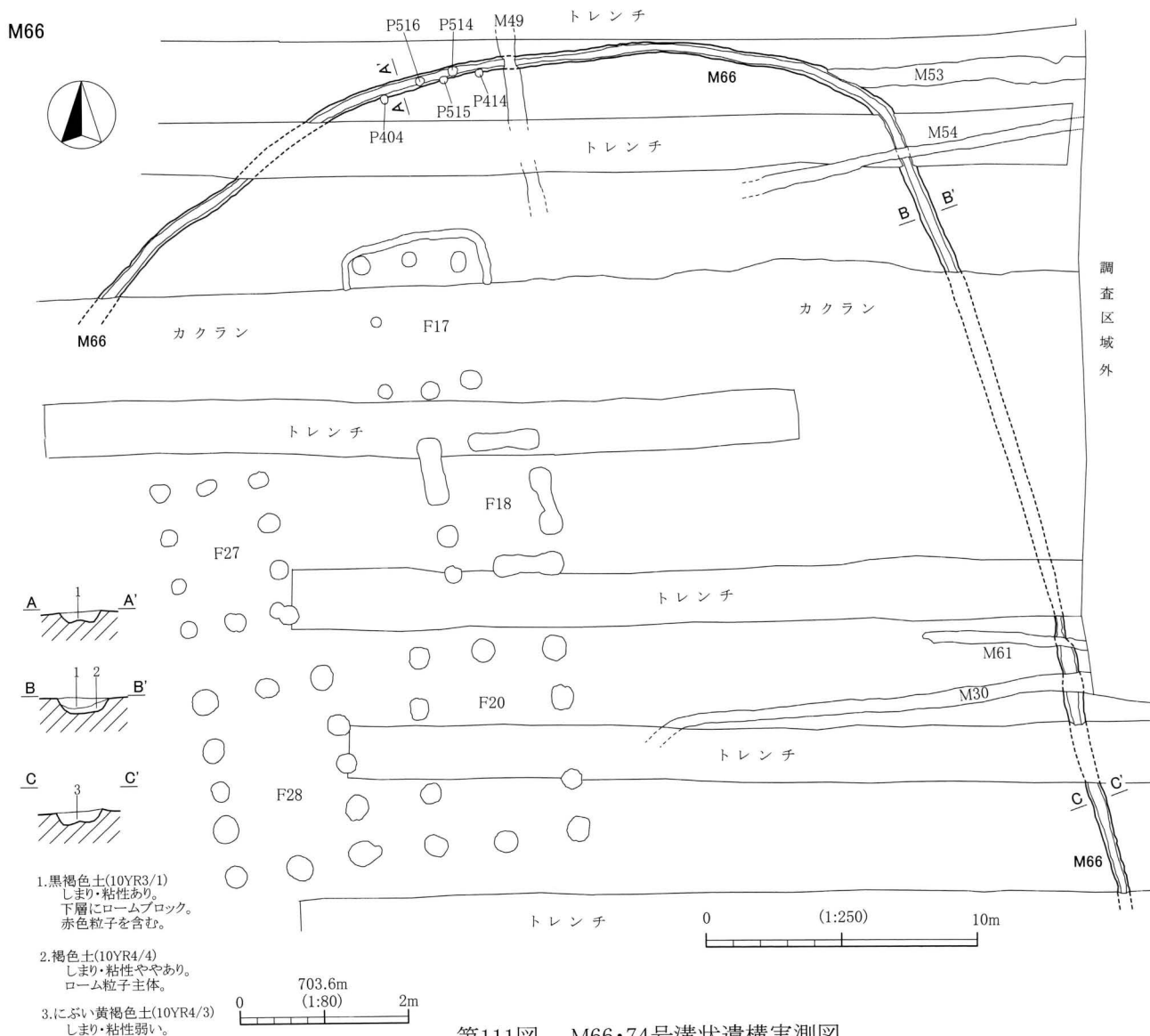


第110図 M42(69)・47(51)・65号溝状遺構実測図

M74



M66



第111図 M66・74号溝状遺構実測図

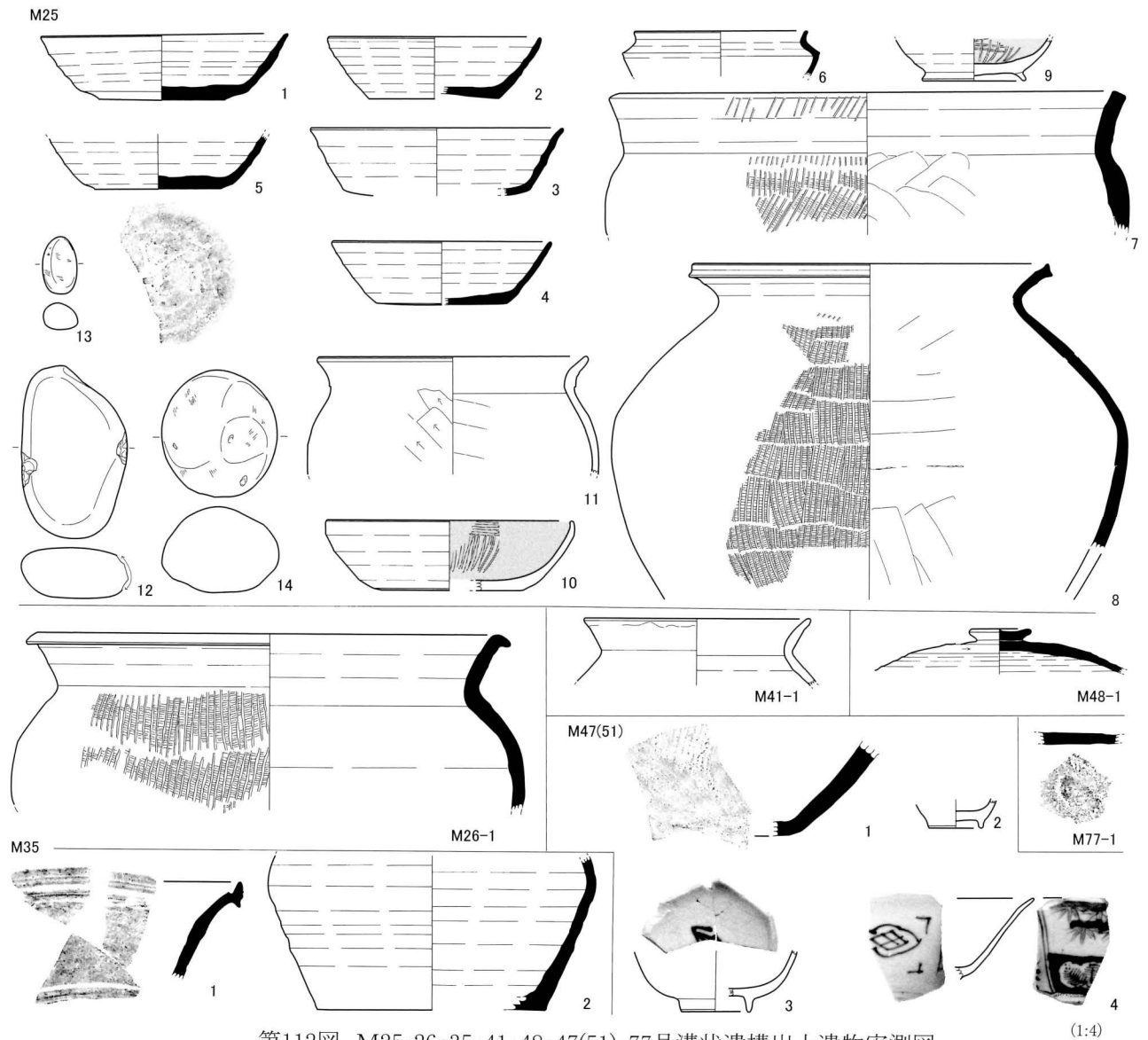
(8) M65号溝状遺構

本址は調査区東側端のV・X・X I 区を中心に検出された。南北方向に伸びる形状で、規模は検出長41.4m・幅0.36~1.55m・深さは0.17~0.73mを測る。形態は基本的に逆台形状を呈するが、遺物がまとまって出土したX I -1Gr付近では溝が二股に分かれるような形状を示す部分もある。本址からの出土遺物は図示した須恵器環や甕口縁部などがある。これらの遺物はいずれも溝底面からは浮いた状態(写真図版61③~⑤参照)で出土している。これらの遺物より、本址は古代の所産と考えられる。

なお、本址は南側でTa1と重複する。本址の方が新しいと判断したが、Ta1の東西ラインのセクションM65が現れない事や、Ta1の南からM65と同規模のM48が伸び、その先でM41と重なり、その南でM25と重複する。これらの事象は先に述べたM42等と共通しており、推定だけこれらの溝はすべてM25に集約される構造とも考えられる。

(9) M66号溝状遺構

本址は調査区中央のIV・V・X 区を中心に検出された。掘立柱建物址群を囲むように検出され、検出長62.55m・幅0.33~0.66m・深さは0.06~0.20mを測る。本址からの出土遺物は図示できるものはなかったが、須恵器甕片・坏片等が出土した。本址は出土遺物やその配置から古代の所産と考えられる。



第112図 M25・26・35・41・48・47(51)・77号溝状遺構出土遺物実測図



第113図 M42(69)・65・74号溝状遺構出土遺物実測図

第38表 M25・26・35・41・42・48・51・65・69・77号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

	No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値() 丸底●	
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
M25	1	須恵器	坏	14.5	7.4	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラ切り	完全実測	XVI-14
	2	須恵器	坏	(12.6)	(7.8)	3.7	ロクロナデ 火だすき有	ロクロナデ→回転ヘラ切り 火だすき有	回転実測	XVI-19
	3	須恵器	坏	(15.0)	-	(4.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	XVI-9
	4	須恵器	坏	(13.0)	(7.8)	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ 切り離し後手持ちヘラケズリ	回転実測 内外面に火だすき有	XVI-19
	5	須恵器	坏	-	(7.4)	(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラ切り 底部にヘラ記号	回転実測	XVI-9 M41XVI-9
	6	須恵器	壺	(10.2)	-	(2.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	XVI-9
	7	須恵器	甕	(29.4)	-	(8.4)	ロクロナデ 当て具痕	ロクロナデ タタキ目	回転実測	XVI-19 XVI-14
	8	須恵器	甕	(21.0)	-	(20.0)	ナデ	ロクロナデ 胴部タタキ目	回転実測	M25XVI-9 XVI-9 レンヂ M41XVI-9 M65XI-1 XI-6 GrXVI-9 XI-6 XVI-15 XVI検出面
	9	土師器	碗	-	(6.0)	(2.5)	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ 切り離し後高台貼付	回転実測	XVI-14
	10	土師器	坏	(14.6)	(9.0)	4.2	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ 底部手持ちヘラケズリ	回転実測	XVI-9
	11	土師器	甕	(16.0)	-	(7.0)	ヘラナデ	ヘラケズリ 磨耗している	回転実測	XVI-14
M26	1	須恵器	甕	(28.8)	-	(10.5)	ロクロナデ	ロクロナデ 平行タタキ目	回転実測	XXII-10
M35	1	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	断面実測	VIII-6 XVI-10
	2	須恵器	甕	-	(13.6)	(9.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	VIII-6 XVI-10
M41	1	土師器	甕	(13.6)	-	(4.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	XVI-9
M42	1	須恵器	蓋	(12.4)	-	(3.5)	ロクロナデ	ロクロナデ 天井部回転ヘラケズリ	回転実測	XVI-4
	2	須恵器	坏	(13.8)	(8.4)	(4.5)	ロクロナデ	ロクロナデ 底部手持ちヘラケズリ	回転実測	XVI-4 XVI-9 SB011WT11M
	3	須恵器	坏	(14.8)	(7.6)	(4.5)	ロクロナデ	ロクロナデ 底部ヘラケズリ	回転実測	XVI-2・4
	4	須恵器	坏	(15.6)	8.9	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ 底部ヘラケズリ ヘラ記号	完全実測	XVI-4
	5	須恵器	坏	(19.0)	-	(6.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	XVI-4
	6	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	楕円波状文	断面実測	XVI-4・15
	7	土師器	甕	-	-	(6.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	XVI-4
	8	土師器	甕	(20.6)	-	(9.5)	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	XVI-4
M48	1	須恵器	蓋	-	つまみ 3.7	(2.7)	ロクロナデ	ロクロナデ 天井部回転ヘラケズリ つまみ貼付	完全実測	
M51	1	須恵器	甕	-	-	-	ナデ	平行タタキ ヘラケズリ	断面実測	X-14
	2	磁器	小坏	-	3.2	(1.7)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉(染付)	完全実測 18C 末~19C前 伊 万里 V期	X-9
	3	陶器	碗	-	(4.2)	(3.6)	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 19C 前 瀬戸美濃	X-9
	4	磁器	鉢	-	-	-	施釉(染付)	施釉(染付)	断面実測 18C 末~19C前 伊 万里 V期	X-9
M65	1	須恵器	坏	(14.4)	(7.2)	3.5	ロクロナデ 火だすき有	ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 火だすき有	回転実測	XI-1 No.3
	2	須恵器	坏	(14.0)	(7.5)	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ 底部ヘラケズリ 火だすき有	回転実測	XI-1
	3	須恵器	坏	(14.0)	7.9	4.0	ロクロナデ 火だすき有	ロクロナデ 底部ヘラケズリ 火だすき有	完全実測	XI-1 No.3
	4	須恵器	坏	14.9	8.4	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ 底部ヘラケズリ	完全実測	XI-1 No.2・5・6
	5	須恵器	坏	(13.9)	8.7	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ 底部ヘラケズリ	完全実測	XI-6
	6	須恵器	高坏	-	-	(4.1)	ロクロナデ	ロクロナデ 坏部下部回転ヘラケズリ	完全実測	No.1
	7	須恵器	壺	-	-	(9.6)	ロクロナデ	ロクロナデ→高台貼付(高台欠損)	回転実測	XI-11
	8	須恵器	甕	(27.6)	-	(13.0)	ロクロナデ 自然釉付着	平行タタキ目 自然釉付着	回転実測	X-5 No.4
	9	須恵器	甕	-	-	-			断面実測	XI-11
M69	1	須恵器	坏	-	7.4	(3.6)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	完全実測	X-19
	2	須恵器	坏	-	(12.2)	(4.0)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	X-19
	3	須恵器	短頸壺	-	(8.8)	(7.3)	ロクロナデ 自然釉付着	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ 自然釉付着	回転実測	X-24
	4	縄文	深鉢	-	-	-	ナデ	沈線	断面実測	X-19
M77	1	須恵器	坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ 底部ヘラ記号	断面実測	XI-8

第39表 M25・42・65・69・74号溝状遺構出土遺物観察表

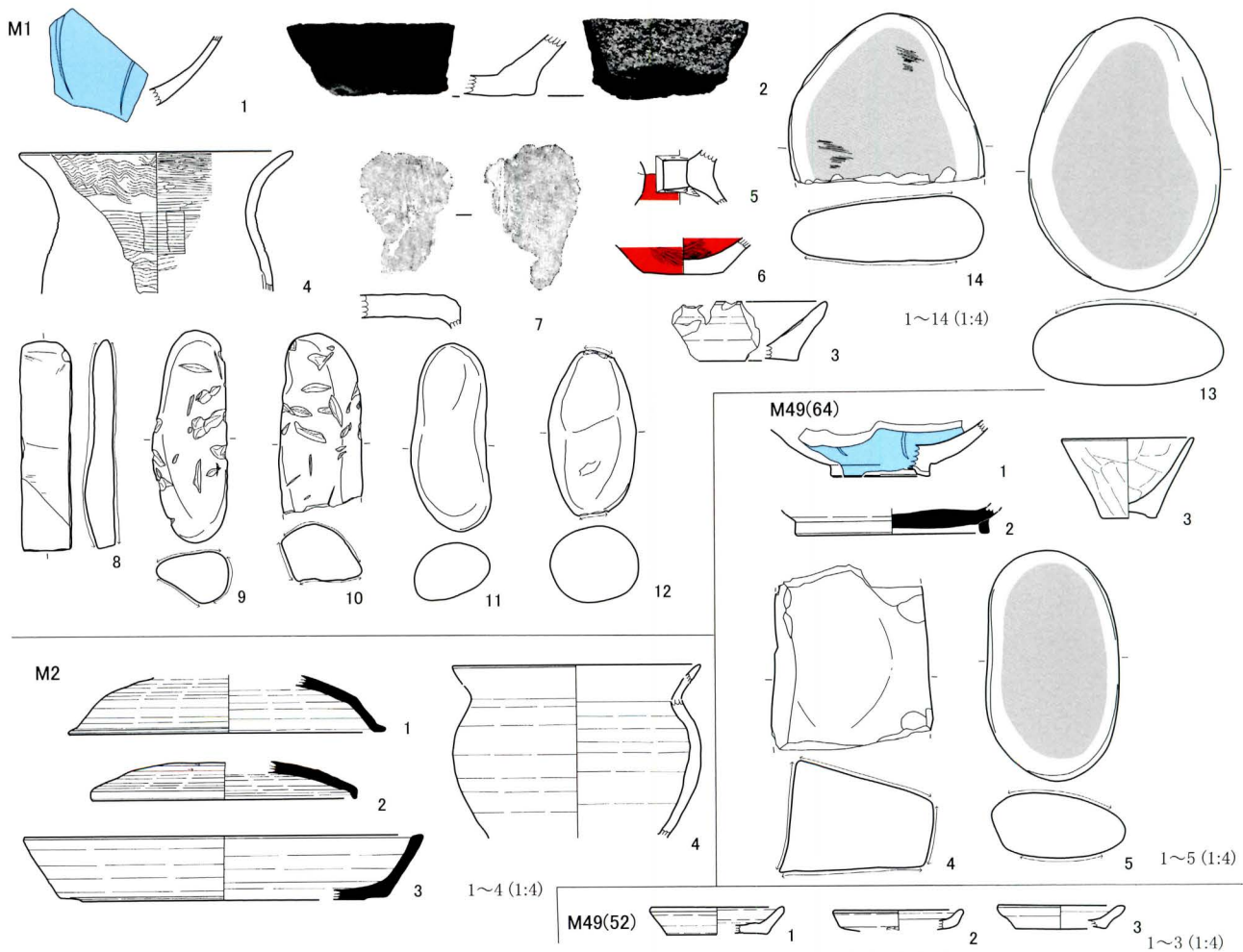
(cm)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
M25	12 敲石	輝石安山岩	10.3	6.3	3.2	319.83	両側にタタキ	XVI-9
	13 磨石	赤心フェルス	3.5	2.2	1.7	16.15	全体にすり	XVI-9
	14 軽石製品	軽石	7.6	6.8	5.2	111.89	全体にすり	XVI-14
M42	9 軽石製品	軽石	6.7	5.8	2.7	45.43	全体にすり	
M65	10 敲石	輝石安山岩	10.4	5.2	3.3	262.71	正面に敲打痕	XI-1
	11 敲石	安山岩	17.6	16.8	5.4	1770.00	正裏と縁辺に敲打痕と条痕	No.9
	12 台石	安山岩	〈16.7〉	〈11.5〉	〈5.1〉	〈1540〉	右側～下側欠損 正面に使用痕	No.8
M69	5 支脚石?	玻璃質安山岩	〈15.0〉	〈9.3〉	〈6.8〉	〈1283.42〉	被熱あり 上半部黒化 上下欠損	X-4
	6 打製石斧	硬質砂岩	〈5.8〉	〈6.6〉	〈1.2〉	〈55.85〉	上部欠損 刃部磨滅	X-14
M74	1 打製石器	安山岩	〈5.1〉	〈3.8〉	〈1.1〉	〈27.35〉	下部欠損	VI-11

(10) M1・2号溝状遺構

本址は調査区東端のX X I区を中心に検出された。M1とM2はほぼ並行して南北方向に伸びる形状で検出された。規模はM1が検出長46.29m・幅1.48～2.35m・深さ0.61～0.75mを測る。高低差は南の方が0.60m程低かった。M2の規模は検出長46.12m・幅0.41～1.24m・深さ0.33～0.53mを測る。高低差は南の方が0.53m低かった。どちらの溝も底面は平坦であり、水の流れた様子はなかった。

本址から出土遺物は図示したものであるが、覆土の特徴などから、両遺構は中世の所産と考えられる。



第114図 M1・2・49(52・64)号溝状遺構出土遺物実測図

第40表 M1・2・52・64号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
M1	1	青磁	連弁文碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測 13C後半~14C前半 龍泉窯	II区
	2	陶器	壺	-	-	(3.4)	ヨコナデ 自然釉付着	ハケ目状の痕跡の残るナデ	断面実測 中世 常滑	III区
	3	土師質	かわらけ	-	-	3.3	ヨコナデ	ヨコナデ 底部ヘラケズリ	破片実測 12C代	II区
	4	弥生	甕	(15.0)	-	(7.7)	ミガキ	櫛描簾状文(2連止) 12本 櫛描波状文	回転実測	II区
	5	弥生	器台	-	-	(2.9)	ナデ	ナデ→赤色塗彩	完全実測	II区
	6	弥生	鉢	-	4.4	(2.0)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	II区
	7	瓦質	瓦	(8.2)	(5.7)	1.9	ナデ	ナデ	断面実測	II区
M2	1	須恵器	蓋	(17.4)	-	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	III区
	2	須恵器	蓋	(14.6)	-	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	回転実測 内面に自然釉付着	II区
	3	須恵器	盤	(22.0)	(17.8)	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測 内面と底部外面に自然釉付着	III区
	4	土師器	ロクロ甕	(13.6)	-	(9.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	III区
M52	1	土師質	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ナデ	回転実測	X-5
	2	土師質	かわらけ	(7.2)	-	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	X-5
	3	土師質	かわらけ	(7.0)	(4.9)	1.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	X I-1
M64	1	青磁	連弁文碗	-	(5.4)	(2.9)	施釉	施釉	回転実測 しのぎなし 13C後半~14C前半 龍泉窯	X-10
	2	須恵器	有台坏	-	(10.6)	(1.4)	ロクロナデ すれている	ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	X25
	3	弥生?	ミナト土器	(7.2)	(3.0)	4.4	ナデ	ナデ	回転実測	X20
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M1	8	砥石	凝灰岩	11.7	2.9	1.6	76.33	砥面数4(正裏 両側)		II区
	9	砥石	砂岩	11.8	4.1	3.0	152.74	砥面数3 削り取ったような使用痕残る		I区
	10	砥石	砂岩	(10.0)	(4.6)	(3.2)	(176.41)	下部欠損 削り取ったような使用痕残る		III区
	11	?	安山岩	10.4	4.4	3.3	207.39			I区
	12	敲石	安山岩	9.2	4.8	4.2	196.95	上下端部に敲打痕		I区
	13	磨石	安山岩	15.1	10.5	4.9	946.21	正面にすり面		I区
	14	磨石	輝石安山岩	(9.6)	(10.7)	(3.7)	(595.90)	下部欠損 正裏にすり面		II区
M64	4	砥石	斑瀧岩	(10.2)	(8.9)	(6.6)	(956.98)	砥面数4 上下欠損		No.1
	5	磨石	輝石安山岩	12.8	7.4	3.7	526.62	正裏にすり面		VI-11

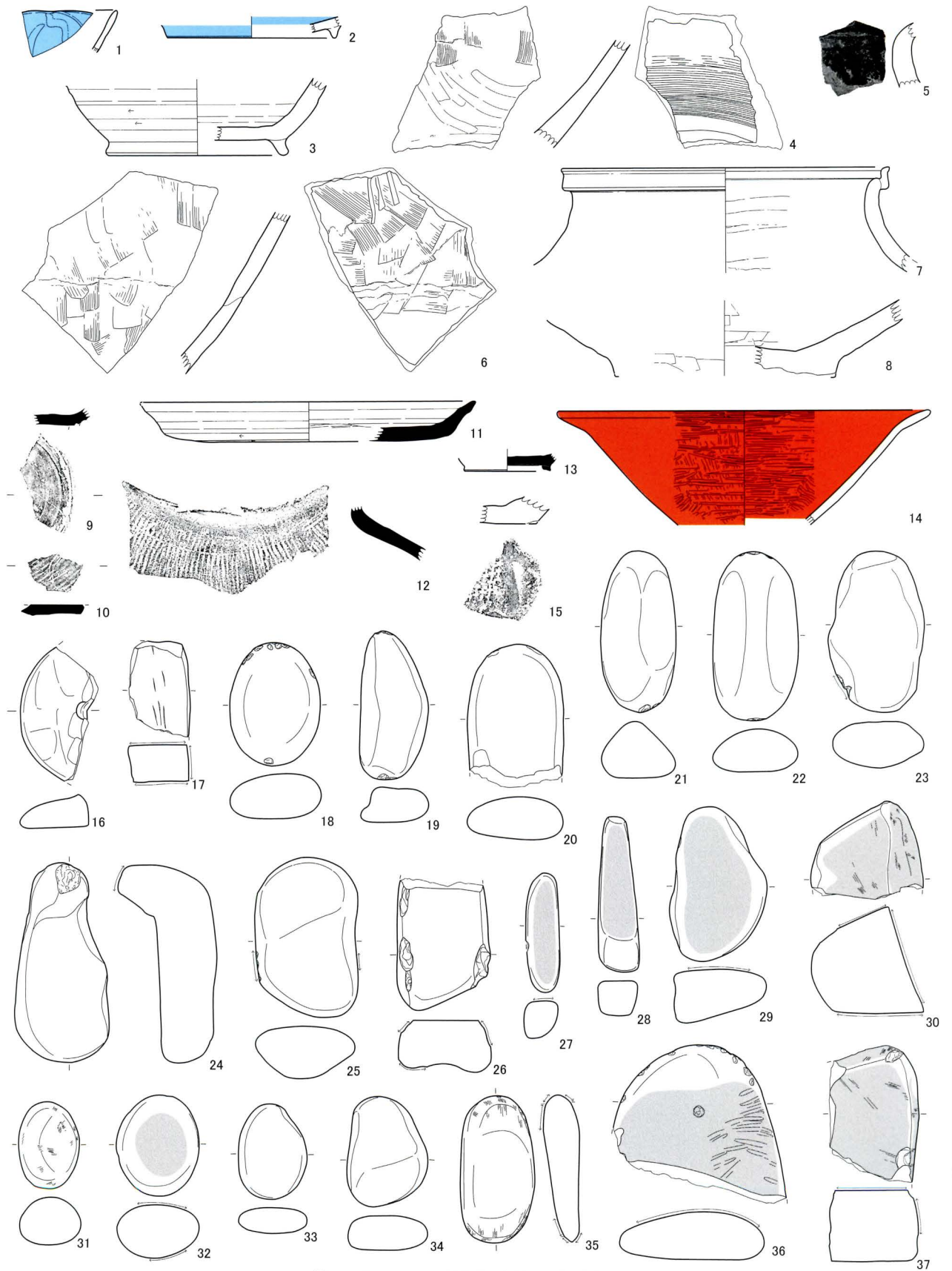
(11) M49(52・64)号溝状遺構

本址は調査区中央のIV・X・XI区を中心に検出された。D63号土坑を中心に北側の南北に伸びる溝をM64、南側に伸びる溝をM49、西側に伸びる部分をM52として調査した。いずれの遺構もD63号土坑よりは古い。規模はM49が検出長33.39m・最大幅1.84m・深さ0.21~0.47mを測る。M52は検出長7.89mで西端は自然に立ち上がる。幅は0.30m内外である。M64は検出長12.12m・幅は0.30m内外で、北端は自然に立ち上がる。溝底面の形状はM52とM64の部分については逆台形状を呈するが、M49の特に南側部分については凹凸が激しく、何本かの溝の集合体のような状況であった。これらの溝状遺構はD63の東側に伸びる検出長18.38mのM54も含め、同一あるいは有機的に結びついた溝状遺構と考えられ、溝の交差する部分に意識的にD63号土坑が築かれたと推定される。

これら遺構の出土遺物はM64より青磁碗、M52よりカワラケ等があり、中世の所産と考えられる。

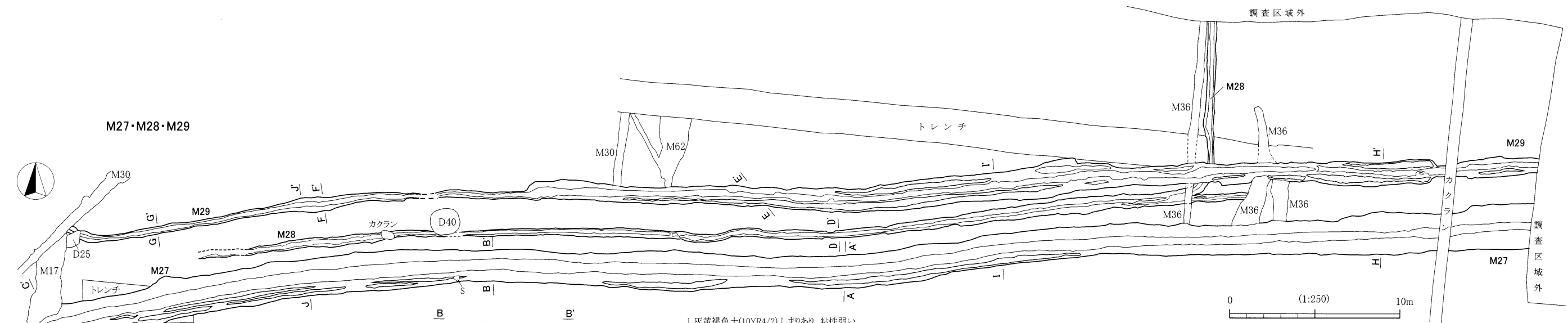
(12) M27・28・29号溝状遺構

本址は調査区中央のX・XI区を中心に検出された。3本の溝はほぼ並行して東西方向に伸びる形状で検出されたが、M27号溝状遺構は西端で南に向かって曲がり、M28号溝状遺構は東端で二股に分かれ一本は北方向に伸びている。規模はM27が検出長90.52m・幅1.63~2.64m・深さ0.53~0.81mを測る。高低差は西の方が0.72m程低かった。M28の規模は検出長73.47m・幅0.27~0.97m・深さ0.14~0.38mを測る。高低差は南の方が0.57m低かった。M29の規模は検出長87.07m・幅0.26~1.98m・深さ0.12~0.69mを測る。高低差は南の方が0.84m低かった。いずれの溝も西側に比べ東側の方が圃場整備などの削平を受けておらず、残存状況は良かった。溝の覆土はいずれも自然堆積

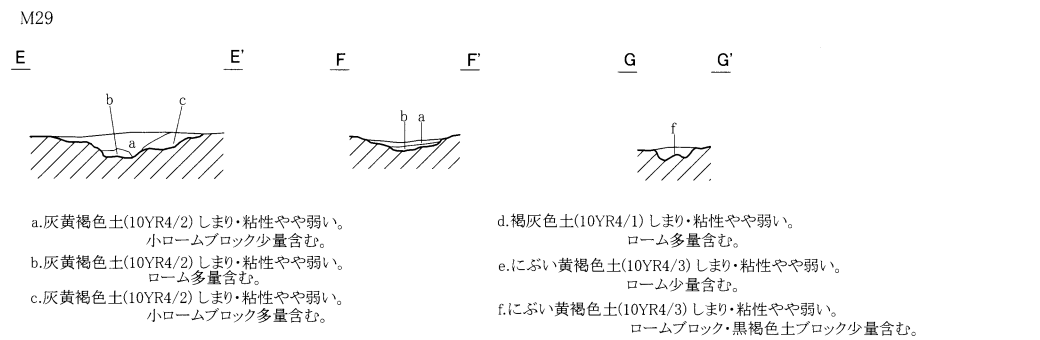


第116图 M27号溝状遺構出土遺物実測図

1~15·17~37 (1:4) 16 (1:2)

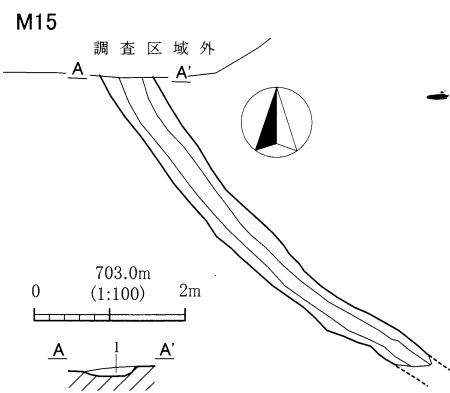
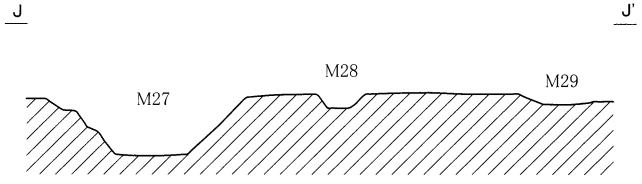
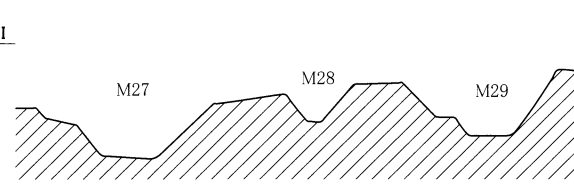
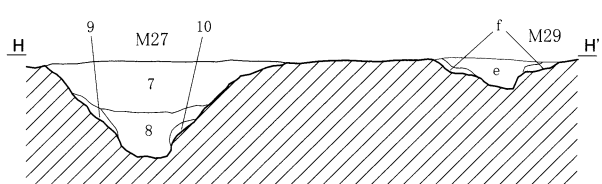
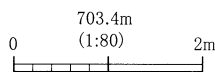


1. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりあり、粘性弱い。
φ1~2cmの軽石を多く含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) しまり・粘性ややあり。
3. 褐灰色土(10YR4/1) しまり・粘性が強い。
やや粘土化した土。
4. 褐色土(10YR4/6) しまり・粘性ややあり。
ロームブロックを多く含む。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く、粘性やや弱い。
軽石・炭化物少量含む。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや弱く、粘性弱い。
粗砂少量含む。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やや弱い。
軽石少量含む。
8. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やや弱い。
砂少量含む。
9. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱く、粘性弱い。
ローム少量含む。
10. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱く、粘性弱い。
灰白色土多量含む。

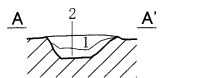
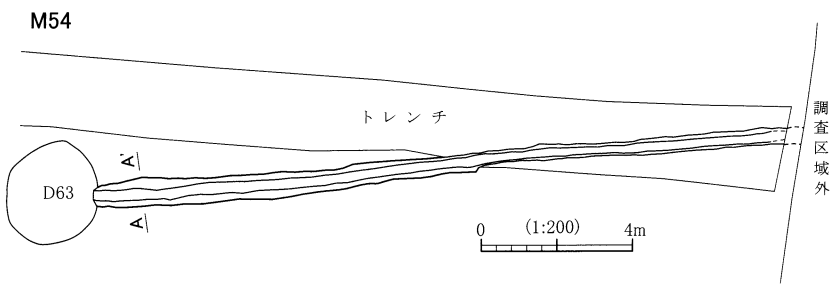


- a. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。
小ロームブロック少量含む。
- b. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。
ローム多量含む。
- c. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。
小ロームブロック多量含む。
- d. 褐灰色土(10YR4/1) しまり・粘性やや弱い。
ローム多量含む。
- e. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やや弱い。
ローム少量含む。
- f. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やや弱い。
ロームブロック・黒褐色土ブロック少量含む。

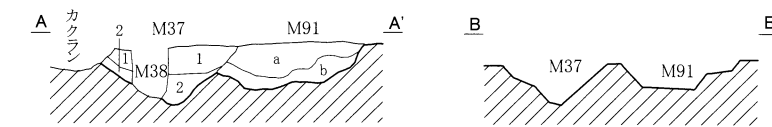
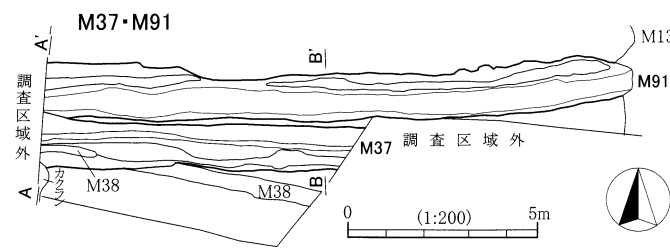
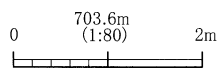
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く、粘性やや弱い。
小ロームブロック少量含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。
ローム少量含む。



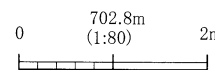
1. 黄褐色土(10YR5/6) しまり・粘性弱い。
軽石・砂を多く含む。



1. 褐灰色土(10YR4/1) しまり弱く、粘性ややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性あり。
ローム粒子を多く含む。



- M37
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりやや強く、粘性やや弱い。
軽石・炭化物少量含む。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりやや弱く、粘性やや強い。
ロームブロック少量含む。
- M91
- a. 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりやや強く、粘性やや弱い。
軽石少量含む。
- b. 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりやや弱く、粘性やや強い。
ロームブロック少量含む。

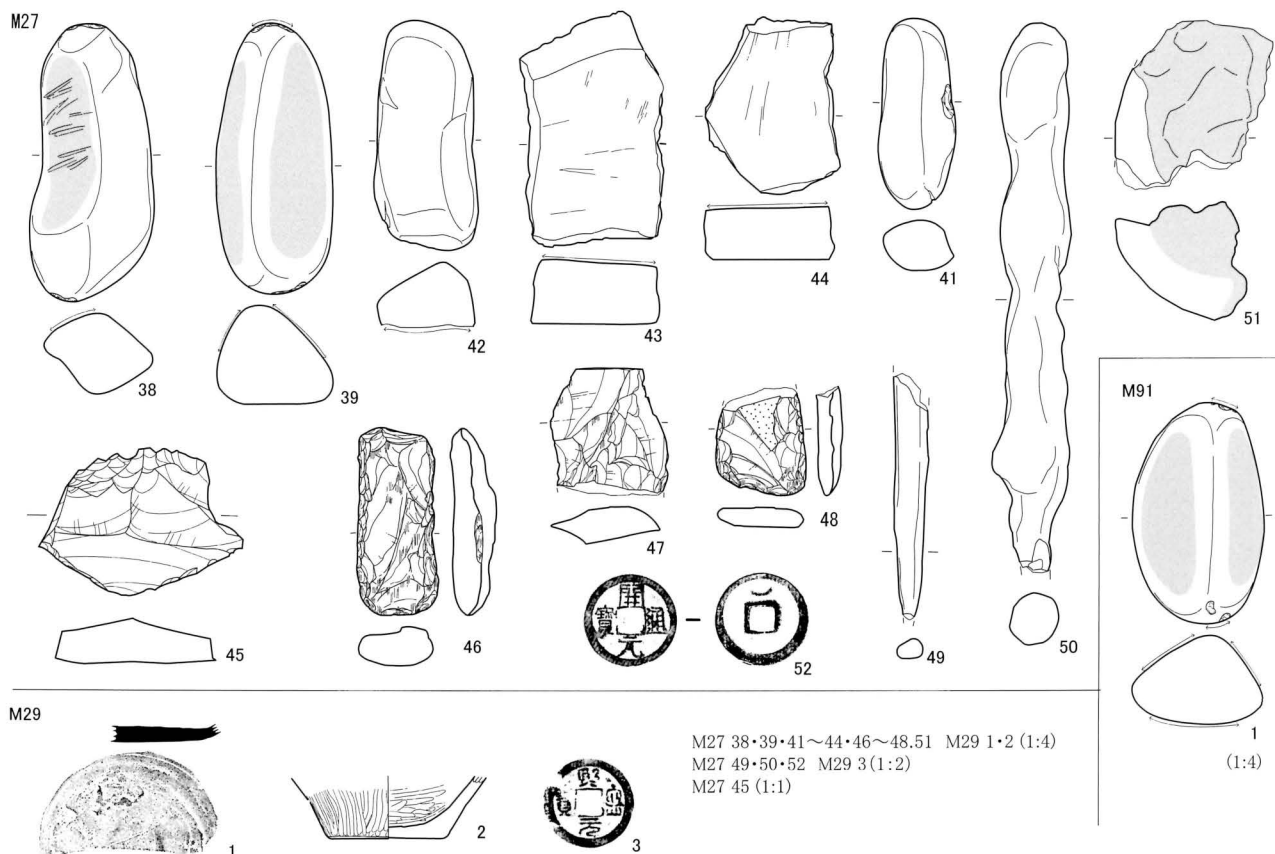


第117図 M15・27・28・29・37・54・91号溝状遺構実測図

第41表 M27・29号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●	備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面			
M27	1	青磁	連弁文碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測 13C 龍泉窯	XVII-3
	2	青磁	鉢	-	(12.2)	(1.5)	施釉	施釉	回転実測 13C後半 ~14C前半 龍泉窯	XVII-4
	3	須恵質	捏ね鉢	-	(13.0)	(5.5)	ロクロナデ 自然釉付着 磨耗	ロクロナデ→底部外周回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測 13C後半 尾張	XVII-4
	4	須恵質	壺?	-	-	-	ナデ→ハケナデ	ナデ ハケナデ	破片実測 13世紀代 北関東	IX-25
	5	陶器	甕	-	-	-	ヨコナデ	自然釉付着	断面実測 中世 常滑	XVII-2
	6	須恵質	壺?	-	-	-	ナデ ハケナデ	ナデ ハケナデ	破片実測 13世紀代 北関東	X-21
	7	陶器	壺	(23.4)	-	(7.5)	輪積成形→ヨコナデ 自然釉付着	ヨコナデ 自然釉付着	回転実測 13C前半 常滑	X-21 X-22
	8	陶器	甕	-	-	(5.4)	ヘラナデ 自然釉付着	ナデ	回転実測 中世 常滑	XVII-2
	9	須恵器	有台坏	-	-	(1.2)	ロクロナデ	底部回転ヘラケズリ→高台貼付(高台欠損)	断面実測 ヘラ記号あり	X-23
	10	須恵器	不明	-	-	-			断面実測 ヘラ記号あり	XVII-5
	11	須恵器	皿	(23.8)	(20.7)	(2.9)	ロクロナデ→みこみ部ナデ 圧痕	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	回転実測	X-21
	12	須恵器	甕	-	-	-	肩部ナデ→口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ 肩部タタキ目	断面実測 肩部外面・口縁内面に自然釉付着	XVII-1 M29 X-23 XVI-検出
	13	須恵器	有台坏	-	(6.2)	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	回転実測	XVI-5
	14	弥生	鉢	(26.6)	-	(8.2)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	回転実測	XVII-3 カクラン XVII-4 XVII-5 カクラン
	15	縄文	鉢	-	-	-	ナデ	底部に網代痕あり	断面実測	X-21
M29	1	須恵器	坏	-	-	(0.9)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り	断面実測 底部外面にヘラ記号あり	X-25
	2	弥生	甕	-	6.3	(3.3)	ミガキ	胴部ミガキ 底部ミガキ	完全実測	X-25
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M27	16	土製紡錘車	砂岩	(4.3)	(2.7)	(1.2)	(12.69)	径(5.6) 孔径(0.7) 調整ナデ	X-25	
	17	砥石	砂岩	(6.9)	(4.4)	(3.4)	(121.90)	砥面数3 左側～下側欠損	X-25	
	18	敲石	砂岩	8.9	6.5	3.3	272.37	上端部に敲打痕	XVII-3	
	19	敲石	花崗岩	10.6	5.0	3.0	205.22	上下端部に敲打痕	XVII-4	
	20	?	輝石安山岩	(10.3)	(7.0)	(3.3)	(375.14)	下部欠損		
	21	敲石	輝石安山岩	11.6	5.4	4.2	344.66	下端部に敲打痕	X-24	
	22	敲石	輝石安山岩	12.1	6.0	3.2	365.81	上下端部に敲打痕	X-22	
	23	敲石?	石英安山岩	11.6	6.9	3.6	295.37	左側は敲打?	XVII-2	
	24	敲石	砂岩	14.3	6.7	6.3	602.39	先端部に敲打痕	X-23	
	25	敲石	安山岩	11.5	7.4	3.7	467.07	両側に敲打痕	XVII-4	
	26	敲石	砂岩	(9.5)	(6.8)	(3.7)	(602.34)	上部欠損 両側に敲打痕	IX-25	
	27	磨石	頁岩	8.6	2.5	2.8	88.74	正面にすり面	XVII-3	
	28	磨石	輝石安山岩	11.2	3.0	2.6	130.00	正面にすり面	X-23	
	29	磨石	安山岩	11.1	6.9	3.8	407.93	正面にすり面	XVI-5	
	30	磨石	安山岩	(7.0)	(8.1)	(7.7)	(505.13)	下部欠損 正裏・右側にすり面	X-22	
	31	磨石	輝石安山岩	6.3	4.4	3.6	123.59	全体にすり	XVII-1	
	32	磨石	輝石安山岩	7.4	5.8	4.0	226.07	正裏にすり面	X-23	
	33	?	砂岩	7.0	5.0	2.1	85.95		XVI-5	
	34	?	花崗岩	8.0	5.8	2.6	156.90		XVII-4	
	35	磨石	砂岩	10.6	5.3	2.6	190.80	上下端部にすり	IX-25	
	36	磨・敲石	砂岩	(11.3)	(12.3)	(4.0)	(693.84)	下部欠損 正面にすり面 浅い条痕あり 縁辺に敲打痕	X-25	
	37	磨石	安山岩	(9.7)	(6.6)	(5.3)	(644.27)	左側～下側欠損 正面・右側・上側にすり面	XVII-2	
	38	磨・敲石	硬質砂岩	14.7	6.6	4.7	540.02	正面にすり面 浅い条痕あり 上下端部に敲打痕	XVII-5	
	39	磨・敲石	安山岩	14.3	6.2	5.3	677.94	正面2ヶ所にすり面 上下端部に敲打痕	X-21	
	41	編物石	硬質砂岩	10.1	4.1	2.8	163.01	右側は挟りか?	XVI-4	
	42	?	珪質頁岩	(12.2)	(5.6)	(4.0)	(341.41)	裏面欠損	XVI-4	
	43	台石	輝石安山岩	12.4	7.6	3.4	581.07	正面に使用痕	XVII-3	
	44	台石	安山岩	9.3	7.2	2.8	328.94	被熱あり? 裏面除き黒化 正面に使用面	XVII-2	
	45	剥片	黒曜石	2.0	2.3	0.6	2.56		XVII-1	
	46	打製石斧	輝石安山岩	9.9	4.4	2.1	116.98	全体に磨滅		
	47	打製石斧	硬質砂岩	(6.8)	(6.3)	(2.0)	(95.75)	下部欠損	XVII-1	



第118図 M27・29・91号溝状遺構出土遺物実測図

第42表 M27・29・91号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
M27	48	打製石斧	安山岩	(5.7)	(4.7)	(1.2)	(44.55)	上部欠損 刃部磨減	XVII-5
	49	角釘	鉄	(6.5)	(0.9)	(0.6)	(7.40)	上下欠損	X-22
	50	不明	鉄	(14.5)	(2.1)	(1.7)	(50.29)	下部欠損 本体は方形か?	X-24
	51	鉄滓	鉄	(9.0)	(8.4)	器厚 (2.3)	(413.64)	約1/4残存? 鉄分付着 坩堝形	IX-25
	52	古銭	銅	2.5	-	0.14	2.38	完形 開元通宝 621年 (背上月)	XVI-5
M29	3	古銭	銅	2.4	-	0.15	2.42	完形 熙寧元宝 1068(北宋)	X-23
M91	1	磨・敲石	輝石安山岩	11.7	7.0	4.9	547.14	正面2ヶ所と裏面にすり面 上下端部に敲打痕	XVIII-2

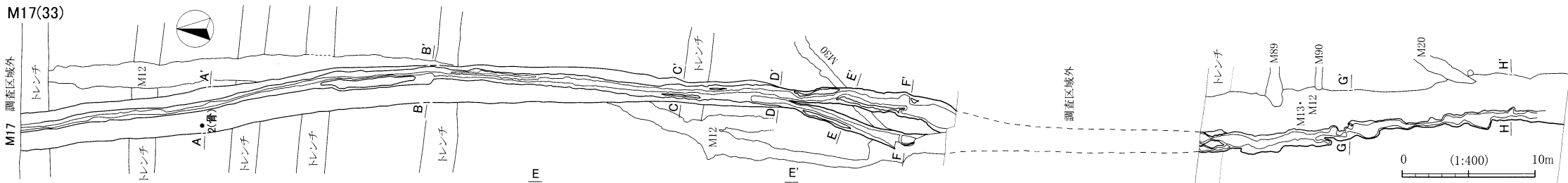
の状況で、底面は平坦であり、水の流れた様子はなかった。なお、M28号溝状遺構は東端の北側に曲がる部分でM29号溝状遺構と新旧関係が確認され、M28の方が古いと判明した。このことからこれら3本の溝は同時に併存したのではなく、M27とM29が同時に併存した可能性がある。このことは、先に述べたM1号溝状遺構とM2号溝状遺構の様子とよく似通っており、幅と深さの異なる大小の溝が間隔を置いて併存することが指摘できる。また、後述するM17.18号溝状遺構も含めて考えると、これらの溝はいずれも直角に交わることが予想される。

3箇所の遺構から出土した遺物は遺構によりその量が非常にばらつきがあった。M28・29号溝状遺構からはほとんど遺物は出土せず、M27号溝状遺構からの出土が非常に多かった。特にM27からは覆土中からの出土であるが、龍泉窯系青磁碗や尾張系の捏ね鉢、常滑の甕、北関東系の壺等の破片が出土した。これら遺物はいずれも13世紀代から14世紀前半を示すもので、これらのことからM27・28・29号溝状遺構は中世前半の所産時期が考えられる。

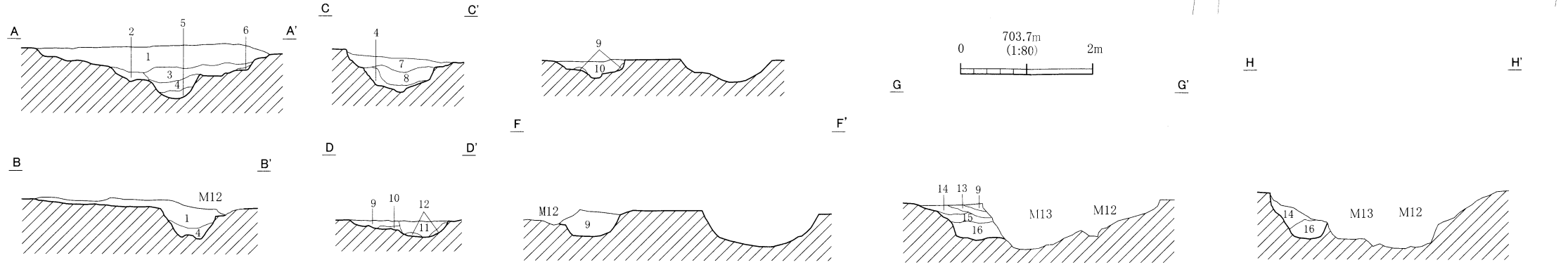
(13) M17(33)・18・19・67・72号溝状遺構

本址は調査区西側のV・VI・XI・XII・XVII・XVIII区を中心に検出された。調査区を南北方向に貫くように伸びており、表記した溝状遺構の新旧関係は、M17が一番新しく、M18・19・72が次で、M67が最も古い。このことから、これら溝状遺構は、調査区の西側から東側に向けて徐々に位置をずらしながら掘り込まれていることが予想される。なお、近世から近代の遺構と考えられるM12.13号溝状遺構もM17の東側に位置をずらして構築されており、時代をまたいでの

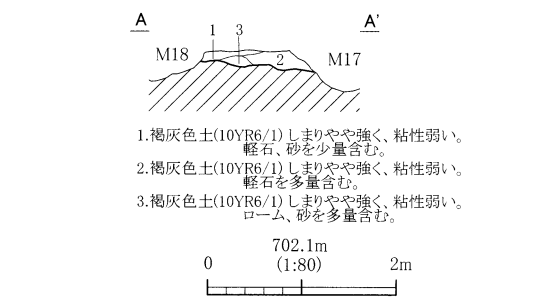
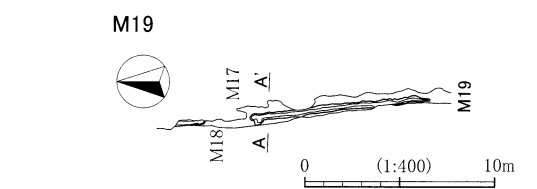
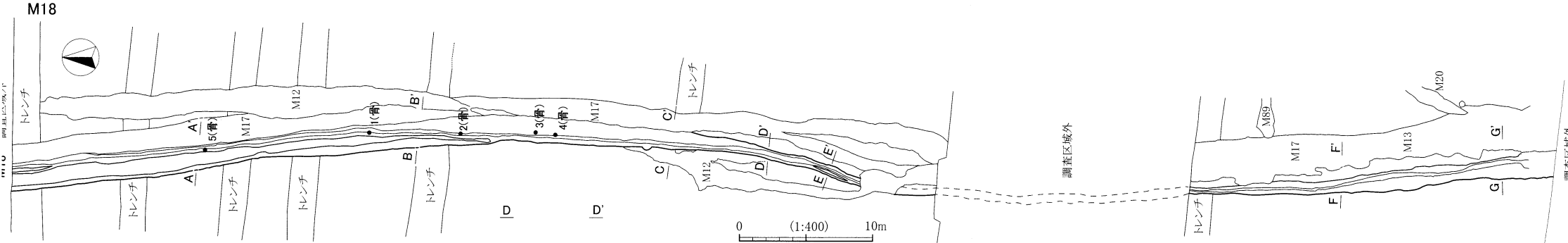
M17(33)



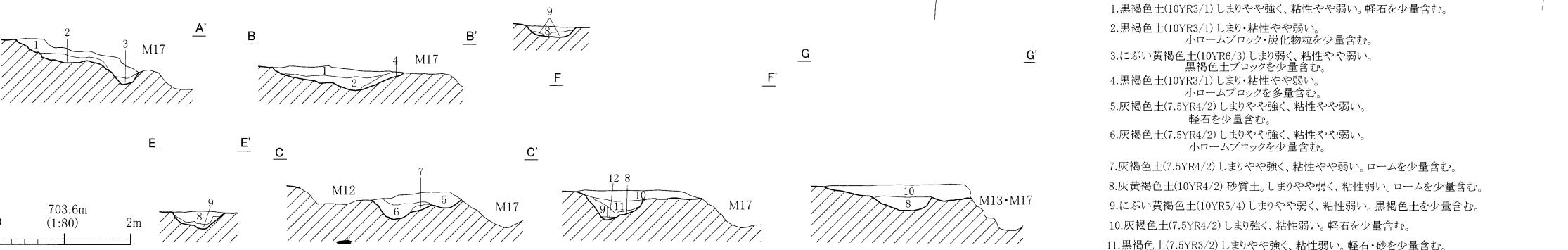
- 1.黒褐色土(10YR3/2)しまりやや強く、粘性やや弱い。軽石・小ロームブロック・砂質土ブロックを少量含む。
- 2.黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
- 3.黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性強い。粘土ブロックを多量含む。
- 4.黒褐色土(10YR3/2)しまり弱く、粘性やや弱い。ロームブロックを少量含む。
- 5.黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、粘性やや弱い。ロームを多量含む。
- 6.灰黄褐色土(10YR4/2)しまり弱く、粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
- 7.灰黄褐色土(10YR4/2)しまりやや強く、粘性やや弱い。軽石を少量含む。
- 8.黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性やや弱い。7層の黄褐色土・小ロームブロックを少量含む。
- 9.褐灰色土(5YR5/1)砂質土。しまりやや強く、粘性弱い。植物遺体少量含む。
- 10.灰白色土(10YR7/1)しまり・粘性弱い。ロームと細かい砂を含む。
- 11.黒褐色土(10YR3/2)しまりやや強く、粘性やや弱い。ローム少量含む。
- 12.黒褐色土(10YR3/2)しまりやや強く、粘性やや弱い。ローム多量含む。
- 13.褐灰色土(10YR4/1)砂質土。しまりやや強い。φ1~10mm礫少量含む。粗砂。
- 14.褐灰色土(5YR5/1)しまり・粘性やや強い。φ1~10mm礫少量含む。
- 15.褐灰色土(10YR4/1)しまりやや強い。粗砂。
- 16.褐灰色土(10YR4/1)砂質土。しまり・粘性弱い。φ1~10mm礫少量含む。



M18

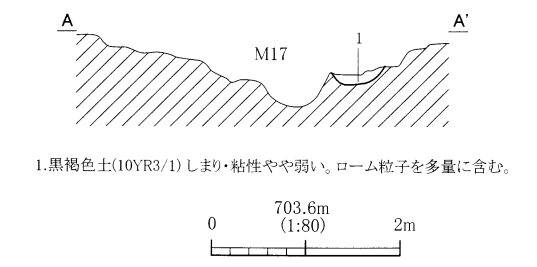
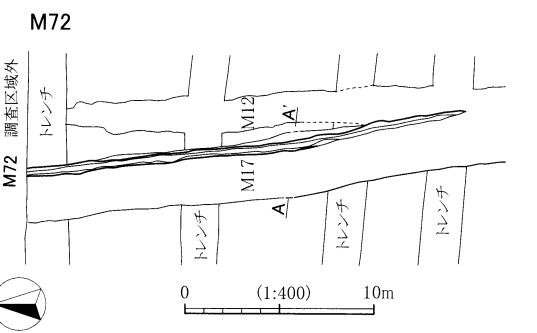
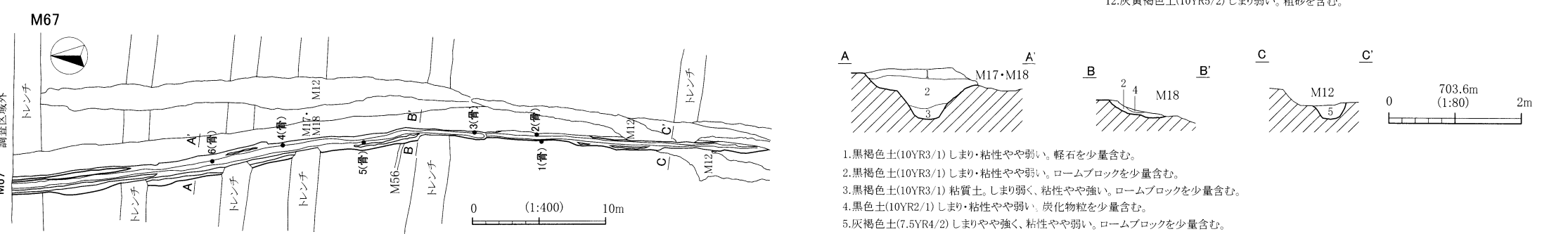


- 1.褐灰色土(10YR6/1)しまりやや強く、粘性弱い。軽石、砂を少量含む。
- 2.褐灰色土(10YR6/1)しまりやや強く、粘性弱い。軽石を多量含む。
- 3.褐灰色土(10YR6/1)しまりやや強く、粘性弱い。ローム、砂を多量含む。



- 1.黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強く、粘性やや弱い。軽石を少量含む。
- 2.黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロック・炭化物粒を少量含む。
- 3.にぶい黄褐色土(10YR6/3)しまり弱く、粘性やや弱い。黒褐色土ブロックを少量含む。
- 4.黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを多量含む。
- 5.灰褐色土(7.5YR4/2)しまりやや強く、粘性やや弱い。軽石を少量含む。
- 6.灰褐色土(7.5YR4/2)しまりやや強く、粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
- 7.灰褐色土(7.5YR4/2)しまりやや強く、粘性やや弱い。ロームを少量含む。
- 8.灰黄褐色土(10YR4/2)砂質土。しまりやや弱く、粘性弱い。ロームを少量含む。
- 9.にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりやや弱く、粘性弱い。黒褐色土を少量含む。
- 10.灰褐色土(7.5YR4/2)しまり強く、粘性弱い。軽石を少量含む。
- 11.黒褐色土(7.5YR3/2)しまりやや強く、粘性弱い。軽石・砂を少量含む。
- 12.灰黄褐色土(10YR5/2)しまり弱い。粗砂を含む。

M67



- 1.黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ローム粒子を多量に含む。

第119図 M17(33)・18・19・67・72号溝状遺構実測図

関連性が指摘できる。

規模はM17が検出長129.59m、幅が0.40～3.45m、深さは0.23～0.90mを測る。溝底部はやや凹凸があり、覆土は自然堆積であった。溝の一部に二股に分かれる部分もあった。M18は検出長116.95m、幅0.56～2.57m、深さ0.15～0.73mを測る。溝底部はM17と同じく凹凸があり、覆土は自然堆積であった。いずれの溝状遺構も覆土中に砂層が確認され、水流の影響を受けていたと推定される。

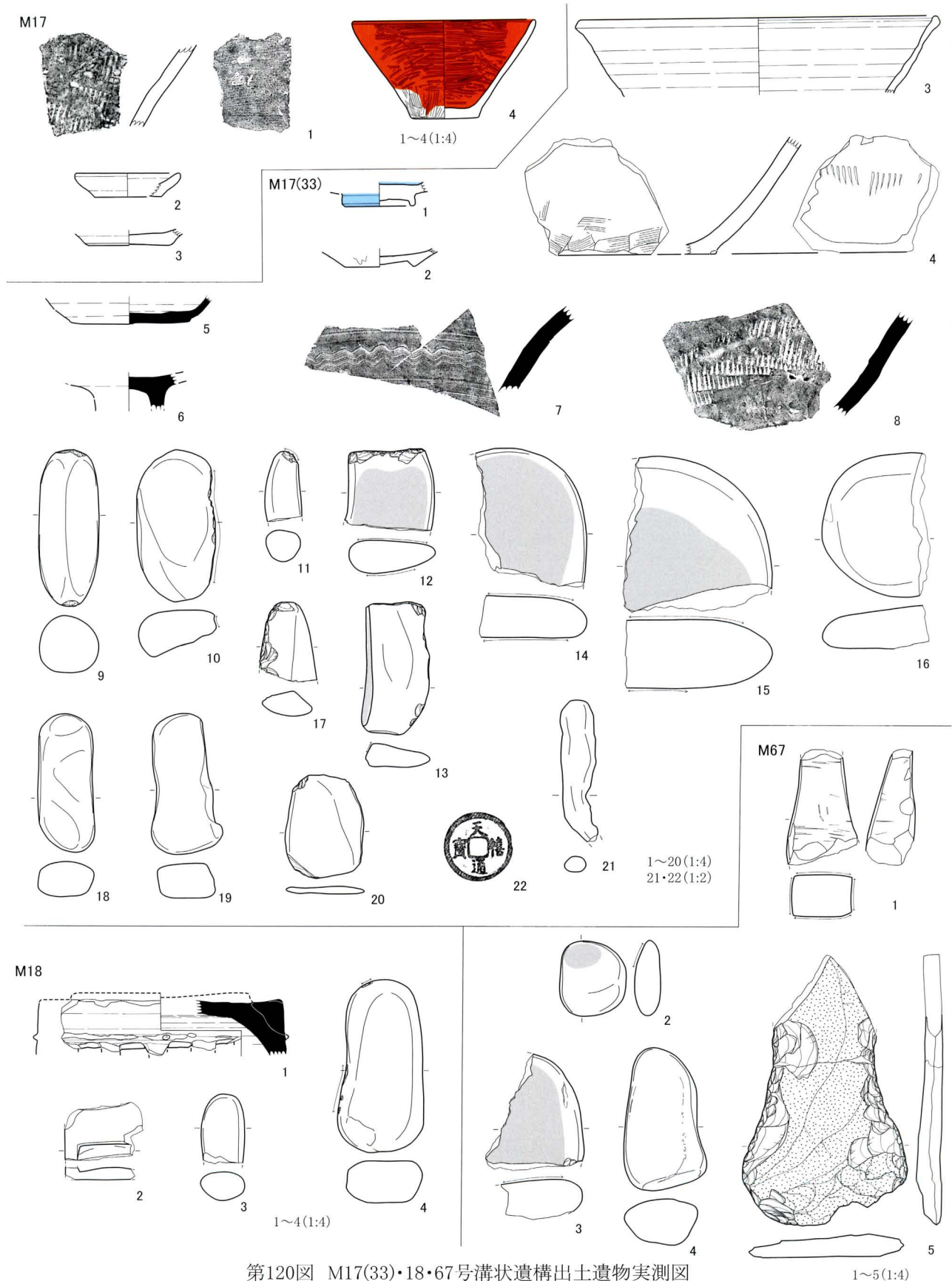
各遺構からは、覆土中を中心に遺物が出土した。M17からは図示した常滑の甕やカワラケ、龍泉窯系の青磁碗とともに、中津川系の捏ね鉢片が出土した。また、M18からは硯片とともに古代の円面硯が出土した。欠損しているが方形の透かしを持つタイプの硯である。

これらの遺物から、ここに記載した溝状遺構は中世の所産と考えられる。

第43表 M17・33・18・67号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値() 丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
M17	1	陶器	甕	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目	断面実測 中世常滑	I区
	2	土師質	かわらけ	(7.4)	(4.7)	1.8	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	I区
	3	土師質	かわらけ	-	(6.3)	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	II区
	4	弥生	鉢	(13.2)	(4.8)	7.1	ミガキ→赤色塗彩	口縁ハケナデ→ミガキ→赤色塗彩 底部ナデ	回転実測	V区
M33	1	青磁	碗	-	5.3	(1.7)	施釉	施釉	完全実測 13C 龍泉窯	XI-15
	2	陶器	土瓶?	-	(5.0)	(1.3)	施釉(錆釉)	ロクロナデ→施釉(錆釉)	回転実測 18C末 前山	XI-15 XI-20 M55
	3	須恵質系	捏ね鉢	(26.0)	-	(5.6)	ロクロナデ 自然釉付着	ロクロナデ 自然釉付着	回転実測 13C後半 中津川	XI-20
	4	須恵質系	播り鉢	-	-	-	播り目を刻む 磨耗	ナデ	破片実測 13世紀代 長野県産	V-25
	5	須恵器	坏	-	8.5	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ 底部ヘラケズリ	完全実測	
	6	須恵器	高坏	-	-	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	
	7	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ 楡描波状文	断面実測	XVI-10
	8	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ 平行タタキ	断面実測	M18V-20 M33・18 V-20
M18	1	須恵器	円面硯	-	-	(3.8)	ロクロナデ	ロクロナデ→透し 焼成前穿孔	回転実測	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M33	9	敲石	輝石安山岩	11.2	4.3	4.1	281.27	上下端部に敲打痕		M18V-20
	10	敲石	輝石安山岩	10.9	5.6	3.4	262.85	右側に敲打痕		M18VI-16
	11	敲石	砂岩	(5.0)	(2.7)	(2.3)	(37.31)	下部欠損 上端部に敲打痕		V-25
	12	磨・敲石	砂岩	(5.9)	(6.5)	(2.4)	(151.30)	下部欠損 上端部に敲打痕 正裏にすり面		
	13	磨石	輝石安山岩	9.5	4.9	1.7	108.43	左側にすり面		M18VI-16
	14	磨石	輝石安山岩	(10.0)	(8.0)	(3.1)	(399.46)	被熱あり 裏面黒化		XI-15
	15	磨石	輝石安山岩	(11.1)	(10.7)	(5.1)	(931.58)	被熱あり? 周囲黒化 左側～下部欠損 正裏にすり面		XI-15
	16	?	砂岩	(10.3)	(7.8)	(3.2)	(366.31)	右側欠損		XI-10
	17	?	珪砂頁岩	(5.7)	(4.1)	(1.8)	(50.45)	下部欠損 上部～左側に剥離痕		XI-10
	18	編物石	砂岩	10.0	4.1	2.6	168.27			XI-15
	19	編物石	輝石安山岩	10.2	5.6	2.5	200.87			XI-20
	20	原石	千枚岩	7.5	5.7	0.6	34.87			XI-20
21	角釘?	鉄	(5.1)	1.2	1.2	(8.17)	下部欠損			
22	古銭		2.51	-	0.11	2.06	完形 天禧通宝 1017(北宋)		XI-15	
M18	2	硯	粘板岩	(4.2)	(5.6)	(1.2)	(34.38)	表面と周囲欠損		XVIII-21
	3	?	砂岩	(5.0)	(3.1)	(2.2)	(41.63)	下部欠損		XI-10
	4	敲石	ホルンフェルス	12.4	6.2	3.5	428.64	左側と上端部に敲打痕		XI-5
M67	1	砥石	凝灰岩	(8.3)	(5.0)	(3.2)	(153.00)	砥面数4 上下欠損 4面とも擦痕と条痕あり		VI-21
	2	磨石	砂岩	5.4	4.8	1.9	79.55	正面にすり面		VI-21
	3	磨石	石英安山岩	(8.4)	(7.0)	(2.9)	(212.41)	左側～下部～裏面欠損 正面にすり面		XI-15
	4	?	ホルンフェルス	10.3	5.9	3.7	319.46			北端
	5	打製石斧	輝石安山岩	(19.5)	11.9	1.6	(385.98)	上部欠損 遺構間接合あり		XI-5 M76

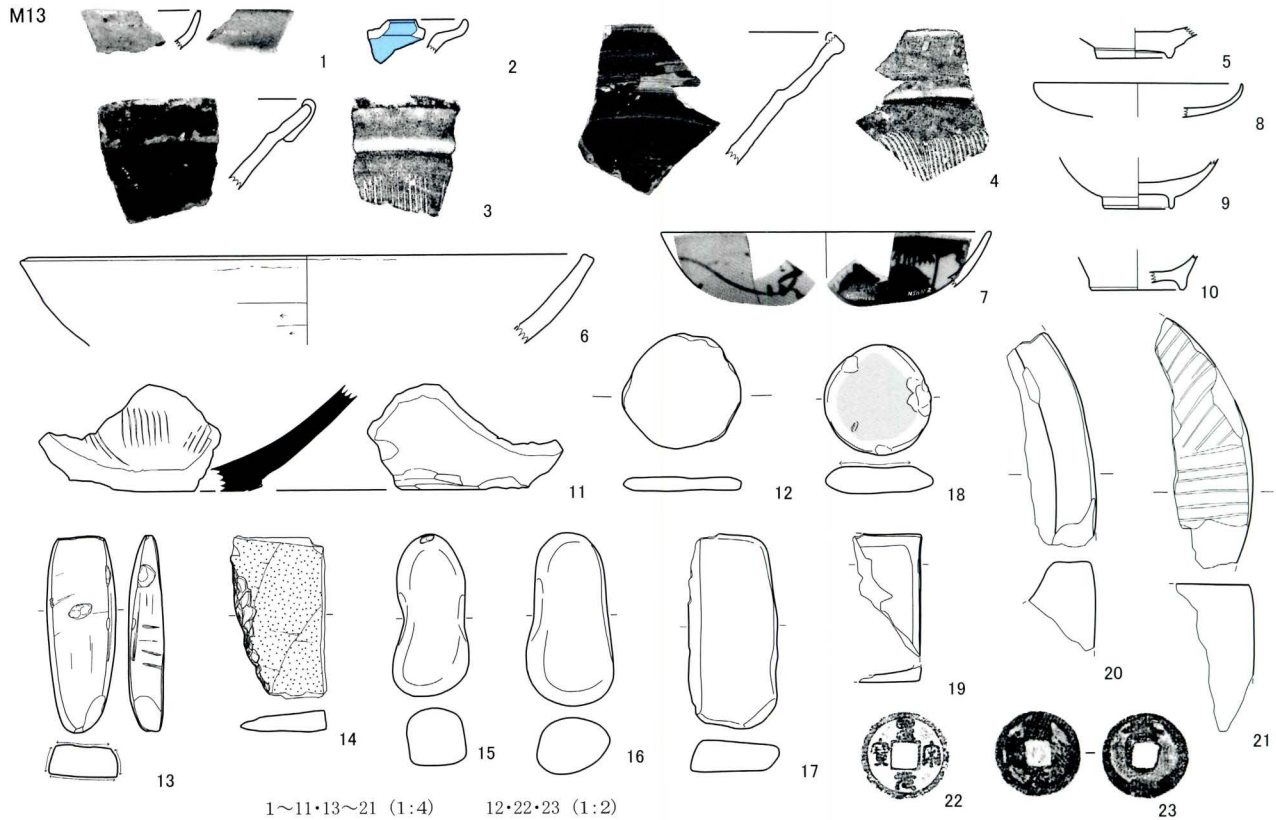


第120图 M17(33)・18・67号溝状遺構出土遺物実測図

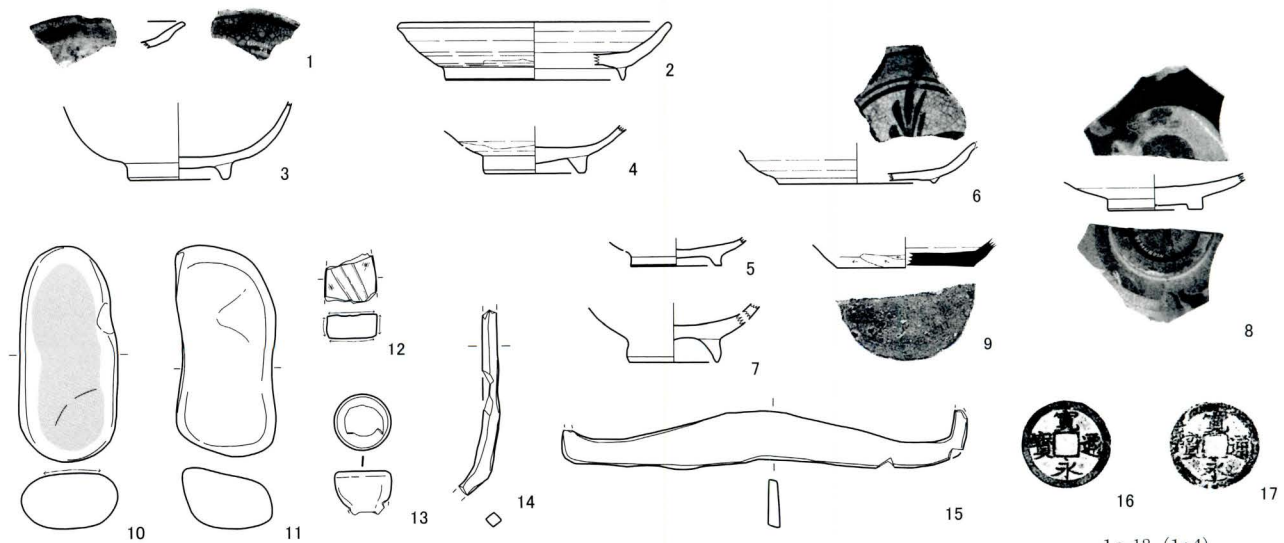
(14) 近世以降の溝状遺構

今回の調査では近世以降の所産と考えられ溝状遺構が前述のように18本検出された。これらの溝のうち調査区を南北方向に貫くように伸びるM12 (55) は圃場整備前に存在した道路の脇にあった水路と重なる。また、M30 (60)・31・32・36 (58・59)・62は圃場整備前の旧水田地割と重なる部分が多く、これらに付随した水路や地割遺構と考えられる。

また、これらの溝から出土した遺物も古代から中世のものも含まれるが、17～18世紀代の伊万里染付や在地の前山窯製品が多く出土した。ただ、M55から出土した(第123図M55-25)瓦は欠損しているものの、八弁複葉の所謂「川原田寺式」軒丸瓦と考えられ、注目される遺物である。



M13(14)



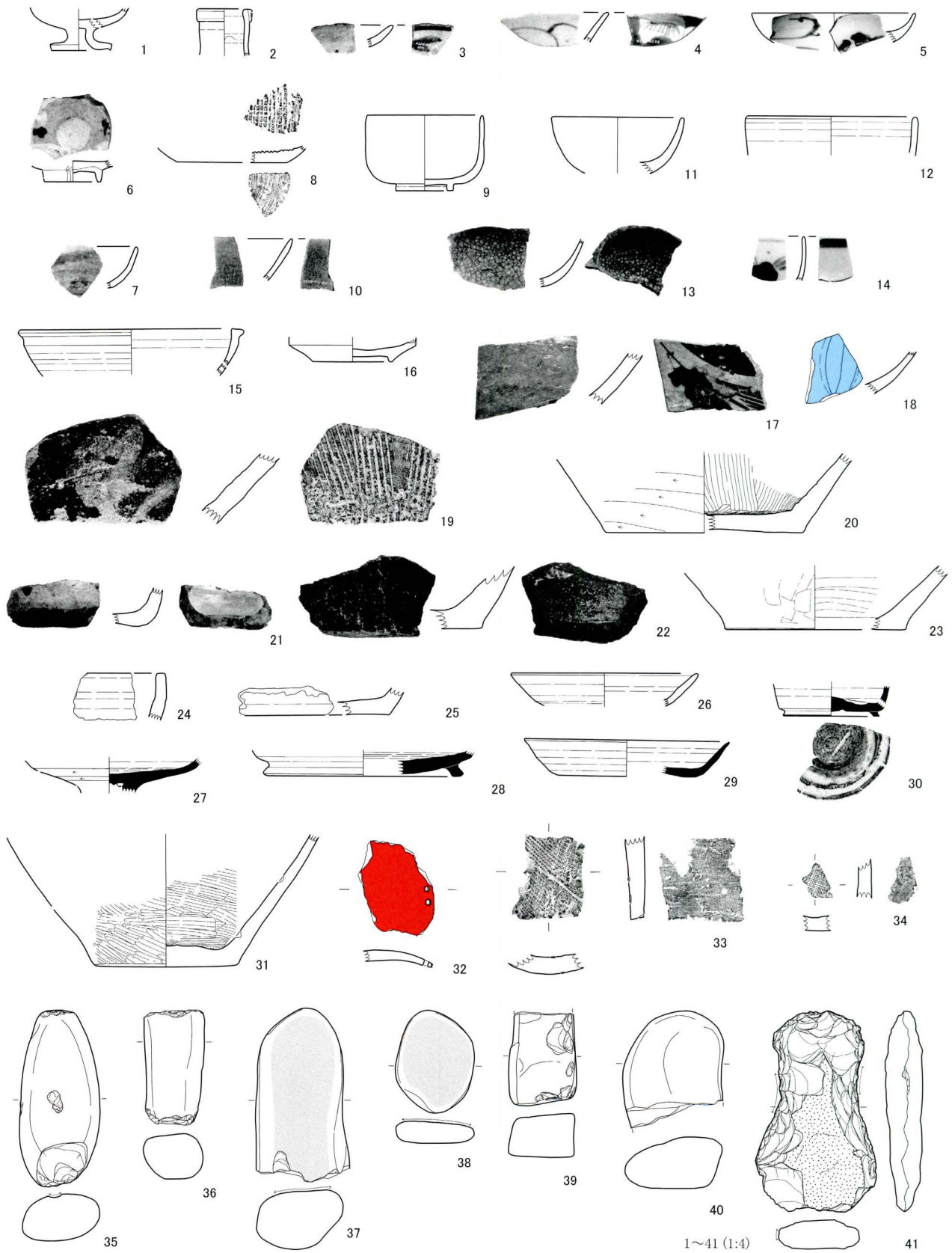
第121図 M13(14)号溝状遺構出土遺物実測図

1～12 (1:4)
13～17 (1:2)

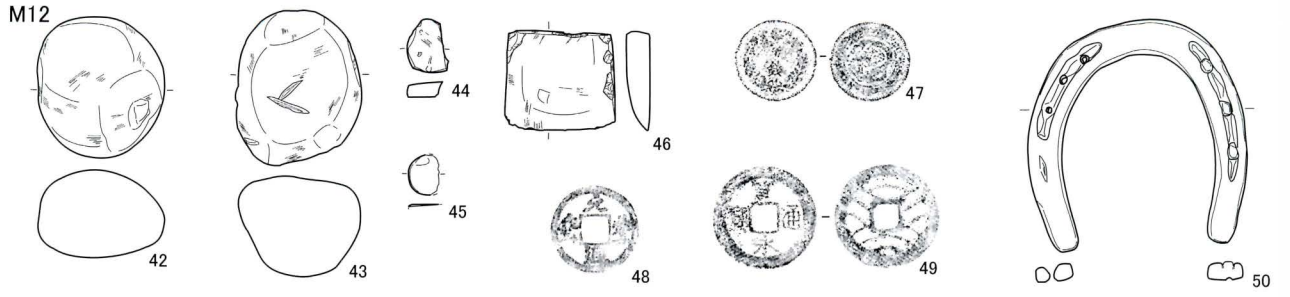
第44表 M13・14号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

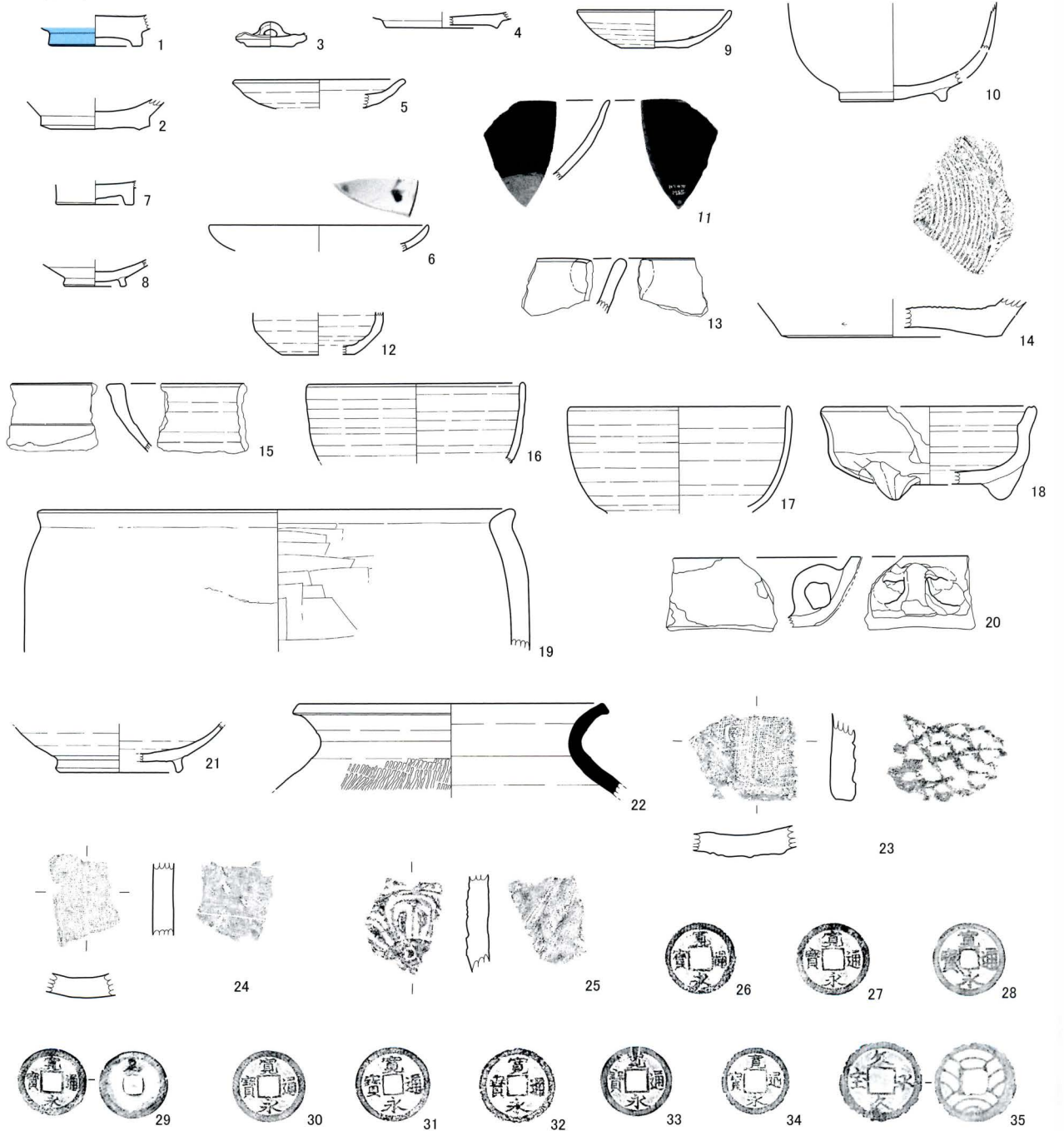
No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存値() 丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考・	出土位置	
M13	1	陶器	志野丸皿	-	-	-	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	断面実測 17C前半 瀬戸美濃	
	2	青磁	鉢	-	-	-	施釉	施釉	破片実測 13C 龍泉窯 II区	
	3	陶器	播り鉢	-	-	-	播り目を刻む→施釉(錆釉)	ロクロナデ→施釉(錆釉)	断面実測 18C末~19C前 前山 V区	
	4	陶器	播り鉢	-	-	-	播り目を刻む→施釉(錆釉)	ロクロナデ→施釉(錆釉)	断面実測 18C末~19C前 前山 II区	
	5	磁器	皿	-	4.0	(1.6)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉	完全実測 17C中頃 伊万里 染付 II区	
	6	陶器	播り鉢	(30.4)	-	(4.7)	ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測 13C後半 常滑 V区	
	7	磁器	皿	(17.4)	-	(3.0)	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 18C末~19C前 伊万里 V期 II区	
	8	磁器	皿	(11.0)	-	(1.8)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 18C末~19C前 伊万里 V期 II区	
	9	磁器	碗	-	(3.8)	(2.7)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 18C末~19C前 伊万里 V期 V区	
	10	磁器	瓶	-	(4.8)	(1.8)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 18C末~19C前 伊万里 V期 II区	
	11	須恵質系	播り鉢	-	-	-	播り目を刻む 磨耗	ナデ	破片実測 13C後半~14C 長野県産 I区	
M14	1	磁器	志野織部丸皿	-	-	(1.4)	施釉(灰釉 鉄絵あり)	施釉(灰釉 鉄絵あり)	断面実測 17C 瀬戸美濃 I区	
	2	磁器	皿	(14.4)	(9.4)	3.1	ロクロナデ→施釉(灰釉ツケがけ)	ロクロナデ→高台貼付→施釉(灰釉ツケがけ)	回転実測 18C末~19C前 前山 I区	
	3	磁器	丸碗	-	(5.4)	(4.1)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	回転実測 貫入る 18C末~19C前 瀬戸美濃 III区砂層	
	4	磁器	丸碗	-	5.5	(2.5)	施釉(灰釉)	ロクロナデ→施釉(灰釉)	完全実測 18C末~19C前 前山 III区	
	5	磁器	丸碗	-	(4.8)	(1.5)	施釉	施釉	完全実測 18C末~19C前 前山 III区砂層	
	6	磁器	志野織部丸皿	-	(8.2)	(2.2)	施釉(灰釉 鉄絵あり)	施釉(灰釉)	回転実測 17C 瀬戸美濃 I区	
	7	磁器	呉器手碗	-	5.0	(3.2)	施釉	施釉	回転実測 17C後半 唐津 I区	
	8	磁器	輪割げ皿	-	(5.0)	(1.9)	施釉(銅釉?)	ロクロナデ→高台削り出し→施釉(灰釉・銅釉)	回転実測 18C前半 唐津 I区	
	9	須恵器	坏	-	(7.2)	(1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部と底部外周手持ちヘラケズリ	回転実測 底部外面にヘラ記号あり XXIV-10	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M13	12	円板	土製品	3.1	3.1	0.30	5.00	ヘラケズリ 土師器甕の二次利用 磨耗		II区
	13	砥石	緑色凝灰岩	10.4	3.6	1.8	101.92	砥面数4		V区
	14	打製石斧	輝石安山岩	(8.7)	(5.0)	(1.1)	(72.15)	左側以外欠損 左側に磨滅あり		III区1層
	15	編物石	輝石安山岩	8.6	4.1	3.1	175.11			II区
	16	編物石	輝石安山岩	9.2	4.6	3.0	201.49			II区
	17	?	輝石安山岩	(10.4)	(4.8)	(1.7)	(146.68)	一部欠損		V区
	18	磨石	安山岩	5.9	5.6	1.5	59.88	正面にすり面		V区
	19	かわら	土製	(6.6)	(3.6)	(0.8)	(14.30)	I隅を残して欠損 縁部分も剥落か		V区
	20	粉挽き白上白	安山岩	(11.4)	(4.7)	高さ(5.2)	(188.14)	径不明 上縁部分		II区
	21	粉挽き白下白	安山岩	(13.3)	(5.1)	高さ(8.2)	(320.34)	径不明 すり合わせ部分		II区
	22	古銭	銅	2.37	-	0.1	2.37	完形 聖宋元宝 1101年		III区
23	古銭	銅	2.32	-	0.12	2.11	完形 不明			
M14	10	磨石	輝石安山岩	11.5	5.3	3.2	319.65	正面にすり面		II区
	11	編物石	輝石安山岩	11.3	5.3	3.8	353.42			I区
	12	砥石	凝灰岩	(2.6)	(2.8)	(1.3)	(14.16)	砥面数4 上下欠損 正面に幅広の条痕		I区
	13	煙管	銅	1.5	1.5	0.1	(1.32)	下部欠損		III区
	14	角釘	鉄	(5.0)	(0.4)	(0.3)	(2.82)	上下欠損		III区
	15	火打ち金具	鉄	10.7	1.4	0.3	(13.01)	一部欠損		III区
16	古銭	銅	2.4	-	0.12	2.90	完形 寛永通宝(古)		III区砂層	
17	古銭	銅	2.4	-	0.17	2.69	完形 寛永通宝(古)		IV区砂層	



第122图 M12号溝状遺構出土遺物実測図

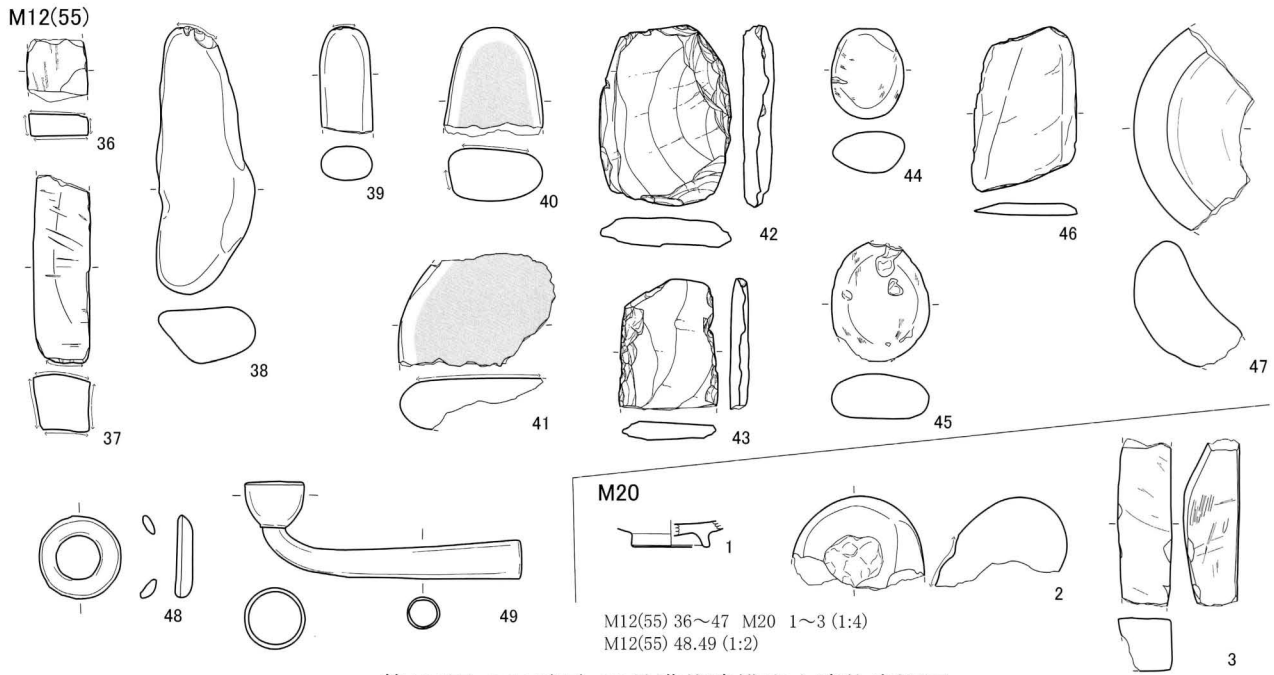


M12 (M55)



第123图 M12(55)号沟状遺構出土遺物実測図

M12 47~49 M12(M55) 26~35 (1:2)
M12 42~46.50 M12(M55) 1~25 (1:4)

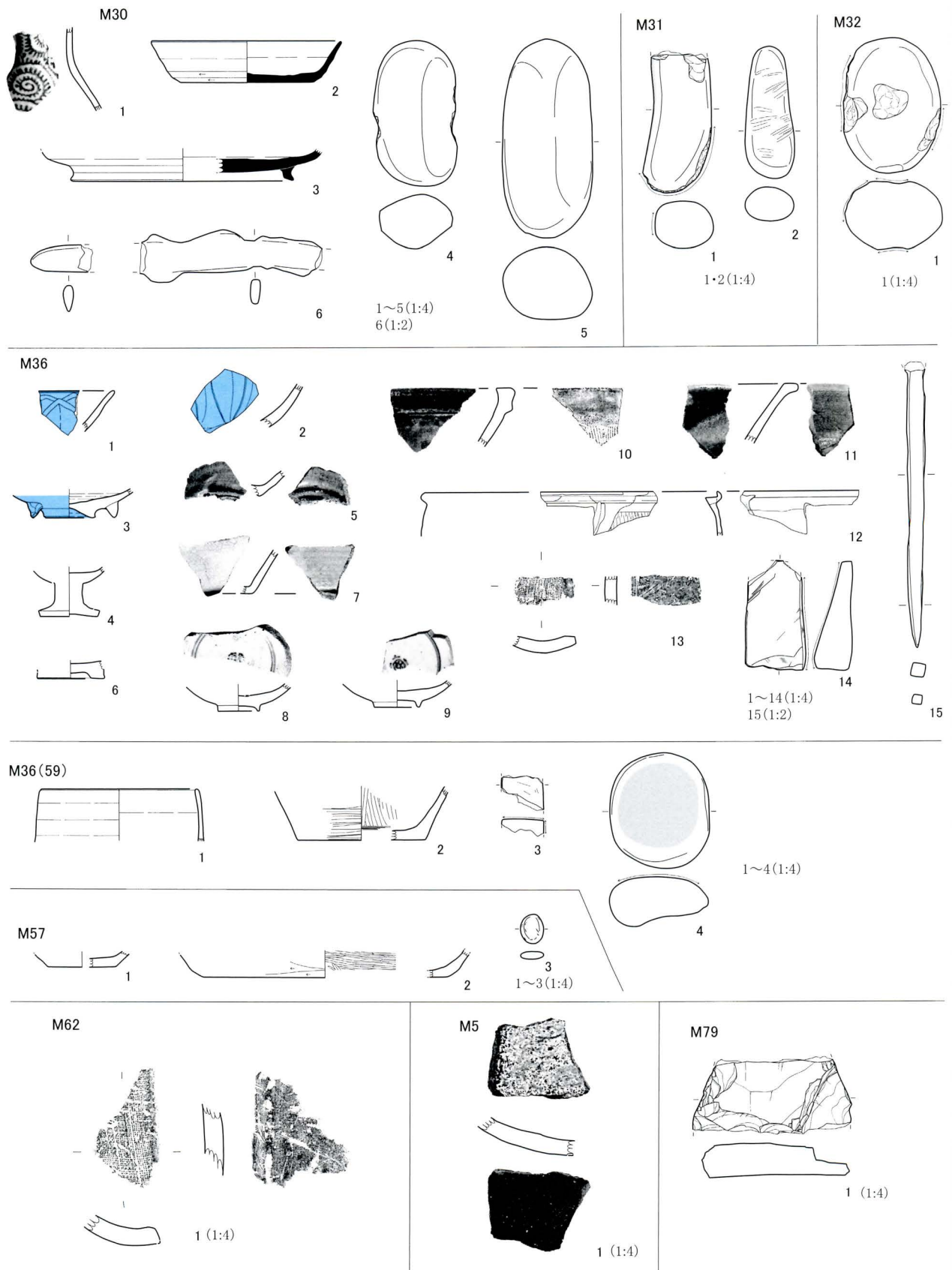


第124図 M12(55)・20号溝状遺構出土遺物実測図

第45表 M12号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	陶器	仏飯	-	(4.3)	(3.0)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	完全実測 18C末~19C前 前山	I区
2	陶器	徳利	(4.0)	-	(3.4)	口縁に施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	回転実測 18C末~19C前 前山	II区
3	陶器	吉野織部皿	-	-	-	施釉(灰釉) → 鉄絵	施釉(灰釉)	断面実測 17C前半 瀬戸美濃	XXIII-10
4	磁器	皿	-	-	-	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	断面実測 18C末~19C前 伊万里 V期	II区
5	磁器	皿	(11.6)	-	(2.1)	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 18C末~19C前 伊万里 V期	I区
6	磁器	皿	-	-	(1.5)	ロクロナデ→一部施釉(灰釉)	ロクロナデ→施釉(灰釉)	回転実測 17C後 伊万里	I区
7	陶器	小碗	-	-	-	ロクロナデ→施釉(錆釉?)	ロクロナデ→施釉(錆釉)	断面実測 18C末~19C前 前山	II区
8	陶器	おろし皿	-	-	-	おろし目 施釉(灰釉)	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測 中世 古瀬戸 後期IV期	III区
9	陶器	鎧戸碗	(10.4)	(4.0)	5.4	施釉(鉄釉)	鎧文様を作る→口辺のみ施釉(鉄釉)	回転実測 18C後 瀬戸美濃	II区
10	陶器	呉器手碗	-	-	-	施釉	施釉	断面実測 貫入 17C後 唐津	XXIII-10
11	陶器	碗	(9.4)	-	(4.0)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 18C末~19C前 伊万里 V期	II区
12	陶器	碗	(12.2)	-	(2.8)	ロクロナデ→施釉(灰釉)	ロクロナデ→施釉(灰釉)	回転実測 18C後 前山	II区
13	陶器	呉器手碗	-	-	-	施釉	施釉	断面実測 貫入 17C 唐津	
14	磁器	碗	-	-	-	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	断面実測 18C末~19C前 伊万里 V期	II区
15	陶器	片口鉢	(16.0)	-	(3.3)	ロクロナデ→施釉(灰釉)	ロクロナデ→施釉(灰釉)	回転実測 18C末~19C前 前山	XVII-25 M14 I区
16	陶器	鉢	-	(5.6)	(1.7)	ロクロナデ→施釉(鉄釉)	底部と底部外周回転ヘラケズリ→施釉(鉄釉)	回転実測 18C末~19C前 瀬戸美濃	XXIII-10
17	陶器	鉢	-	-	-	施釉(灰釉・鉄釉)	施釉(灰釉)	断面実測 瀬戸美濃	II区
18	青磁	連弁文碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測 13C 龍泉窯	XVII-25
19	陶器	播り鉢	-	-	-	播り目を刻む→施釉(錆釉)	ヘラケズリ→施釉(錆釉)	断面実測 18C末~19C前 前山	XVII-25
20	陶器	播り鉢	-	(13.8)	(5.8)	播り目を刻む→施釉(錆釉)	胴部回転ヘラケズリ 底部回転糸切り→施釉(錆釉)	回転実測 前山	



第125図 M30・31・32・36(59)・57・62・5・79号溝状遺構出土遺物実測図

第46表 M12・55号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
M12	21	陶器	壺	-	-	-	ロクロナデ→施釉(灰釉)	ロクロナデ→施釉(灰釉)	断面実測 18C末~19C前 前山	Ⅲ区
	22	陶器	壺	-	-	(4.5)	ヨコナデ 自然釉付着	タタキ目 底部外周ヘラケズリ	断面実測 中世 常滑	XXⅢ-10
	23	陶器	壺	-	(12.8)	(4.6)	ヨコナデ 磨り 自然釉付着	ナデ	回転実測 中世 常滑	上層カクラン
	24	土師質	土鍋	-	-	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	I区
	25	土師質	土鍋	-	-	(1.9)	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	破片実測 龍泉窯 13C	I区
	26	土師質	かわらけ	(13.2)	-	(2.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	XXⅢ-10
	27	須恵器	高坏	-	-	(2.6)	ロクロナデ→みこみ部歯状工具によるナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区
	28	須恵器	有台坏	-	(14.2)	(1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	I区
	29	須恵器	坏	(14.4)	(9.8)	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ 自然釉付着	回転実測	I区
	30	須恵器	壺	-	(6.8)	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測 みこみ部に自然釉付着	I区
	31	弥生	壺	-	10.2	(9.4)	ハケ目	胴部ミガキ 底部ミガキ	完全実測	Ⅱ区 XXⅢ-10 3Ⅱ区
	32	弥生	蓋	-	-	-	ミガキ	ミガキ→赤色塗彩 焼成前穿孔	破片実測	I区
	33	瓦質	平瓦	(6.0)	(5.4)	(1.4)	ナデ	布目痕		
	34	瓦質	平瓦	(2.8)	(2.0)	(1.1)	ナデ	布目痕		上層カクラン
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M12	35	敲石	輝石安山岩	12.7	5.7	3.5	361.97	上下端部に敲打痕		I区
	36	敲石	砂岩	8.2	4.3	3.5	200.54	上下端部に敲打痕		Ⅳ区
	37	磨石	玻璃質安山岩	(12.4)	(6.7)	(4.3)	(625.10)	下部欠損 正面にすり面		I区
	38	磨石	硬質砂岩	7.3	5.6	1.8	106.57	正面にすり面		XXⅢ-10
	39	敲石?	頁岩	(6.7)	(4.8)	(3.3)	(190.97)	上部欠損 使用による剥離か不明		Ⅳ区
	40	?	輝石安山岩	(8.4)	(7.1)	(3.8)	(323.51)	下部欠損		
	41	打製石斧	輝石安山岩	14.4	8.5	2.2	324.65	両側につぶれ状の痕		Ⅱ区
	42	軽石製品	軽石	7.5	6.7	4.7	143.72	全体にすり		XXⅢ-10
	43	軽石製品	軽石	8.3	6.7	5.4	223.26	全体にすり 条痕あり		XXⅢ-10
	44	軽石製品	軽石	(2.9)	(2.2)	(0.8)	(3.33)	右側欠損 全体にすり		上層カクラン
	45	基石	硬質砂岩	(2.2)	(1.6)	(0.15)	(0.71)	右側~裏面欠損		XXⅢ-10
	46	刃器	石英閃緑岩	5.4	5.9	1.3	81.38	片刃の刃器 敲打状の痕跡あり		Ⅱ区
	47	古銭	銅	2.2	-	0.1	2.85	半銭 完形		Ⅲ区
	48	古銭	銅	2.37	-	0.08	2.08	完形 元豊通宝 1078年		
49	古銭	銅	2.81	-	0.12	3.93	完形 寛永通宝 四文銭 1768年			
50	蹄鉄	鉄	12.4	11.7	1.0	183.42	孔と銚が残る			
No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
M55	1	青磁	碗	-	(5.8)	(2.0)	施釉	施釉	回転実測 13C~14C 龍泉窯	X I -5
	2	白磁	碗	-	-	-	施釉		回転実測 11C~12C 中国 Ⅳ類	
	3	陶器	蓋	-	-	(1.6)	ロクロナデ→回転糸切り	つまみ貼付→施釉(灰釉)	完全実測 18C末~19C前 前山	
	4	陶器	志野丸皿	-	(7.2)	(1.0)	施釉	施釉	回転実測 17C前半 瀬戸美濃	X II -21
	5	陶器	皿	(11.0)	-	(1.8)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	回転実測 18C末~19C前 前山	X I -5
	6	磁器	皿	(14.0)	-	(1.7)	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉	回転実測 17C後半 伊万里 Ⅲ期	
	7	陶器	丸碗	-	4.9	(1.5)	施釉(鉄釉ツケガケ)	底部回転ヘラ切り→施釉(鉄釉ハケぬり?)	完全実測 瀬戸美濃 18C末~19C前	
	8	陶器	小碗	-	(4.0)	(1.7)	施釉	施釉	回転実測 18C末~19C前 前山	X II -21

第47表 M55号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●	備 考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面			
9	陶器	灯明皿	9.8	4.2	2.4	ロクロナデ→施釉(鉄釉ツケ)	ロクロナデ→底部回転糸切り→施釉(上部ツケガケ 下部ヘケスリ)	完全実測 内面底部にトチン痕残る 18C末~19C前 前山?		
10	陶器	丸碗	-	(6.8)	(6.3)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	回転実測 18C末~19C前 瀬戸美濃		
11	陶器	天目茶碗	-	-	(5.1)	施釉(鉄釉)	ロクロナデ→施釉(鉄釉)	断面実測 15C後半 古瀬戸 後期IV期		
12	陶器	壺類	-	(4.6)	(2.7)	ロクロナデ→施釉(鉄釉)	ロクロナデ→施釉(鉄釉)	回転実測 18C末~19C前 前山	X I -5	
13	陶器	捏ね鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	破片実測 注ぎ口あり 13C後半 尾張	X I -5	
14	陶器	播り鉢	-	(14.0)	(2.4)	播り目を刻む→施釉(鉄釉)	底部外周回転ヘラケズリ 底部糸切り→施釉(鉄釉)	回転実測 18C末~19C前 前山		
15	瓦質土器	壺	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測 近世	X I -5	
16	陶器	丸碗	(14.0)	-	(5.1)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	回転実測 18C末~19C前 前山		
17	陶器	丸碗	(14.2)	-	(6.8)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	回転実測 18C末~19C前 前山	V-20 XX I -暗渠	
18	瓦質土器	香炉	(13.8)	(12.8)	6.0	ロクロナデ	ロクロナデ→脚貼付	回転実測 15C~16C	V-20	
19	土師質	土鍋	(30.2)	-	(9.1)	ヨコナデ	ナデ	回転実測 近世		
20	土師質	内耳	-	-	-	耳貼付	ナデ	破片実測 剥離著しい 近世		
21	陶器	灰釉碗	-	(7.4)	(3.1)	ロクロナデ 施釉(ツケガケ)	ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ後高台貼付 施釉(ツケガケ)	回転実測		
22	須恵器	甕	(19.4)	-	(6.0)	ロクロナデ	ロクロナデ 平行タタキ	回転実測		
23	瓦質	平瓦	(5.6)	(6.6)	(1.5)	タタキ	布目痕			
24	瓦質	平瓦	(4.6)	(4.4)	(1.6)	ナデ	布目痕			
25	瓦質	軒丸瓦	-	-	(1.5)	ナデ	型押し(川原寺式)	磨滅	X I -5	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
26	古銭	銅	2.3	-	0.1	2.12	完形	寛永通宝(新)		
27	古銭	銅	2.33	-	0.1	2.31	完形	寛永通宝(新)		
28	古銭	銅	2.37	-	0.12	2.94	完形	寛永通宝(古)		
29	古銭	銅	2.2	-	0.1	1.94	完形	寛永通宝(新)		
30	古銭	銅	2.4	-	0.15	3.33	完形	寛永通宝(古)	X I -10	
31	古銭	銅	2.34	-	0.14	3.08	完形	寛永通宝(新)	X II -21	
32	古銭	銅	2.43	-	0.16	3.52	完形	寛永通宝(古)		
33	古銭	銅	2.3	-	0.13	2.90	完形	寛永通宝(新)	X I -5	
34	古銭	銅	2.19	-	0.09	1.31	完形	寛永通宝(新)		
35	古銭	銅	2.66	-	0.12	2.88	完形	文久永宝(略宝) 1863年		
36	砥石	凝灰岩	(3.4)	(3.2)	(1.2)	(20.88)	砥面数4	上下欠損		
37	砥石	凝灰岩	(10.0)	(3.1)	(3.1)	(161.60)	砥面数4	上部欠損		
38	敲石	輝石安山岩	14.2	5.2	3.0	289.85		上端部に敲打痕		
39	敲石	砂岩	(5.8)	(2.8)	(1.8)	(45.01)		下部欠損 上端部に敲打痕		
40	磨石	玻璃質安山岩	(5.9)	(5.2)	(2.8)	(138.61)		下部欠損 正面と左側にすり面		
41	磨石	輝石安山岩	(6.0)	(8.3)	(2.9)	(148.64)		左側以外欠損 正面にすり面		
42	打製石斧	輝石安山岩	9.6	7.0	1.5	144.13				
43	打製石斧	輝石安山岩	(6.9)	(5.2)	(1.0)	(57.81)		下部欠損 全体に磨耗		
44	?	安山岩	4.9	3.8	2.2	38.93		全体にすり	X I -5	
45	軽石製品	軽石	(6.3)	(5.2)	(2.3)	(58.22)		一部欠損	X I -5	
46	原石	千枚岩	8.8	5.6	0.7	49.95				
47	凹石	安山岩	(10.7)	(6.3)	高さ(6.7)	(291.89)		最大径(12.4) 約1/4残存		
48	銅製品不明	銅	最大径2.2	最小径1.1	高さ0.5	4.00		器厚 0.25		
49	銅製品煙管	銅	7.4	2.6	-	9.23		先端 径1.6 厚さ0.1 管 径1.0 厚さ0.05		

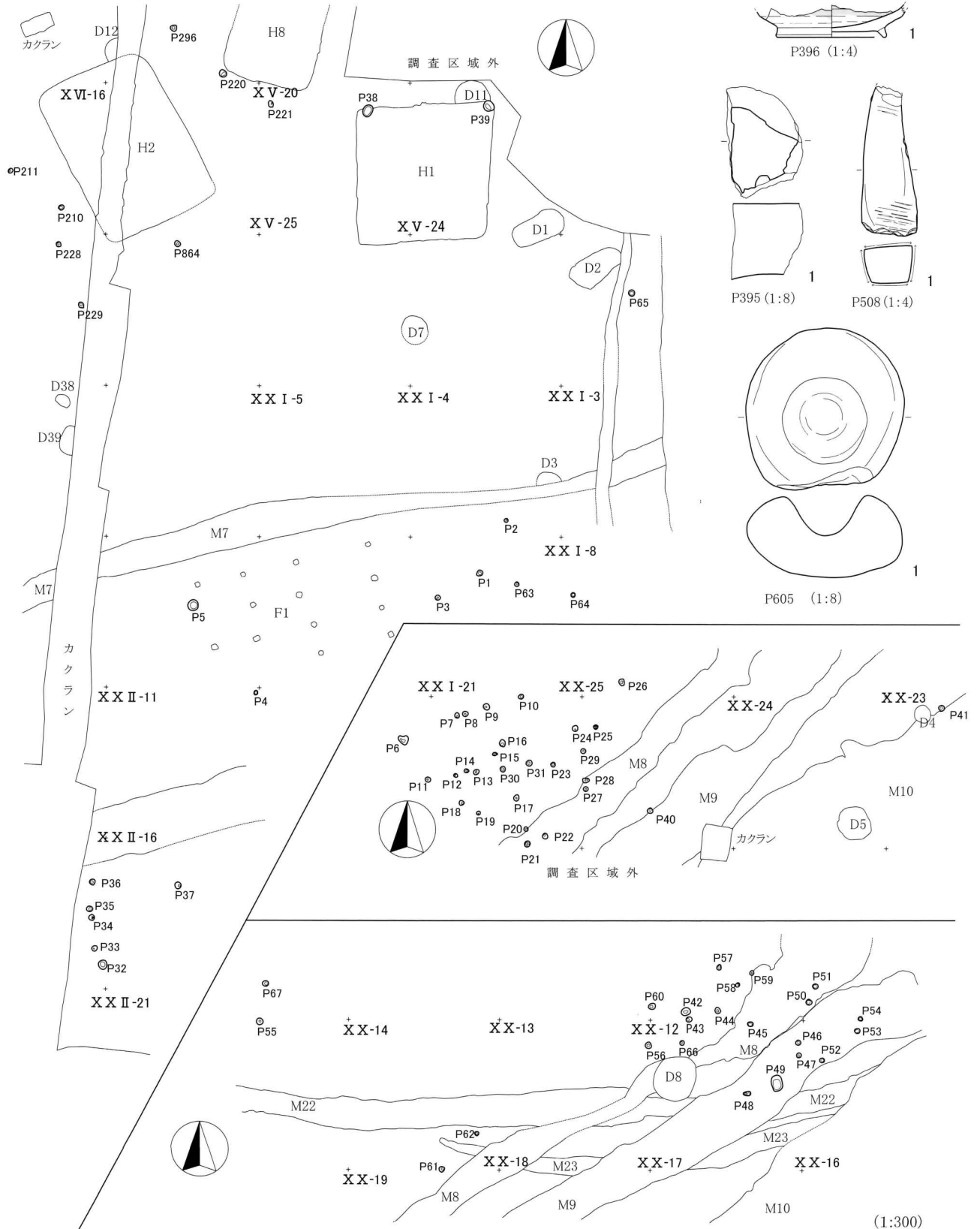
第48表 M20・30～32・36・57・59・62・5・79号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

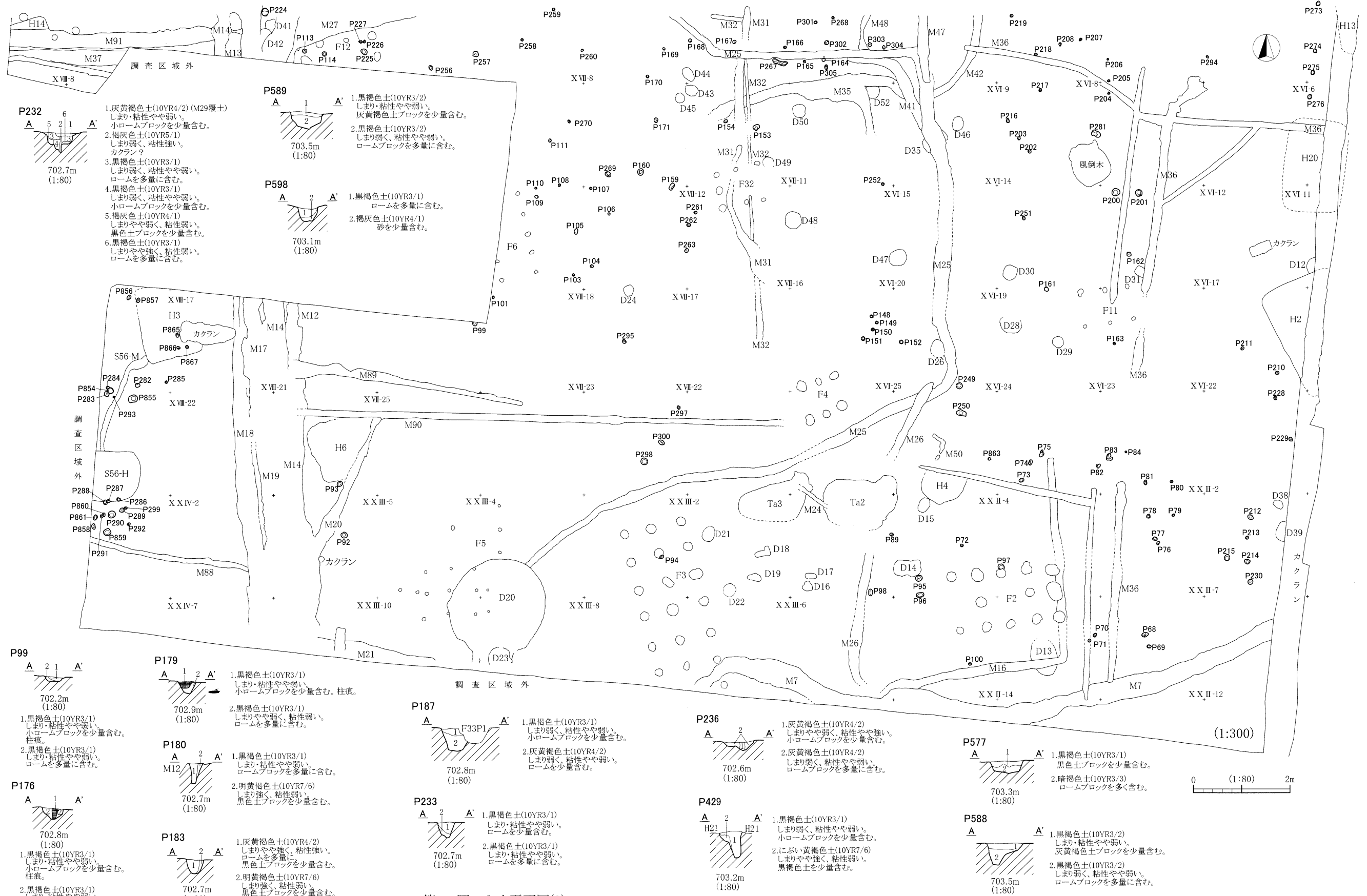
No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値() 残存値() 丸底●	備考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面			
M20	1	陶器	掛け分けの皿	-	(4.2)	(1.4)	施釉(灰釉 鉄釉)	施釉(灰釉 鉄釉)	回転実測 18C後半 瀬戸美濃	
M30	1	磁器	瓶	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→施釉(染付)	断面実測 18C末~19C前 伊万里 V期	
	2	須恵器	坏	(13.4)	(9.4)	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ 底部及び体部下端回転ヘラケズリ	回転実測	
	3	須恵器		-	(15.6)	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	X-20
M36	1	青磁	連弁文碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測 13C 龍泉窯	XVI-7
	2	青磁	連弁文碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測 13C 龍泉窯	XVI-7
	3	青磁	香炉	-	3.6	(2.0)	施釉	施釉	完全実測 13C代 龍泉窯	XVI-7
	4	磁器	仏飯	-	(4.0)	(3.5)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉(染付)	完全実測 18C末~19C前 伊万里 V期	XVI-7
	5	陶器	内禿皿	-	-	-	施釉(灰釉)	ロクロナデ→高台貼付→施釉(灰釉)	断面実測 16C末 瀬戸美濃 大窯IV・V	XVI-7
	6	陶器	碗	-	4.8	(1.3)	施釉(鉄釉)	施釉(鉄釉)	完全実測 18C末~19C前 前山	XVI-7
	7	磁器	碗	-	-	-	施釉	施釉	断面実測 18C末~19C前 京焼	XVI-7
	8	磁器	碗	-	(3.0)	(1.9)	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 18C末~19C前 伊万里 V期	XVI-22
	9	磁器	碗	-	(3.2)	(1.9)	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 18C末~19C前 伊万里 V期	XVI-7
	10	陶器	播り鉢	-	-	-	播り目を刻む→施釉(灰釉)	ロクロナデ→施釉(灰釉)	破片実測 19C 前山	XVI-7
	11	陶器	鉢	-	-	-	施釉	施釉	断面実測 18C末~19C前 前山	XVI-7
	12	磁器	行平鍋	(21.2)	-	(3.1)	ロクロナデ→施釉(鉄釉)	ロクロナデ→焼成前穿孔→注ぎ口貼付(注ぎ口欠損)→施釉(鉄釉)	回転実測 18C末~19C前 前山	XVI-7
	13	瓦質	平瓦	(2.0)	(4.5)	(1.2)	ナデ	布目痕		XVI-7
M57	1	土師質	かわらけ	-	(4.8)	(1.1)	ナデ	ナデ 底部回転糸切り	回転実測	
	2	土師質	ほうろく	-	(17.6)	(1.9)	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	
M59	1	陶器	碗	(11.0)	-	(3.7)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	回転実測 18C末~19C前 前山	
	2	陶器	播り鉢	-	(9.0)	(3.8)	播り目を刻む→施釉(錆釉)	ハケ目の残るナデ・底部糸切り→施釉(錆釉)	回転実測 18C末~19C前 瀬戸美濃	
M62	1	瓦質	平瓦	(5.0)	(5.3)	(2.1)	ナデ	布目痕		XI-21
M5	1	陶器	甕	-	-	-	自然釉付着	輪積 成形→ナデ	断面実測 中世 常滑	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M20	2	凹石	輝石安山岩	(5.0)	(6.9)	(5.8)	(232.09)	下部欠損 正面に敲打痕		
	3	砥石	凝灰岩	(8.9)	(2.8)	(2.8)	(99.44)	砥面数4 上下欠損 右側と裏面に条痕		
M30	4	編物石	砂岩	10.4	6.0	3.8	330.10	両側に抉り		
	5	編物石?	輝石安山岩	14.1	6.4	5.2	680.06			
	6	刀子	鉄	(2.2) (6.4)	(0.9) (1.2)	(0.4) (0.7)	(1.38) (9.73)	先端部 基部	両端欠損 同一個体か	X-20
M31	1	磨・敲石	安山岩	(10.2)	(4.9)	(3.4)	(226.72)	上部欠損 左側にすり面 右側~下側に敲打痕		XVII-11
	2	磨石	硬質砂岩	9.4	3.5	2.5	105.35	全体にすりか 正裏に浅い条痕		XVII-11
M32	1	凹石	輝石安山岩	9.6	6.9	5.2	461.10	正裏と両側に敲打痕		XVII-6
M36	14	砥石	砂岩	(7.8)	(4.3)	(2.6)	(104.43)	砥面数2(正面・右側) 上部欠損		XVI-7
	15	角釘	鉄	(10.1)	(0.7)	(0.5)	(99.97)	頭部欠損		XVI-7
M57	3	磨石	泥質砂岩	2.1	1.7	0.5	2.82	全体にすり		
M59	3	砥石	凝灰岩	(2.6)	(3.0)	(1.5)	(10.22)	砥面数2 上下~裏面欠損		
	4	磨石	砂岩	8.2	7.0	3.5	318.78	正面にすり面		
M79	1	打製石斧	安山岩	(5.5)	(11.2)	(2.3)	(204.11)	上下欠損		

第6節 ピット・杭列状遺構

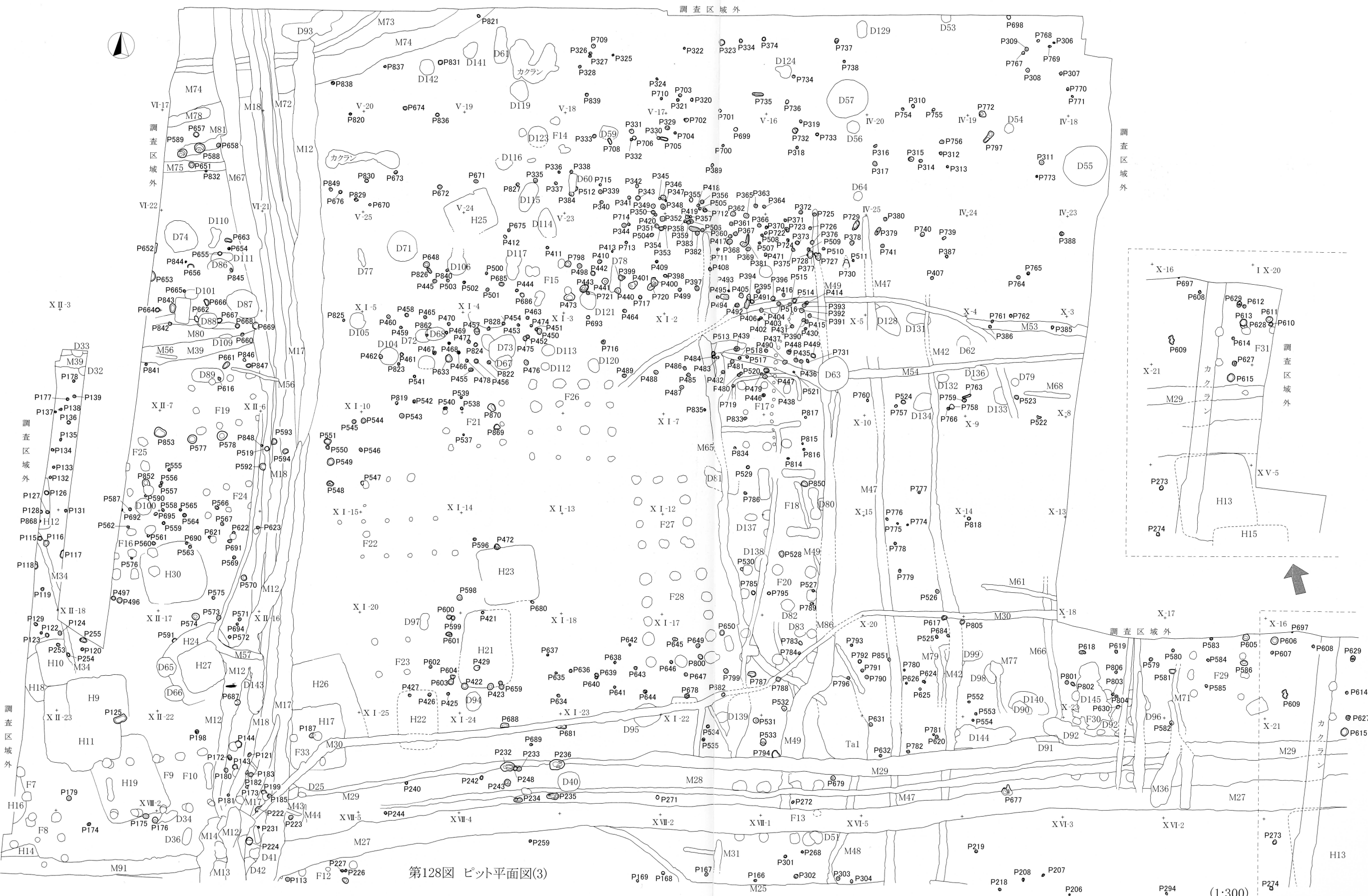
(1) 単独ピット



第126図 ピット平面図(1)及び出土遺物実測図



第127図 ピット平面図(2)



第128図 ピット平面図(3)

(1:300)

第49表 ピット計測表(1)

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備 考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備 考
P1	XX I-8	36.0	30.9	14.5	円形		暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土ブロック。	P63	XX I-8	23.8	23.5	23.8	円形		1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂・ローム。 2. 暗褐色土(10YR3/3)砂・ローム。
P2	XX I-3	21.3	20.3	13.5	円形	弥生壺	暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土ブロック。	P64	XX I-7	24.9	23.0	11.3	円形		にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂・ローム
P3	XX I-8	28.2	27.2	19.5	円形		暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土ブロック。	P65	XV-22	34.0	32.7	6.9	円形		にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂を多く含む。
P4	XX I-15	24.5	20.4	5.2	円形		暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土ブロック。	P66	XX-11	24.8	23.5	32.6	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)砂が多い。
P5	XX I-10	58.7	55.2	17.7	円形		暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土ブロック。	P67	XX-9	32.4	29.3	18.7	円形	中世	褐灰色土(10YR4/1)しまり・粘性あり。
P6	XX I-21	56.7	47.1	10.6	不整形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまりあり。 赤色粒子を含む。	P68	XX II-7	(52.1)	(32.8)	(39.4)	楕円形	弥生	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。ロームブロックが多い。
P7	XX-25	28.2	24.2	17.6	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P69	XX II-7	(33.6)	(25.3)	(13.2)	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。ロームブロックが多い。
P8	XX-25	30.0	27.4	25.6	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P70	XX II-8	(32.3)	(25.9)	(11.3)	方形		黒褐色土(10YR3/1)
P9	XX-25	35.6	31.7	21.2	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P71	XX II-8	(24.8)	(22.3)	(21.3)	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P10	XX-20・25	29.6	24.6	14.1	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P72	XX II-4	23.6	21.1	9.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)ロームを多く含む。
P11	XX I-21	29.5	26.3	19.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)炭化物を含む。	P73	XVI-23	(38.8)	(28.1)	(8.8)	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)砂を含む。
P12	XX-25	22.5	19.3	22.1	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)	P74	XVI-23	(38.6)	25.6	80.2	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)
P13	XX-25	32.0	25.8	18.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P75	XVI-23	56.9	30.5	22.1	不整形		黒褐色土(10YR3/1)
P14	XX-25	25.1	19.9	13.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P76	XX II-2	28.7	17.8	38.4	不整形		黒褐色土(10YR3/1)
P15	XX-25	26.5	17.2	8.0	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)	P77	XX II-2	33.7	26.8	11.2	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P16	XX-25	38.8	32	20.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P78	XX II-2	29.0	28.5	13.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P17	XX-25	34.3	27.6	22.0	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)炭化物を含む。	P79	XX II-2	23.6	17.5	4.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P18	XX-25	26.8	25.7	25.4	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P80	XVI-22	22.6	19.2	1.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P19	XX-25	21.5	19.2	20.6	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P81	XVI-22	38.0	23.4	10.9	不整形		黒褐色土(10YR3/1)
P20	XX-25	24.3	21.9	20.2	円形	M8より新	褐灰色土(10YR4/1)	P82	XVI-23	35.1	27.9	35.2	不整形		黒褐色土(10YR3/1)
P21	XX-25	31.2	29.9	37.1	円形	M8より新	褐灰色土(10YR4/1)	P83	XVI-22	57.3	48.7	64.5	不整形		黒褐色土(10YR3/1)
P22	XX-25	30.5	28	30.5	円形	M8より新	褐灰色土(10YR4/1)	P84	XVI-22	13.9	12.8	8.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P23	XX-25	24.8	23.8	25.9	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P89	XX II-5	29.3	23.9	11.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P24	XX-25	31.8	29.1	29.0	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P92	XX III-5	50.1	45.9	14.0	-		明褐色土(7.5YR7/1)しまり強く、粘性弱い。黒褐色土を多量に含む。
P25	XX-24	23.9	23.1	16.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P93	XVII-25	45.5	37.2	14.1	-	弥生壺	
P26	XX-19	36.4	28.3	24.3	方形		褐灰色土(10YR4/1)	P94	XX III-2	33.4	23.4	11.5	楕円形	F3より新	灰黄褐色土(10YR5/2)しまり弱く、粘性あり。さらさらした土。最上層の黒色土。
P27	XX-24	25.7	24.8	31.0	円形	M8より新	褐灰色土(10YR4/1)	P95	XX II-4	49.8	43.7	33.8	円形		褐灰色土(10YR4/1)しまり・粘性弱い。
P28	XX-24	35.2	23.5	26.6	楕円形	M8より新	褐灰色土(10YR4/1)	P96	XX II-4	58.5	35.9	31.6	方形	弥生壺	褐灰色土(10YR4/1)
P29	XX-24	26.8	26.1	22.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P97	XX II-3	51.7	43.1	38.8	円形	須恵器壺 F2より古	褐灰色土(10YR4/1)
P30	XX-25	29.5	27.6	18.1	円形		褐灰色土(10YR4/1)砂利・砂を多く含む。	P98	XX II-5	51.7	31.6	21.7	楕円形	弥生壺	褐灰色土(10YR4/1)
P31	XX-25	32.4	30	21.6	円形		褐灰色土(10YR4/1)砂利・砂を多く含む。	P99	XVII-19	(36.0)	(31.0)	11.8	-		セクション図中に土層説明あり。
P32	XX II-16	49.5	44.8	13.6	円形		褐灰色土(10YR4/1)砂利・砂を多く含む。	P100	XX II-9	24.8	19.9	36.0	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)
P33	XX II-16	31.5	27.1	66.6	円形		褐灰色土(10YR4/1)砂利・砂を多く含む。	P101	XVII-18	23.4	18	34.0	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)
P34	XX II-16	30.8	30.2	72.6	円形	弥生壺	褐灰色土(10YR4/1)砂利・砂を多く含む。	P103	XVII-13	19.7	17.5	9.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P35	XX II-16	33.7	28.7	9.8	円形		褐灰色土(10YR4/1)砂利・砂を多く含む。	P104	XVII-12	26.1	21.7	10.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P36	XX II-16	30.8	30.5	40.0	円形		褐灰色土(10YR4/1)砂利・砂を多く含む。	P105	XVII-13	44.8	26.7	50.7	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)斜め。
P37	XX I-20	35.8	32.5	76.3	円形		褐灰色土(10YR4/1)砂利・砂を多く含む。	P106	XVII-12	19.9	17.6	7.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり弱い。
P38	XV-19	65.0	49.9	12.0	楕円形	H1より新	暗褐色土(10YR3/4) 砂・黒色土ブロックを含む。	P107	XVII-12	19.3	17.7	16.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P39	XV-18	56.0	53.1	40.3	円形	H1・D11より新	暗褐色土(10YR3/3) 砂・軽石・黄褐色ロームを含む。	P108	XVII-8	22.4	17.5	8.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P40	XX-24	30.6	27.4	20.8	円形	M9より新	褐灰色土(10YR4/1)砂。	P109	XVII-13	28.5	22.0	8.2	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)
P41	XX-22	31.3	29.8	13.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)砂。	P110	XVII-13	17.4	12.9	8.2	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P42	XX-6	49.4	41.1	20.7	円形		褐色土(10YR4/4)	P111	XVII-8	25.3	21.0	29.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強く、粘性やや弱い。ロームを多量に含む。
P43	XX-6	32.2	25.5	35.2	円形		褐色土(10YR4/4)	P114	XVII-5	35.7	33.1	11.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強く、粘性やや弱い。ロームを多量に含む。
P44	XX-6	34.5	28.6	21.0	円形		褐色土(10YR4/4)	P115	XII-13	(35.0)	(34.2)	24.1	円形	M34より新	褐灰色土(10YR4/1)炭化物を含む。
P45	XX-11	30.0	25.6	12.9	円形	弥生壺 壺 M8より新	灰黄褐色土(10YR4/2)	P116	XII-13	48.0	(45.9)	23.8	円形	弥生壺 M34より新	黒褐色土(10YR3/1)
P46	XX-11	27.4	25.7	25.3	円形	M9より新	灰黄褐色土(10YR4/2)	P117	XII-12	66.4	(19.6)	9.8	楕円形	須恵器壺	黒褐色土(10YR3/1)
P47	XX-11	26.5	24.8	19.0	円形	M9より新	灰黄褐色土(10YR4/2)	P118	XII-13	(39.7)	(19.6)	14.3	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)
P48	XX-11	39.2	24.3	15.2	楕円形	M9より新	灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物を含む。	P119	XII-13	27.4	25.5	13.8	円形		褐灰色土(10YR4/1)
P49	XX-11	83.9	57.3	33.9	方形	弥生壺 壺 M8より新	灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物を含む。	P120	XII-17	25.3	23.5	14.3	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P50	XIX-10	32.4	27.8	20.9	円形	M8より新	灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物を含む。	P121	XII-21	(36.7)	(23.5)	(25.5)	楕円形	M18より古	
P51	XIX-10	29.3	27.4	17.8	円形	M8より新	灰黄褐色土(10YR4/2)	P122	XII-18	21.6	19.5	13.1	不整形		褐灰色土(10YR4/1)
P52	XIX-15	26.0	25.6	12.7	円形	M9より新	灰黄褐色土(10YR4/2)	P123	XII-18	33.5	29.1	21.4	円形		褐灰色土(10YR4/1)
P53	XIX-15	29.4	24.4	17.4	円形	M9より新	灰黄褐色土(10YR4/2)	P124	XII-17	34.8	29.2	12.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P54	XIX-10	25.3	23.0	10.3	円形	M9より新	灰黄褐色土(10YR4/2)	P125	XII-22	102.1	54.9	16.0	方形	弥生壺 H11より新	褐灰色土(10YR4/1)ローム粒子を多く含む。
P55	XX-14	35.5	34.5	19.9	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P126	XII-8	37.0	32.5	18.6	円形		H12より新 褐灰色土(10YR4/1)
P56	XX-12	33.9	32.9	21.3	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)砂を多く含む。	P127	XII-13	28.8	24	13.8	円形	須恵器壺 H12より新	褐灰色土(10YR4/1)
P57	XX-6	29.6	23.0	13.2	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)砂を多く含む。	P128	XII-13	24.1	(17.1)	15.6	方形	H12より新	褐灰色土(10YR4/1)
P58	XX-6	24.0	19.9	21.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)砂を多く含む。	P129	XII-18	30.9	23.5	28.3	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)
P59	XX-6	25.2	20.6	6.3	円形	M8より新	灰黄褐色土(10YR4/2)砂を多く含む。	P131	XII-12	23.2	19.4	25.5	方形		黒褐色土(10YR3/1)
P60	XX-6	38.9	32.6	13.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P132	XII-8	21.3	18.8	16.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)
P61	XX-13・18	30.2	27.0	11.9	円形		にぶい黄褐色土(10YR4/3)炭化物を含む。								
P62	XX-13	22.3	21.2	8.9	円形		にぶい黄褐色土(10YR4/3)								

第50表 ピット計測表(2)

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備	考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備	考
P133	XII-8	20.4	18.3	11.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P207	XVI-3	26.5	17.2	15.3	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P134	XII-8	23.8	17.6	9.1	方形		褐灰色土(10YR4/1)		P208	XVI-3	28.2	17.9	9.4	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P135	XII-7	24.2	15.9	6.5	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)		P210	XVI-16	30.4	26.2	34.0	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P136	XII-7	28.8	25.3	33.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)		P211	XVI-16	27.3	22.6	25.3	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P137	XII-8	18.9	13.9	7.5	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P212	XXII-1	47.4	34.6	38.5	楕円形	縄文(加曽利?)	黒褐色土(10YR3/1)	
P138	XII-2	20.0	17.7	17.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P213	XXII-1	25.3	22.2	12.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)	ルーム粒子多い。
P139	XII-2	25.9	22.0	14.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)		P214	XXII-1	44.9	35.6	9.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)	
P143	XII-21	45.2	41.0	51.7	楕円形	弥生甕 F33より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・ 粘性やや弱い ルームブロックを多量に含む。		P215	XXII-1	48.9	41.7	25.2	円形		黒褐色土(10YR3/1)	ルーム粒子多い。
P144	XII-21	53.9	(48.3)	6.8	円形	F33より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・ 粘性やや弱い。ルームを少量含む。		P216	XVI-8	28.4	23.9	15.2	円形		黒褐色土(10YR3/1)	
P148	XVI-20	22.7	20.1	21.4	円形		褐灰色土(10YR4/1)しまり弱い。		P217	XVI-8 (23.9)	21.5	18.7	不整形		褐灰色土(10YR4/1)		
P149	XVI-20	25.6	21.9	17.0	円形	弥生壺	褐灰色土(10YR4/1)		P218	XVI-3	24.0	20.1	31.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P150	XVI-20	25.7	22.9	24.0	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P219	XVI-3	24.2	22.4	23.3	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P151	XVI-20	30.6	29.3	20.9	円形	弥生壺	褐灰色土(10YR4/1)		P220	XV-15	40.7	37.1	13.8	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P152	XVI-19	30.2	28.5	25.1	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P221	XV-19	37.0	25.9	23.4	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P153	XVII-6	51.9	43.2	20.3	不整形	弥生片	褐灰色土(10YR4/1)		P222	XI-25 XII-21	(27.5)	(14.9)	9.5	-	M30より古	黒褐色土(10YR3/1)しまりやや弱く、 粘性やや弱い。 ルームブロックを少量含む。杭の下。	
P154	XVII-6	29.9	23.1	25.7	方形	弥生甕	褐灰色土(10YR4/1)		P223	XVII-5	38.3	33.1	12.4	円形	弥生壺 高坏 甕	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性 やや弱い。少ルーム ブロック・炭化物を少量含む。	
P159	XVII-7・12	58.1	32.5	30.0	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまり弱く、 粘性あり。		P224	XVIII-1	62.7	53.1	34.4	楕円形	土師器甕 須恵器 甕 坏	緑灰色土(5G5/1)しまり強く、粘性 弱い。粗砂を多量に含む。	
P160	XVII-7	53.6	45.4	51.3	円形		黒色土(10YR2/1)		P225	XVII-5	52.8	40.2	18.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、 粘性やや弱い。 小ルームブロックを少量含む。	
P161	XVI-18	35.7	31.7	37.6	円形		黒褐色土(10YR3/1) 褐灰色土ブロックを含む。		P226	XVII-5	27.7	19.5	7.1	不整形	土師器甕	褐灰色土(10YR4/1)しまりやや強 く、粘性弱い。ルームを少量含む。	
P162	XVI-12	(31.4)	(29.7)	(28.1)	方形		黒褐色土(10YR3/1)		P227	XVII-5	23.6	18.3	6.9	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、 粘性やや弱い。 小ルームブロックを少量含む。	
P163	XVI-17	21.4	18.1	11.3	円形		褐色土(10YR4/4)ルームブロック を含む。		P228	XVI-21	26.1	24.9	31.2	円形	弥生甕	褐灰色土(10YR4/1)	
P164	XVI-5	(26.9)	(25.3)	(37.54)	円形	弥生甕 M25より古	灰黄褐色土(10YR5/2)しまり・ 粘性あり。		P229	XVI-21	29.8	26.2	19.1	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P165	XVI-5	(20.2)	(18.8)	(10.4)	円形		灰黄褐色土(10YR5/2)		P230	XXII-1	41.1	38.6	11.4	円形		黒色土(10YR2/1)炭化物を含む。	
P166	XVII-1	(24.1)	(18.3)	(10.4)	円形		黒褐色土(10YR3/1)		P231	XVII-5	17.0	16.5	24.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性 やや弱い。 小ルームブロックを少量含む。	
P167	XVII-1	(28.9)	(25.4)	(29.7)	円形	弥生壺	黒褐色土(10YR3/1)		P232	XI-23	(11.2)	(7.2)	45.6	不整形	29より古 P248より新	セクション図中に土層説明あり。	
P168	XVII-1	26.1	25.3	22.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)		P233	XI-23	41.8	35.4	31.0	円形		セクション図中に土層説明あり。	
P169	XVII-2	20.3	16.5	15.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)		P234	XI-23	68.7	35.4	34.2	不整形	P248より新	黒褐色土(10YR3/1)しまり強く、粘性 やや弱い。ルームを多量に含む。	
P170	XVII-2	23.2	20.3	11.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)		P235	XI-23	96.1	51.9	26.4	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、 粘性やや強い。 ルームブロックを多量に含む。	
P171	XVII-7	(37.8)	(29.7)	(14.7)	不整形		黒褐色土(10YR3/1)		P236	XI-22・23	117.4	(81.5)	42.0	不整形	須恵器甕 M29より古	セクション図中に土層説明あり。	
P172	XII-21	43.6	29.8	51.7	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・ 粘性やや弱い。 小ルームブロックを少量含む。		P240	XI-24	23.5	22.8	11.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・ 粘性やや弱い。 小ルームブロックを少量含む。	
P173	XII-21	(23.9)	(15.7)	10.4	楕円形	M17より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり強く、 粘性やや弱い。 小ルームブロックを少量含む。		P242	XI-23	32.6	24.0	12.5	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性 やや弱い。ルームを多量に含む。	
P174	XVIII-2	30.2	23.3	10.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)しまり・ 粘性弱い。軽石を少量含む。		P243	XI-23	56.9	49.8	18.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性 やや弱い。ルームを多量に含む。	
P175	XVIII-2	46.8	39.1	29.4	円形	弥生壺 H19より新	黒褐色土(10YR3/1)しまり・ 粘性やや弱い。 小ルームブロック・軽石を少量含む。		P244	XVII-4	23.0	19.5	13.5	不整形		明褐灰色土(10YR7/2)しまり やや弱く、粘性弱い。 黒褐色土を少量含む。	
P176	XVIII-2	47.9	44.3	24.6	円形	D34より新	セクション図中に土層説明あり。		P248	XI-23	33.9	(26.3)	11.9	楕円形	P232・ P233 より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり やや弱く、粘性やや強い。 小ルームブロックを少量含む。	
P177	XII-2	22.5	22.1	16.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P249	XVI-19	50.2	47.1	25.9	円形	弥生壺	黒色土(10YR2/1)粘質強い。石あり。	
P178	XII-2	21.2	20.2	8.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P250	XVI-24	80.0	46.2	28.1	不整形		黒色土(10YR2/1)	
P179	XII-22	38.8	38.0	24.8	円形		セクション図中に土層説明あり。		P251	XVI-13	(26.9)	(22.1)	(9.3)	不整形		黒褐色土(10YR3/1)	
P180	XII-21	34.3	(31.2)	43.0	円形	M12より古	セクション図中に土層説明あり。		P252	XVI-10	(22.1)	(20.2)	(7.4)	方形		褐灰色土(10YR4/1)	
P181	XII-21	(20.1)	(19.2)	35.7	円形	M18より古	灰黄褐色土(10YR4/2)しまり やや強く、粘性やや弱い。 ルームブロックを多量に含む。		P253	XII-17	(29.0)	(22.9)	(13.7)	円形	H10・H18 より古	黒褐色土(10YR3/2)	
P182	XII-21	(32.7)	(19.7)	8.6	-	須恵器甕 M18より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり強く、粘 性やや弱い。ルームを多量に含む。		P254	XII-17	(34.2)	(20.0)	(14.4)	楕円形	H10・H18・ M34より古	黒褐色土(10YR3/2)	
P183	XII-21	37.7	33.9	27.0	円形		セクション図中に土層説明あり。		P255	XII-17	58.3	31.4	27.9	楕円形	須恵器坏 蓋	黒褐色土(10YR3/2)	
P185	XI-25	(31.2)	30.3	41.4	不整形	F33・M33 より古	灰黄褐色土(10YR5/2)しまり・ 粘性やや弱い。 ルームを多量に、軽石を少量含む。		P256	XVII-4	35.4	28.9	11.0	方形		灰黄褐色土(10YR6/2)しまりやや 強く、粘性弱い。ルームを少量含む。	
P187	XI-25	36.8	(28.7)	46.1	楕円形	弥生壺 H17より新 F33より古	セクション図中に土層説明あり。		P257	XVII-4	46.5	44.5	15.2	方形		灰黄褐色土(10YR6/2)しまりやや 強く、粘性弱い。ルームを少量含む。	
P198	XII-21	33.4	29.6	(27.9)	円形		にぶい褐色土(10YR5/3)しまり やや強く、粘性やや弱い。 黒色土ブロックを少量含む。		P258	XVII-3	20.6	19.4	7.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、 粘性やや弱い。 小ルームブロックを少量含む。	
P199	XI-25	(39.0)	(28.6)	3.8	不整形	弥生台付 甕 F33 より古い	黒褐色土(10YR3/1)しまり・ 粘性やや弱い。 少ルームブロックを少量含む。										
P200	XVI-12	62.2	55.8	28.2	円形	F33より古	黒褐色土(10YR3/1)										
P201	XVI-12	51.5	51.2	29.4	円形		黄褐色土(10YR5/6)										
P202	XVI-8	27.3	23.8	29.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)										
P203	XVI-8	24.9	20.6	12.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)										
P204	XVI-7	16.8	16.8	6.8	不整形		褐灰色土(10YR4/1)										
P205	XVI-2	21.6	16.3	12.9	円形		褐灰色土(10YR4/1)										
P206	XVI-2	15.2	13	8.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)										

第51表 ピット計測表(3)

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備 考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備 考
P259	XVII-3	24.6	21.5	7.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。	P324	V-12	21.1	16.1	5.0	楕円形		褐色土(10YR4/1)
								P325	V-12	15.9	14.9	9.7	方形		褐色土(10YR4/1)
								P326	V-12	22.7	17.7	13.3	方形		褐色土(10YR4/1)
P260	XVII-3	20.7	17.1	24.6	楕円形		黒褐色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。	P327	V-12	24.8	16.9	9.0	円形		褐色土(10YR4/1)
								P328	V-12	23.8	20.4	9.5	円形		褐色土(10YR4/1)
								P329	V-16	37.3	31.5	23.0	円形		褐色土(10YR4/1)
P261	XVII-11	23.2	20.0	24.3	方形		黒褐色土(10YR3/3)	P330	V-17	27.3	16.2	29.5	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P262	XVII-11	31.0	24.3	6.0	円形		黒褐色土(10YR3/3)	P331	V-17	36.1	31.6	25.6	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P263	XVII-11・12	33.4	26.6	12.7	円形		暗褐色土(10YR3/3)ロームブロックを含む。	P332	V-17	21.5	19.2	23.3	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
								P333	V-17	31.4	28.1	14.3	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P267	XVII-1	(118.9)	(33.4)	(48.3)	不整形	弥生壺 甕	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。	P334	V-11	(32.4)	(26.8)	(16.6)	不整形		褐色土(10YR4/1)
P268	XVI-5	20.7	18.8	7.2	円形		褐色土(10YR4/1)しまり・粘性弱い。	P335	V-18	35.5	32.3	24.7	円形		褐色土(10YR4/1)
P269	XVII-7	48.1	36.9	13.3	楕円形	弥生壺	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームブロック少量含む。	P336	V-18	21.1	17.7	11.3	円形		褐色土(10YR4/1)
								P337	V-18	25.4	22	26.9	円形		褐色土(10YR4/1)
P270	XVII-8	25.1	17.8	9.1	楕円形		褐色土(10YR4/1)	P338	V-17	(26.5)	24.2	36.2	円形		褐色土(10YR4/1)
P271	XI-22	31.8	25.1	40.1	楕円形		1.黒褐色土(10YR3/1) 2.にぶい黄褐色土(10YR7/4)	P339	V-17	33.2	29.8	19.9	円形		褐色土(10YR4/1)
								P340	V-17	27.7	21.0	13.1	円形		褐色土(10YR4/1)
P272	X-25	25.2	17.1	7.1	円形		褐色土(10YR4/1)	P341	V-17	27.3	23.4	10.6	円形		褐色土(10YR4/1)
P273	XV-5	39.3	31	26.0	楕円形		カクラン	P342	V-17	30.9	23.6	29.4	楕円形		褐色土(10YR4/1)
P274	XV-5	30.2	25.2	19.1	方形	釘	カクラン	P343	V-17	39.5	36.9	27.8	円形	土師器甕	褐色土(10YR4/1)
P275	XV-5	33.5	25.7	22.4	方形		カクラン	P344	V-22	36.2	34.6	18.8	円形		褐色土(10YR4/1)
P276	XV-10	38.3	31.6	22.4	方形		カクラン	P345	V-17	18.5	16.4	27.7	円形		褐色土(10YR4/1)
P281	XVI-8	72.4	45.2	35.6	不整形		黒褐色土(10YR3/1)	P346	V-17	44.6	38.7	26.7	円形		褐色土(10YR4/1)
P282	XVIII-17	37.1	33.8	11.5	方形		S56調査	P347	V-16	16.4	15.1	6.2	円形		褐色土(10YR4/1)
P283	XVIII-17・22	41.1	(35.1)	20.4	円形	P854より古	S56調査	P348	V-17	44.7	36.9	22.1	楕円形		褐色土(10YR4/1)
P284	XVIII-17	26.3	(21.6)	11.1	円形	P854より古	S56調査	P349	V-17	34.9	32.0	31.5	円形		褐色土(10YR4/1)
P285	XVIII-17	20.2	19.2	8.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。	P350	V-17	32.3	30.0	9.4	円形		褐色土(10YR4/1) 焼土・炭化物を含む。
								P351	V-22	38.1	29.2	32.3	楕円形		褐色土(10YR4/1)
P286	XXIV-2	(29.1)	(26.5)	11.1	円形		S56調査	P352	V-22	39.1	35.2	39.2	方形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P287	XXIV-2	(25.5)	(23.4)	38.9	円形		S56調査	P353	V-21・22	26.7	22.9	32.9	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P288	XXIV-2	(35.5)	26.0	17.3	不整形		S56調査	P354	V-22	38.3	32.2	26.2	方形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P289	XXIV-2	37.4	33.0	17.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームブロック少量含む。	P355	V-16	34.9	28.5	32.1	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P290	XXIV-2	59.8	51.9	20.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P356	V-16	32.5	29.3	16.8	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P291	XXIV-2	25.1	20.9	22.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P357	V-21	20.4	19.6	23.8	方形		にぶい黄褐色土(10YR5/4) 炭化物を含む。
P292	XXIV-2	25.3	19.2	17.3	方形		黒褐色土(10YR3/1)								
P293	XVIII-22	14.5	13.2	3.9	円形		S56調査	P358	V-21	22.5	20.4	24.6	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P294	XVI-1	22.6	15.5	7.0	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P359	V-21	27.4	26.6	29.7	円形	P506より新	にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P295	XVII-17	32.7	27.2	15.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、粘性やや弱い。	P360	V-21	28.8	25.7	24.5	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4) 白色化している。
								P361	V-21	28.7	28.1	20.2	方形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P296	XV-15	35.0	34.3	16.7	不整形		黒褐色土(10YR3/1)	P362	V-16・21	41.9	40.0	23.2	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P297	XVII-22	28.8	21.7	37.1	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強く、粘性やや弱い。ロームを少量含む。	P363	V-16	32.8	30.0	11.1	円形	弥生壺	にぶい黄褐色土(10YR5/4)
								P364	V-16	27.1	24.3	13.9	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P298	XVII-22	54.8	51.9	12.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。	P365	V-21	40.3	33.9	14.2	方形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
								P366	V-21	30.0	26.4	26.8	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
								P367	V-21	31.6	29.5	29.5	方形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P299	XXIV-2	23.8	18.5	16.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P368	V-21	47.7	39.9	34.9	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P300	XVII-22	48.8	34.0	15.5	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強く、粘性やや弱い。軽石を少量含む。	P369	V-21	37.3	29.3	27.0	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
								P370	IV-25	24.6	18.2	26.8	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P301	XVI-5	26.2	23.2	16.0	円形	弥生壺	黒褐色土(10YR3/1)しまりあり。ローム粒子あり。	P371	IV-25	24.7	23.5	19.2	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P302	XVI-5	36.0	31.1	27.8	円形	弥生壺	黒褐色土(10YR3/1)	P372	IV-20	31.7	29.2	24.0	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P303	XVI-5	29.9	29.4	26.5	円形	弥生壺	黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を多く含む。	P373	IV-25	34.9	31.8	25.7	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
								P374	V-11	(32.7)	(30.5)	(23.3)	方形		褐色土(10YR4/1)
P304	XVI-5	29.3	20.2	57.9	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P375	IV-25	30.7	25.6	32.6	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P305	XVI-5	(37.2)	(22.6)	(11.8)	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P376	IV-25	(32.1)	(31.3)	18.6	円形	M49より新	にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P306	IV-13	19.1	13.1	5.0	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)砂を含む。	P377	IV-25	59.9	43.9	22.7	楕円形	弥生壺	にぶい黄褐色土(10YR5/4)
								P378	IV-25	38.8	33.1	23.4	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P307	IV-13	29.8	22.4	12.0	円形	弥生壺	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P379	IV-24	69.0	28.9	18.2	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P308	IV-13	32.4	30.6	33.1	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P380	IV-24	306.0	30.4	22.6	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P309	IV-13	31.7	30.4	18.6	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P381	V-21	110.1	54.9	23.3	不整形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P310	IV-14	30.0	23.7	17.2	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P382	V-21	32.5	30.3	27.5	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P311	IV-18	38.8	35.9	8.5	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)黒色ロームを含む。	P383	V-21	91.5	34.5	28.4	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
								P384	V-17	38.6	(28.8)	30.2	方形	D60より古	灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い。黒褐色土を少量含む。
P312	IV-19	25.3	24.8	15.4	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P385	X-3	(27.7)	(21.4)	(17.7)	楕円形	M53より古	黒褐色土(10YR3/1)
P313	IV-19	20.6	18.9	21.9	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P386	X-3	(24.0)	(22.1)	(9.8)	方形	M53より古	黒褐色土(10YR3/1)
P314	IV-19	29.4	23.4	13.1	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)砂を含む。	P387	IV-24	25.6	23.9	22.4	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)
P315	IV-19	45.4	37.4	22.6	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P388	IV-23	31.3	27.3	10.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P316	IV-19	31.0	19.8	12.5	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P389	V-16	27.2	19.6	28.0	不整形		黒褐色土(10YR3/1)
P317	IV-19	38.7	34.3	12.1	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)黒色ブロックを含む。	P390	X-5	28.1	24	24.3	円形	D118より新	褐色土(10YR4/1)しまり・粘性弱い。
								P391	X-5 IV-25	27.4	25.5	23.4	円形		褐色土(10YR4/1)
P318	IV-20	22.6	21.2	8.1	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P392	IV-25	34.2	32.7	34.7	円形	D118より新	褐色土(10YR4/1)
P319	IV-20	24.9	20.4	13.0	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)								
P320	V-11	27.7	20.2	13.7	楕円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P393	IV-25	30.7	30.4	24.0	円形	弥生壺	褐色土(10YR4/1)
P321	V-11	24.1	23.6	17.2	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P394	V-21	33.1	30.4	31.6	円形		褐色土(10YR4/1)
P322	V-11	18.1	16.6	3.6	円形		にぶい黄褐色土(10YR5/4)	P395	V-21	49.6	29.1	19.3	楕円形	P406より新	褐色土(10YR4/1)
								P396	IV-25	36.2	31.3	27.8	円形		灰釉皿 褐色土(10YR4/1)
P323	V-11	47.8	46.9	26.3	円形		褐色土(10YR4/1)しまり弱く、粘性あり。	P397	V-21	41.2	33.6	16.6	円形		褐色土(10YR4/1)

第52表 ヒット計測表(4)

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備	考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備	考
P398	V-21	31.6	22.9	23.2	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)										
P399	V-22	54.8	46.4	24.3	不整形	土師器甕 D78より新	褐灰色土(10YR4/1)		P453	X I-3	22.4	19.4	33.8	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。	
P400	V-22	76.3	54.8	38.1	不整形	P720より新	黄褐色土(10YR5/6) しまり弱く、砂質化している。		P454	X I-3	23.9	23.8	30.6	円形	D107より新	灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。	
P401	V-22	77.4	54.3	28.2	不整形		黄褐色土(10YR5/6)										
P402	X I-1	(18.2)	(16.3)	11.5	円形		褐灰色土(10YR4/1)										
P403	X I-1	23.7	21.0	24.8	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P455	X I-3	38.1	25.5	30.6	方形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。	
P404	V-21	34.6	26.9	22.8	円形	M66より新	褐灰色土(10YR4/1)										
P405	V-21	41.8	31.5	40.1	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)		P456	X I-3	36.0	34.1	32.3	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・ 粘性やや弱い。φ20cm円礫を含む。	
P406	V-21	(67.4)	34.5	22.0	楕円形	M66・P395 より古	褐灰色土(10YR4/1)										
P407	IV-24	(26.4)	(24.2)	(48.9)	円形		黒褐色土(10YR3/1)		P457	X I-3	55.0	43	59.6	楕円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 小ロームブロックを多量に含む。	
P408	V-21	(28.0)	(24.9)	(10.6)	円形	M65より古	黒褐色土(10YR3/1)										
P409	V-22	(23.4)	(20.0)	(10.3)	円形		黒褐色土(10YR3/1)										
P410	V-22	(35.4)	(30.1)	(39.8)	円形		暗褐色土(10YR3/3)しまり・粘性弱い。		P458	X I-4	30.3	28.4	41.9	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。	
P411	V-23	(23.2)	(21.0)	(9.1)	円形		黒褐色土(10YR3/1)										
P412	V-23	(29.1)	(22.1)	(34.2)	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)										
P413	V-22	(17.0)	(13.6)	(12.0)	円形		黒褐色土(10YR3/1)		P459	X I-4	24.5	16.9	27.1	楕円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。	
P414	IV-25	30.5	24.8	33.2	円形	M66より新	褐灰色土(10YR4/1)M52と同じ覆土。										
P415	X-5	27.1	25.4	24.3	方形	D118より新	褐灰色土(10YR4/1)M52と同じ覆土。										
P416	IV-25	28.0	23	12.5	円形		褐灰色土(10YR4/1)		P460	X I-4	30.1	26.1	44.4	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。	
P417	V-21	29.6	28.2	12.5	円形		褐灰色土(10YR4/1) 炭化物・焼土粒子を含む。										
P418	V-16	25.9	19.6	12.8	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)		P461	X I-4	27.5	25.3	30.7	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。	
P419	V-21	32.7	32.7	23.4	方形		褐灰色土(10YR4/1)										
P420	V-22	25.4	21.9	17.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)										
P421	X I -13-18	21.7	20.7	4.5	円形	H21より新	黒色土(10YR2/1)ローム少量含む。		P462	X I-4	34.2	27.4	27.5	円形	弥生壺 D104より新	灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。	
P422	X I-18	(51.4)	(50.6)	18.5	円形	H21より新	灰黄褐色土(10YR4/2)										
P423	X I-18	55.6	45.2	10.6	円形	H21より新	灰黄褐色土(10YR4/2) 小ロームブロック少量含む。		P463	X I-3	(24.8)	(23.7)	(18.6)	方形		黒褐色土(10Y3/1) しまりやや強い。粘性弱い。	
P425	X I-19	24.5	22.8	13.1	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・ 粘性やや弱い。ロームを少量含む。		P464	V-22	(31.8)	(26.2)	(15.9)	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。	
P426	X I-19	28.3	26.3	28.9	円形	須恵器坏 H22より新	灰黄褐色土(10YR4/2)		P465	X I-4	27.3	24.2	11.4	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	
P427	X I-19	23.1	22.2	31.1	円形	H22より新	灰黄褐色土(10YR4/2)		P466	X I-4	24.3	21.9	33.7	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	
P429	X I-18	49.2	39.9	53.4	楕円形	H21より新	セクション図中に土層説明あり。		P467	X I-4	30.4	27.3	37.7	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	
P430	X-5	(22.9)	(18.2)	(6.9)	円形		にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子を含む。		P468	X I-4	21.6	20.2	14.6	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	
P431	X-5	(27.8)	(23.7)	(17.3)	円形		にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子を含む。		P469	X I-4	23.2	(19.9)	34.3	円形	D68より古	灰黄褐色土(10YR4/2)	
P435	X-5	33.7	28.8	24.5	円形		にぶい黄褐色土(10YR4/3)		P470	X I-4	27.2	24.1	30.4	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	
P436	X-5	30.6	27.6	26.3	円形		にぶい黄褐色土(10YR4/3)		P471	IV-25	27.2	20.5	29.3	不整形		褐灰色土(10YR4/1)炭化物を含む。	
P437	X-5	29.7	24.2	23.2	円形	須恵器甕	にぶい黄褐色土(10YR4/3)		P472	X I-13	(45.9)	45.5	27.7	円形	H23より新	褐灰色土(10YR4/1)炭化物を含む。	
P438	X-5 X I-1	34.1	33.0	15.7	円形	F17より新	にぶい黄褐色土(10YR4/3)		P473	V-22	(72.9)	(58.6)	33.9	不整形	F15より古	にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり弱い。	
P439	X I-1	45.5	37.8	44.4	円形	D122より新	にぶい黄褐色土(10YR4/3)		P474	X I-3	25.9	(17.7)	18.8	-	P450より古	灰黄褐色土(10YR4/2)	
P440	V-22	49.5	45.2	17.4	円形	D78より新	灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く、粘性やや弱い。		P475	X I-3	38.7	(26.3)	36.7	円形	P452より古	灰黄褐色土(10YR4/2)	
P441	V-22	51.3	49.3	54.0	円形	土師器甕	灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・ 粘性やや弱い。ロームを少量含む。		P476	X I-3	42.4	34.9	34.1	円形	弥生壺	灰黄褐色土(10YR4/2)	
P442	V-22	38.4	35.2	22.6	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。		P477	X I-3	29.6	24.4	30.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	
P443	V-22	75.7	54.6	49.7	楕円形	D121より新	灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。		P478	X I-3	25.5	22.5	27.6	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	
P444	V-23	25.6	21.6	25.4	円形	弥生甕	灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。		P479	X I-1	20.5	18.4	27.7	方形	F17より新	褐灰色土(10YR4/1)	
P445	V-24	33.6	29.7	27.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。		P480	X I-1	24.6	23	26.0	方形	P520より新	褐灰色土(10YR4/1)	
P446	X-5 X I-1	27.5	25.3	30.8	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) 黒色土ブロックを含む。		P481	X I-1	31.3	29.3	25.4	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
P447	X-5	45.0	34.1	29.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物を含む。		P482	X I-1	27.4	24.7	23.3	円形	M65より新	褐灰色土(10YR4/1)炭化物を含む。	
P448	X-5	35.6	31.2	45.6	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)		P483	X I-1	24.0	20.4	21.2	円形	M65より新	褐灰色土(10YR4/1)	
P449	X-5	37.5	32.1	23.3	方形	弥生甕	灰黄褐色土(10YR4/2)		P484	X I-1	28.0	24.2	13.2	円形	M65より新	褐灰色土(10YR4/1)	
P450	X I-3	50.3	38.3	36.7	楕円形	P474より新	灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。		P485	X I-1	28.1	26.2	19.5	方形		褐灰色土(10YR4/1)	
P451	X I-3	22.1	20	41.8	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。		P486	X I-1	28.0	21.7	26.2	方形		褐灰色土(10YR4/1)	
P452	X I-3	28.2	24.5	37.9	円形	P475より新	灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを少量含む。		P487	X I-1	31.6	29.3	31.3	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P488	X I-2	35.7	30.5	23.6	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P489	X I-2	33.9	26.9	15.6	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P490	X-5	38.7	30.5	30.6	円形	M49より新	褐灰色土(10YR4/1)	
									P491	V-21	31.8	26.8	17.1	円形		褐灰色土(10YR4/1)炭化物を含む。	
									P492	V-21	35.9	32.6	30.2	円形	弥生甕	褐灰色土(10YR4/1)	
									P493	V-21	16.4	15.3	13.7	方形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P494	V-21	66.1	38.4	35.0	方形	弥生甕	褐灰色土(10YR4/1)	
									P495	V-21	25.7	25.1	33.6	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P496	X II-12	44.8	41.4	27.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを多量に含む。	
									P497	X II-12	36.9	31.3	37.1	円形	弥生甕	灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 黒褐色土ブロックを多量に含む。	
									P498	V-22	38.5	36.9	42.4	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P499	V-21	26.1	22.5	24.0	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P500	V-23	22.8	19.3	30.6	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P501	V-23	28.2	25.2	32.5	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P502	V-23	23.3	17.8	25.8	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P503	V-24	24.9	21.8	38.9	円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P504	V-22	32.6	26.4	14.1	楕円形		褐灰色土(10YR4/1)	
									P505	V-16	21.6	21.1	24.9	円形		褐灰色土(10YR4/1)	

第53表 ピット計測表(5)

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備考
P506	V-21	38.1	29.7	26.3	楕円形	P359より古	褐灰色土(10YR4/1)	P555	XII-6	23.8	21.8	7.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)軽石を少量含む
P507	V-21	21.7	19.7	26.4	方形		褐灰色土(10YR4/1)	P556	XII-6	23.3	20.0	4.2	円形		黒褐色土(10YR3/1)軽石を少量含む
P508	V-21	23.8	21.0	22.8	不整形		褐灰色土(10YR4/1)	P557	XII-6	25.9	21.1	11.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P509	IV-25	26.4	25.5	12.9	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P558	XII-6	25.5	20.2	8.3	円形		黒褐色土(10YR3/1)ロームを少量含む
P510	IV-25	23.9	13.6	11.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P559	XII-11	25.3	23.9	12.4	円形		黒色土(10YR2/1)ローム砂を少量含む
P511	IV-25	21.1	17.8	13.1	不整形		褐灰色土(10YR4/1)	P560	XII-12	26.8	25.6	10.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)ロームを少量含む
P512	V-17	33.1	(13.7)	17.9	-	P60より古	褐灰色土(10YR4/1)	P561	XII-12	21.2	(18.9)	21.8	-	F16より古	黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P513	XI-1	30.7	26.0	30.5	不整形	D122より新	褐灰色土(10YR4/1)炭化物を含む	P562	XII-12	19.4	17.2	22.4	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) ロームブロックを少量含む
P514	IV-25	(32.3)	(30.3)	(18.6)	方形	M66より新	褐灰色土(10YR4/1)	P563	XII-11	26.6	24.7	10.3	円形	H30より新	黒色土(10YR2/1)ロームを少量含む
P515	IV-25	(30.3)	(27.6)	21.6	円形	M66より新	褐灰色土(10YR4/1)	P564	XII-11	29.0	28.4	8.9	円形		褐灰色土(10YR4/1) ロームブロックを少量含む
P516	IV-25	(30.6)	(29.5)	(7.9)	円形	M66より新	褐灰色土(10YR4/1)	P565	XII-6	20.6	19.0	4.6	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P517	XI-1	21.0	20.5	17.5	円形	M49より新	褐灰色土(10YR4/1)炭化物	P566	XII-6	33.4	25.4	18.1	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P518	XI-1	24.5	21.7	13.3	円形	M49より新	褐灰色土(10YR4/1)炭化物	P567	XII-11	28.7	25.5	22.2	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P519	XI-10	(37.1)	(36.9)	(20.0)	円形	中世土師器 M18より新	黒褐色土(10YR3/1) しまり弱く、粘性やや弱い。 灰黄褐色土を多量に含む	P568	XII-6	33.4	25.4	18.1	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P520	XI-1	(20.4)	19.6	24.3	円形	P480より古	褐灰色土(10YR4/1)	P569	XII-11	26.7	25.7	9.2	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P521	X-5	(16.1)	(12.6)	(14.0)	楕円形	M49より古	褐灰色土(10YR4/1)	P570	XII-11	46.8	45.9	44.3	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P522	X-3-8	34.0	15.9	32.3	不整形	弥生?	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり	P571	XII-16	27.9	23.1	16.0	円形		褐灰色土(10YR4/1)ロームを少量含む
P523	X-3	36.9	29.8	16.2	円形	弥生?	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり	P572	XII-16	23.6	22.5	25.9	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P524	X-4	36.7	31.4	19.2	円形	中世弥生 壺	褐灰色土(10YR4/1)	P573	XII-16	41.2	(31.4)	36.3	不整形	弥生壺 M57より古	灰黄褐色土(10YR4/2) ロームを多量含む
P525	X-19	27.6	21.2	11.3	円形	弥生壺	黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子を多く含む	P574	XII-16	59.4	52.5	24.7	円形		黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックを少量含む
P526	X-14	33.2	28.0	25.2	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P575	XII-11	26.2	21.9	43.9	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P527	X-15	(22.5)	(20.0)	12.4	円形	F20より新	褐灰色土(10YR4/1)	P576	XII-12	15.6	(15.6)	14.6	円形	F16より古	黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P528	X-15	(48.3)	(38.5)	(13.7)	円形		黒褐色土(10YR3/1) しまりあり。炭化物を含む	P577	XII-6	73.6	69.1	26.2	円形		セクション図中に土層説明あり
P529	XI-6	(26.9)	(25.2)	(9.6)	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P578	XII-6	82.4	71.3	55.3	円形		黒褐色土(10YR3/1) 黒色土ブロックを少量含む
P530	XI-11	(23.5)	(23.5)	17.1	-	F20より古	黒褐色土(10YR3/1)	P579	X-17	29.7	27.3	9.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P531	XI-21	43.5	42.8	21.3	円形		褐灰色土(10YR4/1)しまり・粘性弱い	P580	X-16	24.0	22.8	12.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P532	X-20	39.8	(37.8)	33.3	不整形	弥生壺	黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性あり	P581	X-16	(53.3)	35.9	9.7	方形	M71より古	灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性弱い
P533	X-25	55.8	45.9	46.1	楕円形	土師器 壺 弥生壺	黒褐色土(10YR3/2)	P582	X-21	(33.4)	(32.6)	56.9	円形	M71より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり
P534	XI-21	24.4	23.3	9.9	方形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性弱い。ローム粒子を含む	P583	X-16	25.2	18.3	10.6	円形		黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子を多く含む
P535	XI-21	26.0	22.7	26.6	方形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性弱い。ローム粒子を含む	P584	X-16	22.7	17.2	7.6	不整形		黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子を多く含む
P537	XI-8	15.4	14.3	8.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い	P585	X-16	25.1	20.5	13.1	円形		黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子を多く含む
P538	XI-4	24.8	21.7	5.2	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い	P586	X-16	58.0	41.2	25.1	楕円形		黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子を多く含む
P539	XI-4	20.4	18.4	9.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い	P587	XII-7	24.9	23.7	10.8	円形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P540	XI-4	32.4	21	25.1	方形		黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む	P588	XI-16	84.9	74.8	44.6	円形	M81より新	セクション図中に土層説明あり
P541	XI-4	20.9	20.2	15.9	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い	P589	XI-16	78.3	67.6	53.4	円形	M81より新	セクション図中に土層説明あり
P542	XI-4	25.5	20.3	52.2	方形	灰軸皿	灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い	P590	XII-7	(22.3)	(18.9)	5.5	円形	F25より古	黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む
P543	XI-9	37.9	35.6	15.3	円形	土師器 瓶	灰黄褐色土(10YR4/2) 小ロームブロックを少量含む	P591	XII-16	38.2	(21.6)	8.2	-	H24より古	褐灰色土(10YR4/1) ロームを少量含む
P544	XI-9	39.7	37.5	18.2	円形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性やや弱い	P592	XI-10	(47.9)	(45.8)	(19.6)	-	M67より古	灰黄褐色土(10YR4/2) φ10cm大円礫を含む
P545	XI-10	33.1	31.6	18.8	円形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性やや弱い	P593	XI-10	(47.5)	(42.1)	(33.1)	円形	M18より古	灰黄褐色土(10YR4/2) 小ロームブロックを少量含む
P546	XI-9-10	31.6	23.5	23.3	円形		黒褐色土(10YR3/2) 小ロームブロックを少量含む	P594	XI-10	(45.5)	(37.2)	(18.8)	円形	M18より古	灰黄褐色土(10YR4/2) 小ロームブロックを少量含む
P547	XI-9	33.5	(21.3)	63.5	-	F22より古	灰黄褐色砂質土(10YR6/2)しまりやや強く、粘性弱い。黒褐色土ブロックを少量含む	P595	XI-13	27.0	21.5	12.3	円形		黒褐色土(10YR3/1) ロームを多量に含む
P548	XI-10	56.3	37.4	12.7	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強い。粘性やや弱い。灰黄褐色砂質土ブロックを多量に含む	P598	XI-14	45.1	41.8	32.9	円形		セクション図中に土層説明あり
P549	XI-10	60.1	55.3	25.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強い。粘性やや弱い。灰黄褐色砂質土ブロックを多量に含む	P599	XI-19	36.8	30.2	12.3	円形	P600より新	褐灰色土(10YR4/1) 小ロームブロックを少量含む
P550	XI-10	32.7	29.2	7.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強い。粘性やや弱い。灰黄褐色砂質土ブロックを多量に含む	P600	XI-19	40.3	34.7	32.9	円形	P599より古	褐灰色土(10YR4/1) ロームを少量含む
P551	XI-10	57.5	49.9	15.1	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強い。粘性やや弱い。灰黄褐色砂質土ブロックを多量に含む	P601	XI-19	50.8	33.6	18.9	楕円形		褐灰色土(10YR4/1) 小ロームブロックを少量含む
P552	X-18	22.0	16.2	6.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を多く含む	P602	XI-19	(25.5)	(22.3)	(24.0)	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) 小ロームブロックを少量含む
P553	X-18	20.1	19.0	17.0	方形	弥生壺	黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を多く含む	P603	XI-19	52.3	43.3	12.0	楕円形	P604より古	黒褐色土(10YR3/2) ロームを少量含む
P554	X-23	19.4	15.3	7.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を多く含む								

第54表 ピット計測表(6)

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備 考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備 考
P604	X I-19	38.8	(33.4)	16.6	不整形	P603より新	黒褐色土(10YR3/2) 小ロームブロックを少量含む。	P655	VI-21	34.3	29.4	12.6	円形	D111より新	灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性弱い。黒褐色土ブロックを少量含む。
P605	X-16	54.8	51.9	38.5	円形		黒褐色土(10YR3/1) しまり弱く、粘性あり。	P656	VI-21	52.1	(28.4)	9.9	円形		黒褐色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。ロームを少量含む。
P606	IX-20	62.5	58.6	57.4	円形		黒褐色土(10YR3/1) しまり弱く、粘性あり。	P657	VI-16	(44.8)	44.4	45.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性やや弱い。 ロームブロックを少量含む。
P607	IX-20	26.0	21.8	10.3	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性あり。	P658	VI-16	(33.5)	(31.3)	27.2	円形	M81より古	黒褐色土(10YR3/1)しまりやや弱く、粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。
P608	IX-20	24.2	21.3	12.1	円形		灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性あり。	P659	X I-18	(68.5)	(39.1)	22.7	不整形	弥生甕 壺 H21 より古	黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックを含む。
P609	IX-20	74.5	41.6	12.6	不整形		黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子を含む。	P660	X II-1	(29.3)	(26.1)	46.6	円形	M39より古	黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロックを少量含む。
P610	IX-19	35.8	30.9	8.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P661	X II-1	66.3	37.4	18.8	楕円形		黒褐色土(10YR3/1) ロームを少量含む。
P611	IX-19	54.8	45.8	13.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P662	X II-1	(50.4)	27.5	57.9		根(?)	黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。ロームブロックを少量含む。 下端が離れているので注意。
P612	IX-20	27.9	27.5	24.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P663	VI-21	58.1	30.3	11.8	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
P613	IX-20	58.7	56.6	21.5	円形	P628より新	黒褐色土(10YR3/1)	P664	VI-22	36.5	33.2	20.2	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
P614	IX-20	23.2	21.0	38.3	円形		黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性あり。	P665	VI-21	(21.5)	(19.2)	(16.8)	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
P615	IX-25	66.5	59.7	17.7	円形	弥生甕	灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い。	P666	VI-21	55.3	33.6	18.9	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
P616	X II-1	26.7	21.6	29.3	円形	D89より新	黒色土(10YR2/1) しまり弱く、粘性やや強い。	P667	X II-1	(37.4)	36.5	14.6	円形	D88より古	黒色土(10YR2/1) しまり・粘性やや弱い。しみか?
P617	X-19	(45.9)	(36.6)	60.1	不整形	M30より古	黒褐色土(10YR3/1)粘性非常にあり。	P668	X II-1	35.8	34.2	19.3	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
P618	X-17	50.6	27.8	16.0	不整形		黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子を多く含む。	P669	X II-1	56.4	(43.2)	16.6	-	M67より古	黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
P619	X-17	27.1	21.3	18.8	方形		黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子を多く含む。	P670	V-19	20.8	15.6	22.4	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性粘性あり。黒色土下から検出。
P620	X-24	27.1	24.5	17.8	円形		黒褐色土(10YR3/1) しまりあり。赤色粒子を含む。	P671	V-18	35.6	24.9	20.4	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性粘性あり。黒色土下から検出。
P621	X II-11	19.1	(15.9)	27.3	楕円形	F24より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームブロックを少量含む。	P672	V-19	33.4	32.9	14.6	方形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性粘性あり。黒色土下から検出。
P622	X II-11	22.0	(16.2)	12.8	-	F24より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームブロックを少量含む。	P673	V-19	28.2	24.1	24.1	方形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性粘性あり。黒色土下から検出。
P623	X II-11	27.5	19.7	18.2	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームブロックを少量含む。	P674	V-14	31.8	27.9	17.2	方形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性粘性あり。黒色土下から検出。
P624	X-19	28.5	17.7	22.8	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。	P675	V-23	25.3	22.5	16.6	方形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性粘性あり。黒色土下から検出。
P625	X-19	19.3	12.5	16.2	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。	P676	V-20	27.4	25.7	14.0	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性弱い。 ローム粒子を多く含む。
P626	X-19	18.2	16.5	16.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。	P677	X-23	(87.8)	(87.1)	(44.3)	不整形	M27より古	1.灰黄褐色土(10YR4/2)砂を多量に含む。2.褐灰色砂(10YR5/1)粗砂。
P627	IX-20	39.6	39.1	17.8	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。 ロームブロックを多く含む。	P678	X I-16	(42.6)	37.2	22.7	不整形		黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子を多く含む。
P628	IX-20	44.7	(16.9)	16.3	-	F31・P613より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。 ロームブロックを多く含む。	P679	X-25	38.4	35.9	31.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性粘性あり。シルトを多く含む。
P629	IX-20	47.5	38.0	30.2	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。 ロームブロックを多く含む。	P680	X I-13	(29.3)	(18.4)	28.7	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性弱いに ぶい黄褐色土(10YR4/3)しまり・粘性弱い。黒色土ブロックを多く含む。
P630	X-17	(31.7)	(26.1)	23.1	円形	D96より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。	P681	X I-22・23	89.1	(18.1)	23.4	不整形	M30より古	黒褐色土(10YR2/1)しまり・粘性あり。
P631	X-24	28.5	27.4	38.9	方形		黒褐色土(10YR3/1)	P682	X I-16	(30.2)	(24.8)	(17.8)	方形	弥生甕 壺 須恵器 坏 M30より古	褐灰色土(10YR6/1) しまり・粘性弱い。砂層。
P632	X-24	24.2	21.0	15.7	円形		黒褐色土(10YR3/1) 粘性が非常にある。	P684	X-19	23.7	19.4	8.9	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性ややあり。ロームブロックを多く含む。
P633	X I-4	57.6	50.7	17.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、粘性やや弱い。黒色土・ロームブロックを少量含む。	P685	V-23	41.4	29.2	10.2	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性弱い。
P634	X I-18	27.4	23.1	21.4	円形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。	P686	V-23	(37.3)	31.4	41.2	方形		黒色土(10YR2/1) ロームブロックを多く含む。
P635	X I-18	20.7	15.8	10.4	不整形		黒褐色土(10YR3/2)	P687	X II-16	(47.3)	(42.4)	29.8	円形	M55より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。
P636	X I-17	27.2	25.1	10.8	円形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。	P688	X I-23	68.6	(36.1)	30.2	楕円形	M30より古	1.褐色土(10YR4/1)しまりやや強く、しまりやや強く、粘性弱い。 小ロームブロックを少量含む 2.灰黄褐色土(10YR6/2)しまりやや強く、粘性弱い。ロームを少量含む。
P637	X I-18	19.0	17.8	8.1	円形		黒褐色土(10YR3/2)	P689	X I-23	23.8	17.2	19.6	楕円形		1.黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性やや弱い。 2.灰黄褐色土(10YR4/2)しまりやや強く、粘性弱い。
P638	X I-17	20.7	20.0	13.2	方形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性あり。	P690	X II-11	20.3	19.0	14.1	円形	H30より新	黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロック・炭化物を少量含む。
P639	X I-17	35.8	27.3	12.6	不整形	P640より新	黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。								
P640	X I-17	26.8	(18.6)	6.1	円形?	P639より古	黒褐色土(10YR3/2)								
P641	X I-17	21.8	20.1	14.8	円形		黒色土(10YR2/1)								
P642	X I-17	19.5	16.6	19.7	円形		黒色土(10YR2/1)								
P643	X I-17	29.0	27.3	8.2	円形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。								
P644	X I-17	30.4	29.0	25.9	円形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。								
P645	X I-16	42.1	26.9	34.2	不整形		黒褐色土(10YR3/2)								
P646	X I-16	26.7	24.0	13.5	円形		黒褐色土(10YR3/2)								
P647	X I-16	29.3	27.2	14.1	円形		黒褐色土(10YR3/2)								
P648	V-24	50.0	45.7	11.0	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。								
P649	X I-16	33.7	30.2	20.5	円形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。								
P650	X I-16	43.8	36.4	15.1	円形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。								
P651	VI-16	(47.6)	(44.7)	53.4	円形	M75より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームを少量含む。								
P652	VI-22	80.7	(14.6)	16.0	方形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。								
P653	VI-22	82.0	(33.6)	8.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。								
P654	VI-21	23.1	20.1	19.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性弱い。黒褐色土ブロックを少量含む。								

第55表 ピット計測表(7)

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備 考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備 考
P691	X II-11	32.9	24.5	12.7	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。	P759	X-4	33.3	28.9	24.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。
P692	X II-7	19.4	(7.6)	23.6	-		黒色土(10YR2/1)しまりやや弱く、粘性やや強い。	P760	X-4	22.4	15.5	6.0	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。
P693	X I-2	(29.2)	(26.7)	(41.8)	不整形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性ややあり。砂を含む。	P761	X-3	26.3	16.9	7.7	楕円形	M53より古	黒褐色土(10YR3/1)しまりやや弱く、粘性やや強い。ロームを少量含む。
P694	X II-16	19.0	17.1	9.2	方形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い。	P762	IV-23 X-3	25.6	21.5	20.1	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまりやや弱く、粘性やや強い。ロームを少量含む。
P695	X II-12	28.5	20.2	13.2	楕円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い。	P763	X-3・4	72.5	118.9	14.0	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。
P697	IX-20	11.1	(9.7)	8.9	-		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性弱い。	P764	IV-23	28.7	28.2	24.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームを少量含む。
P698	IV-13	35.6	28.6	45.8	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)砂を含む。	P765	IV-23	24.2	22.3	15.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームを少量含む。
P699	V-16	32.6	29.1	37.2	円形		黒色土(10YR2/1)粘性あり。	P766	X-4	(23.0)	(22.7)	(34.8)	円形		褐色土(10YR4/1)しまり弱く、粘性やや強い。ロームを少量含む。
P700	V-16	20.9	19.0	11.5	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P767	IV-13	23.5	22.4	30.1	円形		黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性強い。
P701	V-11	25.8	21.9	19.5	不整形		黒色土(10YR2/1)粘性あり。	P768	IV-13	23.4	19.1	15.3	円形		黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性強い。
P702	V-16	37.7	30.6	42.6	不整形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性弱い。	P769	IV-13	25.9	15.3	44.4	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性強い。
P703	V-11	27.2	24.2	13.2	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性弱い。	P770	IV-13	26.6	20.0	13.4	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性強い。
P704	V-16	21.1	19.2	12.3	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性弱い。	P771	IV-12	20.4	12.9	27.0	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性強い。
P705	V-17	63.1	22.1	15.1	楕円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性弱い。	P772	IV-13・18	58.5	22.4	30.1	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、やや弱い。炭化物粒を少量含む。
P706	V-17	31.4	23.6	42.7	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)粘性あり。	P773	IV-18	20.5	17.2	30.9	方形		黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性強い。
P708	V-17	51.5	25.4	16.1	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P774	X-14	16.7	13.5	9.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を含む。
P709	V-12	33.0	31.9	40.9	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P775	X-14	15.1	12.3	8.8	方形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を含む。
P710	V-12	21.2	19.2	12.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。	P776	X-14	23.8	17.2	7.3	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を含む。
P711	V-21	24.7	22.2	16.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P777	X-9	21.3	19.3	13.3	円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を含む。
P712	V-16	34.6	28.6	11.3	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性弱い。	P778	X-14	22.1	20.8	9.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を含む。
P713	V-22	(22.7)	20.6	8.4	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P779	X-14	28.0	19.7	11.5	楕円形		灰黄褐色土(10YR5/2)しまり・粘性あり。
P714	V-22	23.9	20.2	32.9	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P780	X-19	17.5	15.3	18.3	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。ローム粒子を多く含む。
P715	V-17	19.9	15.8	12.7	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)	P781	X-24	15.5	14.8	14.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P716	X I-2	35.2	32.5	12.4	円形		暗褐色土(10YR3/3)しまり・粘性弱い。ローム粒子を多く含む。	P782	X-24	24.4	22.4	7.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P717	V-22	30.9	28.0	9.2	円形		暗褐色土(10YR3/3)しまり・粘性弱い。	P783	X-20	32.5	23.8	58.3	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を多く含む。
P719	X I-1	23.8	21.4	17.1	円形	F17より古	灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。	P784	X-20	21.8	16.6	28.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を多く含む。
P720	V-22	47.3	(40.9)	26.1	不整形	P400より古	黒褐色土(10YR3/1)	P785	X I-11	34.4	31.5	10.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子を多く含む。
P721	V-22	(26.0)	(22.4)	15.4	円形	D121より古	黒褐色土(10YR3/1)ロームブロックを含む。	P786	X I-6	26.5	20.8	12.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P722	IV-25 V-21	23.2	18.5	24.5	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。	P787	X I-16	64.5	42.4	13.4	不整形		黒褐色土(10YR3/1)
P723	IV-25	39.4	26.1	29.3	不整形		黒褐色土(10YR3/1)ロームブロックを多く含む。	P788	X-20	(34.8)	(33.3)	13.4	方形	M30より古	黒褐色土(10YR3/1)
P724	IV-25	27.2	20.7	17.8	不整形		黒褐色土(10YR3/1)	P789	X-15	29.7	15.6	14.2	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)
P725	IV-20・25	25.9	26	16.3	円形	中世 M49より古	灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒子・炭化物を含む。	P790	X-19	29.6	27.7	23.5	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性あり。
P726	IV-25	24.7	24.6	17.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P791	X-19・20	24.6	23.9	14.2	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)
P727	IV-25	66.0	49.9	20.8	-	M49より古	黒褐色土(10YR3/1)	P792	X-20	30.7	27.9	8.0	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)
P728	IV-25	13.1	(5.9)	12.2	-	中世 P377より古	灰黄褐色土(10YR4/2)	P793	X-20	20.8	19.8	7.6	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)
P729	IV-25	85.8	39.1	29.4	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P794	X-25	(56.8)	(44.2)	15.6	楕円形	弥生壺 M49より古	灰黄褐色土(10YR4/2)
P730	IV-25	(54.6)	50.8	6.8	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまりあり、粘性ややあり。ローム粒子を多く含む。	P795	X-15	26.8	23.8	7.8	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)
P731	X-5	33.6	18.6	12.4	楕円形		褐色土(10YR4/1)しまり・粘性やや強い。	P796	X-20	(24.5)	24.4	9.8	円形	Ta1より古	灰黄褐色土(10YR4/2)
P732	IV-20	46.5	43.0	34.6	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、粘性やや強い。	P797	IV-18	107.5	43.0	25.5	楕円形		灰黄褐色土(10YR4/1)しまり弱く、粘性強い。
P733	IV-20	25.8	24.7	12.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P798	V-22	(51.8)	(49.5)	16.9	円形		灰黄褐色土(10YR4/1)黒下。
P734	IV-15	26.1	24.7	16.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P799	X I-16	40.9	36.3	21.6	円形	弥生甕	黒褐色土(10YR3/1)
P735	V-11	89.5	27.1	10.8	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P800	X I-16	41.8	34.4	12.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)ロームブロックを含む。
P736	IV-15	30.9	23.3	40.4	楕円形		褐色土(10YR4/1)	P801	X-17	30.2	29.2	18.1	円形		黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性やや強い。
P737	IV-15	(38.8)	(28.8)	32.4	不整形		褐色土(10YR4/1)しまり弱く、粘性やや弱い。	P802	X-17	39.4	24.9	14.3	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ロームを少量含む。
P738	IV-15	21.6	18.4	10.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、粘性やや強い。	P803	X-17	24.8	19.0	12.7	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。
P739	IV-24	31.3	19.6	51.2	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P804	X-17	25.4	18.7	19.4	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。
P740	IV-24	36.8	31.0	14.8	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P805	X-19	(39.7)	(36.6)	9.1	不整形	M42より古	黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。ロームを少量含む。
P741	IV-24	30.8	27.4	35.0	円形	中世	褐色土(10YR4/1)炭化物を含む。	P806	X-17	21.6	20.6	21.1	円形		黒色土(10YR2/1)しまり・粘性やや弱い。ローム粒子を少量含む。
P754	IV-14	24.7	21.5	10.7	方形		黒色土(10YR2/1)しまりやや弱く、粘性やや強い。	P814	X-10	22.0	14.1	6.9	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
P755	IV-14	28.9	19.9	20.2	楕円形		黒色土(10YR2/1)しまりやや弱く、粘性やや強い。	P815	X-10	16.3	12.9	19.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ロームブロックを少量含む。
P756	IV-19	36.8	30.4	24.3	楕円形		褐色土(10YR4/1)しまり弱く、粘性やや強い。								
P757	X-4	(23.1)	(19.8)	(9.5)	円形		褐色土(10YR4/1)しまり弱く、粘性やや強い。								
P758	X-4	(37.1)	(33.5)	64.2	円形		1.黒色土(10YR2/1)しまり弱く、粘性やや強い。 2.にぶい黄褐色土(10YR6/4)しまりやや強く、粘性弱い。 黒色土を少量含む。								

第56表 ヒット計測表(8)

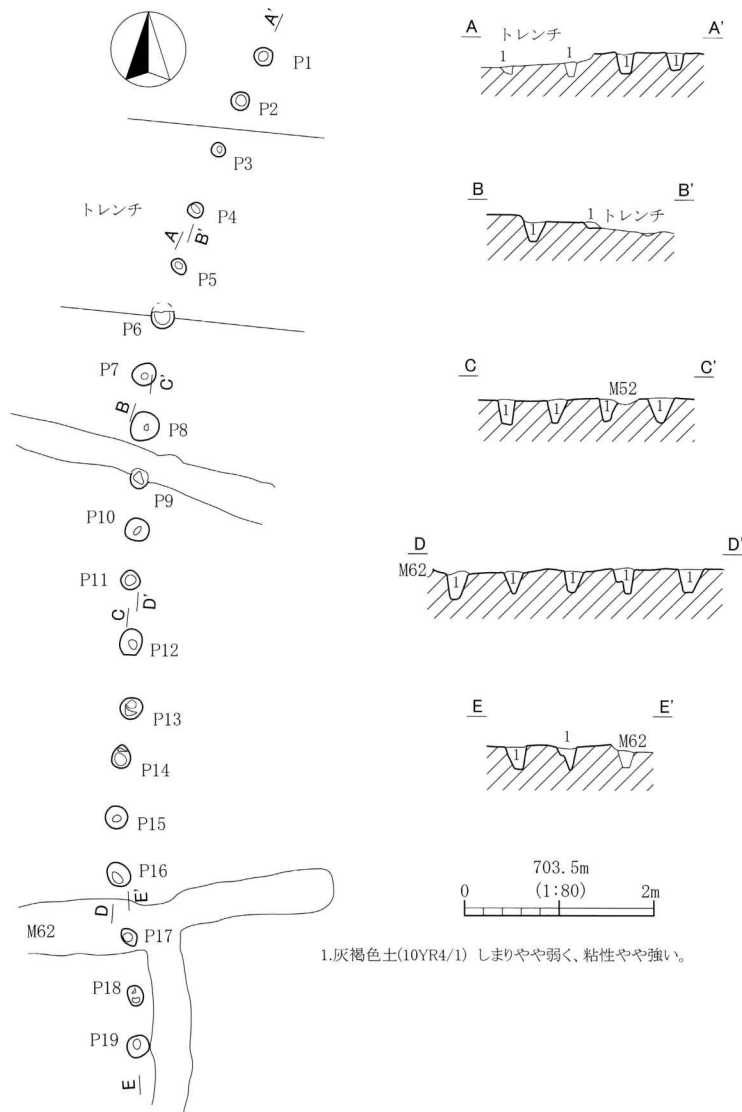
遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備考
P816	X-10	18.8	17.7	7.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ルームブロックを少量含む。	P838	V-15	28.7	25.9	16.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)柱痕あり。
								P839	V-12	27.1	26.1	10.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)赤色粒子を含む。
								P840	V-24	23.5	18.3	17.0	方形		黒褐色土(10YR3/1)ルームブロックを多く含む。
P817	X-10	16.4	14.8	19.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ルームブロックを少量含む。	P841	X II-2	21.1	18.7	9.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性弱い。
								P842	X II-1	26.3	25.6	19.4	円形	M80より古	黒褐色土(10YR3/1)
P818	X-13	27.5	25.5	17.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ルームブロックを少量含む。	P843	IV-21	72.3	47.6	16.8	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)
								P844	VI-21	16.9	12.8	10.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
								P845	VI-21	29.3	19.4	21.1	楕円形	D86より古	黒褐色土(10YR3/1)
P819	X I-4	24.9	20.2	25.7	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い。	P846	X II-1	24.6	20.7	26.1	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)
								P847	X II-1	39.5	26.5	16.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P820	V-20	23.2	18.2	20.5	円形		灰黄褐色土(10YR4/2)しまり・粘性やや弱い。	P848	X I-10	(19.6)	(14.6)	(16.8)	楕円形	M57・M65より古	黒褐色土(10YR3/1)
P821	V-13	27.5	21.6	11.5	楕円形	土師器甕	褐灰色砂(10YR5/1)しまり弱く、粘性なし。M74の窪み?	P849	V-20	29.9	23.7	16.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性ややあり。ルームブロックを含む。
P822	X I-3	29.7	28.4	22.3	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ルームブロックを少量含む。	P850	X-10	54.3	42.3	12.9	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性あり。ルーム粒子を多く含む。F18に似る。
P823	X I-4	23.6	18.6	9.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ルームブロックを少量含む。	P851	X-19	30.0	(23.2)	12.8	円形	M47より新	褐灰色土(10YR4/1)
P824	X I-3	31.8	30.3	20.7	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ルームブロックを少量含む。	P852	X II-7	55.8	(45.6)	14.6	楕円形	F25より古	黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。
P825	X I-5	21.1	17.1	19.3	円形		黒褐色土(10YR4/1)しまり弱く、粘性やや弱い。小ルームブロックを少量含む。	P853	X II-6・7	96.1	80.0	16.3	不整形		黒褐色土(10YR3/2)しまり・粘性弱い。
								P854	XVIII-17	47.0	45.6	4.1	円形	P283・P284より新	S56調査
								P855	XVIII-22	73.3	59.3	25.3	方形		S56調査
P826	V-24	52.2	24.1	19.1	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ルームを多量に含む。	P856	XVIII-17	37.5	26.6	19.4	楕円形		S56調査
P827	V-18	25.4	22.1	17.1	円形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ルームを少量含む。	P857	XVIII-17	35.9	24.4	14.5	楕円形	H3より新	S56調査
P828	X I-3	(32.2)	(19.3)	21.5	不整形	D107より古	黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。小ルームブロックを少量含む。	P858	XXIV-2	42.4	26.4	33.0	楕円形		S56調査
P829	V-20	34.2	16.8	19.0	不整形		黒褐色土(10YR3/1)ルーム粒子を含む。	P859	XXIV-2	55.8	52.3	17.4	方形	須恵器甕 弥生甕 弥生甕	S56調査
								P860	XXIV-2	29.2	18.5	30.8	楕円形		S56調査
P830	V-19	30.2	28.7	18.6	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P861	XXIV-2	41.2	29.5	33.1	楕円形		S56調査
P831	V-14	34.8	34.1	16.2	方形		黒褐色土(10YR3/1)ルームブロックを多く含む。	P862	X I-4	18.4	17.0	14.5	円形	D72より古	
P832	VI-16	(18.1)	(16.3)	13.5	円形	M75より古	褐灰色土(10YR4/1)しまり・粘性弱い。	P863	XVI-24	23.3	21.2	26.2	円形		
P833	X I-6	29.5	21.1	13.0	不整形		褐灰色土(10YR4/1)赤色の粒子を含む。	P864	XV-25	33.0	29.3	29.2	円形		黒褐色土(10YR2/3)ルーム・軽石を含む。
P834	X I-6	(21.5)	(15.2)	13.8	-		褐灰色土(10YR4/1)ルームブロックを含む。	P865	XVIII-16	29.3	25.4	7.4	方形	H3より新	
								P866	XVIII-16	26.2	19.1	11.1	方形	H3より新	
P835	X I-1	20.7	16.9	5.7	円形		褐灰色土(10YR4/1)	P867	XVIII-16	25.5	23.0	10.1	円形	H3より新	
P836	V-19	30.6	27.6	17.5	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P868	X II-13	16.6	(8.0)	13.9	-	H12より新	褐灰色土(10YR4/1)しまり・粘性弱い。
P837	V-14	21.3	14.3	8.4	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P869	X I-8	48.6	43.6	13.1	不整形	弥生鉢	黒褐色土(10YR3/1)しまり弱く、粘性やや弱い。小ルームブロックを少量含む。
								P870	X I-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10YR3/1)しまり・粘性やや弱い。ルームブロックを少量含む。

第57表 単独ヒット出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様				推定値()残存値()丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面		備考	出土位置
P396	灰釉陶器	碗	-	(7.6)	(2.3)	ロクロナデ 施釉		ロクロナデ→回転系切り→高台貼付 施釉	回転実測		
P395	台石	安山岩	15.7	10.5	11.70	2420.00		正面が使用面 欠損状態は不明		No.1	
P508	砥石	凝灰岩	(10.6)	(4.0)	(2.8)	(142.21)		砥面数4 上端部欠損 擦痕あり			
P605	凹石	輝石安山岩	22.8	22.2	高さ11.7	7730.00		凹径 11.8×12.2 凹深 5.7			

(2) 1号杭列状遺構



第129図 1号杭列状遺構実測図

本址は調査区中央のX-5・10Grから検出された。本遺構は標準土層で述べたⅧ・Ⅸ層を除去した後、X層の所謂浅間P1ローム層上面で遺構が確認された。ピットは19か所、南北方向にやや弧を描くように一直線上に検出された。ピットの形態は円形を基調とする。ピット列の規模は検出距離で10.93m、ピット間隔が約0.53～0.68m、径が0.15～0.29m、深さが0.04～0.28mを測る。

ピットからの出土遺物は無く、所産時期については不明である。しかし、類例遺構として長野市松原遺跡の杭列状遺構が挙げられる。松原遺跡の例は縄文中期末葉～後期前葉の集落に付属する遺構と考えられ、本址と同じく径15cmほどの小さな穴が列となって何重にも検出されている。本遺跡からは縄文期の集落は発見されていないが、調査区西側で落とし穴と考えられる土坑が2基発見されている。また、溝状遺構等から出土している縄文土器も加曽利式や堀之内式といった縄文中期後半から後期の土器片が出土している。これらのことから本遺跡の杭列状遺構もこの松原遺跡と同じような性格で、所産時期もこれらの遺物に対応すると推定できる。

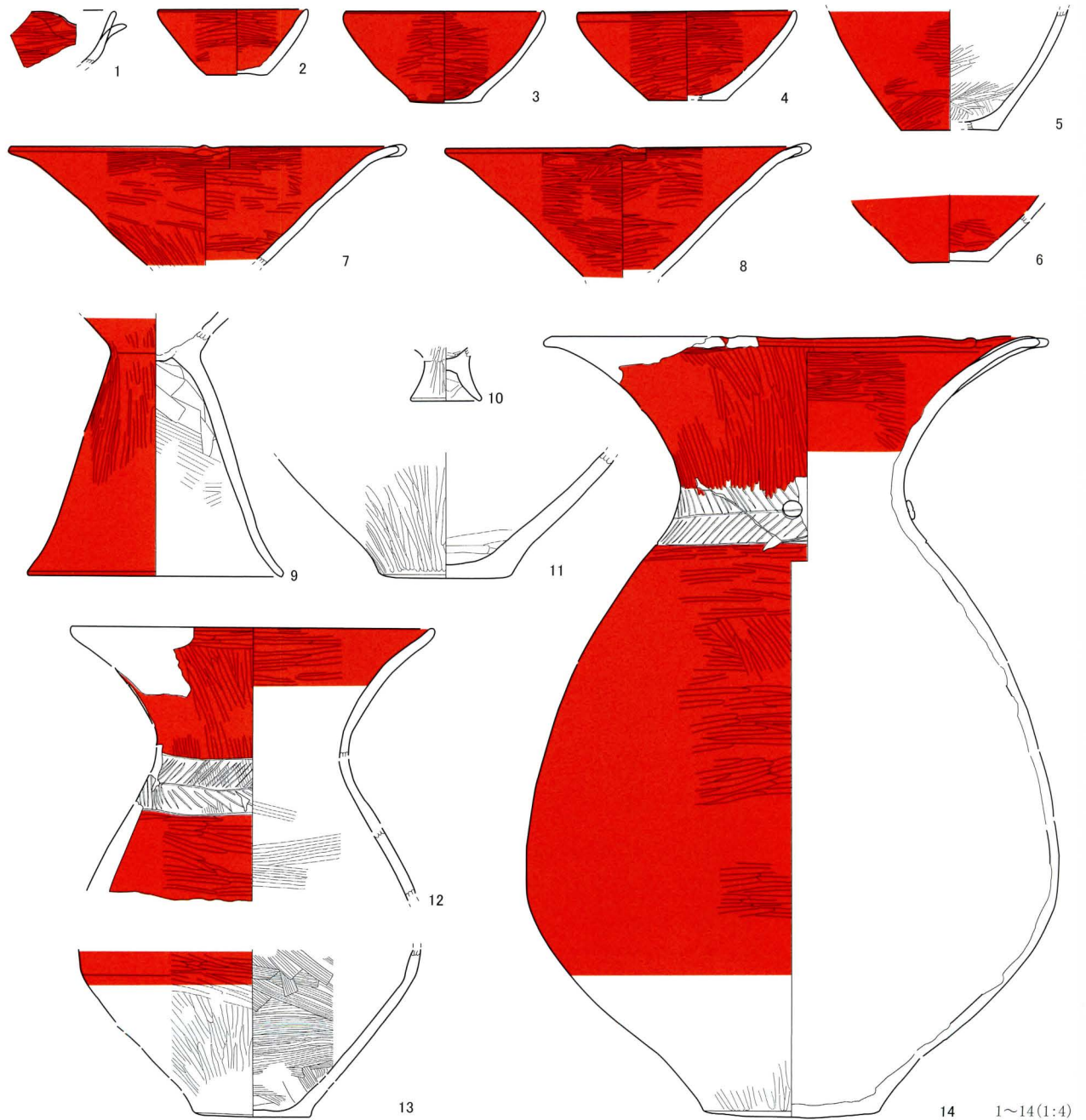
第7節 遺物集中区

本遺跡からは弥生後期の土器が集中して検出される場所が10か所確認された。調査段階ではU1からU11の番号を付したが、整理段階で土器の出土状態よりU1・2・3・8、U4・5、U6、U7・9、U11の5グループのまとまりとして報告する。

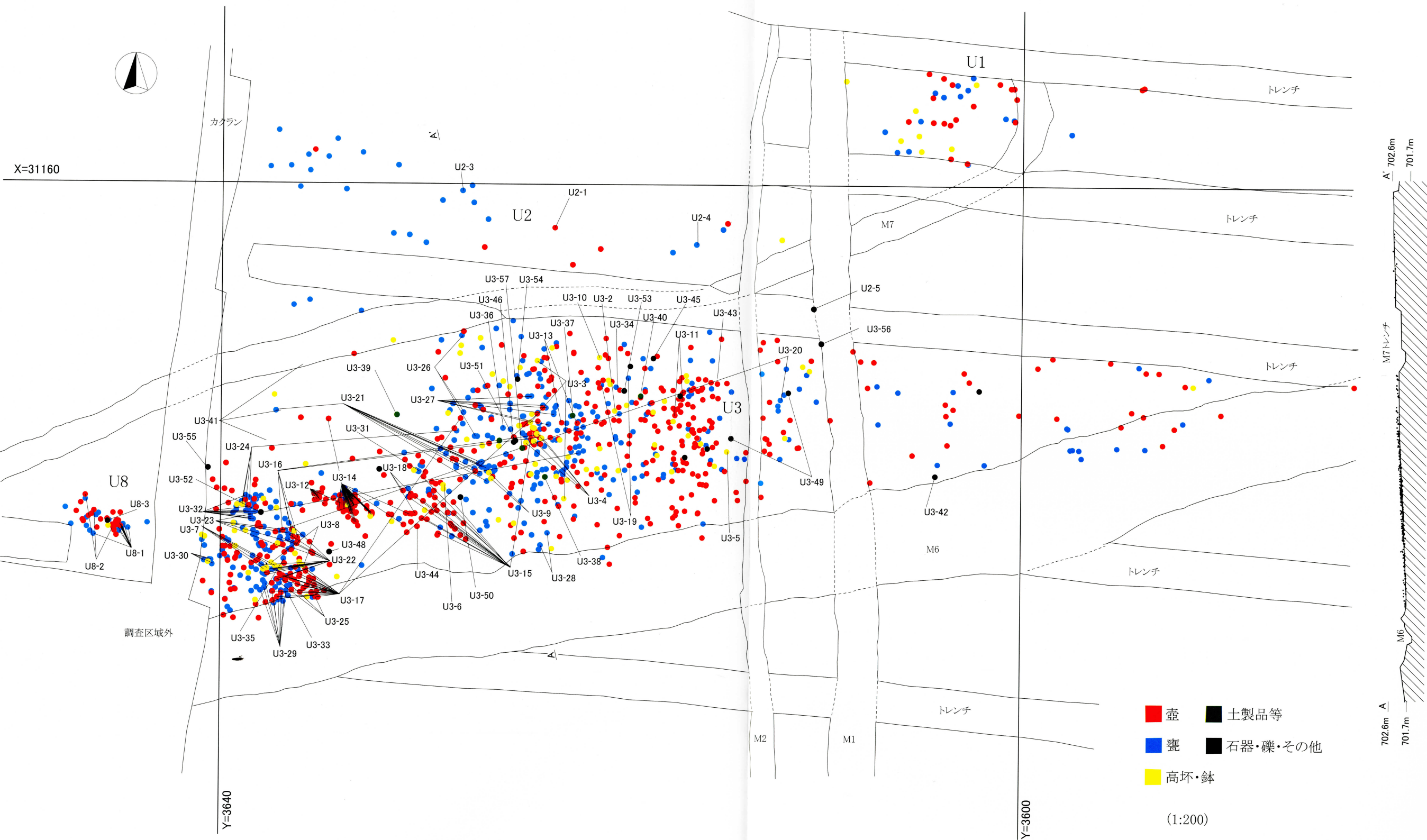
この遺物集中区は弥生後期箱清水期の集落の南側、集落域と低地部の境界線あたりに展開するように検出された。U6を除いてはいずれの遺物集中区も小片の土器がおびただしい数出土し、U11は20×20mの範囲で点数にして4700点以上の遺物が出土した。以下、各遺物集中区の特徴を述べる。

(1) U1・2・3・8遺物集中区

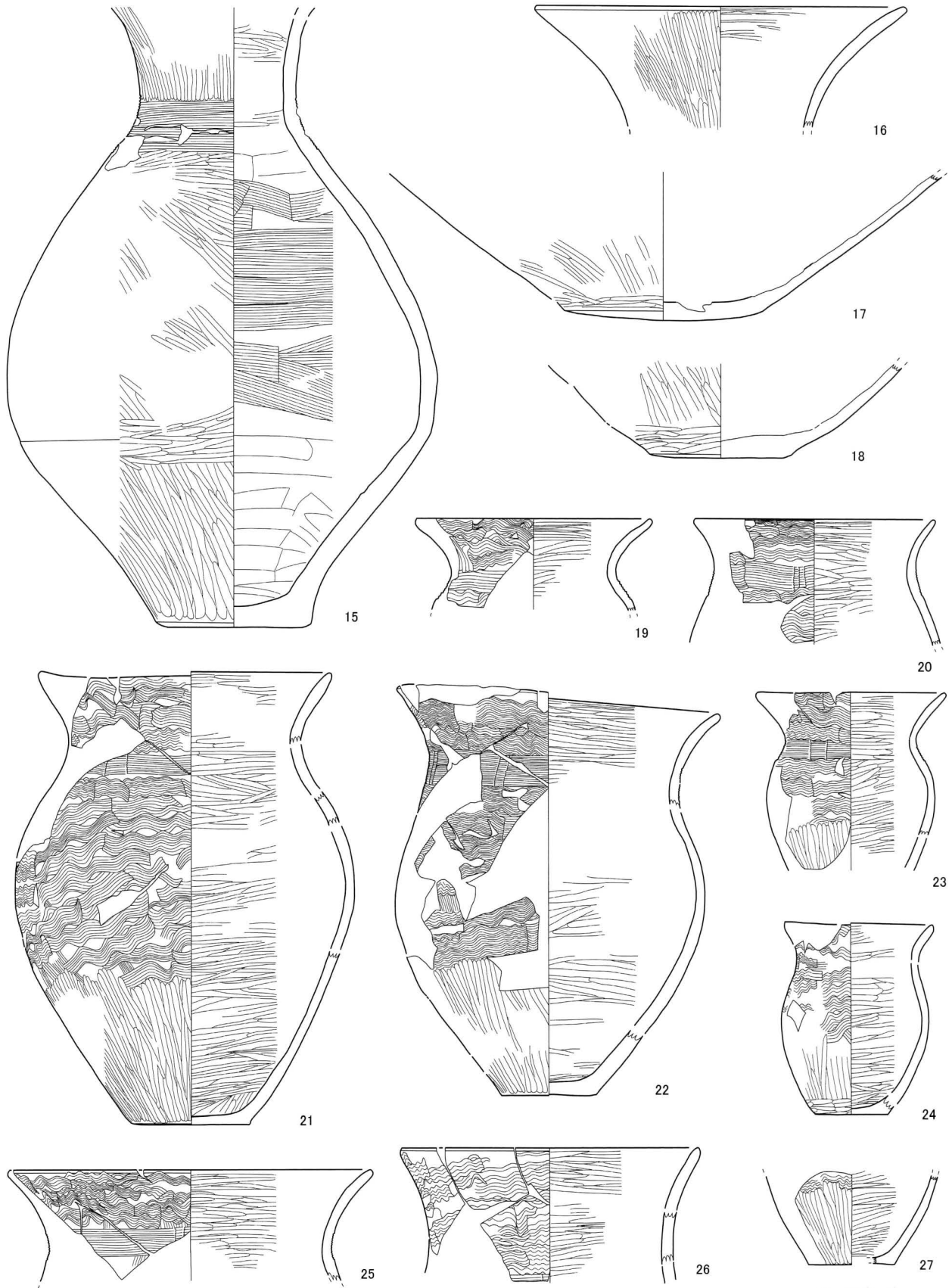
本址は調査区東側のX X・X X I 区を中心に検出された。U3を中心に北と西側に広がるような形でU1.2.8が展開



第130図 U3遺物集中区出土遺物実測図(1)

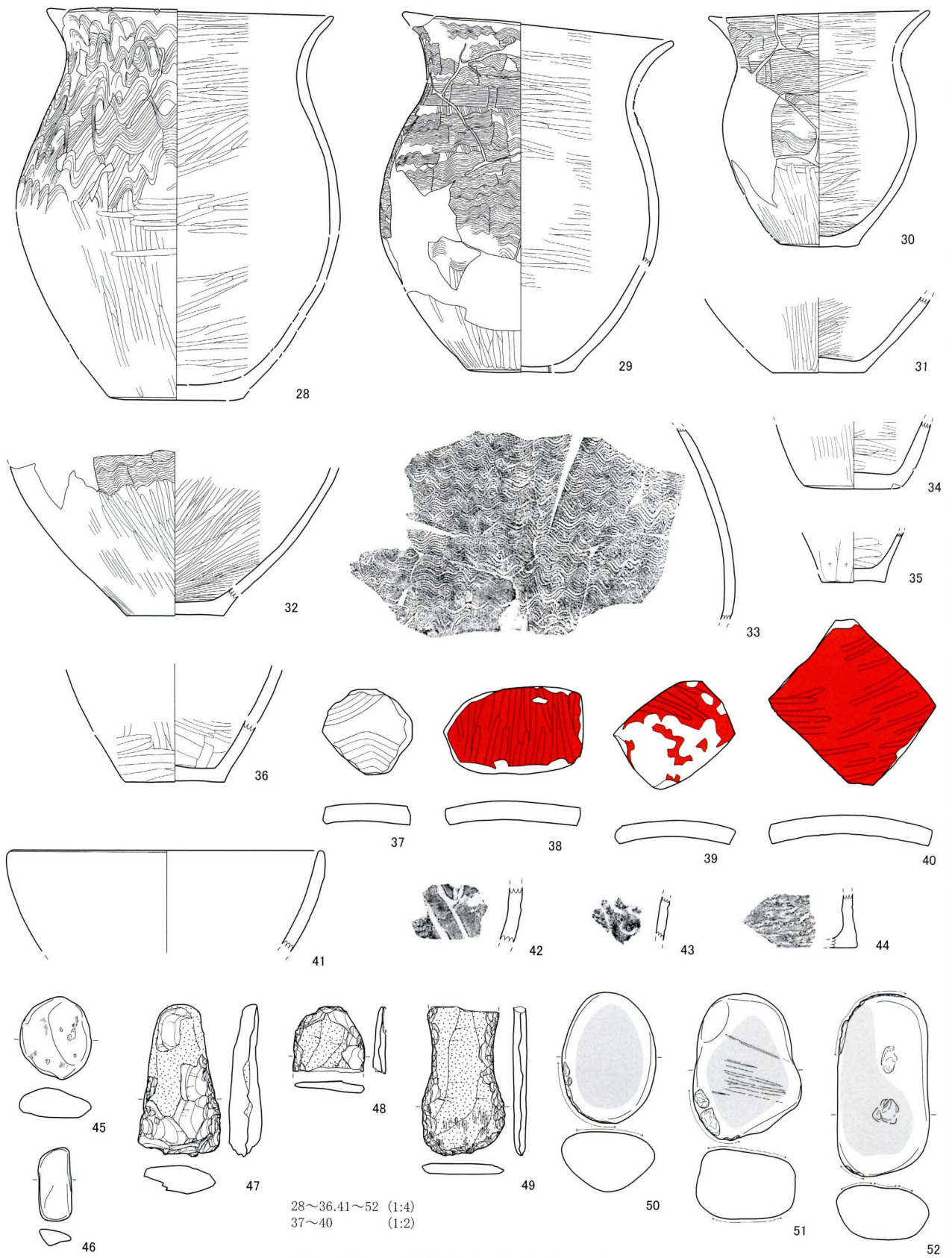


第131図 U1・2・3・8遺物集中区接合関係図及び種別図

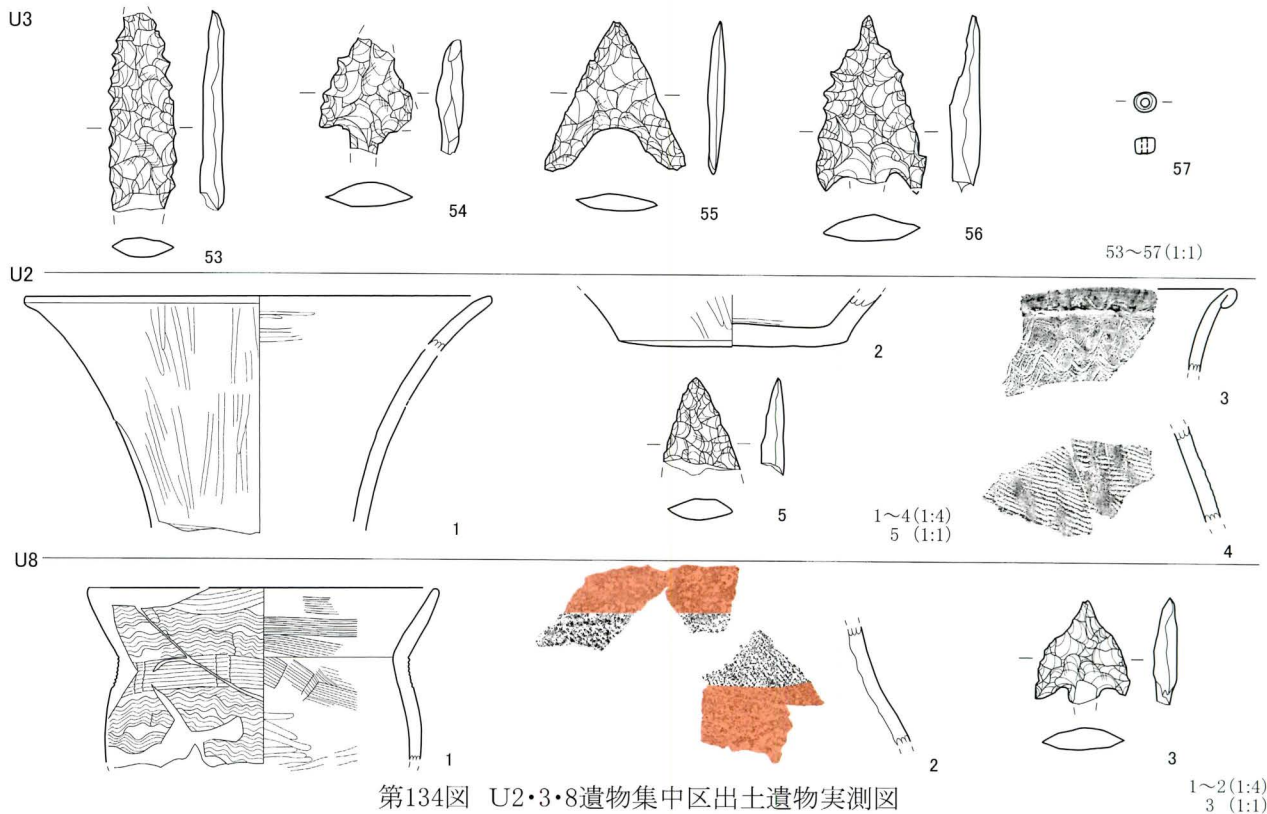


第132图 U3遺物集中区出土遺物実測図(2)

15~27 (1:4)



第133图 U3遺物集中区出土遺物実測図(3)



第134図 U2・3・8遺物集中区出土遺物実測図

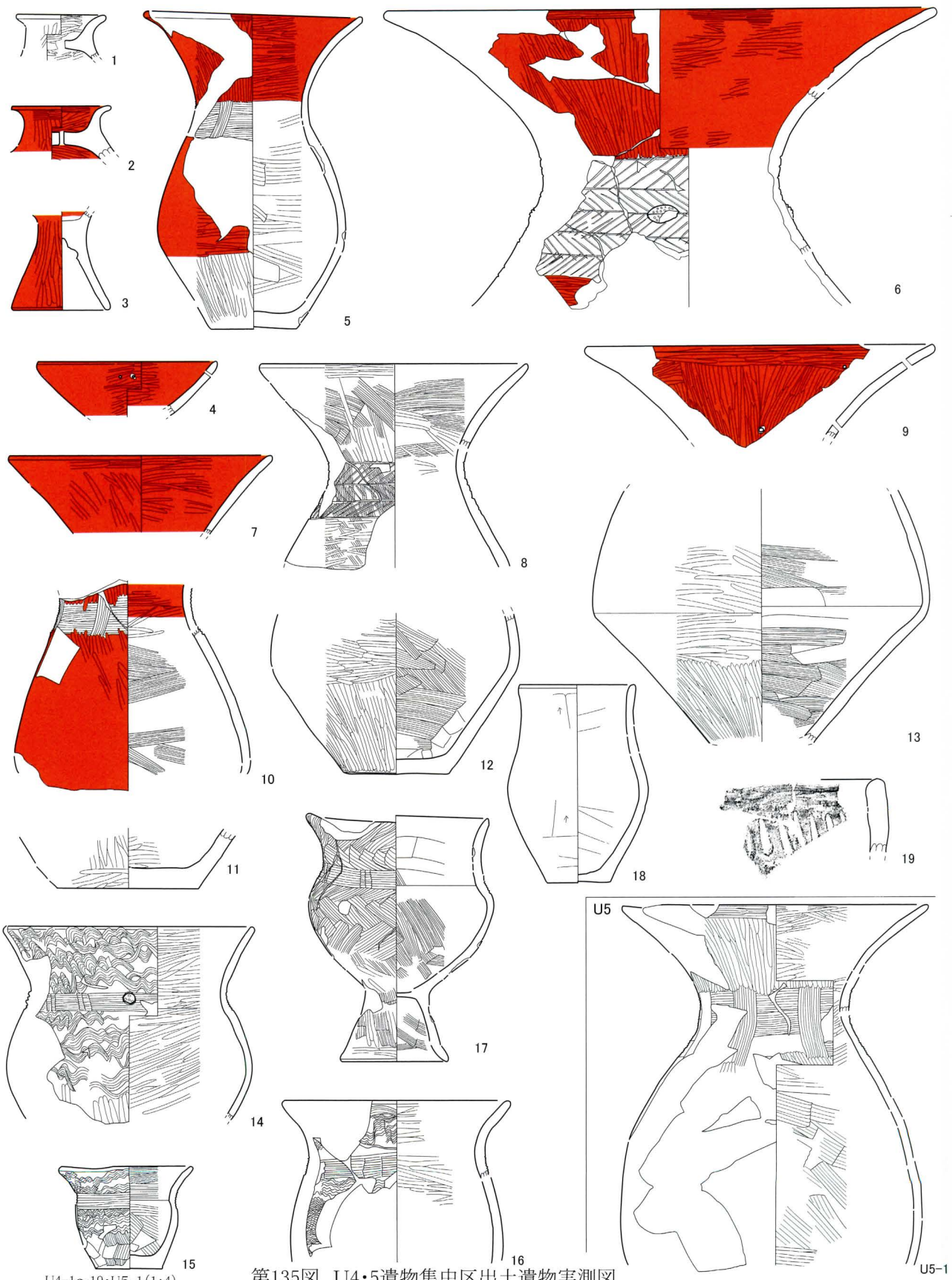
する。遺物の総数はU1が41点、U2が31点、U3が1081点、U8が56点である。遺物の平面的な広がりには東西60m、南北20mの範囲で、最大の特徴はM6号溝状遺構の北側に沿うように遺物が検出され、溝の南側には広がっていないことである。この事は、M6号溝状遺構が機能している段階で、これら遺物群はこの場所に遺棄されたことを示していると考えられこれらの遺構が有機的に関連があるとも推定できる。遺物の垂直的な広がりには第130図に示したように、南傾斜の地形に沿うように厚み20cm前後の範囲で出土している。遺物の出土位置下からは顕著な掘り込み等は確認されなかった。遺物の種類ごとの出土状況は範囲全体に広がり意図的な状況は確認できなかったが、接合後に完形に近くなり、図示し得た遺物は、範囲の西寄りに多く出土していることが解る。

また、本遺物集中区の土器はH2号住居址とH8号住居址出土の土器と接合関係にあることが解った。H2号住居址と接合関係にあった土器はいずれも甕、H8号住居址と接合したものは壺である。いずれの破片も胴部や底部の破片であり、住居址内出土の口縁部等と接合し器形全容が把握できたものもある。これらの事実は居住内で使用し、欠損した土器の破棄方法を具体的に示す好資料であり、土器のすべてを一か所に破棄しない意味等を考えることが今後の課題である。なお、土器片群に混ざってガラス小玉1点が出土した。

(2) U4・5遺物集中区

本址は調査区東端のXⅢ・XⅨ区に位置する。北側と東側が調査区外となるが遺物の出土状態から、遺構は大きく北東側に広がると考えられる。遺物の総数はU4が326点、U5が32点であり、調査時は別遺構名を付したが、遺物の広がりから同一の遺構と判断できる。遺物の片面的な広がりには調査区で制約されているが、南北は15m程の範囲である。遺物の垂直的な広がりにはU3のグループに比べると遺物間の比高差があり翡翠勾玉は15の土器下20cmで出土した。また、第135図で示したように遺物の種別としては壺破片が全体の中で多い傾向にあり、他の遺物集中区と異なる点である。なお、本址からは先に触れた完形の翡翠製勾玉が1点出土した。また、図示した15の小型の甕は、施文がしっかりと施された甕で完形品である。U3においてもガラス小玉1点が、U11においては管玉1点が出土している。

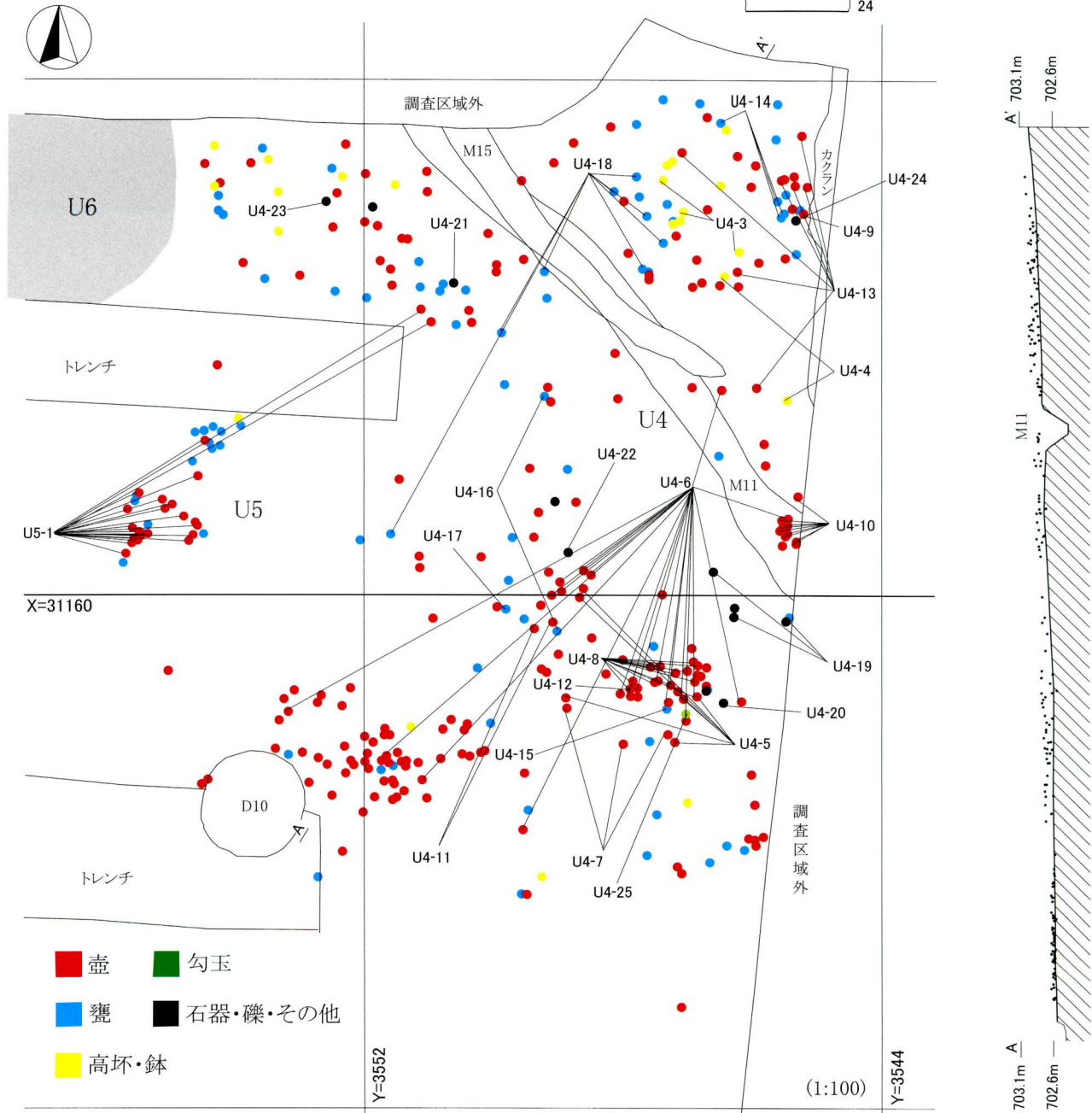
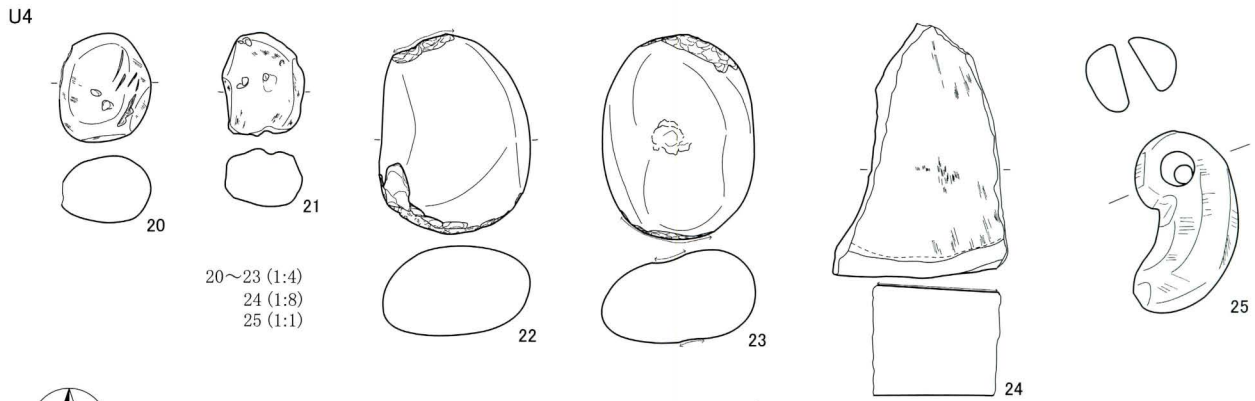
このように土器片がまとまって一か所に出土すると一概に土器廃棄的な性格付けで結論づけられるが、少量ではあるが玉類の出土や、種別の偏りなどはこのような遺構の性格付けに一石を投じるものであり、調査時の検出状況での早急な判断に警鐘を鳴らすものとする。



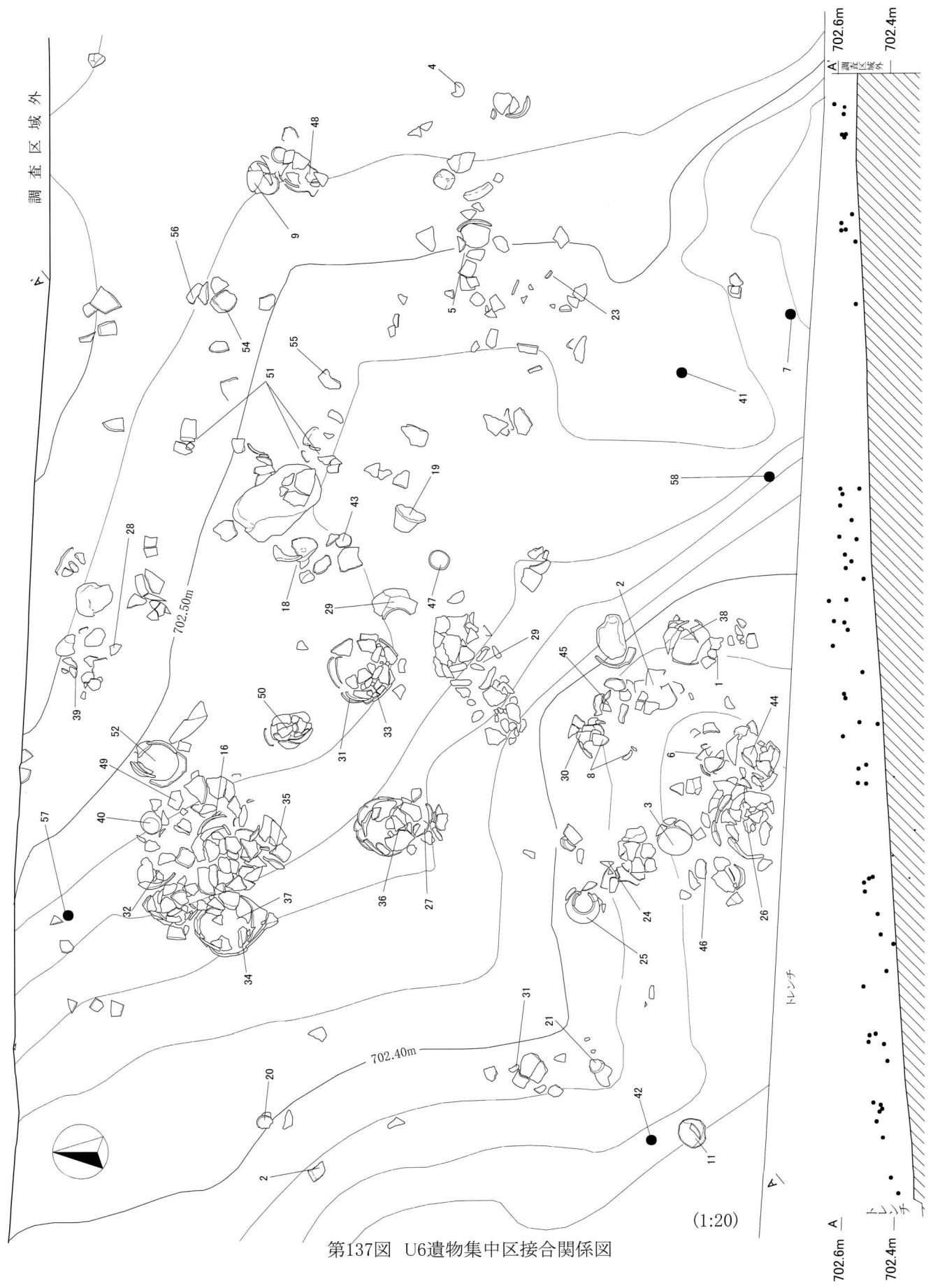
U4-1~19·U5-1(1:4)

第135图 U4·5遺物集中区出土遺物実測図

U5-1



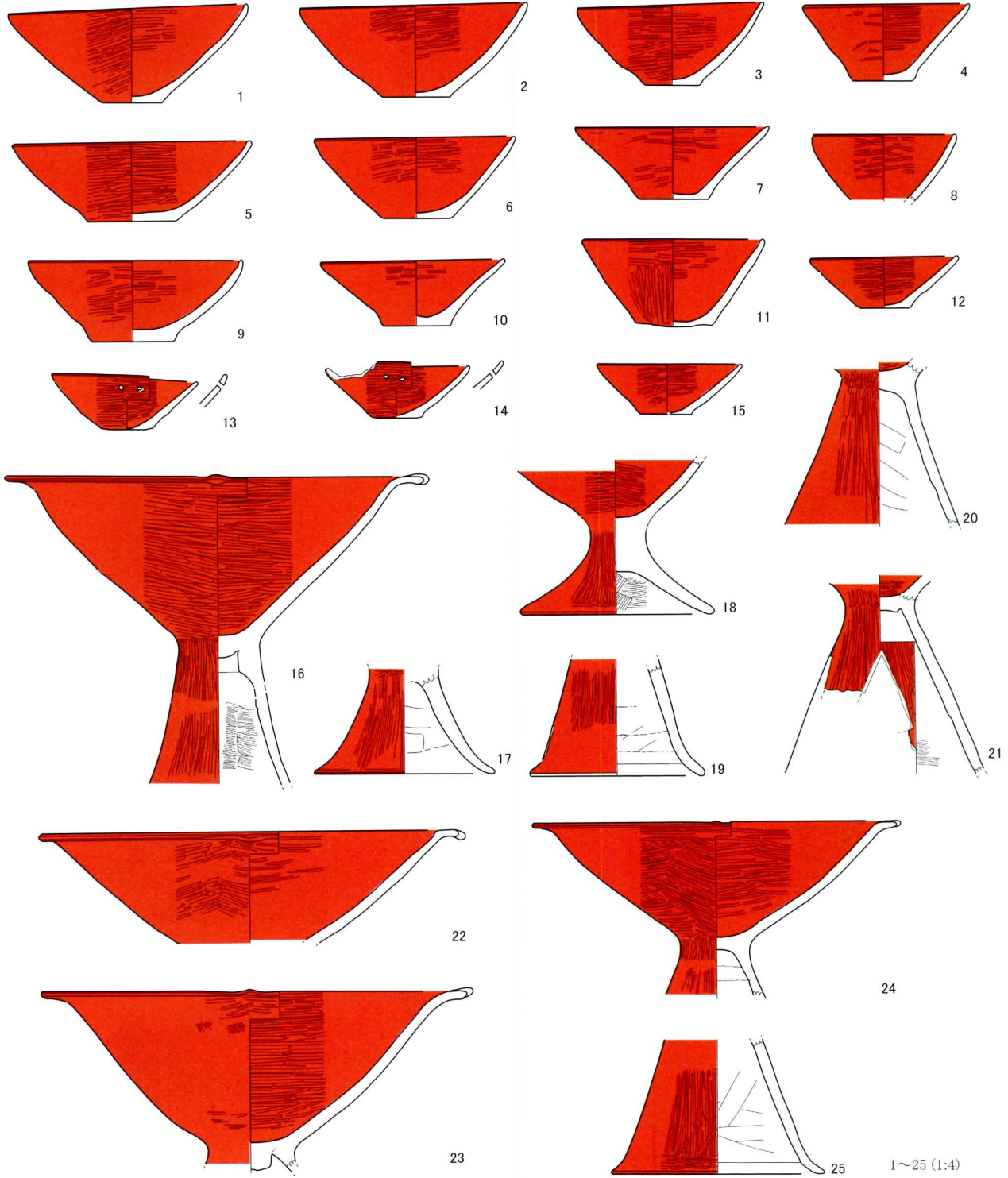
第136図 U4・5遺物集中区接合関係図・種別図及び出土遺物実測図



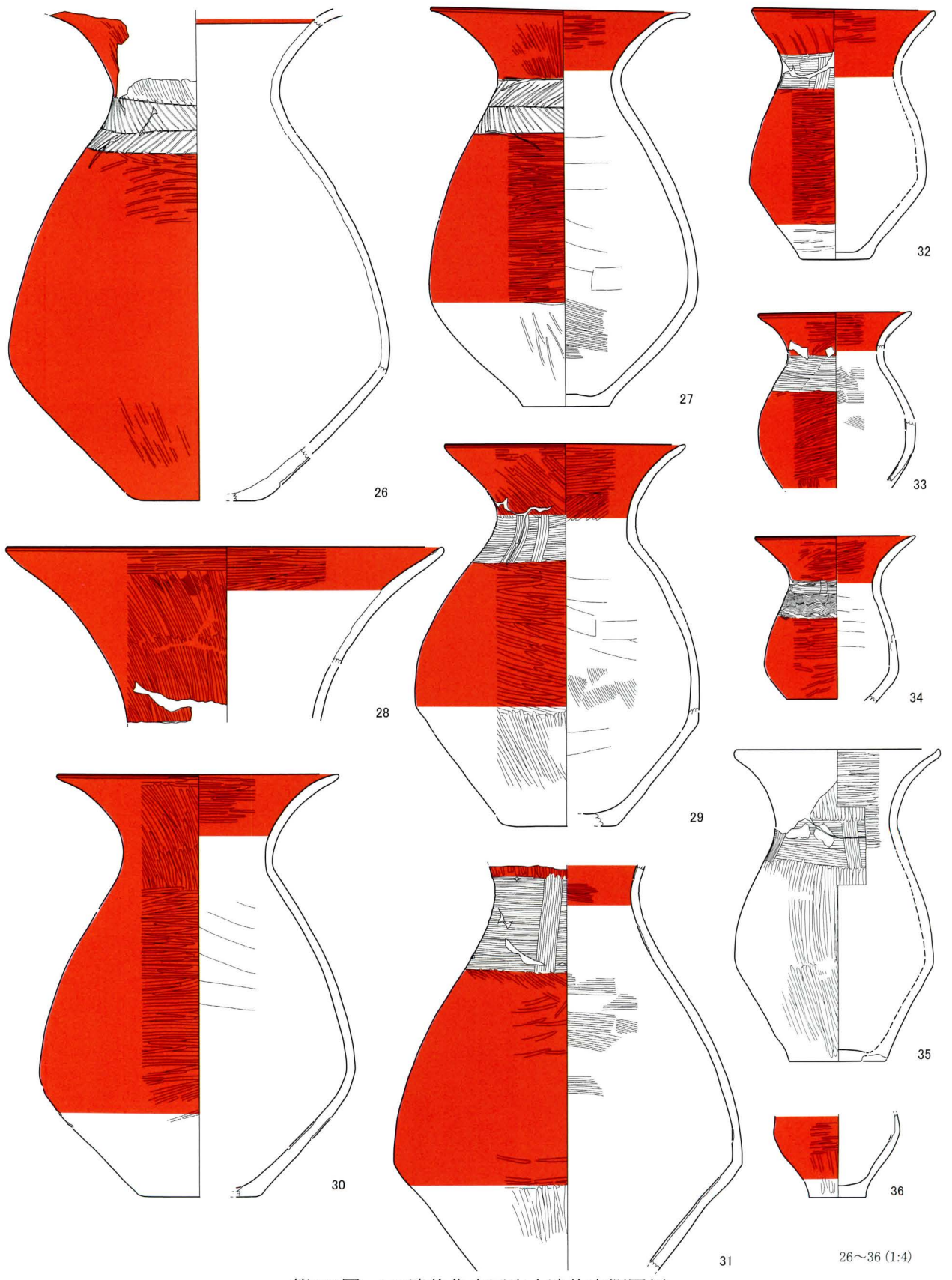
第137図 U6遺物集中区接合関係図

(3) U6遺物集中区

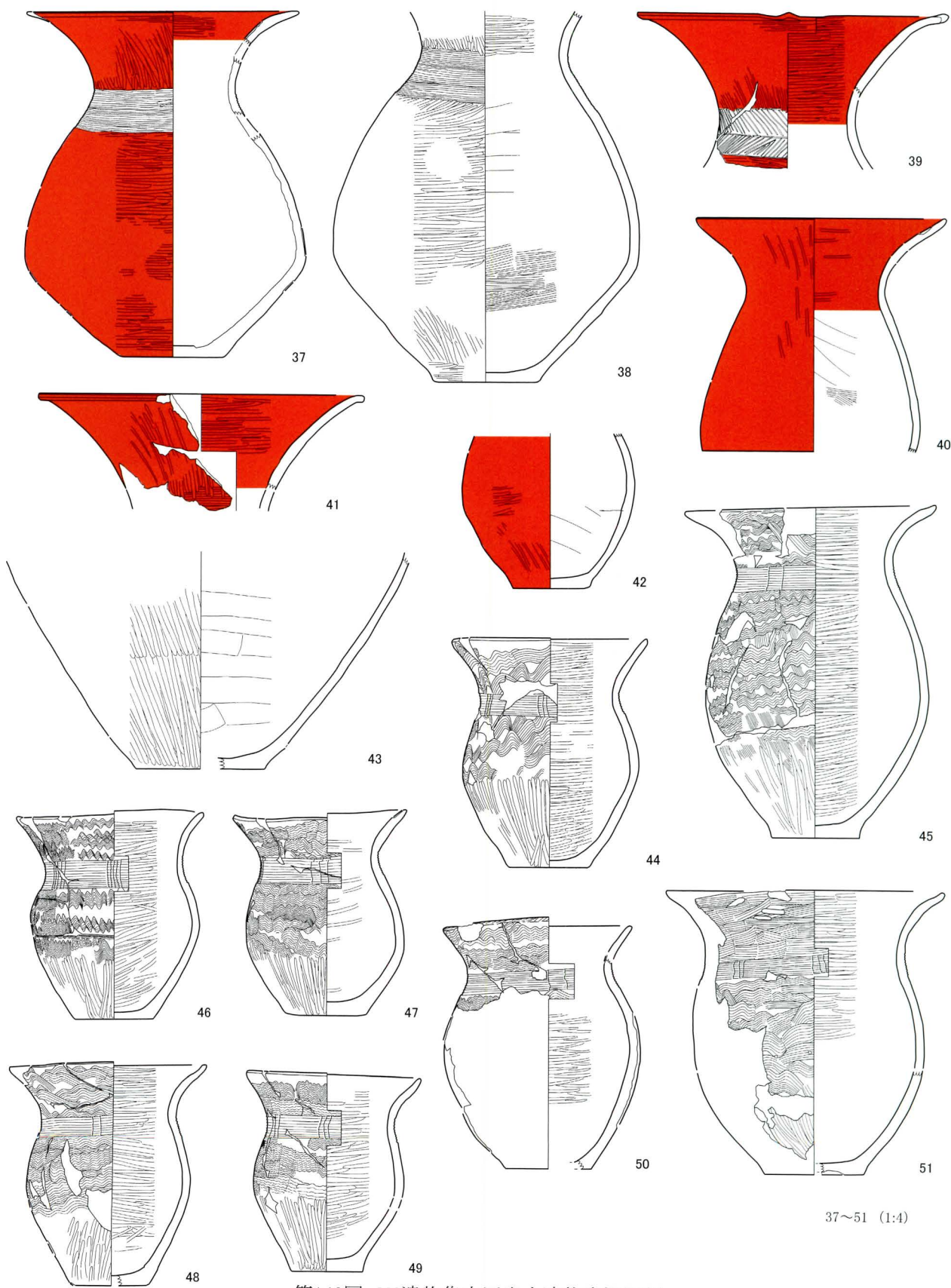
本址は調査区東端のXⅢ区に位置する。北側が調査区外となるが遺物の出土状態から、遺構は北側に広がると考えられる。遺物の平面的な広がりには緩やかな南傾斜の5×3mの範囲に鉢、壺、高坏を中心に置かれた様な状態で検出された。種別ごとの配置に意図的なものは確認できなかったが、壺を中心に甕・高坏・鉢がセットになって置かれているようにも見える。また、加工痕等は確認されなかったが、大型の礫が3点置かれたような状態で検出された。



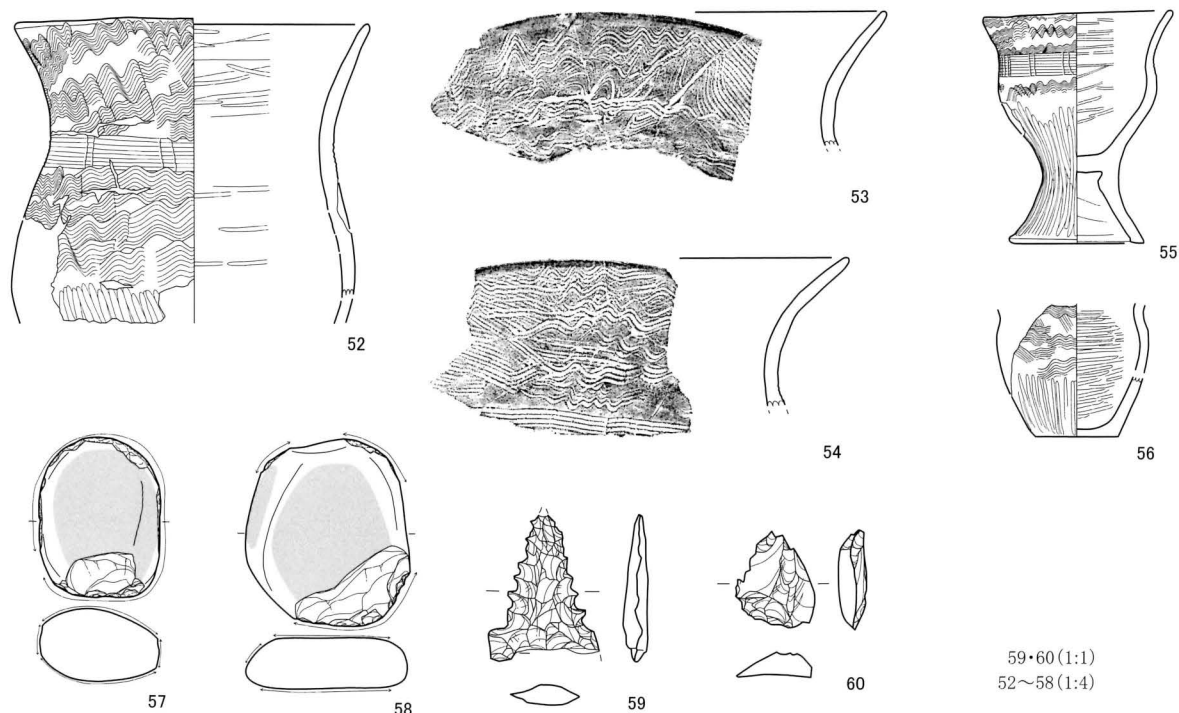
第138図 U6遺物集中区出土遺物実測図(1)



第139图 U6遺物集中区出土遺物実測図(2)



第140图 U6遺物集中区出土遺物実測図(3)



第141図 U6遺物集中区出土遺物実測図(4)

また、本址から出土した土器の中には意図的に土器内部より胴部を壊したと考えられるものがあった。それらはいずれも壺であり、顕著なものとして27・29・38があり、不確実ではあるが可能性のあるものが33・34である。これらの破砕は焼成後の行為であり、破砕した破片等が周辺より出土していないことから、他の場所で胴部に穴を開けたものを、この場所に据え置いたと考えられる。壺以外の土器についても、U6については接合作業を経て土器の完形率は高くなるものが多かったが、高坏については脚部と坏部が接合できず完形になるものが無かった。これとは対照的に鉢は、法量も大・中・小とあり、いずれも完形のものも多く、その場所に据え置かれた様な状態であった。

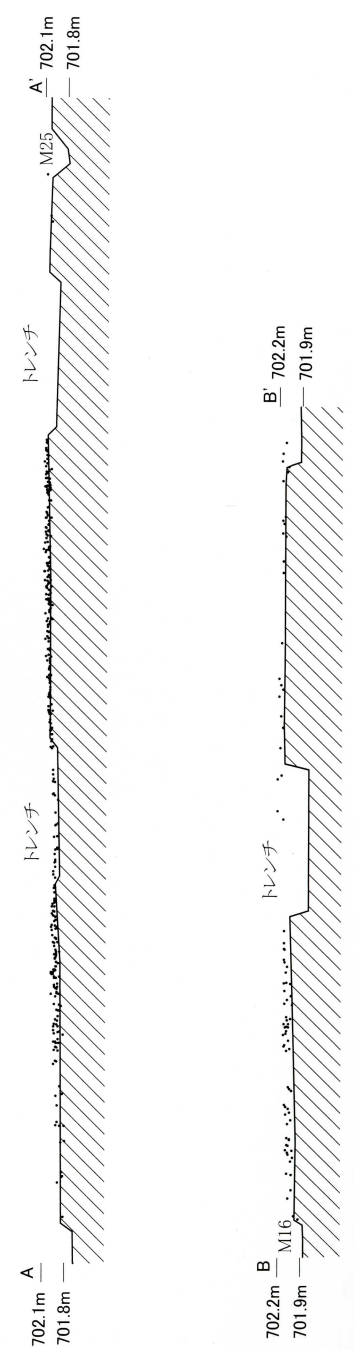
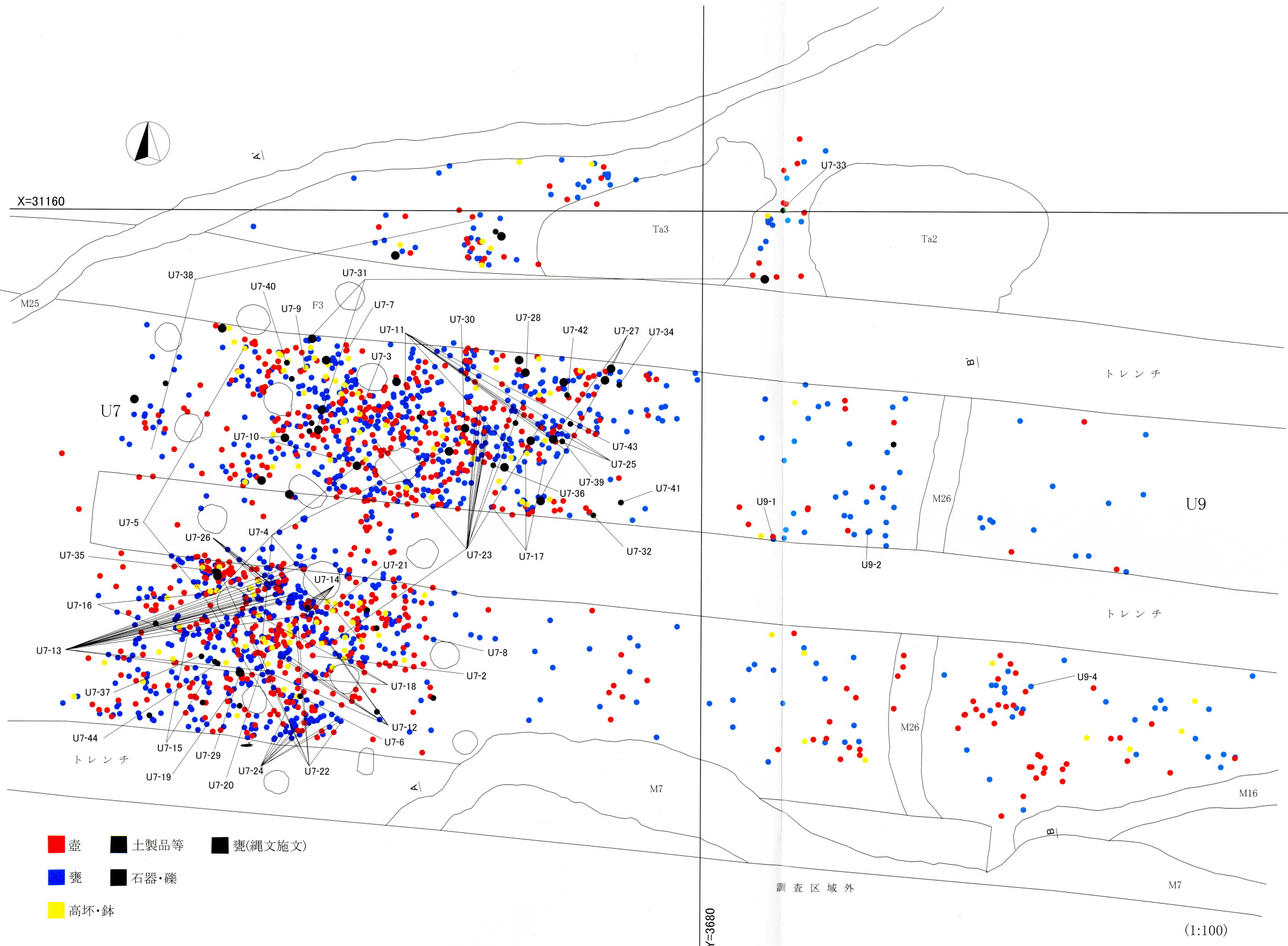
このように、本址は他の遺物集中区に比べ遺物の出土状況も明らかに異なり、未調査部分もあるため不確実ではあるが、祭祀的な位置づけがなされると考える。ただ、他の遺物集中区で出土している玉類がU6は全く無く、祭祀と玉類の関係が注目される。

(4) U7・9遺物集中区

本址は調査区南端のX X II・X X III区を中心に検出された。遺物の平面的な広がりには東西30m、南北15mの範囲であるが、遺物の出土状態から遺構は南へ広がると考えられる。また、調査当初は遺物の広がり方で西側をU7、東側をU9として調査したが、遺物の粗密だけで一連の広がりと判断して同一グループとして報告する。遺物の総量はU7が1812点、U9が206点であった。U7・9はU3のグループに比べ土器総量も多い割には接合率が低く、土器復元を経ても完形となるものが非常に少ないのが特徴である。また、西側に多く出土する傾向にあった。これらの様相から本址は西側に広がる集落からの遺物廃棄場と考えられる。

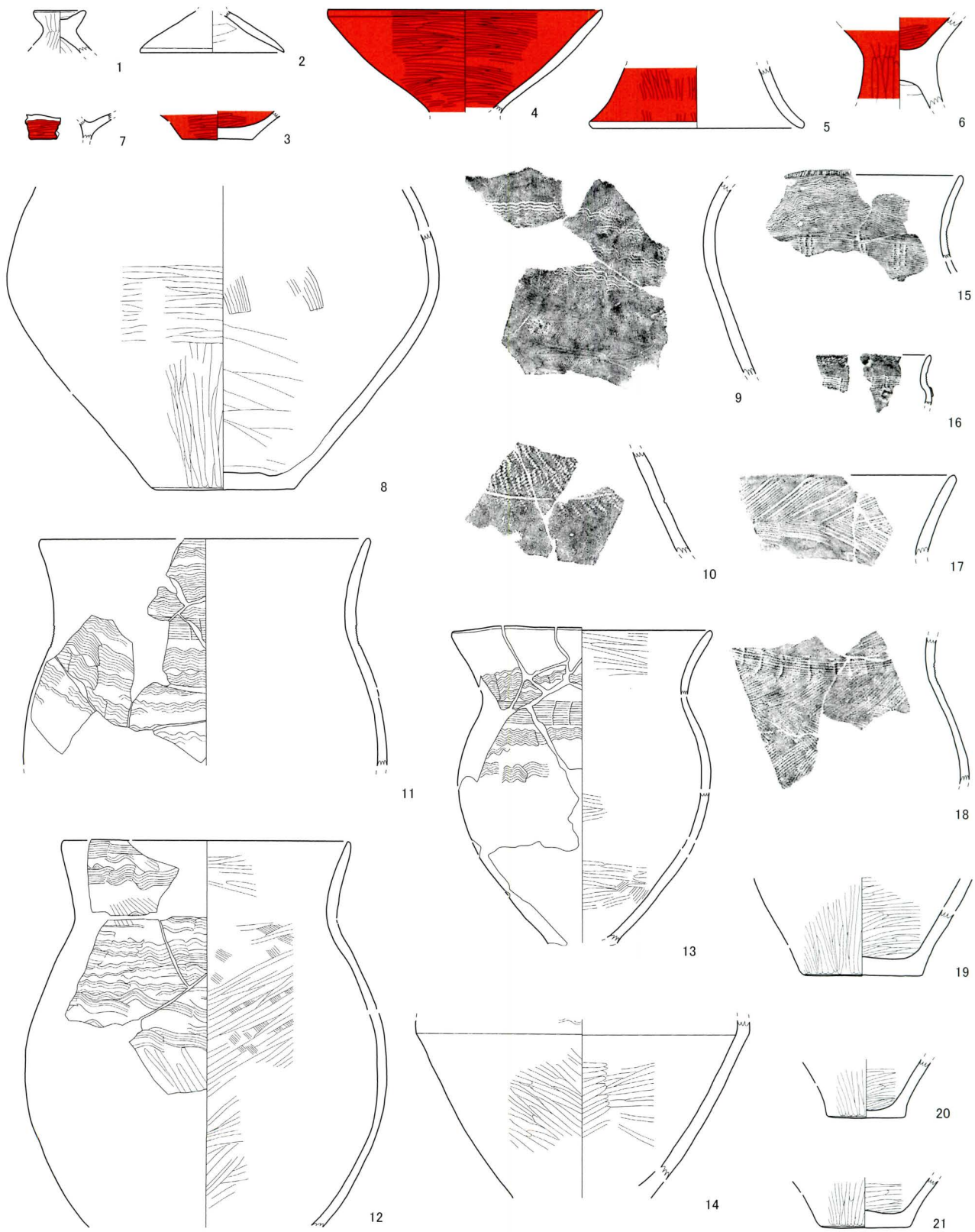
(5) U11遺物集中区

本址は調査区中央のX VI・X VII区で検出された。約20×20mの範囲で遺物が検出されたが、南側は圍場整備の削平の影響を受けており、あるいはU7・9と本来は繋がっていたとも考えられる。遺物の平面的な広がりには西側に多い。傾向はU7・9と同じで、特に北端部分に非常に多くの遺物が集中して出土した。遺物の総量は4735点であった。しかし、接合率は低く、復元後の完形率も非常に低かった。ただ、1点であるがH26号住居址の甕と接合関係が確認され、U7・9とU11は調査区西側や昭和56年調査の周防畑B遺跡で検出された集落域から廃棄された土器の可能性が指摘できる。なお、U11からは外来からの影響と考えられる縄文施文の土器が多く出土し注目される。



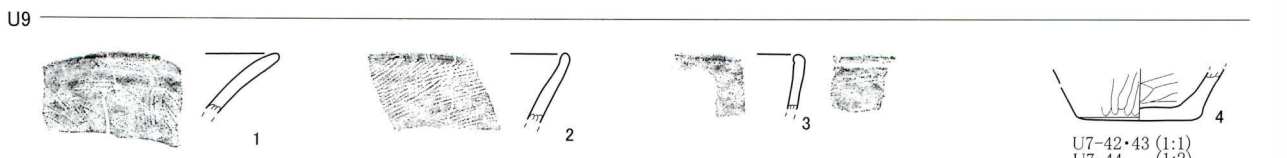
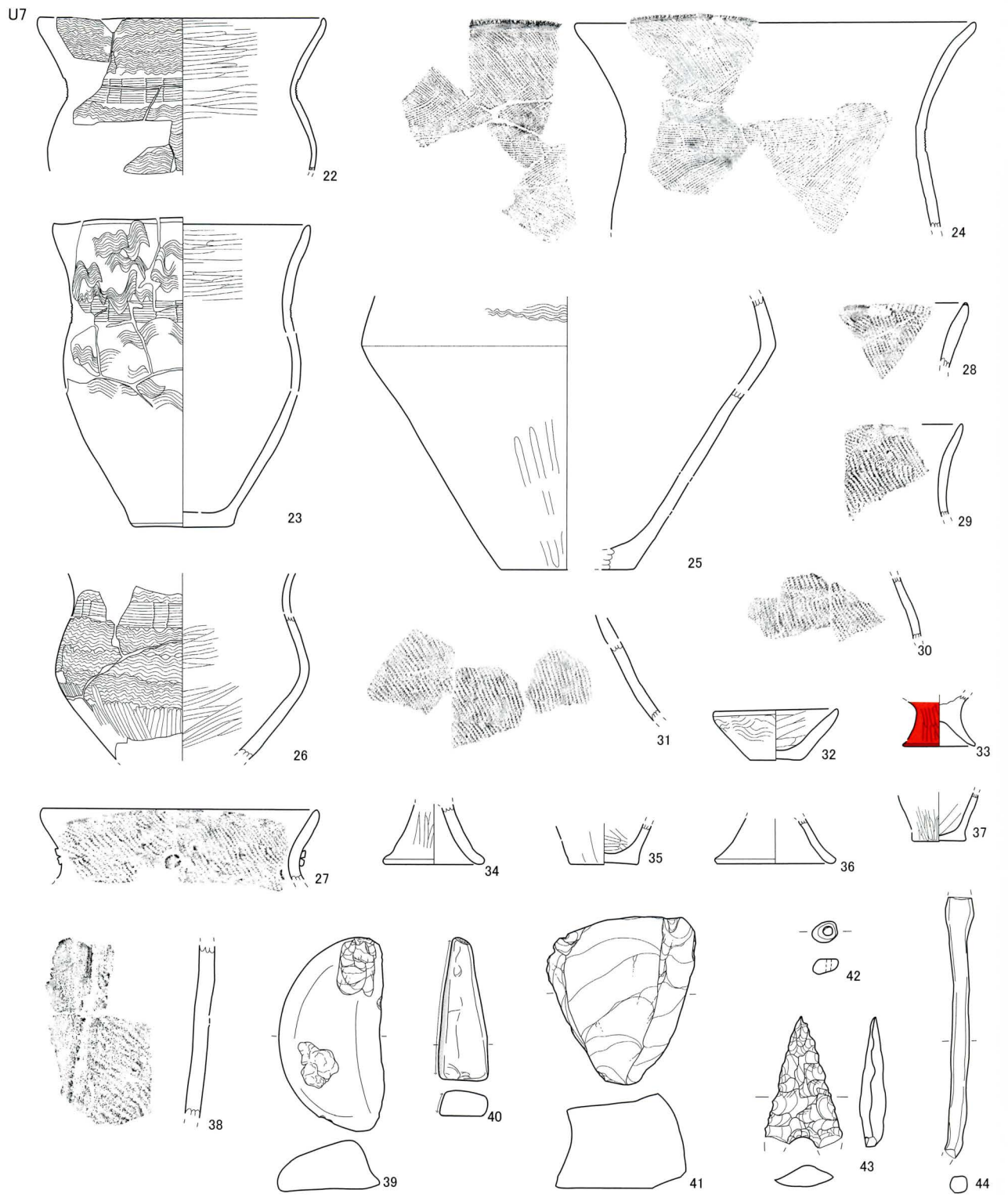
- 壺
- 甕
- 高坏・鉢
- 土製品等
- 石器・礫
- 甕(縄文施文)

第142図 U7・9遺物集中区接合関係図及び種別図



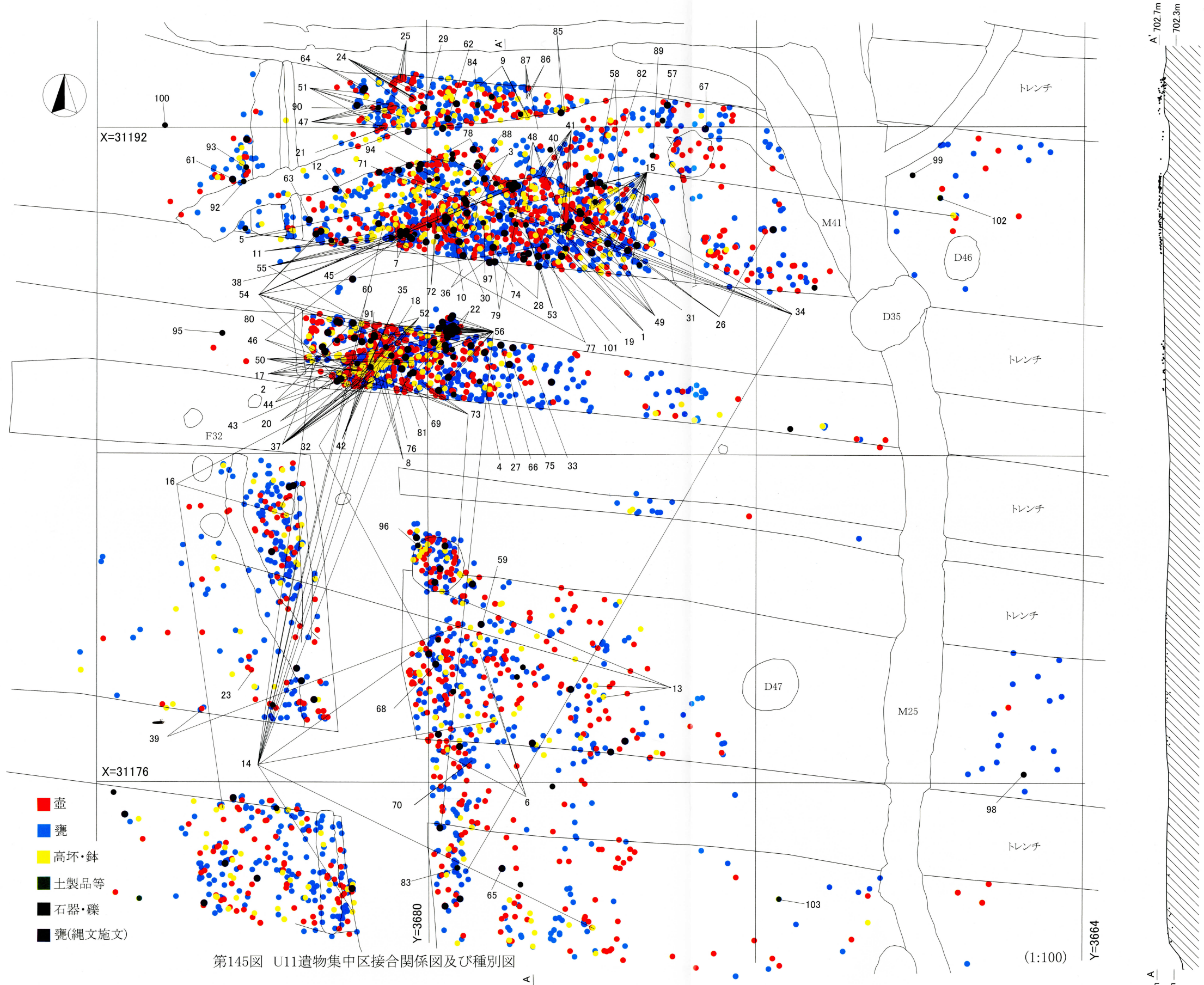
1~21 (1:4)

第143图 U7遺物集中区出土遺物実測図



第144图 U7·9遺物集中区出土遺物実測図

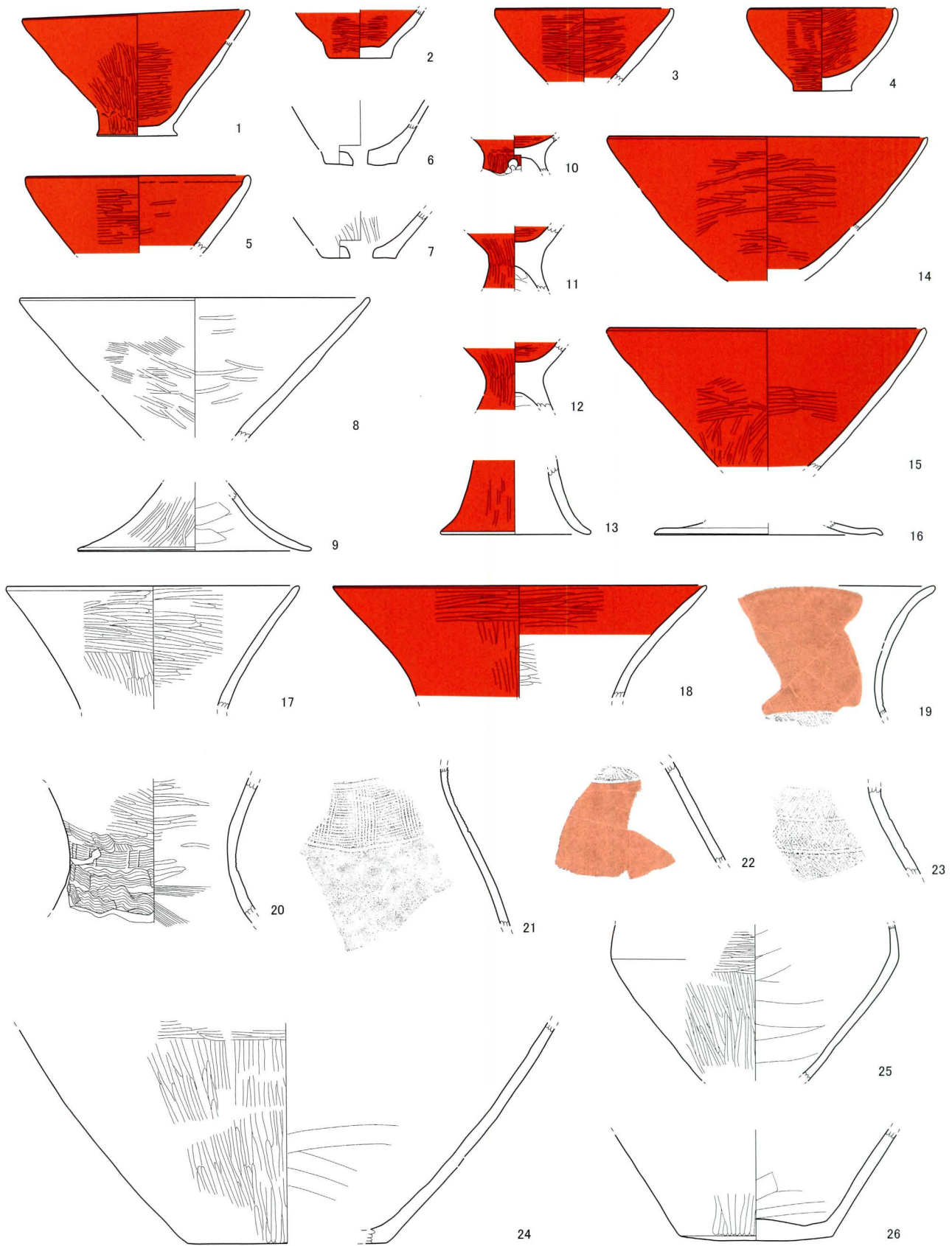
U7-42·43 (1:1)
 U7-44 (1:2)
 U7-1~41·U9-1~4 (1:4)



第145図 U11遺物集中区接合関係図及び種別図

(1:100)

702.7m A
 702.3m
 A' 702.7m
 702.3m



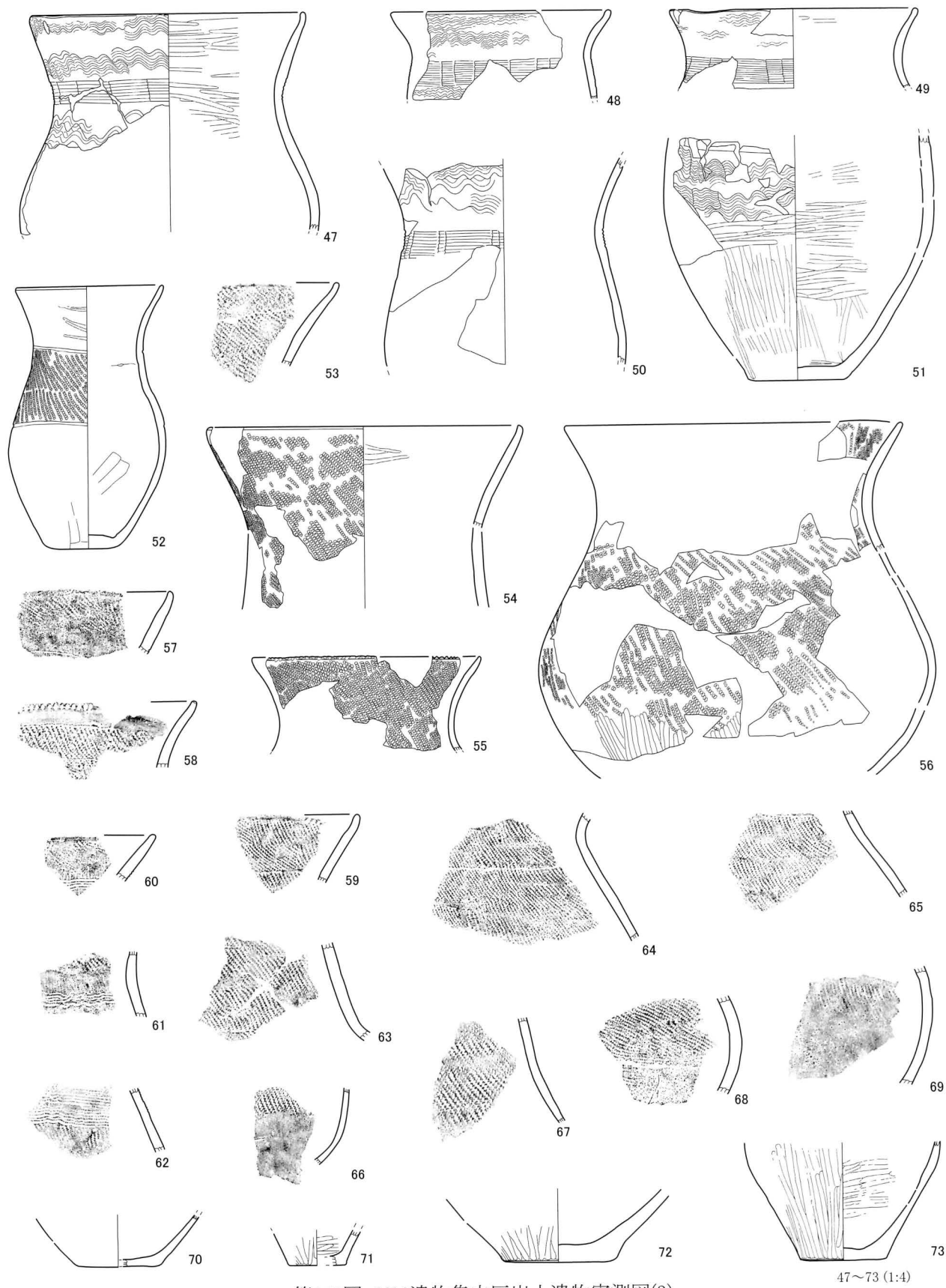
第146图 U11遺物集中区出土遺物実測図(1)

1~26 (1:4)

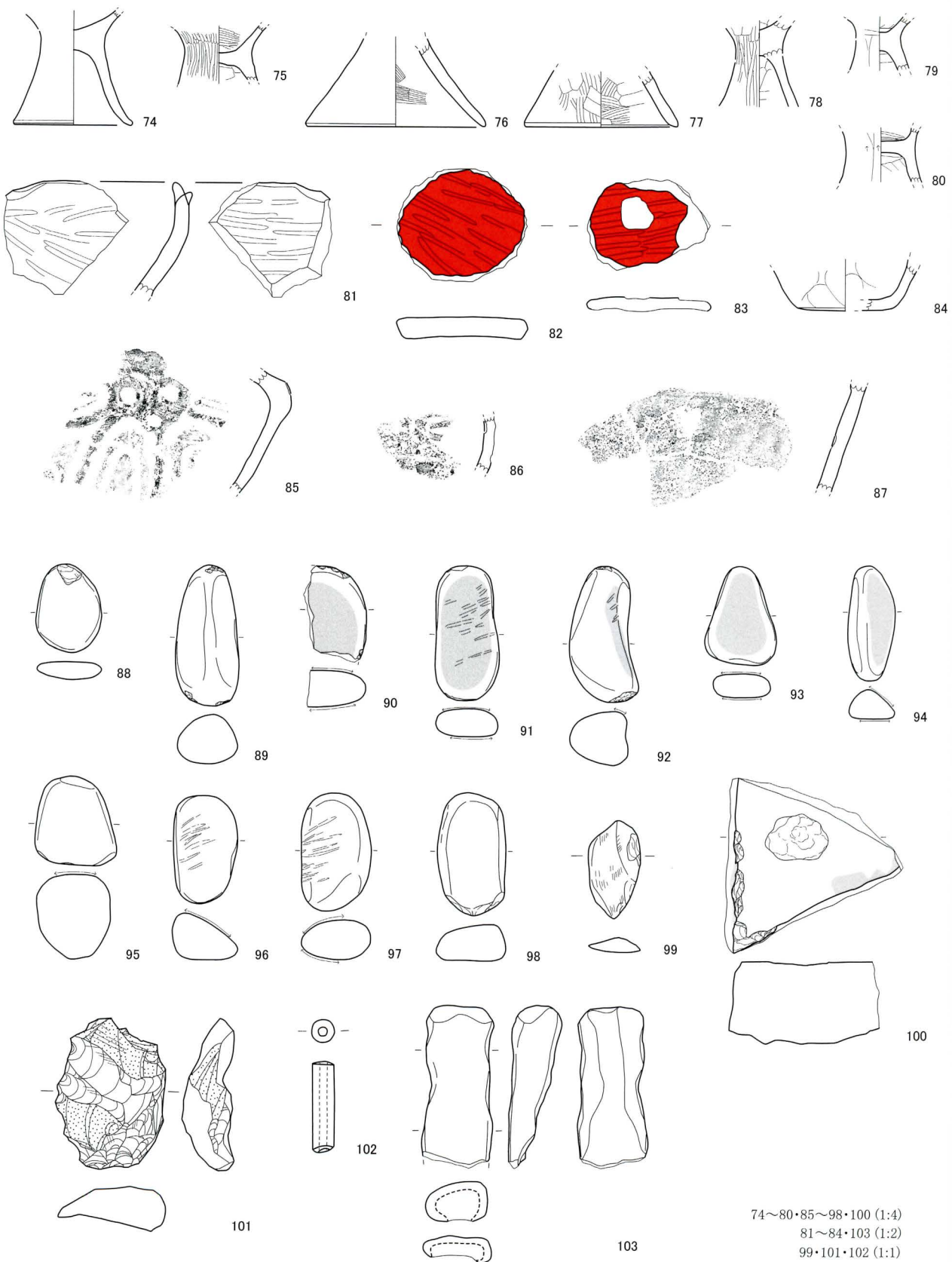


27~46(1:4)

第147图 U11遺物集中区出土遺物実測図(2)



第148图 U11遺物集中区出土遺物実測図(3)



第149图 U11遺物集中区出土遺物実測図(4)

第58表 U2・3遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値()丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	弥生	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	XX I-15 クロ	
2	弥生	鉢	9.4	3.7	4.2	ヘラミガキ→赤色塗彩 剥離	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測		
3	弥生	鉢	(12.6)	(4.6)	5.8	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	XX I-9クロ	
4	弥生	鉢	(13.8)	(4.8)	5.6	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測		
5	弥生	鉢	-	(6.0)	(7.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	XX I-9	
6	弥生	鉢	-	4.9	(4.2)	ヘラミガキ→赤色塗彩 剥離	赤色塗彩 剥離	完全実測	XX I-9 U2	
7	弥生	高坏	(24.2)	-	(7.5)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測		
8	弥生	高坏	(22.2)	-	(8.2)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測		
9	弥生	高坏	-	(15.8)	(16.5)	坏部 剥離(赤色塗彩) 脚部ハケ目→ヘラナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	H2IV区	
10	弥生	高坏	-	4.3	3.3	坏部ヘラミガキ 脚部ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測		
11	弥生	壺	-	(8.2)	(7.8)	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測		
12	弥生	壺	(22.6)	-	(17.1)	ハケ目→ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラ描横線文→ヘラ描斜線文→ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	H2 II区	
13	弥生	壺	-	7.2	(10.5)	ハケ目	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	U1・2 XX I-9	
14	弥生	壺	(30.8)	(11.0)	(49.0)	ヘラミガキ→赤色塗彩 剥離	ヘラ描横線文→ヘラ描斜線文 丸型貼付文→ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	XX I-9	
15	弥生	壺	-	10.9	(43.5)	ハケ目→ヘラナデ→ヘラミガキ	楡描横線文→ヘラミガキ	完全実測		
16	弥生	壺	(25.9)	-	(8.4)	ヘラミガキ 磨耗	ヘラミガキ	回転実測	U1	
17	弥生	壺	-	13.8	(10.3)	剥離	ヘラミガキ	完全実測		
18	弥生	壺	-	9.8	(6.7)	剥離	ヘラミガキ	完全実測		
19	弥生	甕	(16.6)	-	(6.4)	ヘラミガキ	楡描簾状文→楡描波状文→ヘラミガキ	回転実測	U2 XX I-9	
20	弥生	甕	(16.8)	-	(8.8)	ヘラミガキ	楡描簾状文(3連止め)11本→楡描波状文	回転実測	M7	
21	弥生	甕	(20.5)	8.4	31.7	ヘラミガキ	楡描波状文→楡描簾状文(2連止め)9本→ヘラミガキ	完全実測	U2 XX I-9	
22	弥生	甕	22.5	6.6	28.8	ヘラミガキ	楡描波状文→楡描簾状文(2連止め)18本→ヘラミガキ	完全実測		
23	弥生	甕	(13.2)	-	(12.5)	ヘラミガキ	楡描簾状文(2連止め)10本→楡描波状文→ヘラミガキ	回転実測		
24	弥生	甕	(10.3)	5.0	(13.3)	ヘラミガキ	楡描波状文→ヘラミガキ	完全実測		
25	弥生	甕	(25.6)	-	(7.9)	ヘラミガキ	楡描簾状文(2連止め)12本→楡描波状文	回転実測	XX I-9	
26	弥生	甕	(20.8)	-	(9.6)	ヘラミガキ	楡描簾状文→楡描波状文→ヘラミガキ	完全実測	XX I-7 XX I-9 M7	
27	弥生	甕	-	(6.0)	(6.4)	ヘラミガキ	楡描波状文→ヘラミガキ	回転実測		
28	弥生	甕	(20.1)	(7.4)	28.0	ヘラミガキ	楡描波状文→ヘラミガキ	完全実測		
29	弥生	甕	(19.4)	7.6	25.0	ヘラミガキ	楡描波状文→楡描簾状文(2連止め)14本→ヘラミガキ	完全実測	XX I-15 XX II-11	
30	弥生	甕	(15.6)	5.6	16.8	ヘラミガキ	楡描簾状文(2連止め)13本→楡描波状文→ヘラミガキ	回転実測	XX I-15クロ	
31	弥生	甕	-	6.6	(5.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	U2	
32	弥生	甕	-	6.8	(11.5)	ヘラミガキ	楡描波状文→ヘラミガキ	完全実測		
33	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	楡描波状文	断面実測		
34	弥生	甕	-	(7.0)	(4.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	H2 I区 II区 IV区	
35	弥生	甕	-	4.4	(3.6)	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測		
36	弥生	甕	-	7.0	(8.3)	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XX I-9	
41	縄文?	鉢	(22.4)	-	(7.3)			回転実測 後期?		
42	縄文	深鉢	-	-	-		沈線 縄文	断面実測 縄文 後期?		
43	縄文	深鉢	-	-	-		沈線	断面実測 縄文 後期		
44	縄文	深鉢	-	-	-	ヘラナデ	縄文(無節)	断面実測 前期末		
U2	1	弥生	壺	(24.8)	-	(12.4)	ヘラミガキ 磨耗	楡描横線文 ヘラミガキ	完全実測	
U2	2	弥生	壺	-	(12.0)	(2.8)	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	XX I-9
U2	3	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	楡描波状文	断面実測	
U2	4	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	縄文	断面実測	D3

第59表 U2~5・8遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値()残存値()丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
U8	1	弥生	甕	(18.8)	-	(9.3)	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描縹縄文	回転実測	XXII-11検出面
	2	弥生	壺	-	-	-	赤色塗彩 剥離	縄文 赤色塗彩	断面実測	XXII-11検出面
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
U2	5	石鏃	黒曜石	(1.3)	(1.0)	(0.3)	(0.30)	基部欠損		
U8	3	石鏃	黒曜石	(1.4)	1.3	0.3	(0.40)	基部欠損		
U3	37	円板	土製品	3.1	2.8	0.65	7.67	内面ヘラナデ 外面櫛描波状文		
	38	円板	土製品	5.0	3.1	0.7	15.75	内面ヘラナデ 外面ヘラミガキ→赤色塗彩		
	39	円板	土製品	3.9	3.0	0.6	10.10	内面ヘラミガキ→赤色塗彩 外面ヘラミガキ→赤色塗彩		
	40	円板	土製品	4.8	4.3	0.7	23.12	内面ヘラナデ 外面ヘラミガキ→赤色塗彩		
	45	軽石製品	軽石	5.9	5.0	2.2	41.93	全体にすり		
	46	磨石?	ホルンフェルス	5.4	2.3	1.2	18.99			
	47	打製石斧	硬質砂岩	10.8	5.8	2.2	129.81	自然面残る		
	48	打製石斧	輝石安山岩	(4.7)	(5.1)	(0.9)	(20.87)	下部欠損 正裏とも節理面		
	49	打製石斧	輝石安山岩	(10.6)	(5.9)	(1.0)	(86.76)	上部欠損 正裏とも節理面 刃部磨滅		
	50	磨・敲石	輝石安山岩	9.3	6.6	4.4	400.73	正面にすり面 左側～下部部に敲打痕		
	51	磨・敲石	輝石安山岩	10.5	7.6	5.2	630.37	正裏にすり面 正面に浅い条痕 左側に敲打痕		
	52	磨・敲石	輝石安山岩	13.0	6.5	4.0	578.65	被熱あり?全体に黒化 正面にすり面と凹み 上下端部に敲打痕		
	53	尖頭器	黒曜石	(2.6)	(0.9)	(0.3)	(0.77)	上下欠損		
	54	石鏃	黒曜石	(1.5)	(1.2)	(0.3)	(0.51)	先端・基部欠損		
55	石鏃	赤褐色チャート	2.0	1.8	0.2	0.50				
56	石鏃	黒曜石	(2.3)	1.5	(0.35)	(0.92)	基部欠損			
57	ガラス小玉		0.25	0.25	0.25	0.04	孔径 0.1			
No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値()残存値()丸底●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
U4	1	弥生	蓋	-	つまみ 6.4	(3.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測 焼成前	
	2	弥生	蓋	-	つまみ 7.1	(3.8)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測 焼成前	
	3	弥生	高坏	-	6.8	(7.1)	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩 脚部ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
	4	弥生	鉢	(12.8)	-	(3.9)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測 焼成前	
	5	弥生	壺	15.6	6.2	22.8	ハケ目→ヘラミガキ→赤色塗彩	櫛描横線文→櫛描垂下文→ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
	6	弥生	壺	(39.5)	-	(21.3)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラ描横線文→ヘラ描斜線文→刺突のある楕円形の貼付文 →ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	XIX-4検出面
	7	弥生	壺	18.8	-	(5.7)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
	8	弥生	壺	19.3	-	(14.7)	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラ描横線文→ヘラ描斜線文→ヘラミガキ	完全実測	XIX-4検出面
	9	弥生	壺	(25.0)	-	(6.7)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測 焼成後	
	10	弥生	壺	-	-	(14.9)	ハケ目→ヘラミガキ→赤色塗彩	櫛描横線文→櫛描垂下文→ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	XIII-24
	11	弥生	壺	-	(10.0)	(4.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XIII-24
	12	弥生	壺	-	7.6	(11.4)	ハケ目→ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	
	13	弥生	壺	-	-	(18.0)	ハケ目→ヘラナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	XIII-24
	14	弥生	甕	17.8	-	(14.2)	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描縹縄文→丸型貼付文→ヘラミガキ	回転実測	
	15	弥生	甕	9.4	4.8	7.5	ハケ目	ハケ目→櫛描波状文→櫛描横線文	完全実測	
	16	弥生	甕	(16.3)	-	(11.7)	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描縹縄文	回転実測	XIII-25検出面
	17	弥生	台坏甕	13.0	(7.6)	17.9	甕部ハケ目→ヘラナデ 台部ハケ目	櫛描波状文→櫛描縹縄文→ハケ目→ヘラミガキ	完全実測	
	18	弥生	甕	(8.4)	(4.6)	(14.2)	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラナデ	回転実測	XIII-24 U5 M11
	19	縄文	深鉢	-	-	-			断面実測	
U5	1	弥生	壺	21.8	-	(26.0)	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描横線文→櫛描垂下文→ヘラミガキ	完全実測	U4XIII-25 XIX-5 SB011ET18
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
U4	20	軽石製品	軽石	5.8	(4.8)	3.6	(54.91)	一部欠損 全体にすり		
	21	軽石製品	軽石	5.5	4.4	3.0	21.25	全体にすり		
	22	敲石	輝石安山岩	10.6	8.0	4.8	627.36	上下端部に敲打痕		

第60表 U4・6遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置				
U4	23	敲石	輝石安山岩	10.9	8.0	4.7	617.90	正裏中央と上下端部に敲打痕					
	24	台石	安山岩	<27.1>	<18.4>	<11.7>	(8050)	下側以外欠損 正面が使用面 磨減あり					
	25	勾玉	ひすい輝石	2.4	1.3	0.9	5.67	孔径 0.5~0.2					
No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様			推定値()残存値()丸底●				
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面		外面	備考	出土位置			
U6	1	弥生	鉢	15.8	3.9	6.3	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測			
	2	弥生	鉢	15.0	4.5	6.2	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測			
	3	弥生	鉢	12.2	3.6	5.4	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測			
	4	弥生	鉢	10.8	3.9	5.2	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測			
	5	弥生	鉢	15.8	5.8	5.3	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測			
	6	弥生	鉢	13.2	4.4	5.4	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測			
	7	弥生	鉢	(12.7)	4.5	4.9	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測	下層48 下層IV区		
	8	弥生	鉢	9.3	-	4.5	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測			
	9	弥生	鉢	14.1	5.4	5.5	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測			
	10	弥生	鉢	12.1	4.4	4.4	ヘラミガキ→赤色塗彩	磨耗	ヘラミガキ→赤色塗彩 磨耗	完全実測			
	11	弥生	鉢	11.8	5.1	5.9	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	底部ヘラミガキ	完全実測	下層		
	12	弥生	鉢	(9.7)	3.2	3.5	ヘラミガキ→赤色塗彩	体部・底部ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測			
	13	弥生	鉢	9.7	3.4	3.2	ヘラミガキ→赤色塗彩	体部・底部ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測	焼成前穿孔2ヶ		
	14	弥生	鉢	9.4	3.4	3.8	ヘラミガキ→赤色塗彩	体部・底部ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測	焼成前穿孔2ヶ		
	15	弥生	鉢	(9.5)	3.4	3.4	ヘラミガキ→赤色塗彩	体部・底部ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測			
	16	弥生	高坏	27.7	-	<20.7>	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測	突起あり		
	17	弥生	高坏	-	(11.8)	<7.0>	ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩		回転実測			
	18	弥生	高坏	-	12.4	(10.3)	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測	脚部ハケ目		
	19	弥生	高坏	-	(11.4)	<7.8>	ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測			
	20	弥生	高坏	-	-	(11.0)	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測	脚部ナデ		
	21	弥生	高坏	-	-	(13.4)	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測	脚部ハケ目→ナデ		
	22	弥生	高坏	(27.4)	-	<7.5>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩		回転実測	突起あり		
	23	弥生	高坏	(28.1)	-	<12.4>	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測	脚部ナデ		
	24	弥生	高坏	24.3	-	<11.9>	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測	脚部ナデ		
	25	弥生	高坏	-	13.9	(9.1)	ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測			
	26	弥生	壺	-	(9.4)	<35.0>	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	頸部ヘラ描沈線文	ヘラ描斜走文	口縁・胴部	完全実測	下層2 下層44	
	27	弥生	壺	18.1	(6.0)	28.3	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	頸部ヘラ描沈線文	ヘラ描斜走文	口縁・胴部	完全実測	下層45	
	28	弥生	壺	30.7	-	(12.5)	ヘラミガキ→赤色塗彩	剥離	頸部ヘラ描沈線文?	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測		
	29	弥生	壺	16.8	(8.2)	27.3	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	頸部櫛描横線文3段→櫛描垂下文2単位	口縁・胴部	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	胴部うちかき?	
	30	弥生	壺	19.5	8.5	30.2	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	胴部ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩		完全実測		
	31	弥生	壺	-	-	<28.9>	ハケ目	剥離	頸部櫛描垂下文(4ヶ所)	櫛描横線文	口縁・胴部	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測
	32	弥生	壺	12.7	5.0	17.8	ヘラミガキ→赤色塗彩	頸部櫛描横線文	櫛描垂下文(6単位)	一部籬状文	口縁・胴部	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測
	33	弥生	壺	10.7	-	(12.5)	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	胴部ハケ目	頸部櫛描横線文	口縁・胴部	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
	34	弥生	壺	11.1	-	(11.9)	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	胴部ナデ	頸部櫛描波状文→櫛描籬状文(2連止め)	8本	口縁・胴部	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測
	35	弥生	壺	(14.3)	(6.8)	22.2	ヘラミガキ	頸部櫛描横線文	→櫛描垂下文(4単位)	口縁・胴部	ヘラミガキ	完全実測	
	36	弥生	壺	-	3.9	(6.0)	ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩				完全実測	下層III区 下層29 下層30
	37	弥生	壺	(18.9)	7.4	24.5	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	剥離	頸部櫛描横線文	口縁・胴部	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
	38	弥生	壺	-	7.4	(26.3)	口縁部ヘラミガキ	胴部ヘラナデハケ目	頸部櫛描横線文	口縁・胴部	ヘラミガキ	完全実測	胴部
	39	弥生	壺	21.0	-	(10.8)	ヘラミガキ→赤色塗彩	頸部ヘラ描沈線文	ヘラ描斜走文	口縁・胴部	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	

第61表 U6・7遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値()残存値()丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
40	弥生	壺	(17.4)	-	(16.6)	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩 胴部ナデ 下部ハケ目	ヘラミガキ→赤色塗彩 磨耗が激しい	完全実測		
41	弥生	壺	(22.6)	-	(8.2)	ヘラミガキ→赤色塗彩	頸部櫛描横線文 口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	下層47	
42	弥生	壺	-	5.3	(10.9)	ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測		
43	弥生	壺	-	(9.0)	(15.3)	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	下層50 I区下層	
44	弥生	甕	13.5	5.5	16.2	ヘラミガキ	口縁・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文(3連止め)9本→下部ヘラミガキ	完全実測		
45	弥生	甕	(17.4)	6.1	23.3	ヘラミガキ	口縁・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文(2連止め)10本→下部ヘラミガキ	完全実測		
46	弥生	甕	12.9	5.4	14.7	ヘラミガキ	口縁・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文(5連止め)12本→下部ヘラミガキ	完全実測		
47	弥生	甕	12.0	5.7	14.3	ヘラミガキ 磨耗	口縁・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文(3連止め)10本→下部ヘラミガキ	完全実測		
48	弥生	甕	(13.7)	(5.8)	15.9	ヘラミガキ	口縁・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文(2連止め)8本→下部ヘラミガキ	完全実測		
49	弥生	甕	12.1	4.9	14.1	ヘラミガキ	口縁・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文(3連止め)9本→下部・底部ヘラミガキ	完全実測		
50	弥生	甕	13.1	6.0	17.8	ヘラミガキ	口唇部櫛描斜走文 口縁・胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文(2連止め)10本 剥離	完全実測	下層38	
51	弥生	甕	(19.2)	6.9	20.1	ヘラミガキ	口縁部櫛描斜走文→胴部櫛描波状文→頸部櫛描簾状文(3連止め)9本→下部ヘラミガキ	完全実測	下層50	
52	弥生	甕	18.5	-	(16.2)	ヘラナデ→ヘラミガキ	頸部櫛描簾状文(2連止め)8本→口縁・胴部櫛描波状文→下部ヘラミガキ	完全実測		
53	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描波状文	断面実測		
54	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	口縁部櫛描波状文 頸部櫛描簾状文	断面実測		
55	弥生	台付甕	9.8	7.0	12.2	ヘラミガキ 脚部ヘラナデ	口縁・胴部櫛描波状文 頸部櫛描簾状文(2連止め)8本 脚部ヘラミガキ	完全実測		
56	弥生	甕	-	4.4	(7.0)	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測		
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
57	磨・敲石	砂岩	8.5	6.4	3.8	315.01	正裏にすり面 周囲に敲打痕			
58	磨・敲石	輝石安山岩	10.0	8.8	2.7	404.89	正裏・左側にすり面 縁辺に敲打痕			
59	石鏃	黒灰色チャート	(1.9)	(1.5)	(0.3)	(0.67)	先端・基部欠損			
60	石鏃 未成品	黒曜石	1.3	1.0	0.35	0.40			下層	
No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値()残存値()丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	弥生	蓋	-	つまみ 3.6	(3.0)	ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	XXIII-2 検出面	
2	弥生	蓋	(10.0)	-	(2.9)	ヘラナデ	磨耗	回転実測		
3	弥生	鉢	-	5.0	(2.0)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測		
4	弥生	高坏	(19.0)	-	(7.3)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	XXIII-1クロ XXIII-6	
5	弥生	高坏	-	(14.6)	(4.4)	ヨコナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測		
6	弥生	高坏	-	-	(6.4)	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩 脚部ヘラナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測		
7	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測		
8	弥生	壺	-	10.0	(21.1)	ハケ目 ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	XXIII-2検出面 XXIII-6 F3P17	
9	弥生	壺	-	-	-	ハケ目→ヘラミガキ	ハケ目→櫛描波状文→ヘラミガキ	断面実測	F3P14 SB011WT17	
10	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	縄文→ヘラ描横線文	断面実測	XXIII-2	
11	弥生	甕	(23.0)	-	(15.8)	磨耗	櫛描波状文→櫛描簾状文(2連止め)9本	回転実測		
12	弥生	甕	(20.0)	-	(27.0)	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	回転実測	F3P6	
13	弥生	甕	18.0	-	(20.3)	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文(2連止め)10本	完全実測	XXIII-2検出面	
14	弥生	甕	-	-	(12.4)	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	回転実測		
15	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文(3連止め)12本 口縁部ミザミ	断面実測	検出面	
16	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文(1連止め)6本→丸型貼付文	断面実測		
17	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描斜線文	断面実測		
18	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描簾状文(1連止め)10本→櫛描斜線文	断面実測		
19	弥生	甕	-	8.2	(6.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測		
20	弥生	甕	-	5.2	(4.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測		

第62表 U7・9・11遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値()丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
21	弥生	甕	-	6.2	<3.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XXIII-7 XXIII-2検出面
22	弥生	甕	(19.4)	-	<10.4	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描簾状文(2連止め)10本	回転実測	XXIII-7 H5ホリ方 U11
23	弥生	甕	(17.2)	(7.0)	21.0	ヘラミガキ	櫛描簾状文(1連止め)9本→櫛描波状文	完全実測	検出面
24	弥生	甕	(25.0)	-	<14.0	ヘラミガキ	櫛描簾状文(2連止め)10本→櫛描斜線文 口縁部キザミ	回転実測	XXIII-6検出面 XXIII-7検出面
25	弥生	甕	-	(9.0)	<18.5	磨耗	櫛描波状文 ヘラミガキ	回転実測	XXIII-1
26	弥生	台付甕	-	-	<12.9	ヘラミガキ	櫛描波状文 櫛描簾状文(2連止め)9本→ヘラミガキ	回転実測	
27	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文→丸型貼付文	断面実測	
28	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	口縁部・体部縄文	断面実測	検出面
29	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文	断面実測	
30	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文	断面実測	XXIII-1 Ta3検出面
31	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文	断面実測	Ta3IV区
32	弥生	ミチユア土器	8.4	3.5	3.5	ヘラナデ	櫛描波状文	完全実測	
33	弥生	ミチユア土器	-	(4.8)	<3.5	坏部剥離 脚部ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
34	弥生	ミチユア土器	-	(6.6)	<4.0	ナデ	ヘラミガキ	回転実測	
35	弥生	ミチユア土器	-	4.5	<2.8	ヘラミガキ	ヘラナデ	完全実測	
36	弥生	ミチユア土器	-	(7.8)	(3.0)	磨耗	磨耗	回転実測	
37	弥生	ミチユア土器	-	3.4	<3.2	ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	
38	縄文	深鉢	-	-	-			断面実測	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
39	敲石	砂岩	13.2	7.2	4.2	446.57	上端部と中央と敲打痕		
40	磨・敲石	硬質砂岩	9.8	3.4	1.9	88.57	上端部に敲打痕 左側・下側にすり面		
41	石核?	安山岩	11.5	10.1	7.7	863.49			
42	小玉	ガラス	0.4	0.45	0.25	0.04	孔径 0.1		
43	石鏃	黒曜石	(2.2)	(1.3)	(0.35)	(0.76)	両脚欠損		
44	角釘	鉄	(8.9)	(1.0)	(1.0)	(9.76)			
No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値()丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	ハケ目 ナデ	断面実測	
2	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛描斜線文	断面実測	XXII-5検出面
3	縄文	浅鉢	-	-	-			断面実測	
4	弥生	甕	-	6.4	<2.8	ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	XXII-5検出面
1	弥生	鉢	(16.0)	5.7	8.8	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩 底部ヘラミガキ	完全実測	SB011WT12
2	弥生	鉢	-	4.4	<3.5	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
3	弥生	鉢	(12.4)	-	<5.3	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	XXVI-5
4	弥生	鉢	(10.2)	(4.2)	6.0	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩 底部ヘラミガキ	回転実測	XXVII-11 SB011WT12
5	弥生	鉢	(15.8)	-	<5.6	ヘラミガキ→赤色塗彩 磨耗	ヘラミガキ→赤色塗彩 磨耗	回転実測	XXVI-6
6	弥生	甕	-	5.1	(4.7)	磨耗	磨耗	完全実測	
7	弥生	甕	-	(5.4)	(3.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XXVI-?
8	弥生	高坏	(25.0)	-	<10.1	ヘラミガキ 磨耗	ヘラミガキ 磨耗	回転実測	XXVII-11
9	弥生	高坏	-	(16.6)	<4.9	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	
10	弥生	高坏	-	-	<2.6	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩 脚部ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	焼成後穿孔2ヶ
11	弥生	高坏	-	-	<4.6	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩 脚部ヘラナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	M31XXVII-6
12	弥生	高坏	-	-	<4.9	坏部ヘラミガキ→赤色塗彩 脚部ヘラナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	SB011WT12
13	弥生	高坏	-	(10.6)	(5.4)	磨耗	ヘラミガキ→赤色塗彩 磨耗	回転実測	
14	弥生	高坏	(22.8)	-	<10.3	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	XXVII-11・15 SB011WT12・13

第63表 U11遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値()残存値()丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
15	弥生	高坏	(23.0)	-	(10.3)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
16	弥生	高坏	-	(16.2)	(0.9)	ナデ	ナデ	回転実測	
17	弥生	壺	(21.0)	-	(8.7)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	XVII-6 SB011WT12
18	弥生	壺	(26.8)	-	(8.0)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	XVII-11
19	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラ描横線文→ヘラ描斜線文→ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	SB011WT12
20	弥生	壺	-	-	(10.3)	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描簾状文→櫛描波状文→ヘラミガキ	回転実測	
21	弥生	壺	-	-	-	磨耗	櫛描横線文→櫛描垂下文→ヘラ描横線文→ヘラミガキ	断面実測	
22	弥生	壺	-	-	-	ハケ目	櫛描波状文?→ヘラ描横線文→ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	XVI-10
23	弥生	壺	-	-	-	ハケ目	櫛描横線文→櫛描斜線文	断面実測	
24	弥生	壺	-	(14.2)	(16.0)	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	XVI-5 XVII-6
25	弥生	壺	-	-	(11.3)	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	XVI-5
26	弥生	壺	-	(11.0)	(8.1)	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	XVI-10
27	弥生	壺	-	-	-	ハケ目	縄文RL 沈線	断面実測	XVI-10 M31
28	弥生	壺	-	-	-	ナデ	縄文RL 沈線	断面実測	
29	弥生	壺	-	-	-	ナデ	縄文RL 沈線	断面実測	XVI-10
30	弥生	壺	-	-	-	ナデ	縄文RL 沈線	断面実測	
31	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	縄文RL	断面実測	
32	弥生	甕	(18.6)	-	(12.6)	ヘラミガキ	櫛描簾状文(2連止め)14本 櫛描波状文	回転実測	XVI-15 XVII-11 SB011WT13
33	弥生	甕	(19.0)	-	(5.3)	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描簾状文(2連止め) 櫛描波状文	回転実測	XVI-6 XVI-10
34	弥生	甕	(21.2)	-	(9.0)	ヘラミガキ	櫛描簾状文(2連止め)6本 櫛描波状文	回転実測	XVI-10
35	弥生	甕	(17.0)	-	(10.1)	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測	
36	弥生	甕	(19.2)	-	(6.8)	ヘラミガキ 磨耗	櫛描簾状文(1連止め)→櫛描波状文	回転実測	
37	弥生	甕	20.3	-	(24.2)	ヘラミガキ	頸部櫛描簾状文(1連止め)→口縁櫛描波状文→胴部左下がりの斜走文を右下がりの斜走文で重ね書き 口唇部刻目 下部ヘラミガキ	完全実測	XVII-6
38	弥生	甕	(17.0)	-	(9.9)	ヘラミガキ	櫛描斜走文→櫛描簾状文(2連止め)9本	回転実測	XVI-10 XVII-6
39	弥生	甕	-	(9.0)	(9.5)	ハケ目	ヘラミガキ	回転実測	
40	弥生	甕	-	-	-	ハケ目	櫛描斜線文→ヘラミガキ	断面実測	XVI-11
41	弥生	甕	12.5	5.3	14.9	ヘラミガキ	櫛描簾状文(2連止め)9本 櫛描波状文 ヘラミガキ	完全実測	
42	弥生	甕	12.3	5.6	15.2	ヘラミガキ	櫛描波状文(1連止め)9本→櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測	
43	弥生	甕	(13.0)	-	(9.1)	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描簾状文(2連止め)10本 櫛描波状文 ヘラミガキ	回転実測	
44	弥生	甕	(12.4)	-	(9.6)	ヘラミガキ	櫛描波状文 櫛描簾状文(1連止め)6本	回転実測	XVI-6 SB011WT12
45	弥生	甕	-	5.6	(6.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XVII-6
46	弥生	甕	-	6.8	(7.9)	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描波状文 ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	
47	弥生	甕	(19.2)	-	(15.4)	ヘラミガキ	櫛描簾状文(1連止め)7本 櫛描波状文	回転実測	XVII-6
48	弥生	甕	(15.6)	-	(6.2)	ヘラミガキ	櫛描波状文 櫛描簾状文(1連止め)11本	回転実測	
49	弥生	甕	(17.0)	-	(5.6)	ヘラミガキ 磨耗	櫛描簾状文(2連止め)11本 櫛描波状文	回転実測	
50	弥生	甕	-	-	(14.5)	磨耗	櫛描簾状文 櫛描波状文	回転実測	XVII-6
51	弥生	甕	-	7.0	(17.2)	ヘラミガキ	櫛描簾状文→櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測	XVI-5 M35XVI-10
52	弥生	甕	10.4	5.0	18.6	ヘラナデ	縄文RL ヘラ描沈線 ヘラナデ	完全実測	XVII-6
53	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文RL	断面実測	
54	弥生	甕	(22.4)	-	(12.8)	ヘラミガキ	縄文RL	回転実測	M35XVI-10 XVI-10 XVII-6 SB011WT13
55	弥生	甕	(16.2)	-	(6.6)	ヘラミガキ	縄文RL 口唇部に刻みあり	回転実測	
56	弥生	甕	(23.6)	-	(25.0)	ヘラミガキ	縄文(RL)→ヘラミガキ	回転実測	XVI-10 SB011WT12
57	弥生	甕	-	-	-	磨耗	縄文RL	断面実測	
58	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文RL 口唇部刻み	断面実測	SB011WT12

U11

第64表 U11遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

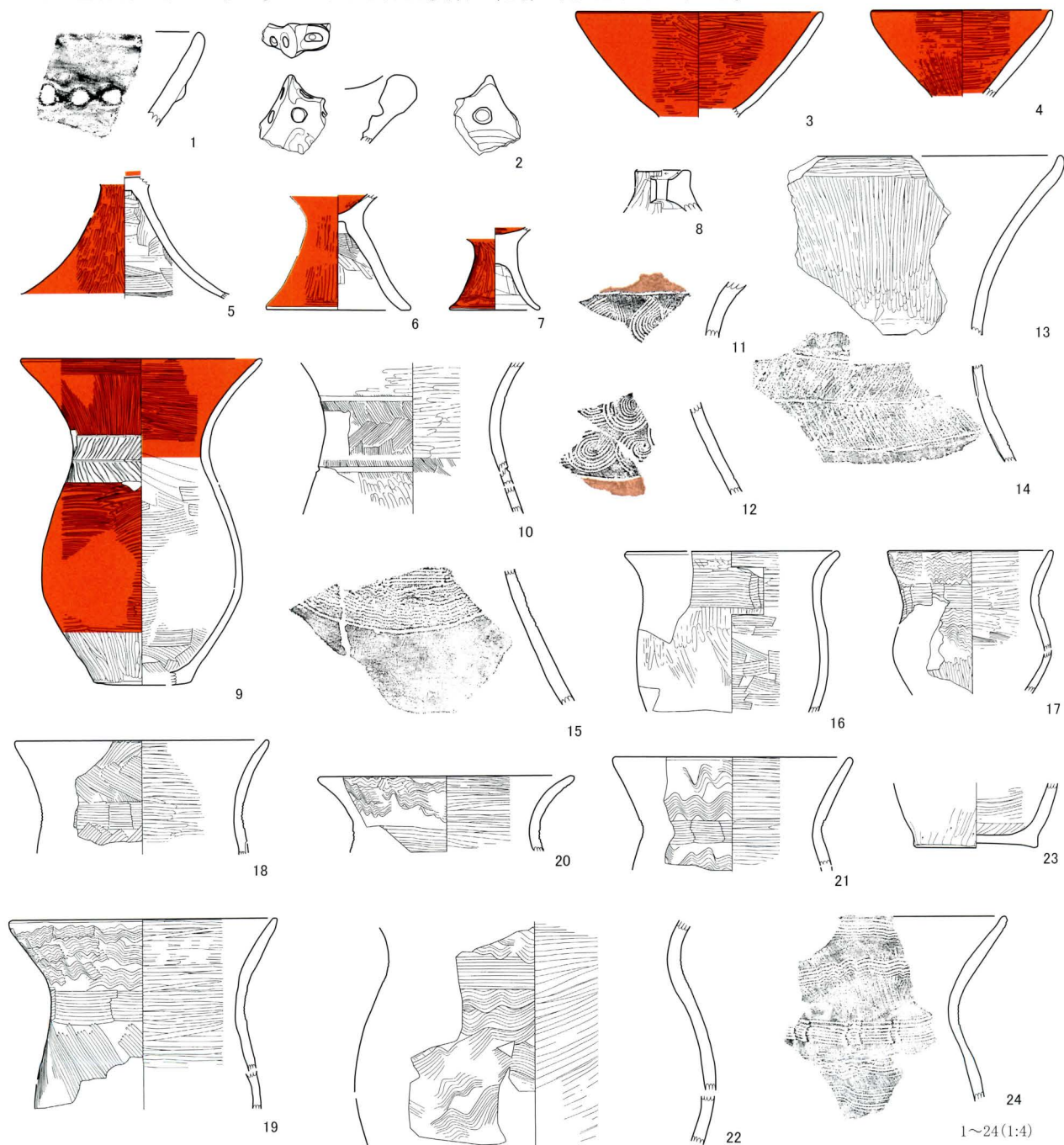
No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値()丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
59	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文RL 口唇部刻み	断面実測	
60	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文RL 楡描横線文	断面実測	
61	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文RL 楡描波状文	断面実測	
62	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文RL 楡描波状文	断面実測	
63	弥生	甕	-	-	-	ナデ	縄文RL	断面実測	XVI-6
64	弥生	甕	-	-	-	ナデ	縄文RL	断面実測	
65	弥生	甕	-	-	-	ナデ	縄文RL	断面実測	
66	弥生	甕	-	-	-	ヘラナデ	縄文RL	断面実測	
67	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文RL	断面実測	
68	弥生	甕	-	-	-	ヘラナデ	縄文RL	断面実測	
69	弥生	甕	-	-	-	ヘラナデ	縄文RL ヘラナデ	断面実測	
70	弥生	甕	-	5.8	(3.7)	磨耗	磨耗	完全実測	
71	弥生	甕	-	(4.0)	(2.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	
72	弥生	甕	-	7.7	(5.2)	磨耗	ヘラミガキ	完全実測	
73	弥生	甕	-	(6.0)	(8.4)	ミガキ	胴部ミガキ 底部ミガキ	回転実測	
74	弥生	台付甕	-	8.1	(8.1)	磨耗	磨耗	完全実測	
75	弥生	台付甕	-	-	(4.1)	坏部ヘラミガキ 脚部ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	
76	弥生	台付甕	-	(12.4)	(6.2)	ハケ目	磨耗	回転実測	M31
77	弥生	台付甕	-	(10.6)	(4.0)	ハケ目→ヘラナデ	ハケ目→ヘラナデ	回転実測	M35
78	弥生	台付甕	-	-	(6.1)	甕部ヘラナデ 脚部ヘラナデ	ハケ目→ヘラナデ	完全実測	
79	弥生	台付甕	-	-	(3.7)	甕部ヘラナデ 脚部ヘラナデ	ヘラナデ	完全実測	
80	弥生	台付甕	-	-	(3.8)	甕部ヘラミガキ 脚部ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	
81	土製品	匙	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	破片実測	
84	弥生	ミニチュア土器	-	(3.4)	(1.8)	ナデ	ナデ	回転実測	
85	縄文	浅鉢	-	-	-			断面実測	
86	縄文	浅鉢	-	-	-			断面実測	
87	縄文	浅鉢	-	-	-			断面実測	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
82	円板	土製品	4.0	4.5	0.7	19.43	ヘラミガキ 赤色塗彩		
83	円板	土製品	3.1	4.3	0.5	8.44	内面剥離 外面ヘラミガキ→赤色塗彩		
88	敲石?	花崗岩	6.2	4.6	1.4	55.48			
89	敲石	花崗岩	10.0	4.5	3.6	203.74	上下端部に敲打痕		
90	磨・敲石	砂岩	(6.8)	(4.4)	(2.6)	(116.87)	左～下側欠損 縁辺に敲打痕 正裏にすり面		
91	磨・敲石	硬質砂岩	9.5	4.6	2.4	146.96	上下端部に敲打痕 正裏にすり面		
92	磨・敲石	硬質砂岩	9.6	4.9	3.8	255.71	上下端部に敲打痕 正面稜上にすり面 浅い条痕あり		
93	磨石	砂岩	7.0	5.0	1.7	83.70	正面にすり面		
94	磨石	砂岩	8.0	3.4	2.4	89.49	正裏にすり面		
95	磨石	輝石安山岩	6.3	5.7	6.0	285.65	正面にすり面		
96	磨石	石英安山岩	7.7	4.5	3.3	172.65	正面にすり面 浅い条痕あり		
97	磨石	砂岩	8.4	4.9	3.1	189.90	正裏にすり面 正面に浅い条痕		
98	敲石?	輝石安山岩	8.7	4.8	2.7	195.42			
99	磨石?	灰色チャート	1.3	0.9	0.25	0.42	全体に擦れている		
100	台石	安山岩	(12.4)	(12.5)	(6.3)	(1320)	正面が使用面 正面と稜上に敲打痕 正面と左側にすり面		
101	石核	黒曜石	2.7	1.9	0.8	3.98	裏はボジー面		
102	管玉	碧玉	0.4	0.4	1.6	0.50	孔径 0.15		
103	袋状鉄斧	金属製品	(5.7)	(2.5)	1.8 素材厚 不明	(33.85)	刃部先端欠損		

また、遺物下からは顕著な掘り込みは確認されなかったが、U11の範囲内に弥生後期の所産と考えられる円形土坑が検出されている。D47～52号土坑がそれにあたり、いずれも同規模・同形態である。これらの土坑とUの関係は、D48とD50の覆土中に炭化物や骨粉が含まれていたことから、土坑掘り込みについても廃棄行為の一つとも考えられ、両者の間には何らかの関係があると考えられる。

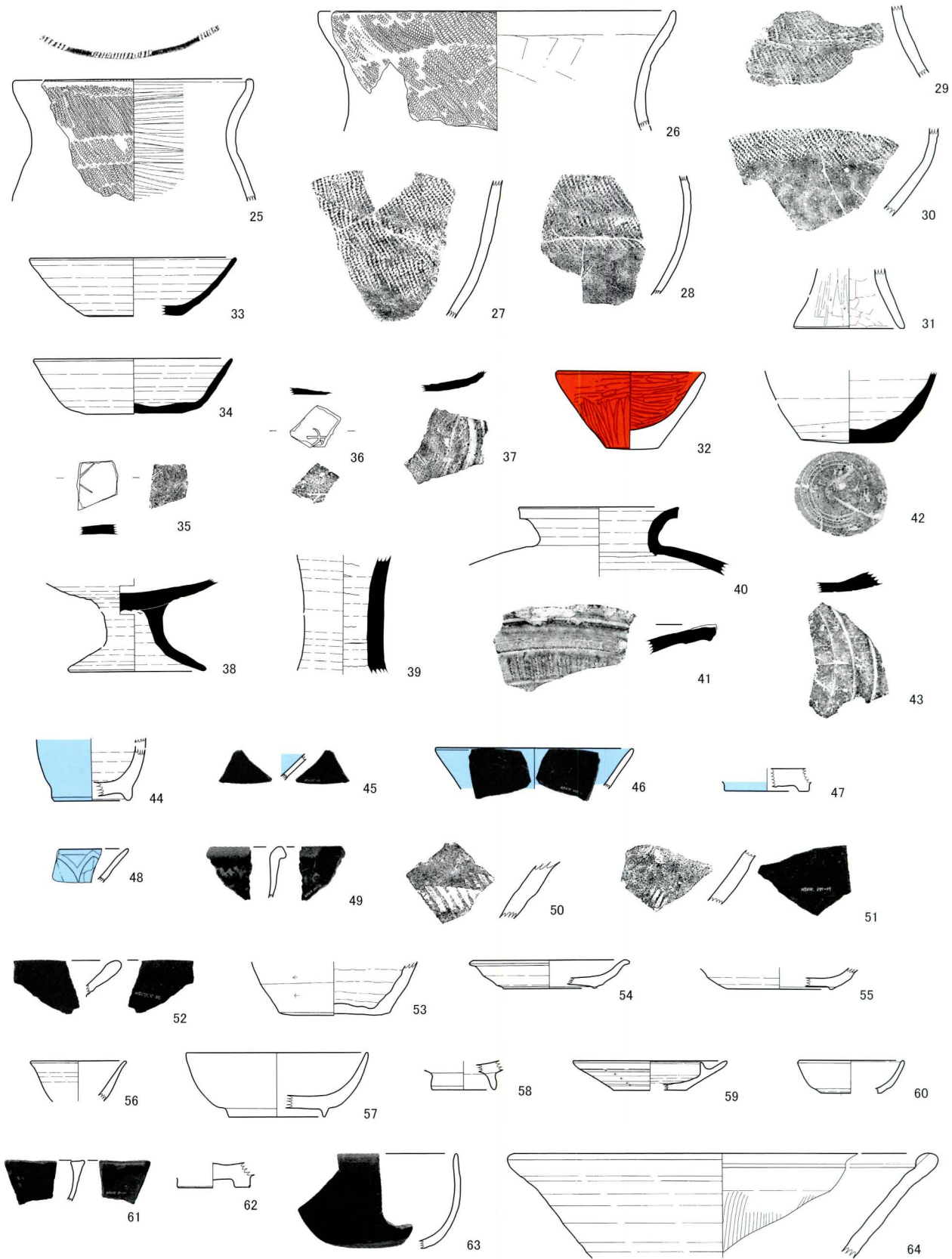
第8節 遺構外出土遺物

本遺跡の遺構外出土遺物として116点を図示した。遺物の所産時期は縄文、弥生後期、古代、中世、近世の多時期に及ぶが、当遺跡で検出された遺構の所産時期とほぼ対応する。

中でも注目される遺物として116の人面土器が挙げられる。試掘調査時に検出された遺物で、出土位置はⅧ・Ⅸ区の埋土保存区に当たる。人面土器は欠損しているものの頬より上の顔左半分が残存している。口の形状は穴で表現されていると思われるが詳細は不明。顔面を赤彩するが、額から鼻筋部分のみ無彩としているのが特徴である。本品の所産時期は、今回の調査区内には弥生中期の遺構が発見されておらず、顔に赤彩を施し、鼻の特徴も西一里塚遺跡群のものに似る。この事から弥生後期の範疇で捉えられると考える。



第150図 遺構外出土遺物実測図(1)



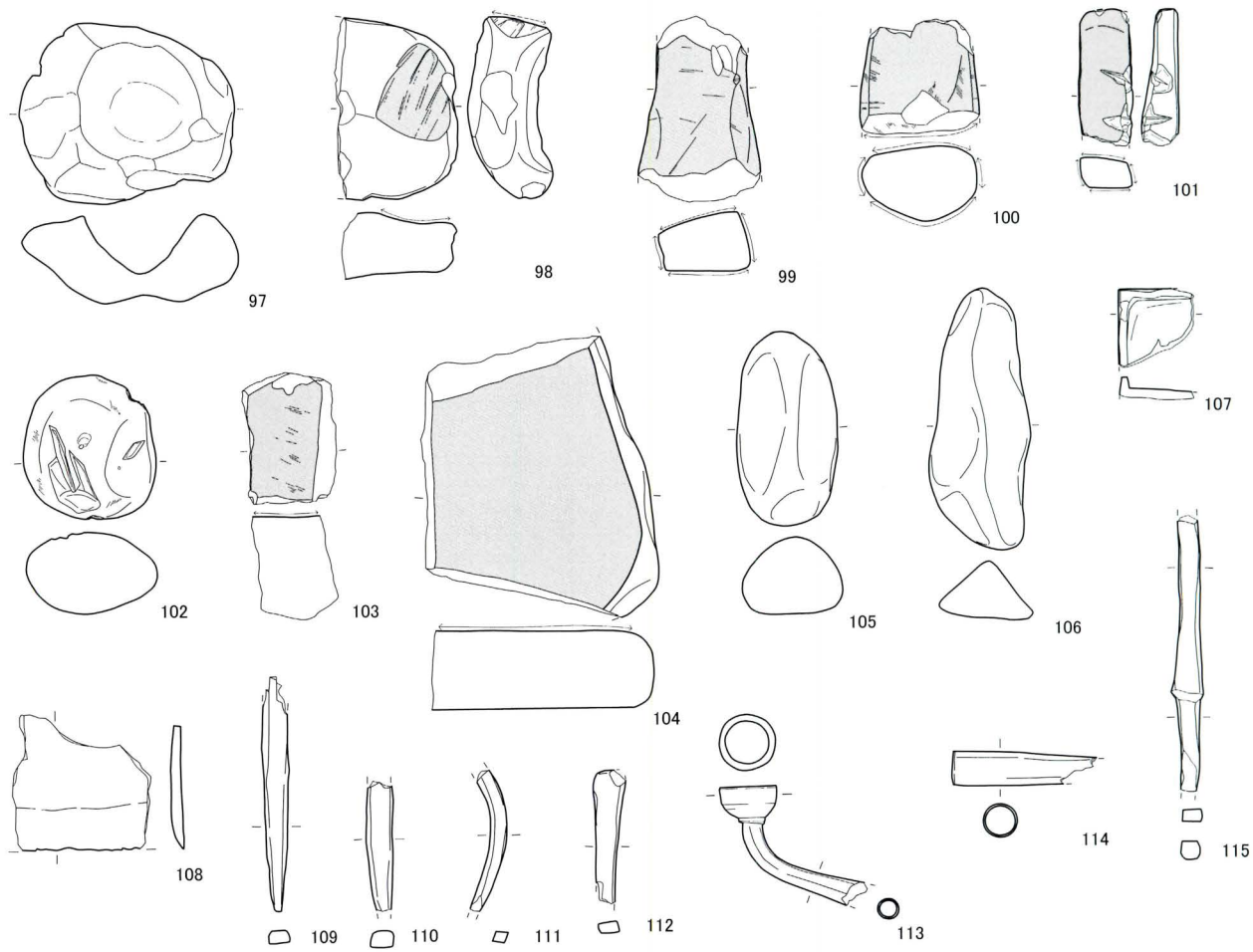
第151図 遺構外出土遺物実測図(2)

25~31・33~64 (1:4) 32 (1:2)

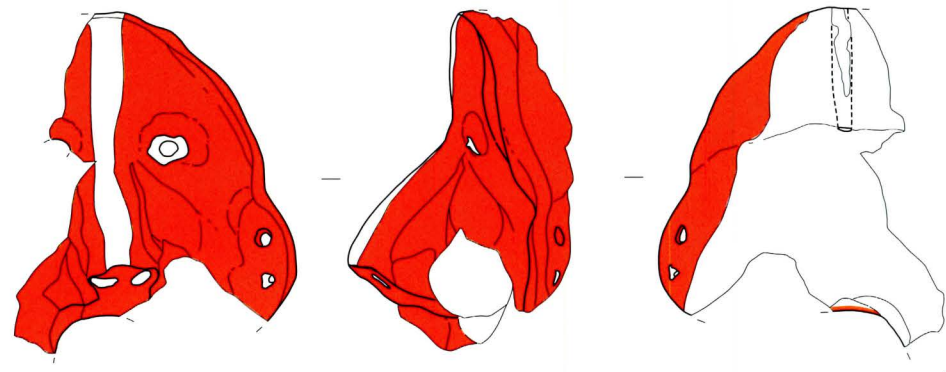
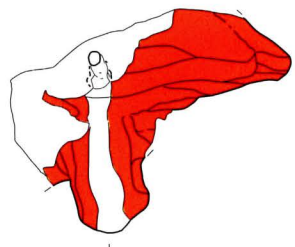


65~69 (1:1)
70·71 (1:2)
72~96 (1:4)

第152図 遺構外出土遺物実測図(3)



97~107 (1:4)
108~120 (1:2)



120

第153図 遺構外出土遺物実測図(4)

第65表 遺構外出土遺物観察表(1)

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値()丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	縄文	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→隆帯貼付	断面実測	X I -2
2	縄文	深鉢	-	-	-	ナデ 沈線	ナデ	破片実測	V-18
3	弥生	鉢	(15.6)	-	(6.7)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	回転実測	X I -25
4	弥生	鉢	(11.5)	-	(5.5)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	回転実測	M35XVI-10
5	弥生	高坏	-	-	(7.7)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	V-5クロ
6	弥生	高坏	-	(9.1)	(6.1)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ヨコナデ→ヘラナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測 磨耗	X I -21
7	弥生	高坏	-	5.8	(5.2)	坏部ミガキ→赤色塗彩 脚部ヘラナデ→裾部ヨコナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	X-25
8	弥生	蓋	-	つまみ(3.5)	(2.7)	ナデ	ヘラケズリ ミガキ	完全実測	XXII-5
9	弥生	壺	(15.1)	(6.0)	20.6	胴から底部ハケ目の残るナデ→頸部ナデ→口縁部ミガキ赤色塗彩	口縁と胴部ミガキ→赤色塗彩 胴下半と底部ミガキ 頸部ヘラ描横走平行線文・ヘラ描斜走文	回転実測	SB011 ET12
10	弥生	壺	-	-	(9.6)	ハケ目の残るナデ→口縁から頸部ミガキ	ミガキ 櫛描斜走文 ヘラ描横走平行線文	回転実測	XVII検出面 Ta3 II区 III区
11	弥生	壺	-	-	-	ナデ→口縁ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩 櫛描渦巻文 沈線	断面実測 12と同一個体	X I -3
12	弥生	壺	-	-	-	ハケ目の残るナデ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩 櫛描渦巻文 沈線	断面実測 11と同一個体	X I -2クロ X I -3
13	弥生	壺	-	-	-	ミガキ	ミガキ 沈線	破片実測 14と同一個体か	XII-22
14	弥生	壺	-	-	-	ハケ目の残るナデ→ミガキ	ミガキ 沈線 ヘラ描斜走文	断面実測 13と同一個体か	XII-22
15	弥生	壺	-	-	-	ハケ目の残るナデ	ミガキ 櫛描簾状文 櫛描波状文 ヘラ描沈線	断面実測	M25XVI-5
16	弥生	甕	(13.5)	-	(10.2)	ハケ目の残るナデ→口縁ミガキ	ハケ目の残るナデ→ミガキ 櫛描簾状文(2連止め)	回転実測	XXII-7 M7XXII-13
17	弥生	甕	10.5	-	(9.1)	ミガキ	ミガキ 櫛描簾状文(2連止め) 櫛描波状文	完全実測	XVII-5
18	弥生	甕	(15.8)	-	(7.2)	ミガキ	ハケ目の残るナデ 櫛描簾状文(1連止め) 櫛描斜走文	回転実測	X-25
19	弥生	甕	16.8	-	(12.2)	ミガキ	櫛描波状文 櫛描簾状文(1連止め)10本 櫛描斜走文	完全実測	XII-12
20	弥生	甕	(16.2)	-	(4.8)	ミガキ	櫛描簾状文 櫛描波状文	回転実測	XX I -18
21	弥生	甕	(15.1)	-	(7.2)	ミガキ	櫛描簾状文(1連止め)9本 櫛描波状文	回転実測	SB011WT12
22	弥生	甕	-	-	(14.3)	ミガキ	櫛描横線文10本 櫛描波状文	回転実測	X-19
23	弥生	甕	-	(7.8)	(4.1)	ミガキ	胴部ヘラケズリ→ミガキ 底部ミガキ 磨耗	回転実測	XII-12
24	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	櫛描簾状文(2連止め)7本 櫛描波状文	断面実測	M35 XVI-10
25	弥生	甕	(17.0)	-	(8.7)	ミガキ	口唇部に刻み RL縄文	回転実測	X I -3
26	弥生	甕	(25.0)	-	(8.4)	ナデ→口縁上部ヨコナデ	RL縄文	回転実測	XVI-14
27	弥生	甕	-	-	-	ナデ	ミガキ RL縄文	断面実測	XVI-14・15 M25XVI-4
28	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	ミガキ RL縄文	断面実測	XVI-5 XVII-1・6
29	弥生	壺	-	-	-	ナデ	RL縄文	断面実測	X-25
30	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	ミガキ RL縄文	断面実測	XXIII-1
31	弥生	台付甕(脚部)	-	(7.7)	(4.2)	ナデ	ヘラケズリ→ミガキ	完全実測 磨耗	X-19
32	弥生	ミチュア鉢	5.2	1.8	2.7	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	X I -3
33	須恵器	坏	(14.6)	(6.8)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測 内外面に火だすき有	XIX-15
34	須恵器	坏	(14.0)	(6.8)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後ナデ	回転実測	X-20
35	須恵器	坏	-	-	-	-	ナデ	破片実測 ヘラ記号あり	XXIII-2
36	須恵器	坏	-	-	-	-	回転ヘラケズリ	破片実測 ヘラ記号あり	XVII-16
37	須恵器	坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ヘラ切り後手持ちヘラケズリ	断面実測 ヘラ記号あり	XVI-15
38	須恵器	高坏	-	(9.8)	(6.5)	ロクロナデ 坏部スペースベシしている	ロクロナデ	完全実測	X I -11
39	須恵器	長頭壺	-	-	(8.3)	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ 自然袖付着	完全実測	XVII検出面
40	須恵器	横瓶	(11.2)	-	(4.9)	ロクロナデ ヨコナデ	ロクロナデ ヨコナデ 自然袖付着	回転実測	X I -11

第66表 遺構外出土遺物観察表(2)

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()残存値〈 〉丸底●	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
41	須恵器	甕か壺	-	-	-	ヨコナデ 自然釉付着	ヨコナデ 烈点文あり	断面実測	V-20
42	須恵器	壺	-	6.5	〈5.2〉	ロクロナデ	ロクロナデ→底部と底部外周回転ヘラケズリ	完全実測	XVI検出面
43	須恵器	不明	-	-	-	ナデ	ナデ	断面実測	XXIII-2
44	青磁	花瓶	-	(5.6)	〈4.3〉		施釉	回転実測(みこみ部自然釉付着)龍泉窯	XVI検出面
45	青磁	画花文	-	-	-	施釉	施釉	断面実測 12C後半 龍泉窯	XVI-6
46	青磁	画花文	(13.8)	-	〈2.9〉	施釉	施釉	回転実測 13C前半 龍泉窯	XVIII-1
47	青磁	碗	-	(6.0)	〈1.6〉	施釉	施釉	回転実測 13C後半~14C前半 龍泉窯	XXII-7
48	青磁	連弁文碗	-	-	-	施釉	施釉	破片実測 龍泉窯 13C	XX-11
49	陶器	緑釉盤	-	-	-	施釉	施釉	断面実測 北栗遺跡跡出土 13世紀 中国	XVII-16
50	陶器	甕	-	-	-	ナデ	タタキ目	断面実測 中世常滑	XXII-5
51	陶器	甕	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目	断面実測 中世常滑	XVI-19
52	陶器	捏ね鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	断面実測 内面自然釉付着 常滑 13C	V-20
53	陶器	甕か壺	-	(7.8)	〈3.8〉	輪積痕あり 自然釉付着	胴下半回転ヘラケズリ	回転実測 常滑	XVII-1
54	陶器	志野丸皿	(11.3)	(6.5)	2.0	施釉		回転実測 17C前半 瀬戸美濃	Z
55	陶器	志野丸皿	-	(7.4)	〈1.6〉	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉	回転実測 17C前半 瀬戸美濃	XXI 暗渠
56	磁器	小坏	(6.7)	-	〈2.8〉	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉	回転実測 17C後半 伊万里	XXII-7 暗渠
57	磁器	皿	(12.8)	(6.8)	4.5	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	回転実測 V期 18C末~19C前半 伊万里	XXII-7
58	磁器	呉器手碗	-	(4.6)	〈2.0〉	施釉	施釉	回転実測 17C後半 唐津	XVI-16
59	陶器	燈明皿	(10.7)	(5.0)	2.1	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→回転ヘラケズリ→口唇部施釉	回転実測 19C 前山	XXII-2暗渠
60	陶器	小碗	(7.4)	(4.2)	〈2.3〉	施釉(鉄釉ツケかけ)	ロクロナデ→施釉(鉄釉ツケかけ)	回転実測 18C末~19C後 前山	XXI 暗渠
61	陶器	香炉	-	-	-	ロクロナデ→口縁施釉(鉄釉)	ロクロナデ→施釉	断面実測 18C末~19C前 前山	VI-22
62	陶器	灰釉碗	-	5.1	〈1.8〉	施釉(灰釉ツケかけ)	ロクロナデ→底部切り離し後高台貼付→施釉(灰釉ツケかけ・高台はハケ塗)	完全実測 18C末~19C前 前山	XXI-25
63	陶器	灰釉碗	-	-	-	施釉(灰釉ツケかけ)	ロクロナデ→施釉(灰釉ツケかけ)	断面実測 18C末~19C前 前山	XXI 暗渠
64	陶器	播り鉢	(30.0)	-	〈7.5〉	ロクロナデ→播り目を刻む→施釉(錆釉?)	ロクロナデ→施釉(錆釉?)	回転実測 18C末~19C前 前山	XX-8
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置
65	石鏃	黒灰色チャート	2.4	2.0	0.35	1.16			X-3
66	石鏃	黒色緻密安山岩	3.1	1.8	0.3	1.60	先端欠損		XVI-20
67	石鏃	黒色緻密安山岩	〈2.0〉	〈1.4〉	〈0.3〉	〈1.03〉	先端・基部欠損		XVI-20
68	石鏃	黒曜石	〈1.7〉	〈1.5〉	〈0.3〉	〈0.59〉	先端・基部欠損		XVI-25
69	石鏃 未成品?	黒曜石	3.0	1.5	1.3	5.75			XXII-3
70	剥片	黒曜石	4.0	1.9	0.8	5.00	自然面が残る		XVII-1
71	原石	結晶質石灰岩	3.4	1.5	1.0	4.58			XVI-10
72	刃器	硬質砂岩	7.8	〈4.4〉	1.5	〈58.24〉	剥片利用の刃器 刃部磨滅		V-12
73	打製石斧	硬質砂岩	〈11.6〉	〈6.0〉	2.7	〈202.08〉	下部欠損		XI-1

第67表 遺構外出土遺物観察表(3)

(cm)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
74	打製石斧	輝石安山岩	(12.5)	(8.6)	(2.4)	(353.64)	基部欠損 磨滅部分あり 風化のためか	XVI-23
75	打製石斧	輝石安山岩	(4.3)	(5.9)	(1.1)	(42.10)	上下欠損	XVI-18
76	打製石斧	輝石安山岩	(11.3)	(7.7)	(1.8)	(183.67)	刃部に磨滅痕	X I -18
77	打製石斧	輝石安山岩	(8.4)	(6.4)	(1.6)	(139.15)	下部欠損 両側につぶれ痕	XVI-20
78	打製石斧	輝石安山岩	(6.0)	(6.6)	(0.9)	(72.68)	右側以外欠損	V-13
79	石棒	石英片岩	(6.4)	(3.0)	(2.6)	(89.27)	上下欠損	SB011WT11M
80	敲石	硬質砂岩	(6.9)	(8.1)	(5.2)	(320.50)	下端部～裏面欠損 上端部と正面に敲打痕	XVI-18
81	敲石	輝石安山岩	14.7	5.5	4.3	426.81	側面に敲打痕	X I -3
82	敲石	安山岩	11.2	5.1	4.1	319.98	上下端部に敲打痕	XVII-1
83	敲石	硬質砂岩	(10.8)	(6.0)	(2.7)	(210.70)	上部欠損 下端部に敲打痕	XXIII-7
84	敲石	硬質砂岩	8.0	2.5	(1.4)	(36.31)	裏面一部欠損 上下端部に敲打痕	XX I -25
85	磨・敲石	砂岩	5.5	2.8	2.3	47.06	上下端部に敲打痕	XVII-12
86	磨・敲石	輝石安山岩	(9.6)	(6.4)	(4.7)	(398.12)	被熱あり?裏面黒化 片側欠損 正面にすり面 縁辺に敲打痕	X I -10
87	磨・敲石	輝石安山岩	(9.9)	(5.8)	(2.3)	(199.16)	左側～下側欠損 正面にすり面 上端部に敲打痕	XXII-2
88	磨石	チャート	2.1	1.7	0.55	2.80	全体にすり 赤色の付着物あり	X-5
89	磨石	花崗岩	4.1	2.4	0.8	10.55	左側にすり面	X I -2
90	磨石	黒色多孔質安山岩	9.0	8.3	3.9	219.51	正面にすり面 正裏に削り状の使用痕	X-15
91	磨石	硬質砂岩	6.1	3.7	1.4	47.69	正面にすり面 左側に浅い条痕	X I -5
92	磨石	輝石安山岩	7.1	4.8	2.6	130.22	正面にすり面	XVII-1
93	磨石	硬質砂岩	8.9	5.0	3.3	186.74	正面にすり面	X-4
94	磨石	硬質砂岩	(9.8)	(4.3)	(1.8)	(96.85)	裏面欠損 正面にすり面 浅い条痕あり	XII-17
95	磨石?	砂岩	10.0	6.7	4.4	453.84	全体に滑らか すりか?	XVII-6
96	磨石	輝石安山岩	12.6	7.6	4.2	585.55	正面にすり面	XX I
97	凹石	軽石	9.8	11.4	高さ 4.8	139.71	凹径 6.3×6.1 凹深 3.2	X I -16
98	砥石	砂岩	(9.8)	(6.6)	(3.5)	(295.41)	片側欠損 正面と上端部に顕著な砥面	XVI-14
99	砥石	凝灰岩	(10.0)	(6.4)	(3.6)	(253.82)	砥面数4 上下欠損	X-5
100	砥石	砂岩	(6.2)	(6.3)	(4.0)	(205.41)	砥面数5(下部欠損後も使用) 上部欠損	XVI-10
101	砥石	凝灰岩	(7.3)	(2.9)	(2.0)	(50.47)	下部欠損 右側稜上に刻み状の条痕	XVI-22
102	軽石製品	軽石	7.8	7.0	4.4	107.64	全体にすり 正裏に削り状の使用痕	XVI-5
103	台石片	輝石安山岩	(7.1)	(5.0)	(5.5)	(295.57)	全周欠損 正面が使用面	V-12
104	台石	輝石安山岩	(15.0)	(12.5)	(4.2)	(1470)	3辺欠損 正面が使用面(すり面)	X I -6
105	編物石?	輝石安山岩	10.4	5.3	4.2	303.15		XVI-5
106	編物石?	輝石安山岩	14.0	5.4	3.7	280.92		XVI-20
107	硯	陶器	(4.2)	(3.9)	(1.2)	(17.03)	1隅を残し裏面まで欠損	XIII
108	鉞?	鉄	(3.7)	(3.7)	(0.3)	(7.95)	下辺以外は欠損	X I -16
109	角釘	鉄	(6.3)	(0.7)	(0.6)	(4.03)	上部欠損	XVI-18
110	角釘	鉄	(3.5)	(0.7)	(0.5)	(2.62)	上下欠損	XVI-9
111	角釘	鉄	(3.8)	(0.5)	(0.3)	(2.86)	上下欠損	XX I
112	鉄鏃?	鉄	(3.6)	(0.9)	(0.3)	(1.67)	下部欠損	XVI-14
113	煙管	銅	(4.7)	1.5	1.5 器厚 0.2~0.1	(5.00)	管部欠損	XXII-2
114	煙管	銅	(3.8)	0.9	0.9 器厚0.1	(2.22)	吸口部欠損	XXII-2
115	鉄鏃	鉄	(7.4)	(0.8)	0.7	(7.54)	上下欠損	XX I
116	古銭	銅	2.38	-	0.1	1.45	完形 紹聖元宝 1094(北宋)	XX I
117	古銭	銅	2.33	-	0.13	1.66	完形 至道元宝 995(北宋)	XVII-1
118	古銭	銅	2.38	-	0.12	2.53	完形 寛永通宝(新)	XXII-2
119	古銭	銅	2.51	-	0.13	3.29	完形 寛永通宝(新) 背に文「文銭」	XVII-21
120	弥生	人面土器	(9.1)	(7.4)	(6.0)		目・耳・鼻・口・頭頂を穿孔(耳は貫通) 赤色塗彩 破片実測	東T10 VIII・IX区

第V章 科学分析

第1節 種実・樹種鑑定

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

大豆田遺跡Ⅳ（長野県佐久市長土呂地内）は、浅間火山西南麓に認められる河川の開析等により形成された田切り地形末端付近の台地部に立地する。本遺跡は、これまでに実施された発掘調査により、主に弥生～平安時代の集落であることが明らかとされている。

本報告では、大豆田遺跡Ⅳの発掘調査で確認された土坑の年代、井戸址などから出土した木製品や種実遺体の種類および植物利用の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

I. 放射性炭素年代測定

1. 試料

試料は、弥生時代後期の箱清水式期とされる土坑（D48, D50）覆土より出土した炭化物2試料（試料番号1、2）である。炭化物試料は、D48（試料番号1）が炭化材（最大1cm角程度）と土塊、D50（試料番号2）が炭化材細片からなる。

放射性炭素年代測定には、D48（試料番号1）が1cm角程度の炭化材、D50（試料番号2）が板状を呈する炭化材（長さ1cm×幅1cm×厚さ0.5cm程度）をそれぞれ供した。

2. 分析方法

試料に土壌や根などの目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0（Copyright 1986-2013 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730±40年）を較正することである。また、暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算や再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ （ σ は統計的に真の値が68%、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3. 結果および考察

炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、D48（試料番号1）が $1,940 \pm 20\text{yrBP}$ 、D50（試料番号2）が $2,030 \pm 20\text{yrBP}$ である。また、暦年較正結果（ 1σ ）は、D48がcalAD 27 - calAD 81、D50がcalBC 53 - calAD 4である（表1）。

以上の結果から較正暦年代（ 1σ ）は、D48が紀元1世紀頃、D50が紀元前1世紀中頃から紀元1世紀初頭頃に相当し、小林（2009）を参考とすると、弥生時代後期前葉および弥生時代中期末～後期初頭頃という年代観が想定される。なお、今回の測定に供した炭化材は、いずれも辺材部が残存しない破片であったため、木材の使用（伐採）年代よりも古い値を示している可能性を考慮する必要がある。

II. 樹種同定

1. 試料

試料は、古代の掘立柱建物に伴う柱材、古代および中世の井戸址、近世の溝跡などから出土した木製品133点（試料番号1～133）である。このうち、試料番号84（D63No.14）は、元の形状が不明の木片で、保存状態も悪いことから、同じD63の分析対象外となっている木製品中より状態が良好なNo.18-3と差し替えを行っている。また、試料番号122は、肉眼観察時に形状や木取り、樹種が異なる2点（D20No.1-1、No.1-2）が認められたため、双方を分析対象としている。

2. 分析方法

木製品の木取りを観察した後、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3. 結果

同定結果を表2に示す。分析に供された木製品は、針葉樹6分類群（カラマツ、マツ属複維管束亜属、トウヒ属、ヒノキ、サワラ、ヒノキ科）と、広葉樹4分類群（コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、ケヤキ、カツラ）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・カラマツ (*Larix kaempferi* (Lamb.) Carriere) マツ科カラマツ属

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮導管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、柔組織、仮導管、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。放射柔組織の細胞壁は滑らかで、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に3-5個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylo*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

・トウヒ属 (*Picea*) マツ科

軸方向組織は仮導管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、柔組織、仮導管、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。放射柔組織の細胞壁は厚く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分野壁孔はトウヒ型で、1分野に3-6個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1-3個。分野壁孔は、孔口の長軸方向が垂直よりやや斜めになるものが多い。放射組織は単列、1-10細胞高。

・サワラ (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～スギ型で、1分野に1-3個。分野壁孔は、孔口の長軸方向が水平に近いものが多い。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は、スギ型、ヒノキ型、トウヒ型のいずれかであるが、保存が悪く孔口が壊れているため、詳細は不明である。放射組織は単列、1-10細胞高。

上記ヒノキ、サワラを含むヒノキ科のいずれかであるが、分野壁孔が観察できないことからヒノキ科とした。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小管管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。

4. 考察

木製品には、カラマツ、マツ属複維管束亜属、トウヒ属、ヒノキ、サワラおよびヒノキ科の針葉樹6分類群と、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、ケヤキおよびカツラの広葉樹4分類群の計10分類群が認められた。これらの分類群のうち、ヒノキやサワラは、現在の本遺跡周辺には生育していないものの、群馬県との県境地域には分布するとされる。トウヒ属も遺跡周辺には分布していないものの、浅間山周辺にトウヒ、群馬県との県境の山地にハリモミが分布するとされる。カラマツは、火山災害地などによく生育しており、浅間山周辺は国内でも数少ない自生地の一つである。マツ属複維管束亜属、コナラ節、クリ、ケヤキは人里周辺に普通に見られる種類であり、カツラは谷沿い等に生育する。

また、各分類群の材質的特徴についてみると、針葉樹のカラマツは、やや重硬で強度が高いが、早晚材部の材質差が大きく、加工がやや困難である。マツ属複維管束亜属は、軽軟～やや重硬で、強度と保存性が比較的高い。トウヒ属は、やや軽軟で強度は高いが、保存性は低い。ヒノキやサワラを含むヒノキ科は、木理が通直で割裂性および耐水性が高い。広葉樹のコナラ節、クリ、ケヤキは、重硬で強度が高く、クリやケヤキでは耐朽性も高いとされる。カツラは、広葉樹としてはやや軽軟で、強度や保存性は低い。

今回の分析に供された木製品は、伊東・山田(2012)の木器分類を参考とすると、容器(曲物、漆碗、碗?)、食器具(折敷)、建築部材(柱)、器種不明に分けられる(表3)。なお、井戸址より出土した板、杭および部材につ

いては、調査所見などからいずれも井戸枠の部材（施設材）と判断されており、出土位置が現位置を保つものについて部材の名称が付されている。

古代の資料は、井戸址（D20）から出土した椀？と、掘立柱建物跡に伴う柱穴より出土した柱材および器種不明がある。椀？は、破片であり、漆塗の痕跡は認められない。針葉樹のヒノキ科を利用することから、加工性の高い木材が選択されたと考えられる。なお、ヒノキ科は、漆器の木地としての利用例もあるが、多くは広葉樹が利用される（伊東・山田，2012）。また、柱材は、F18のP1，P2がヒノキ（芯去分割材）、P3がヒノキ科（形状不明）であった。この結果から、加工性や耐水性の高い木材の利用が推定される。なお、本地域では、古代の竪穴住居跡から出土した炭化材の調査事例が蓄積されており、聖原遺跡の9世紀後半や10世紀前半とされる竪穴住居跡等でヒノキ属やヒノキ科が確認されていた。今回の結果から、竪穴住居跡の建築材とともに、掘立柱建物跡の柱材としても針葉樹材が利用されていたこと明らかとなった。

中世の資料は、いずれも井戸址から出土しており、井戸枠の部材と考えられる木製品や廃棄されたとみられる木製品（折敷など）から構成される。井戸枠の部材である縦板、椀木および縦杭、部材の可能性のある板、杭、部材等についてみると、5基の井戸址から出土した資料はいずれも多く確認されたサワラをはじめ、ヒノキを含むヒノキ科を主体とする針葉樹材が多数を占める。詳細にみると、D8の芯持（角材）の杭、D63の芯持の縦杭や杭にはマツ属複雑管束亜属やカラマツが利用される。一方、芯去分割材で板状を呈する杭（椀木）や杭（縦杭）にはサワラやヒノキ科が利用されており、形状（木取り）によって樹種が異なるという特徴が認められる。また、D8やD9では、杭状を呈する資料（縦杭、椀木、杭など）にコナラ節等の広葉樹材が認められ、いずれも分割材（ミカン割）であるという共通するという特徴も確認された。

また、井戸枠の部材を除く木製品のうち、曲物の底板や側板にはサワラやヒノキ科が認められた。このような木材の利用は、加工性や耐水性の高いという材質等により選択されたと考えられる。折敷（底板）も基本的にはヒノキやサワラが利用されることから、曲物と同様の木材選択が推定される。なお、D63から出土した折敷（試料番号117；No.50-1）は、やや肉厚の椀目板であり、樹種もケヤキであるなど、上記した木材利用と異なる。上記した特徴やケヤキの利用を考慮すると、農耕土木具などの強度を要する器種の可能性がある。

本地域における中世の木材利用についてみると、井戸枠の部材の事例については隣接する道常遺跡においてサワラを主体としてカラマツやヒノキ科等の針葉樹材が確認されている（株式会社アーキジオ，2012）。この他、寺添遺跡の井戸出土木材にサワラを含むヒノキ属、西一本柳遺跡の井戸枠材（板材、横木等）にサワラが確認されており、本遺跡と同様の木材利用が窺える。また、トウヒ属は榛名平遺跡の中世～近世の加工木、カラマツは西一本柳遺跡の中世の用途不明の角材などに認められ（伊東・山田，2012）、調査事例は多くないものの、これらの針葉樹材の利用状況も類似する。

近世の資料は、溝状遺構（M55）から出土した漆椀1点である。漆椀は、木取りが横木地板目であり、木地は広葉樹のカツラであった。カツラは、軽軟で癖がなく、加工が容易であることから、利用されたと考えられる。

Ⅲ. 種実同定

1. 試料

試料は、古代および中世の井戸址から出土した種実遺体12試料（試料番号1～12）である。試料の詳細は結果とともに4に示す。

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）、清水ほか（2012）等を参考に実施する。結果は、分類群、学名、部位、状態、計測値、特徴等を一覧表で示し、写真を図版に示す。

3. 結果

同定結果を表4に示す。全12試料を通じて、被子植物4分類群（落葉広葉樹のオニグルミ、アンズ、ウメ、モモ）12個が同定された。栽培種は、D40 曲物内から、アンズの核が1個（試料番号8）、ウメの核が1個（試料番号7）、

モモの核が5個（試料番号5, 6, 9~11）の、計7個が確認された。以下に、確認された種実の形態的特徴等を記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

検出個体のうち、D20（3層；試料番号2~4）、D9（井戸枠内；試料番号12）の4個は、主に頂部を欠損する破片で、D9（井戸枠内；試料番号12）の表面は、頂部~側面が炭化し黒色を呈す。1本の明瞭な縦の縫合線がある広卵体で、頂部はやや尖る。破片の大きさは1cm以下。核は硬く緻密で断面は平滑。表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。核内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核（内果皮）の完形、破片が検出される。一方の側面にのみ縫合線が顕著に見られる。縫合線に沿って半分に割れている個体とそうでない個体がある。また、ネズミ類の食痕がある個体もある。内果皮は厚く硬く、外側表面は縦に流れる不規則な線状のくぼみがあり、全体として粗いしわ状に見える。

・ウメ (*Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et Zucc.) バラ科サクラ属

核（内果皮）の完形が検出される。灰頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達する。内果皮は厚く硬く、表面には円形の小凹点が分布する。

・アンズ (*Prunus armeniaca* L.) バラ科サクラ属

核（内果皮）の完形が検出される。ネズミ類の食痕がある。内果皮は厚く硬く、表面は粗面で不規則なくぼみがある。スモモに似るが縫合線の両側面が稜のようになるため、縦と横の比が小さく円形に近いことで区別される。

4. 考察

井戸址から出土した種実は、オニグルミと、栽培種のアンズ、ウメ、モモの計4分類群が確認された。

D20（1区、3層）やD9（井戸枠内）から出土した種実はオニグルミの核に同定された。オニグルミは、川沿い等の湿潤な肥沃地に生育する落葉高木である。堅果類のオニグルミは、子葉が生食可能で栄養価も高く、長期保存可能で収量も多い有用植物であることから、古くから利用され、遺跡出土例も多い。今回確認された出土核には打撃痕と思われる痕跡も認められることから、周辺域の森林より遺跡内に持ち込まれ、利用された可能性も考えられる。

また、中世の井戸埋桶（D40 曲物内）から出土した種実遺体には、栽培種のアンズ、ウメ、モモが確認された。これらの栽培種の種実の出土から、これらの果樹の栽培や利用が推定される。なお、井戸埋桶内から出土している状況から、遺構内への廃棄、または井戸祭祀等の行為も想定されるが、これらの行為の検討にあたっては、井戸址の埋積状況（過程）や種実遺体以外の遺物の出土状況の確認、さらに本地域における井戸祭祀に関わる民俗事例からの検証が望まれる。

引用文献

林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.

伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.

伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.

伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.

伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.

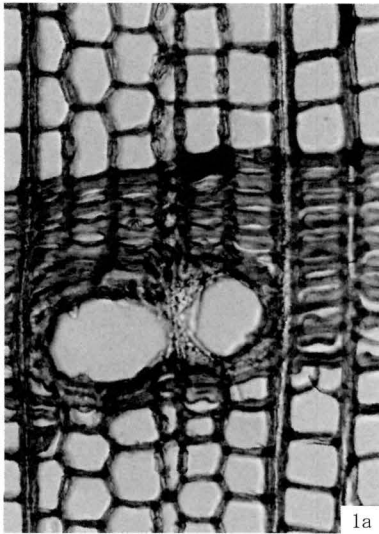
伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.

伊東隆夫・山田昌久（編）, 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.

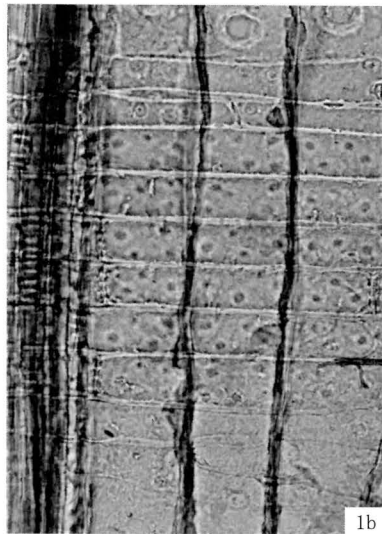
株式会社アーキジオ, 2012, 第Ⅷ章 科学分析. 周防畑遺跡群 若宮遺跡Ⅳ 道常遺跡 南近津遺跡Ⅲ 宮の前

- 遺跡 I・II, 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第198集, 佐久市教育委員会, 309-330.
- 小林謙一, 2009, 近畿地方以東の地域への拡散. 弥生農耕のはじまりとその年代 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻, 雄山閣, 55-82.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修, 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文, 2012, ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実ー形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実632種ー. 誠文堂新光社, 272p.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版1 木材(1)



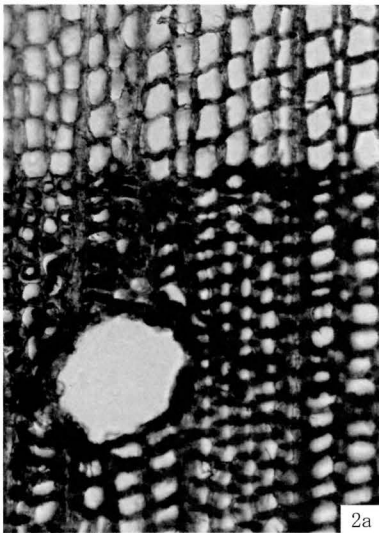
1a



1b



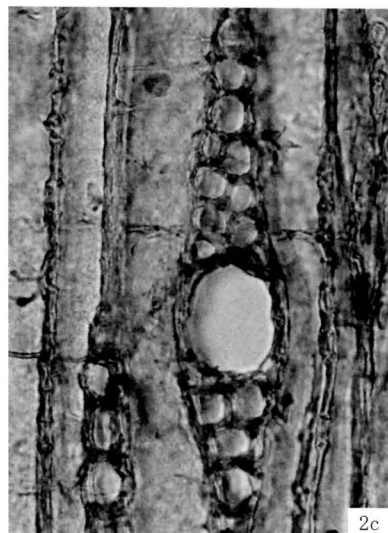
1c



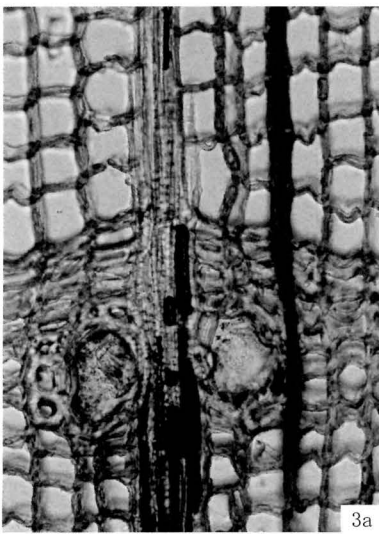
2a



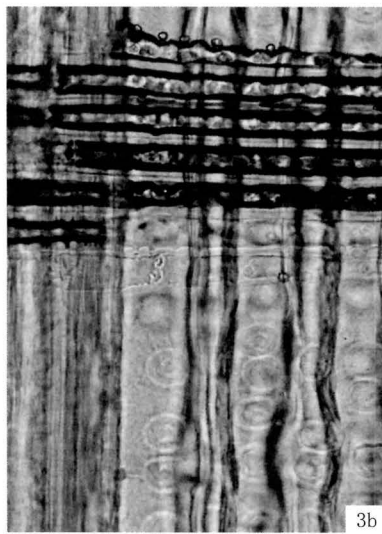
2b



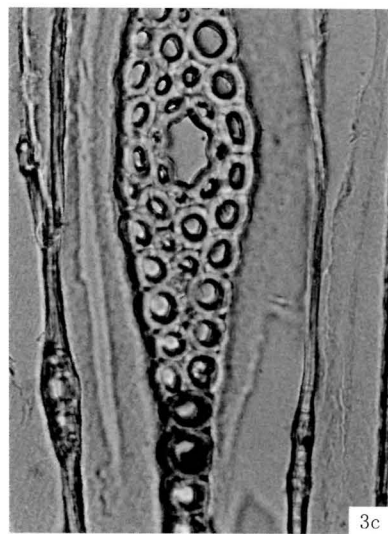
2c



3a



3b

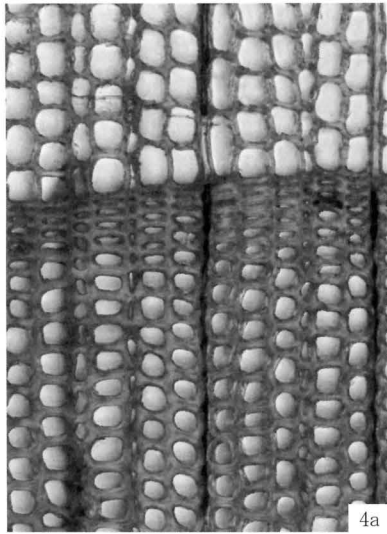


3c

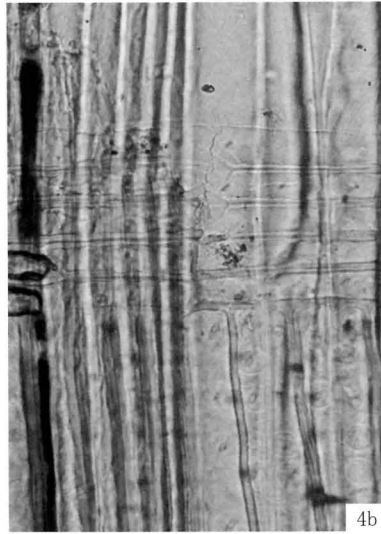
- 1. カラマツ (D63 No.28;99)
 - 2. マツ属複維管束亜属 (D63 No.26;97)
 - 3. トウヒ属 (D40 No.4-3;127)
- a: 木口, b: 柾目, c: 板目

100 μm: a
100 μm: b, c

図版2 木材(2)



4a



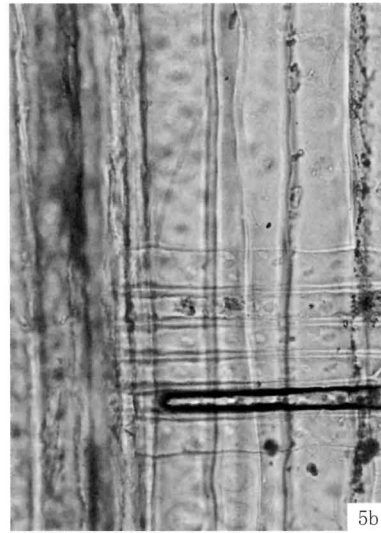
4b



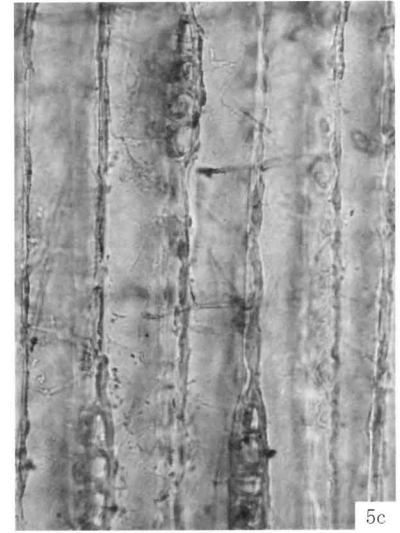
4c



5a



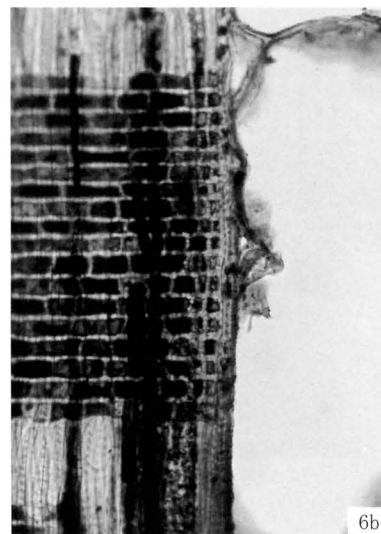
5b



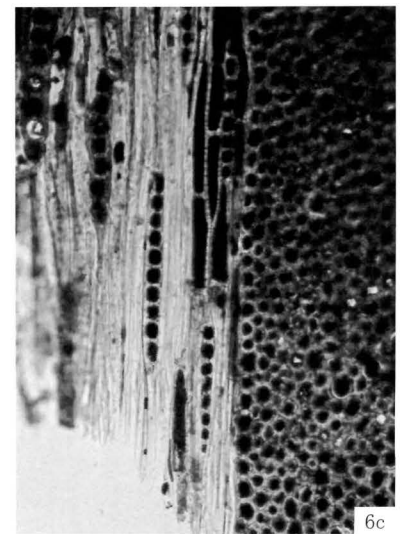
5c



6a



6b

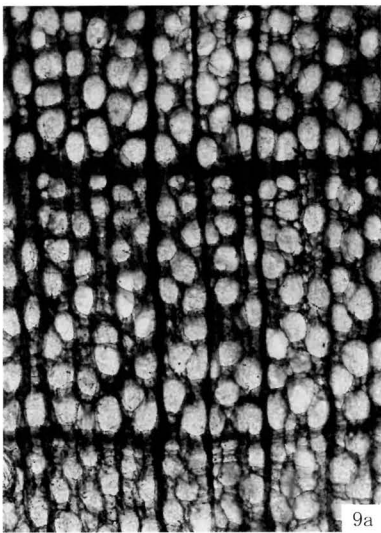
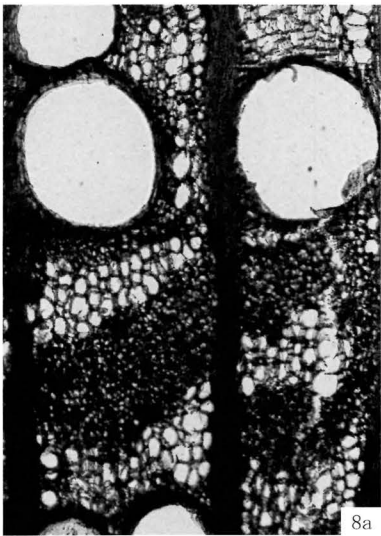
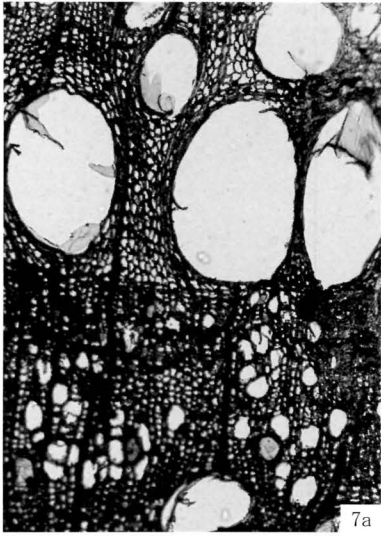


6c

4. ヒノキ (D8 No.21;46)
 5. サワラ (D6 No.2-2;3)
 6. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (D8 No.10;35)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

100 μm: 6a
 100 μm: 4-5a, 6b, c
 100 μm: 4-5b, c

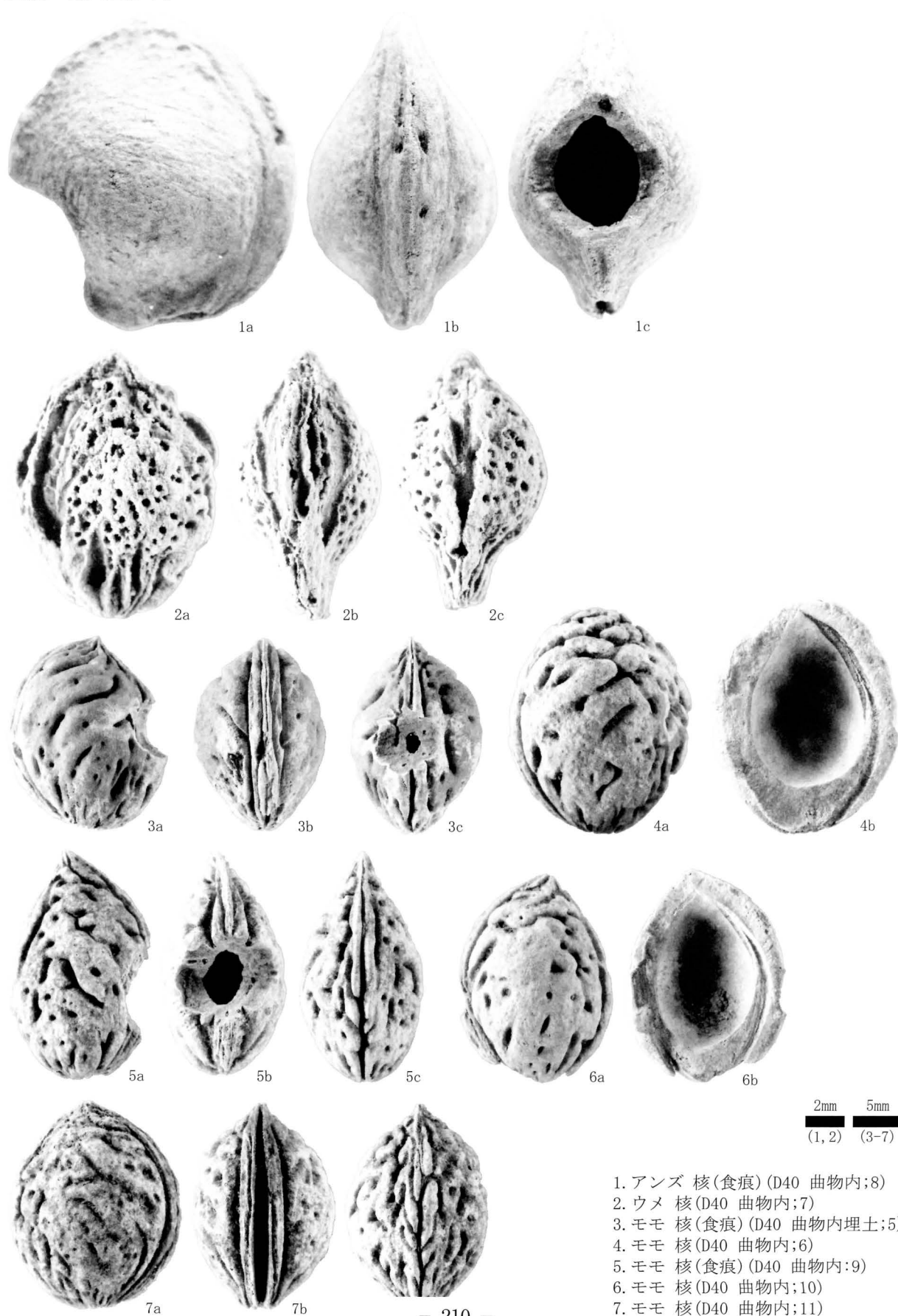
図版3 木材(3)



7. クリ (D9 No.42;68)
 8. ケヤキ (D63 No.50-1;117)
 9. カツラ (M55;133)
 a:木口, b:柀目, c:板目

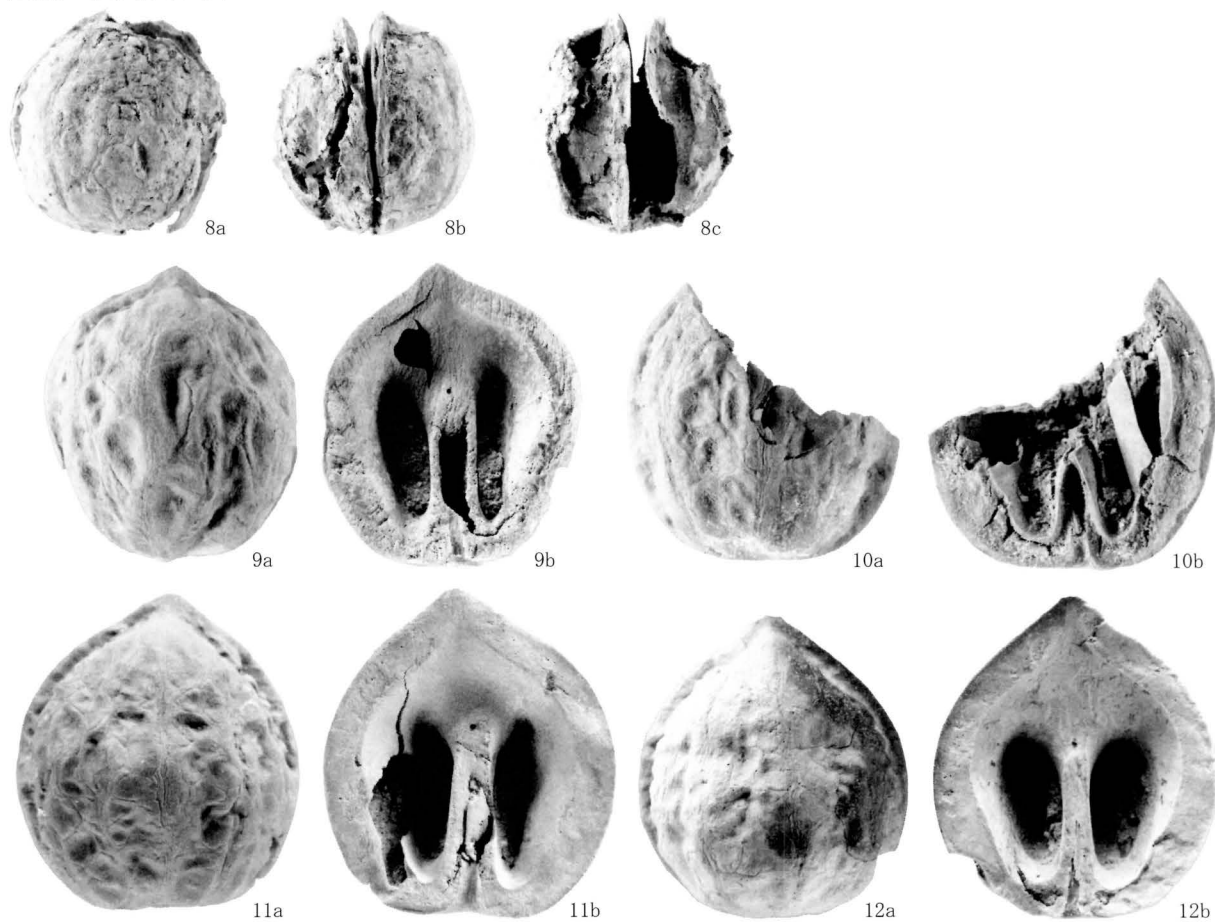
100 μm: a
 100 μm: b, c

図版4 種実遺体(1)



1. アンズ 核(食痕) (D40 曲物内;8)
2. ウメ 核 (D40 曲物内;7)
3. モモ 核(食痕) (D40 曲物内埋土;5)
4. モモ 核 (D40 曲物内;6)
5. モモ 核(食痕) (D40 曲物内;9)
6. モモ 核 (D40 曲物内;10)
7. モモ 核 (D40 曲物内;11)

図版5 種実遺体(2)



8. オニグルミ 核(D20 1区;1) 9. オニグルミ 核(D20 3層;2)
 10. オニグルミ 核(上部欠損)(D20 3層;3) 11. オニグルミ 核(D20 3層;4)
 12. オニグルミ 核(表面炭化・頂部、側部欠損)(D9 井戸枠内;12)

5mm

表1. 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	δ 13C (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果						相対比	測定機関 CodeNo.		
				σ	cal AD	27 -	cal AD	41	cal BP			1,923 -	1,909
試料番号1 D48 炭化材	1,940±20	-25.04±0.19	1,941±22	σ	cal AD	48 -	cal AD	81	cal BP	1,902 -	1,869	0.233	IAAA- 131807
					cal AD	9 -	cal AD	12	cal BP	1,941 -	1,938	0.767	
				2σ	cal AD	15 -	cal AD	93	cal BP	1,935 -	1,857	0.005	
					cal AD	97 -	cal AD	124	cal BP	1,853 -	1,826	0.874	
試料番号2 D50 炭化材	2,030±20	-26.07±0.16	2,030±23	σ	cal BC	53 -	cal AD	4	cal BP	2,002 -	1,946	0.005	IAAA- 131808
					cal BC	103 -	cal AD	28	cal BP	2,052 -	1,922	0.987	
				2σ	cal AD	40 -	cal AD	48	cal BP	1,910 -	1,902	0.013	

表3. 遺構別・器種別種類構成

分類群	古代(8世紀)				中世(13世紀)										
	D20		F18 F20		D6				D8						
	椀?	不明	柱	不明	曲物	板	杭	部材	不明	板	杭				
針葉樹	-	-	-	-	底	-	椀?	-	椀	-	縦板	-	縦杭	椀	-
カラマツ															
マツ属複維管束亜属															2
トウヒ属															
ヒノキ			2			3		1	1			3			1
サワラ						8		1			7	4	2		
ヒノキ科	1		1	1	1						2	3	1		
広葉樹															
コナラ節													4	3	
クリ															
ケヤキ		1													
カツラ															
合計	1	1	3	1	1	11	1	1	1	9	7	6	4	3	3

分類群	中世(13世紀)										中世		近世	合計
	D9			D63				D40			M55			
	曲物	板	杭	部材	折敷	板	杭	部材	不明	曲物	板	杭	漆椀	
針葉樹					底	縦板	縦杭	椀						
カラマツ								1						1
マツ属複維管束亜属								3						5
トウヒ属													1	1
ヒノキ					1	1	1			1				15
サワラ	1	20		1	2	2	4	14	1	4	1		2	78
ヒノキ科		2					1	2		1	1			18
広葉樹														
コナラ節				4										11
クリ			1	1										2
ケヤキ					1									2
カツラ														1
合計	1	22	1	6	2	4	6	17	4	5	3	1	2	134

表4. 種実同定結果

試料 番号	遺構	出土位置	分類群	部位	状態	数量 (個)	計測値*1			備考(特徴など)
							長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	
1	D20	I区	オニグルミ	核	完形未満	1	20.6 +	20.0 +	19.6	表面激しく摩耗
2	D20	3層	オニグルミ	核	破片	1	28.6	24.1	13.6 +	わずかに欠損(4時,隔壁)
3	D20	3層	オニグルミ	核	破片	1	20.1 +	26.9	12.2 +	欠損(8~2時,隔壁)
4	D20	3層	オニグルミ	核	破片	1	31.2	27.9	14.1 +	わずかに欠損(7時,隔壁)
5	D40	曲物内埋土	モモ	核	完形	1	19.7	15.5 +	13.1	背面:ネズミ類食痕
6	D40	曲物内	モモ	核	半分	1	22.7 +	18.1	8.8	頂部わずかに欠損
							16.7	11.2	5.2	核内面の種子の窪みの大きさ
7	D40	曲物内	ウメ	核	完形	1	13.3	10.1	7.5	表面には円形の小凹点が分布
8	D40	曲物内	アズ	核	完形	1	15.8	14.3	9.6	表面は粗面,背面(下部):ネズミ類食痕
9	D40	曲物内	モモ	核	完形	1	23.2	14.0 +	12.5	頂部尖る,腹面:ネズミ類食痕
10	D40	曲物内	モモ	核	完形未満 (ほぼ半分)	1	20.8	15.6	7.5 +	縫合線に沿わず割れる,半分厚6.5mm
							15.1	9.1	3.3	核内面の種子の窪みの大きさ
11	D40	曲物内	モモ	核	完形	1	21.1	17.0	14.3	頂部はやや尖り,丸みがある
12	D9	井戸枠内	オニグルミ	核	破片	1	29.5	25.9	13.1 +	表面一部炭化(頂部~側面), わずかに欠損(12時,6~8時)

*1:計測はデジタルノギスを用いた。欠損部は残存値に「+」で示す。

*2:オニグルミ核の欠損部位は、半割面を12等分し、時計の短針に準ずる(上部(頂部)が12時、下部(基部)が6時を示す)。

表2-1 樹種掲載(1)

遺構名	No.	器種	法量(cm)			木取り	種類・備考 (分類群)	出土No. (名称)	遺構名	No.	器種	法量(cm)			木取り	種類 (分類群)	出土No. (名称)
			縦	横	厚み							縦	横	厚み			
D6	1	杭	37.3	5.2	3.5	分割材	ヒノキ	No.1	D9	2	不明	34.7	5.3	0.7			No.3
	2	板	36.5	8	0.3	板目	ヒノキ	No.2-1		3	部材	71.5	5.2	2.7			No.4
	3	板	34.5	6.3	0.3	板目	サワラ	No.2-2		4	板	21	4	0.5			No.6
	4	板	37.5	12	0.5	板目	サワラ	No.3		5	板	26.5	3.6	0.3			No.7
	5	不明	37	15.5	3.2	板目	サワラ	No.4		6	板	35.8	3.7	0.3			No.8
	6	栈木	93.5	6.3	3.8	板目	ヒノキ	No.5		7	板	22.2	4.8	0.7			No.9
	7	板	47.7	12	2	板目~板目	サワラ	No.6		8	板	72	7.3	0.9			No.10
	8	板	33	4.4	0.8	板目	ヒノキ	No.7		9	板	40.3	6.3	0.3			No.11
	9	板	45	3.8	1	板目	ヒノキ	No.8		10	板	42	8.2	0.8			No.12
	10	板	46.5	9.5	1.2	板目	サワラ	No.9		11	板	18.5	4.3	1.3			No.13
	11	板	35.8	10.7	0.6	板目	サワラ	No.10		12	板	40	16.5	3.3			No.15
	12	栈木?	73	7	4.2	分割材	サワラ	No.11		13	不明	23.2	5.5	0.5			No.17
	13	不明	20.5	18.2	2.3	板目	サワラ	No.12		14	不明	27.5	2.7	1.8			No.18
	14	不明	24.7	13	3.2	板目	サワラ	No.13		15	杭	64	5.2	2.1			No.21
	15	不明	24	15.8	4	板目	ヒノキ科	No.14-1		16	板	61.5	9.8	1.8	板目	サワラ	No.22
	16	不明	23	11.3	10.5	分割材	サワラ	No.15		17	部材	59	10.5	1	板目	サワラ	No.23
	17	不明	30.8	13	2.5	板目	サワラ	No.16		18	板	26	16.5	0.5	板目	サワラ	No.24
	18	不明	31.5	15.2	3.7	板目	サワラ	No.17		19	板	57.8	17	1.5	板目	サワラ	No.25
	19	板	34.5	17.8	3.5	板目	サワラ	No.18		20	板	65	10	2.3	板目	サワラ	No.26
	20	板	26.4	12.6	3.5	板目	サワラ	No.19		21	板	53.6	10.5	1.5	板目	サワラ	No.27
	21	板	54	7.8	1	板目	サワラ 一部炭化	No.20		22	板	64	11	0.8	板目	サワラ	No.28
	22	不明	26.5	1.6	0.8			一括1		23	板	87.5	15.5	1	板目	サワラ	No.29
	23	部材	29.5	4.8	2.5			一括2		24	杭	73.7	4.5	2.5	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.30
	24	不明	16.4	13.2	2			一括3		25	杭	20.6	4.5	1.8	分割材	クリ	No.31
	25	不明	30.8	11.3	3.5			一括4		26	板	51.5	9.2	0.5	板目	サワラ	No.32-1
	26	杭	24.8	10.6	9			一括5		27	板	43.5	7.5	0.5			No.32-2
	27	不明	26.7	13.3	3	板目	サワラ	一括6		28	板	29.6	6.5	0.5			No.32-3
	28	杭	22	4.8	3			一括8		29	板	43	11.2	2.4	板目	サワラ	No.33-1
	29	杭	19.7	10.3	8.4			一括12		30	不明	42	2.7	2			No.33-2
	30	杭	18.3	8	1.5			一括7		31	板	37.7	10.6	1.2	板目	ヒノキ科	No.34-1
	31	不明	23	13.3	3			一括11		32	板	30.5	7	1			No.34-2
	32	曲げ物底	22.5	10.2	0.8	板目	ヒノキ科 柿渋痕?有	一括9		33	板	69.3	16.2	1.3	板目	ヒノキ科 一部炭化	No.35
	33	不明	9.3	4	1.2	板目	ヒノキ科	No.14-2		34	部材	51.8	12.9	0.8	板目	サワラ	No.36-1
	34	不明	12.2	1.5	0.2			一括10		35	板	50.4	4.2	1			No.36-2
D8	1	縦板	51.5	20.7	3	板目	ヒノキ科 一部に樹皮	No.1	36	板	37.5	6.5	0.8			No.36-3	
	2	縦板	51.4	31.1	3.8	板目	ヒノキ科	No.2	37	板	54.8	17.2	2.3	板目	サワラ	No.37	
	3	板	52.5	12.5	2.5	板目	ヒノキ	No.3	38	杭	76	6.5	3.2	分割材	サワラ	No.38	
	4	縦杭	44.8	7.8	7.4	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.4	39	板	68.5	45.5	3.7	板目	サワラ	No.39	
	5	栈木	76	4.2	3.5	板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.5	40	板	57.8	16.2	1.4	板目	サワラ	No.40	
	6	縦板	52.3	29.5	2.8	板目	サワラ	No.6	41	杭	58.2	5	2.6	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.41	
	7	板	56.5	40	3.7	板目	サワラ	No.7	42	栈木?	54.5	5.2	3	分割材	クリ	No.42	
	8	板	53.5	20.5	2.3	板目	サワラ	No.8	43	杭	73.2	4.8	4.1	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.43	
	9	板	34	9.5	1.7	板目	ヒノキ科	No.9-1	44	板	49.7	32.2	3.6	板目	サワラ	No.44	
	10	板	41	8.8	1.7	板目	ヒノキ	No.9-2	45	板	51.6	4.8	0.6	板目	サワラ	No.45-1	
	11	栈木	78.5	5	3.5	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.10	46	板	43.5	5.1	0.6	板目	サワラ	No.45-2	
	12	杭	44.6	4.3	1.5	板目	ヒノキ	No.11	47	板	38.8	4.7	0.5	板目	サワラ	No.45-3	
	13	縦板	53.1	30.3	2.6	板目	サワラ	No.12	48	杭	74	5.2	2.6	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.46	
	14	縦板	65.5	35.5	2.8	板目	ヒノキ科	No.13	49	板	67.2	13.5	1	板目	サワラ	No.47	
	15	縦杭	44	8	6.8	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.14	50	板	92.5	11	1.2	板目	サワラ	No.48	
	16	栈木	88.4	6.5	4.5	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.15	51	板	33.4	5.6	0.3	板目	サワラ	No.49	
	17	縦杭	73.3	8.3	7.5	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.16	52	板	36	8.7	0.5	板目	サワラ	No.51	
	18	縦杭	56	8.8	7.4	分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.17	53	板	42.3	7.3	0.5			最下層1	
	19	杭	49.5	8.5	6.8	芯持材	マツ属複雑管束亜属	No.18	54	杭	61.7	5.5	2.5			最下層2	
	20	縦板	71.5	27.7	2.2	板目	サワラ	No.19	55	板	47.5	5	0.7			最下層3	
	21	縦板	64.6	34	1.2	板目	サワラ	No.20	56	板	44.8	8.2	1			最下層4	
	22	板	62.5	12.6	1.4	板目	ヒノキ	No.21	57	板	32.7	5.5	1			最下層5	
	23	杭	50.2	9	8.5	芯持角材	マツ属複雑管束亜属	No.22	58	板	42.2	5	1			最下層6	
	24	不明	20	3.6	1			底1	59	板	38.6	4.5	0.7			最下層7	
	25	不明	9.6	2.2	1.8			底2	60	板	49.4	8.8	0.7			最下層8	
	26	不明	6.5	1.7	0.4			底3	61	不明	53.6	2.9	0.7			最下層9	
	27	不明	12.8	2.3	0.3			底4	62	杭	47	9.5	3.5			最下層10	
	28	箸?	19.5	0.5	0.3			一括-1	63	板	33	8.1	0.6			最下層12	
D9	1	不明	31.2	8.5	1.8			No.2	64	部材	35	4.8	1			最下層13	

表2-2 樹種掲載 (2)

遺構名	No.	器種	法量(cm)			木取り	種類・備考 (分類群)	出土No. (名称)	遺構名	No.	器種	法量(cm)			木取り	種類 (分類群)	出土No. (名称)
			縦	横	厚み							縦	横	厚み			
D9	65	板	29	8	0.7			最下層14	40	杭	68	10.5	1.5	板目	サワラ	No.37	
	66	板	25	8.5	0.8			最下層20	41	縦板	44	13.8	1.3	板目	サワラ	No.38	
	67	杭	19	6	0.3			最下層24	42	縦板	111	35	3.8	板目	ヒノキ科	No.39	
	68	曲げ物側	22.5	9	1	柱目	サワラ	No.50	43	板	106.2	35	3.8	板目～柱目	サワラ	No.40	
	69	折敷?	18	5.3	0.5			最下層23	44	杭	59.6	5.4	0.8			No.41	
	70	折敷?	17.3	2.9	0.5			最下層26	45	栈木	83.4	5	4.7	分割材	サワラ	No.42	
	71	不明	10.7	6.1	0.3			No.1	46	栈木	83.1	5.5	4.2	分割材	サワラ	No.43	
	72	板	14.3	5.7	0.5			No.5	47	杭	83	5.5	3.8	分割材	ヒノキ科	No.44	
	73	杭	17.7	3.3	2			No.14	48	板	95.5	12.5	1.3			No.45	
	74	板	11.8	2.7	0.5			No.16	49	杭	82.7	4.8	4.4			No.46	
	75	板	8	2.6	0.2			最下層11	50	部材	33.9	2.3	0.7	柱目	ヒノキ	No.47-2	
	76	杭	14.5	9.2	2.2			最下層15	51	杭	58.3	14.1	2			No.48	
	77	板	11.3	7	0.8			最下層16	52	板	95.6	12.9	1.2			No.51	
	78	板	14	5.7	1			最下層17	53	板	74.7	13.2	1.2	板目	サワラ	No.52	
	79	板	16.6	9.3	0.5			最下層18	54	板	74	8.6	0.5	板目	サワラ	No.54	
	80	部材	8.4	4.3	1.3			最下層19	55	板	41.7	13.8	0.8			一括-1	
	81	部材	12	5	0.8			最下層21	56	板	32.2	5.2	0.5			一括-2	
	82	部材	23	5.7	0.8			最下層22	57	不明	28	3.6	0.4			一括-4	
	83	部材	12.2	2	0.5			最下層27	58	不明	26.5	1.5	0.5			一括-5	
	84	板	13.6	6.7	0.5			木枠	59	不明	26.3	4.2	0.5			一括-6	
	85	杭	15.8	2	0.5			最下層25	60	部材	31.6	4.8	0.5			一括-8	
	D63	1	栈木	76.5	4.3	4	分割材	サワラ	No.7	61	不明	28.7	5.7	0.5			一括-9
		2	杭	81	4.1	3.5			No.8	62	折敷	33.9	11.8	0.7	柱目	サワラ	No.47-1
		3	栈木	81	5.3	4.5	分割材	サワラ	No.10	63	折敷	20.8	15.8	0.8	柱目	ケヤキ	No.50-1
		4	栈木	82	4	2.5	分割材	ヒノキ科	No.11	64	折敷	33.7	24.4	0.8	柱目	サワラ	No.55
5		不明	77	18.6	1.3	柱目	サワラ	No.13	65	折敷	32.5	14	0.7	柱目	ヒノキ	一括-3	
6		板	62.3	17	1.6	柱目	サワラ	No.15	66	板	7.3	2.8	0.8			No.5	
7		縦板	81	18.2	1.5	柱目	サワラ	No.16	67	板	16.4	6.2	1			No.6	
8		板	96.8	33.2	3.9	柱目	サワラ	No.17	68	杭	42.6	7.2	2.2			No.9	
9		縦板	110.8	46.2	5.2	板目～柱目	サワラ	No.18-1	69	不明	8	1.9	0.8			No.12-1	
10		板	60.3	16.5	1	柱目	サワラ	No.18-2	70	不明	8.2	1.7	0.8			No.12-2	
11		不明	46.2	6.8	0.4	柱目	サワラ	No.18-3	71	木片	3	1	0.2			No.14	
12		板	80.5	10.5	2.4	板目	サワラ	No.19-1	72	不明	7.3	2.3	0.3			No.19-4	
13		板	64.5	6.1	0.3			No.19-2	73	不明	14.7	1.5	0.8			No.24	
14		板	57.1	5	0.3			No.19-3	74	不明	11.5	2.3	0.6			No.32-2-3	
15		板	97.3	18.2	2.4	柱目	ヒノキ科	No.20	75	不明	6.8	6	0.5			No.50-2	
16		板	69.6	12.9	3.3	板目	サワラ	No.21	76	不明	7.5	7.3	1.2			No.50-3	
17		板	73.8	12.1	0.5	板目	サワラ	No.22-1	77	不明	3.2	8.1	0.9			No.50-4	
18		板	46.5	7.4	0.5	板目	サワラ	No.22-2	78	不明	22.8	2.8	0.7			No.53-1	
19		不明	46.7	5	0.5			No.22-3	79	不明	6.7	4.7	1			No.53-2	
20		縦杭	101.2	18.5	1.8	柱目	サワラ	No.23	80	不明	15	3.5	3			一括-7	
21		縦杭	71.3	10	8.8	芯持角材	マツ属複雑管束亜属	No.25	81	不明	20.4	3.3	0.4			一括-10	
22		縦杭	70.7	12.1	9.8	芯持角材	マツ属複雑管束亜属	No.26	D20	1	腕?	9.2	5.1	0.2	破片	ヒノキ科	No.1-1
23		縦杭	78.2	11.5	10.7	芯持角材	マツ属複雑管束亜属	No.27		2	不明	6	3.5	0.3	柱目	ケヤキ	No.1-2
24		杭	119.2	12	10.3	芯持材	カラマツ	No.28		3	木片	4.2	1.5	0.1			No.2
25		板	72.6	14	2.5	板目	ヒノキ科	No.29	D40	1	栈木	82.5	7.5	6.3	分割材	サワラ	No.1
26	板	68.2	7.8	1.2	柱目	サワラ	No.30	2		栈木	86.7	6	5.3	分割材	サワラ	No.2	
27	板	44	12.2	1.5	柱目	サワラ	No.31	3		栈木	83.8	8.5	4	分割材	サワラ	No.3	
28	板	74.5	37	3.3	板目	サワラ	No.32-1	4		栈木	86	6.2	5.3	分割材	サワラ	No.4-1	
29	不明	35.5	4	0.8			No.32-2-1	5		板	40.3	6.2	1.2			No.4-2	
30	不明	37.5	3.3	0.3			No.32-2-2	6		板	38.3	5	0.9	柱目	トウヒ属	No.4-3, 4	
31	不明	50.2	10.7	1.2			No.32-3-1	7		不明	70	6.3	5.3			一括-1	
32	不明	45.2	6.7	1.3			No.32-3-2	8		曲げ物側	64.2	14	0.5	柱目	ヒノキ科 埋桶	No.5	
33	板	79.7	37.9	4.1	板目	ヒノキ	No.33	D71	1	不明	37	4	3.3			木-1	
34	縦板	75	16.2	2.6	板目	ヒノキ	No.34		2	不明	27.7	4.3	4			木-2	
35	縦板	79.7	34.2	3.2	板目	サワラ	No.35	F18	1	柱	16.2	10.3	4	分割材	ヒノキ	P1No.1	
36	板	77.3	29.7	3.5	板目	サワラ	No.36-1		2	柱	7	2.8	0.3	分割材	ヒノキ	P2No.3	
37	不明	44.5	9.5	0.7			No.36-2-1	3	柱	11.5	9.6	4.5	破片	ヒノキ科	P4No.2		
38	不明	41.1	4.7	0.5			No.36-2-2	F20	1	不明	6.1	3.2	0.7	破片	ヒノキ科	P1	
39	不明	37.3	3.9	0.3			No.36-2-3		M55	1	漆腕	4	5.5	0.8	横木地板目	カツラ 赤漆	

第2節 大豆田遺跡Ⅳ出土蓋型土器残存圧痕のレプリカ法調査

首都大学東京大学院 遠藤英子

土器圧痕にシリコン樹脂を充填してレプリカを採取し、それを走査型電子顕微鏡 (SEM) で観察するレプリカ法は、圧痕を残した様々な原因物質の推定に有効な方法であるが (丑野・田川1991)、なかでも圧痕からそれを残した植物種子を同定できる確実性の高い研究法として、生業研究の分野で近年急速に普及してきている。中部高地では縄文晩期末から弥生時代前期にかけての資料の調査が数多く実施されており、当該期この地方にアワ・キビの雑穀栽培が広く展開していたことが明らかとなった (中沢ほか2010、遠藤・高瀬2011、中山・佐野2012、遠藤2012など)。今回、本報告書作成中に見いだされた、非常に多くの圧痕を残す蓋型土器について、このレプリカ法調査を実施する機会を得たので、その結果をご報告したい。

この蓋型土器の詳細については本文 (Ⅳ章5節) を参照いただきたいが、種子由来と推定される圧痕が土器内面21点、外面29点、つまみ部分7点、断面11点の計68点観察された。土器の遺存はおよそ全体の半分ぐらいであり、また小さすぎて型取りが難しいと考え採取を見送った圧痕も多いため、本来はこの倍以上の圧痕が存在していた可能性が高い。圧痕は断面を含めた様々な部位に観察され、しかも全てが土器胎土をオーバーハングさせて内部に潜り込んでいる圧痕形態であったため、おそらくは粘土の状態で種子が混入したものと推定される (遠藤2014)。またこのような密度の高い圧痕の残存については、これまでの調査でも経験がない非常に稀な資料であり、おそらくは土器製作者が意図的に圧痕を残したものと考えられる。

調査は、まず肉眼および10倍のルーペにより土器の内外面や断面を観察し、種子由来と推定される圧痕を検出し、圧痕内を柔らかいブタ毛歯ブラシなどでクリーニングしたうえで、①離型剤 (アセトン+パラロイドB-27) の塗布、②シリコン樹脂 (トクヤマデンタル社製トクヤマフィットテスター) の充填、③レプリカの取り出し、④アセトンによる離型剤の除去、⑤レプリカの走査型電子顕微鏡 (KEYENCE VE-8800) による観察、撮影、同定、記録という、福岡市埋蔵文化財センター方式 (比佐・片多2005) に基づく手順で実施した。

また種子の同定は、現生種子との形態的比較により行うが、主な栽培穀物の同定基準は以下の通りである。

- ①イネ *Oryza sativa* : 玄米が内外穎に包まれた粳の状態で見出されることが多い。粳の側面観は紡錘形で、維管束が腹面、両側面、背面に各1本ずつ縦走することから、内外穎組織で凹凸のある表面形態を呈している。内外穎の表皮細胞には顆粒状突起 (直径約 50μ) が観察される。
- ②アワ *Setaria italica* (L.) P.Beauv. : 内外穎の残存した有ふ果の状態で見出されることが多く、背腹面観は卵状円形～楕円形で、先端は鈍頭でありあまり突出しない。側面観は、やや狭い卵状楕円形になり、背面 (外穎) 側が膨らみ、腹面 (内穎) 側がやや平坦な個体が多いが、両方が膨らむ場合もある。内外穎の表皮細胞にはエノコログサ属特有の乳頭状突起が認められ、特に外穎の乳頭状突起の直径が $15-20\mu\text{m}$ であることや、それぞれの突起が畝状に連なることなく独立している特徴は、アワの野生種エノコログサ ($8-15\mu\text{m}$) との区分の指標の一つとされる (Nasu et al 2007)。内外穎の境目には乳頭状突起のない滑らかな部位が三日月状に観察される。内外穎の剥けた穎果の状態で見出されるレプリカ資料もわずかにみられるが、この場合は粒長の $2/3$ ほどの長さでA字形をした胚がみられる。
- ③キビ *Panicum miliaceum* L. : アワと同じく有ふ果の状態で見出されることが多いが、アワと比べて大型で、背腹面観は倒広卵形、側面観は内穎側と外穎側の両方が膨らむ個体が多い。内外穎の表皮は平滑で、アワのような乳頭状突起はない。果皮がアワより厚いので、外穎が内穎を包み込む部分で明瞭な段差がつく。穎果の状態で見出される資料もわずかにみられ背面の中央には粒長の $1/2$ ほどの長さの胚がみられる。

68点のレプリカを採取し走査型電子顕微鏡で観察したところ、イネ粳3点、アワ有ふ果18点、穎果1点、キビ有ふ果11点を同定した。

先行研究からは水田稲作の定着が遅れる中部高地においても中期後半の粟林式期には本格的な水田稲作が開始され、それ以降確実に水田稲作が拡大していくと理解されていると思われるが (中山2010、小山2014など)、今回の調査ではイネ3点に対してアワ・キビが30点と、栽培穀物のパッケージは雑穀がおおきく上回る結果となった。とはいえ今回はたった1点の出土資料を対象としたデータであり、この結果から遺跡全体の栽培穀物を推定すること

は早計であろう。土器圧痕は非常に限られたチャンスで形成されると予測されるため本来は出土資料全体を対象とした悉皆調査が望ましい。従って分析は今後の調査に委ねたいが、実は中部高地や関東地方のレプリカ法調査では同様の結果が得られており、たとえば水田や水利施設が検出され埼玉県下における本格的な水田稲作社会の到来と考えられてきた熊谷市北島遺跡や隣接する前中西遺跡、また中期から後期の時間幅を持つ和光市午王山遺跡でもイネと雑穀が相半ばする結果を得ている。一方フローテーションによる炭化種子データでも志木市田子山遺跡の弥生時代後期住居1軒からはイネ81,481点にたいしてアワ194,993点が同定されている（高瀬・遠藤2010）。今回の箱清水期の蓋は、本格的な農耕社会成立後は次第に稲作に特化していくと考えられてきた予測とはやや様相の異なる、多様な弥生農耕の展開を想定させる資料となるかもしれない。もちろん佐久地域内においても遺跡立地による栽培形態の差異も予測される。今後のデータの蓄積が望まれる。

引用文献

丑野 毅・田川裕美1991「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24 日本文化財科学学会13-36頁
 遠藤英子2012「縄文晩期末の土器棺に残された雑穀」『長野県考古学会誌』140長野県考古学会43-59頁
 遠藤英子2014「種実由来土器圧痕の解釈について」『考古学研究』60-4考古学研究会62-72頁
 遠藤英子・高瀬克範2011「伊那盆地における縄文時代晩期の雑穀」『考古学研究』58-2 考古学研究会 74-85頁
 小山岳夫2014「佐久地方北部の弥生集落の変遷一主として栗林期～箱清水期一」『熊谷市前中西遺跡を語る』関東弥生文化研究会／埼玉弥生土器観会263-278頁
 高瀬克範・遠藤英子 2010「埼玉県志木市田子山遺跡第31地点弥生時代21号住居跡出土炭化種子の分析」『古代学研究所紀要』12明治大学3-13頁
 中沢道彦・佐々木由香・那須浩郎・米田恭子・竹原 学 2010「長野県松本市石行遺跡出土縄文時代晩期末氷Ⅰ式土器のアワ圧痕とその評価に向けて」『日本考古学協会第76回総会研究発表要旨集』46-47頁
 中山誠二2010『植物考古学と日本の農耕の起源』同成社
 中山誠二・佐野 隆2012「縄文時代終末期のアワ・キビ圧痕一山梨県屋敷平遺跡の事例」『山梨県考古学協会誌』21 85-97頁
 比佐陽一郎・片多雅樹2005『土器圧痕レプリカ法による転写作業の手引き』福岡市埋蔵文化財センター
 Nasu,H. Momohara,A.Yasuda,Y.He,J.2007 The occurrence and identification of *Setaria italica*(L.) P, Beauv. (foxtail millet) grains from the Chengtoushan site (ca.5800cal B.P.) in central China, with reference to the domestication centre in Asia *Vegetation history and archaeobotany* 16:481-494

第1表 種子同定一覧

番号	部位	検出面	同定	種子の形態	図版番号	番号	部位	検出面	同定	種子の形態	図版番号	番号	部位	検出面	同定	種子の形態	図版番号
0001	つまみ	外面	アワ?	有ふ果		0026	胴部	外面	アワ	有ふ果		0047	胴部	内面	キビ?	穎果	
0005	つまみ	外面	アワ	有ふ果	図1-3	0027	胴部	外面	キビ	有ふ果	図2-2	0048	胴部	内面	キビ	有ふ果	図2-5
0007	つまみ	外面	キビ	有ふ果	図1-4	0028	胴部	外面	アワ	有ふ果		0049	胴部	内面	キビ	有ふ果	
0008	胴部	外面	イネ	粳	図1-5	0029	胴部	外面	キビ?	不明		0051	胴部	内面	アワ	有ふ果	
0010	胴部	外面	アワ	有ふ果		0030	胴部	外面	アワ	穎果	図2-3	0052	胴部	内面	イネ	粳	図2-6
0011	胴部	外面	アワ	有ふ果		0031	胴部	外面	キビ	有ふ果	図2-4	0053	胴部	内面	アワ	有ふ果	
0013	胴部	外面	アワ	有ふ果	図1-6	0033	胴部	外面	アワ	有ふ果		0054	胴部	内面	アワ?	有ふ果	
0015	胴部	外面	キビ	有ふ果	図1-7	0034	胴部	外面	アワ	有ふ果		0056	胴部	内面	キビ	有ふ果	
0016	胴部	外面	キビ	有ふ果		0036	胴部	外面	アワ	有ふ果		0058	胴部	断面	キビ	有ふ果	
0018	胴部	外面	アワ	有ふ果	図1-8	0039	胴部	内面	アワ	有ふ果		0059	胴部	断面	キビ?	不明	
0020	胴部	外面	アワ	有ふ果		0040	胴部	内面	キビ?	不明		0063	胴部	断面	アワ	有ふ果	
0021	胴部	外面	イネ	胚乳		0043	胴部	内面	キビ	有ふ果		0065	胴部	断面	アワ	有ふ果	図2-7
0022	胴部	外面	アワ	有ふ果	図2-1	0045	胴部	内面	アワ?	有ふ果		0067	胴部	断面	アワ	有ふ果	図2-8
0025	胴部	外面	キビ	有ふ果													



図1-1:土器内面の大きなイネ圧痕(中央)と小さな雑穀圧痕



図1-2:土器断面にも観察される圧痕

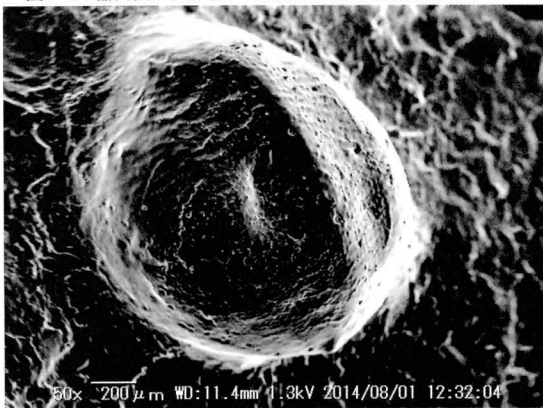


図1-3:外穎表面に乳頭状突起が観察されるアワ有ふ果

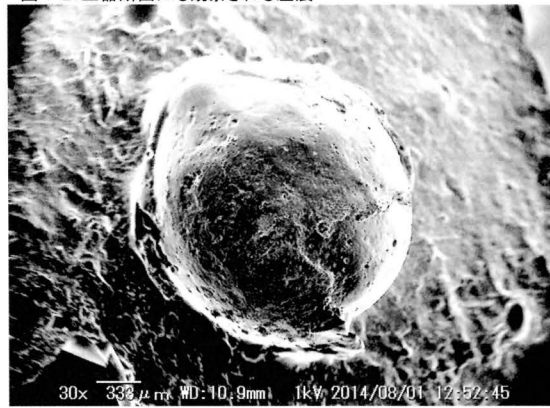


図1-4:表面が平滑で内外穎の境目に段差があるキビ有ふ果



図1-5:紡錘形で、維管束による凹凸、表面に顆粒状突起のあるイネ穂

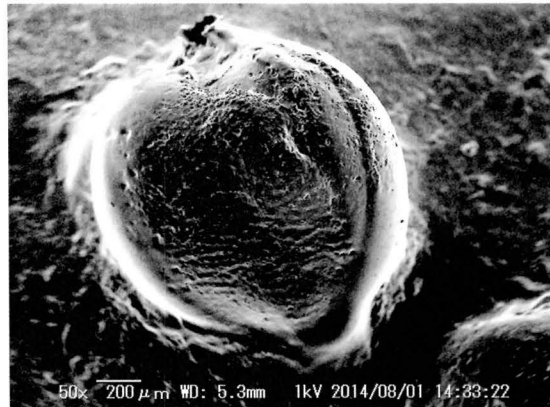


図1-6:内外穎境目に平滑な三日月状部位が観察されるアワ有ふ果

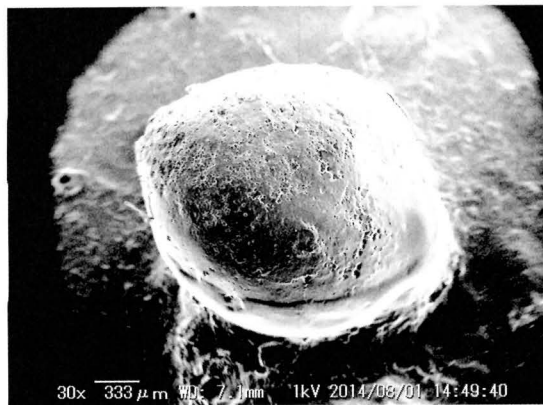


図1-7:ツンと尖る倒広卵形で、内外穎の表皮は平滑なキビ有ふ果

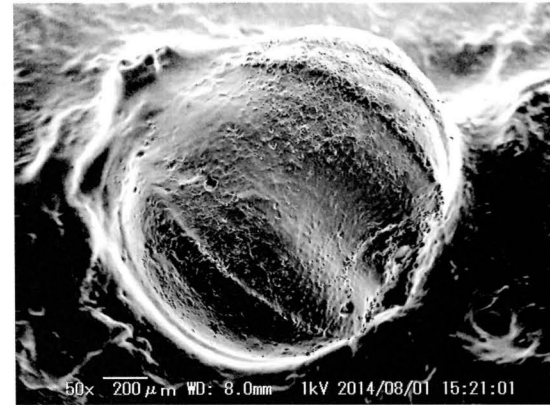


図1-8:内穎側の乳頭状突起と平滑な三日月状部位が見えるアワ有ふ果

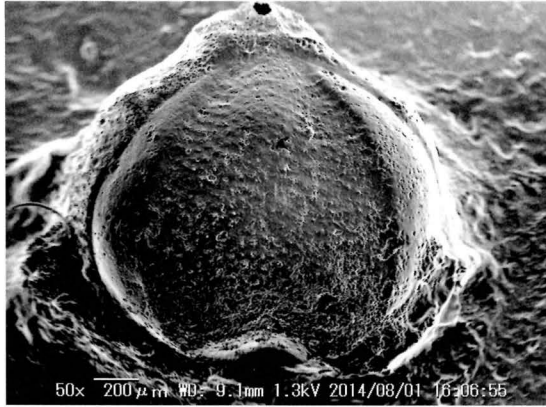


図 2-1: アワ有ふ果内外穎の乳頭状突起とその境目の三日月状部位



図 2-2: 内外穎の段差と平滑な表面状態が観察されるキビ有ふ果

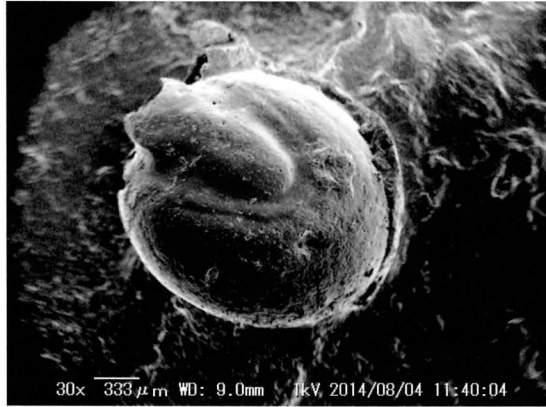


図 2-3: 粒長 2 / 3 ほどの長さの A 字形の胚が観察されるアワ穎果

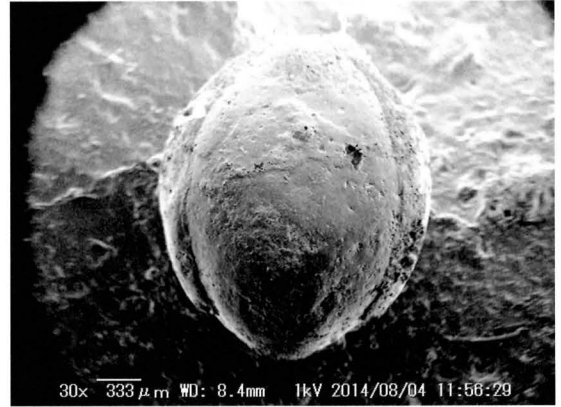


図 2-4: 内外穎の段差と平滑な表面状態が観察されるキビ有ふ果

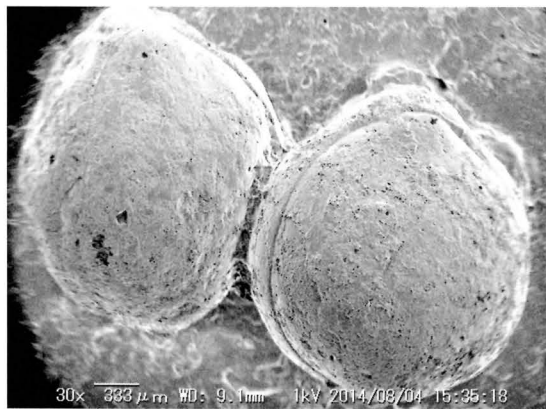


図 2-5: キビ有ふ果が 2 点重なりあって観察された

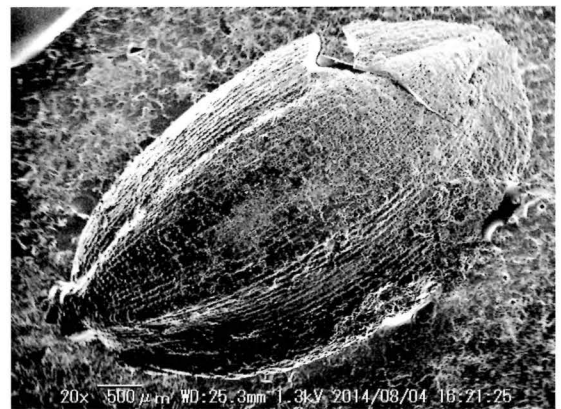


図 2-6: 基部に小穂軸が観察されるイネ稔

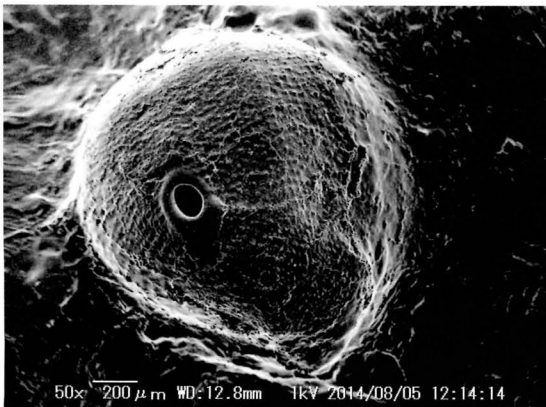


図 2-7: 表皮全面に乳頭状突起が観察されるアワ有ふ果外穎側

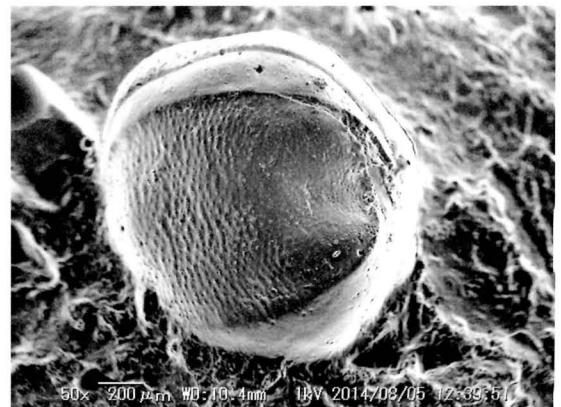


図 2-8: やや平坦な内穎側に乳頭状突起が観察されるアワ有ふ果

第3節 大豆田遺跡から出土した動物遺体

植月 学

はじめに

本稿では佐久市大豆田遺跡IVから出土した動物遺体について報告する。遺構の年代は弥生時代、古代、中世、近世に分かれるが、資料の大部分は中世に属する。

1. 方法

同定は現生標本との比較によった。部位や種の同定に至らなかった標本についても記録し、一覧に記載した。

計測はDreisch(1976)の方法を基本とした。ウマ臼歯の歯冠高については植月(2011)に示した方法により、上顎歯については中心と頬側で、下顎歯についてはこれに舌側も加えて計測した。

年齢推定は西中川・松元(1991)の方法によりおこなったが、歯根中心が破損している場合には舌側や頬側(両方の場合は平均)の計測値を用いた。この場合には中心での計測値と比較して若干の誤差が生じる可能性がある。

年齢推定は臼歯1点ごとの推定を集計した結果と、同一個体と思われる標本の推定値を平均した個体ごとの結果の2通りで示した。後者の方が集団の年齢構成を示すにはより正確だが、同一個体が離れて出土した場合には認識できず、重複してカウントしてしまうという問題点がある。前者は残りの良い個体の値が強く反映されることになるが、この条件はどの遺跡でも同じなので、年齢構成を相対的に比較する上ではより公平だと考えられる。なお、同一個体の左右臼歯列が存在し、計測を省略した場合にも年齢推定値は左右両側で集計している。

2. 結果

(1) 組成

約123点の標本が含まれていた(細かく破砕された破片の数はいちいち数えていない)。このうち種の同定に至った標本は96点だった。内訳はウマが93点、ウシが2点、ヒトが1点であった。同定されたのは臼歯の標本が主体である。獣骨も出土しているが、遺存状態が悪く、部位の同定にも至らない標本がほとんどであった。大形の標本が多く、歯の同定結果からウマの骨が主体となる可能性が高い。

時期別にみても、この傾向は変わらない。内訳は下記のとおりである。

古代：ウマ3、中世：ウシ2、ウマ80、近世：ウマ5。なお、弥生時代の遺構からウマ3点、ヒト1点が出土しているが、ウマは混入と考えられている。

(2) 年齢構成(図1)

古代、近世は傾向を論じるには標本が少ない。中世は全標本でみると4歳前後の若い個体が多く、9歳、12歳前後がこれに次ぐ。13歳以上は少ない。個体別でみると9～12歳の割合が増える。

(3) 大きさ

馬歯は加齢による摩耗と共に歯冠長を減じていくので、他の標本との比較の際には歯冠高も考慮する必要がある。そこで、歯冠高が判明した標本について、植月(2011)において集成した東日本の古墳時代～中世遺跡出土馬歯の計測値の散布図へプロットした(図2)。高さ(縦軸)と長さ(横軸)の両方を計測できた標本は多くない。最大となる3個体分が計測できた下顎P3、M1、M2で見ると、平均よりも大形の個体2点、平均的な個体が1点みられた(歯種によって異なるが、おおむね三ヶ所遺跡標本を大、塩部遺跡標本を平均、大師東丹保遺跡標本を小とした場合)。

高さ/長さが計測可能であった15点について、中世遺跡の基準3標本の平均的な変化曲線との偏差により求めたLSI(Log Size Index)の平均値は0.0225であった。この値はこれまでに筆者が調査した古墳時代～中世の東日本の馬歯としては最大級の値である。3個体程度の平均なので、この値が遺跡全体を代表しているとは断定できないが、かなり大形の個体が飼育されていたことは間違いない。

3. まとめ

本遺跡で出土した動物遺体は遺存状況が不良で、骨の多くは同定が困難であった。同定可能だったのは主に臼

歯であり、得られる情報は限られるが、以下のような特徴が指摘できる。

- (1) 哺乳類（少なくとも大型獣）の中ではウマが主体となる。この傾向は古代から近世まで一貫しているが、中世以外は標本数が少なく、詳細は不明である。
- (2) ウマの年齢は5歳前後を主体とし、半数程度が8歳までに死亡している。類似の傾向は他の古代～中世遺跡でも見られ、近世になるとより高齢の個体に偏るようである。その背景について、今後遺跡の性格を含めて検討していく必要がある。
- (3) 東日本遺跡出土馬の中でも大形の臼歯を持つ個体が存在した。

末筆ながら貴重な資料を分析する機会を与えていただいた佐久市教育委員会および富沢一明氏に深く感謝申し上げます。

引用文献

植月 学 2011 「出土馬歯計測値の比較のための基礎的研究」『動物考古学』28 1-22頁
 西中川 駿・松元光春 1991 「遺跡出土骨同定のための基礎的研究」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』（平成2年度文部科学省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書）164-188頁
 Driesch, A. 1976 A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites. Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University

推定年齢	全標本				個体別
	古代	中世	近世	計	
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	6	0	6	1
5	4	17	1	55	10
6	2	9	1	12	6
7	0	1	0	1	1
8	2	2	0	4	3
9	2	7	0	9	7
10	0	2	0	2	1
11	0	5	1	6	5
12	0	8	0	8	4
13	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0
15	0	3	0	3	2
16	0	0	0	0	0

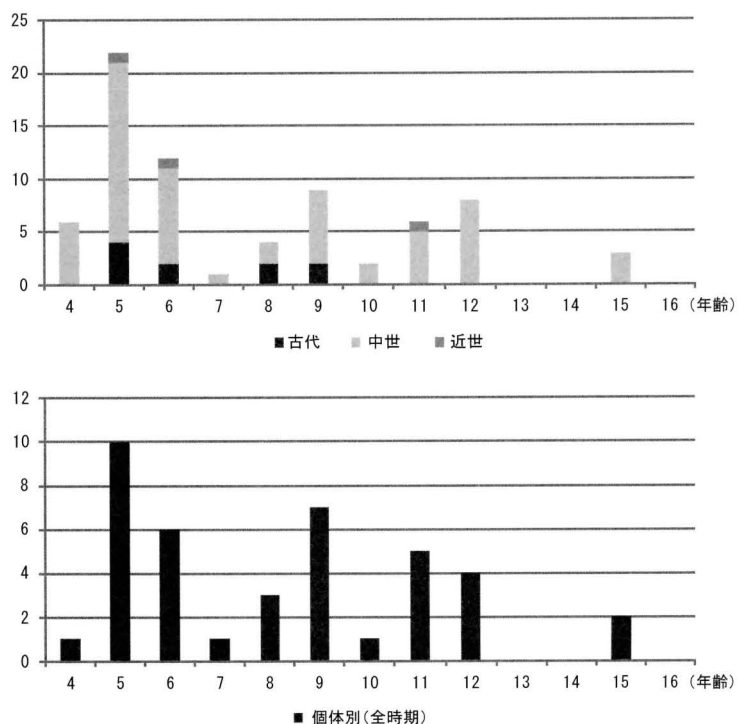


図1 ウマ臼歯による推定年齢の分布

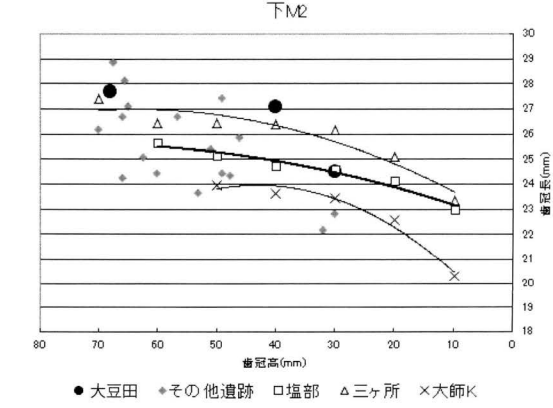
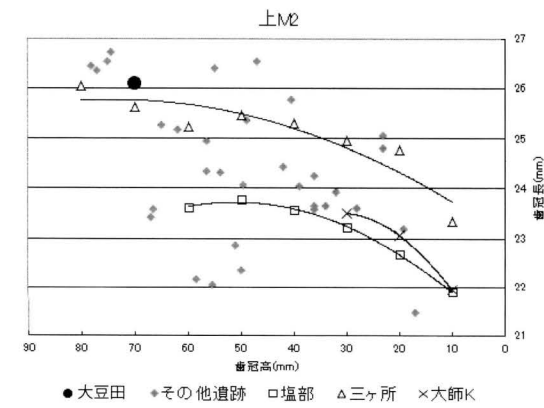
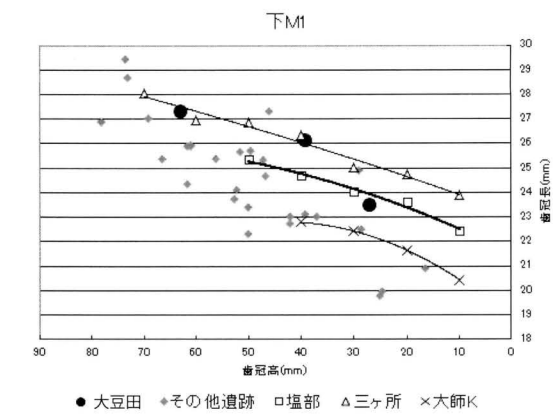
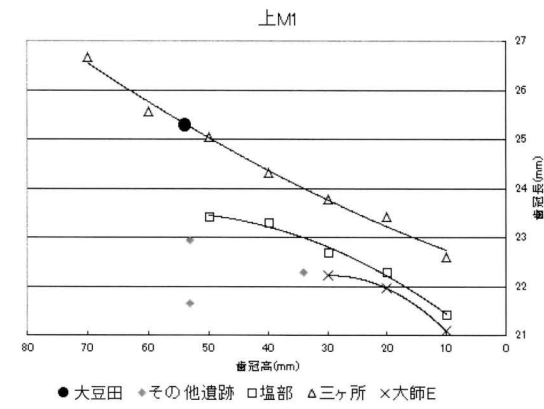
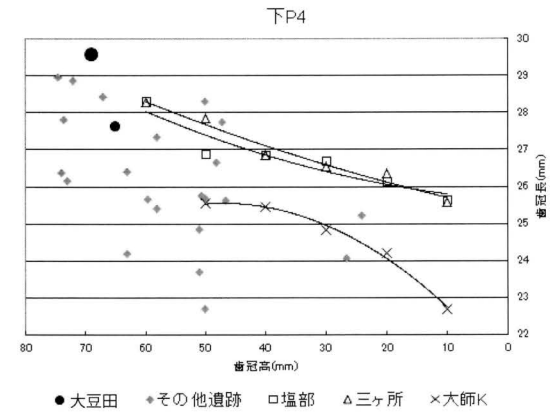
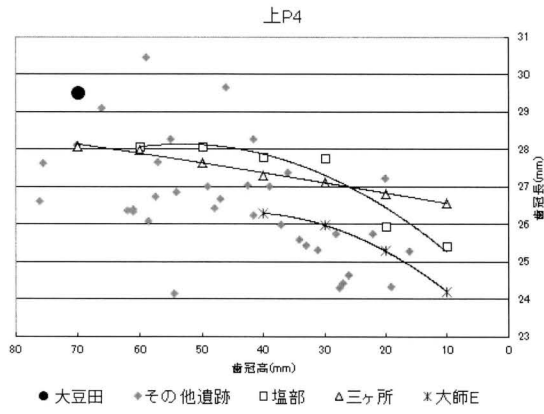
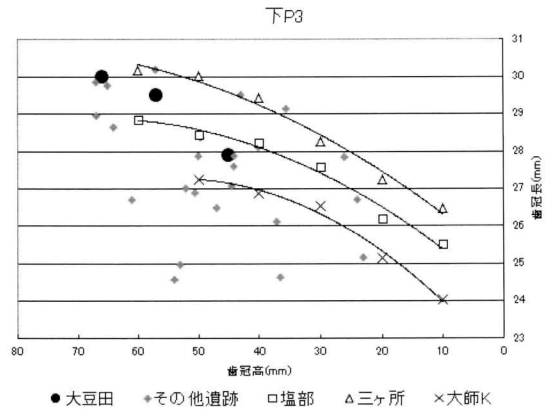
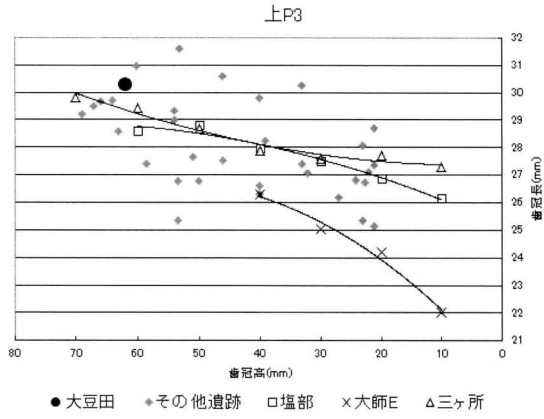
表1 出土動物遺体一覧

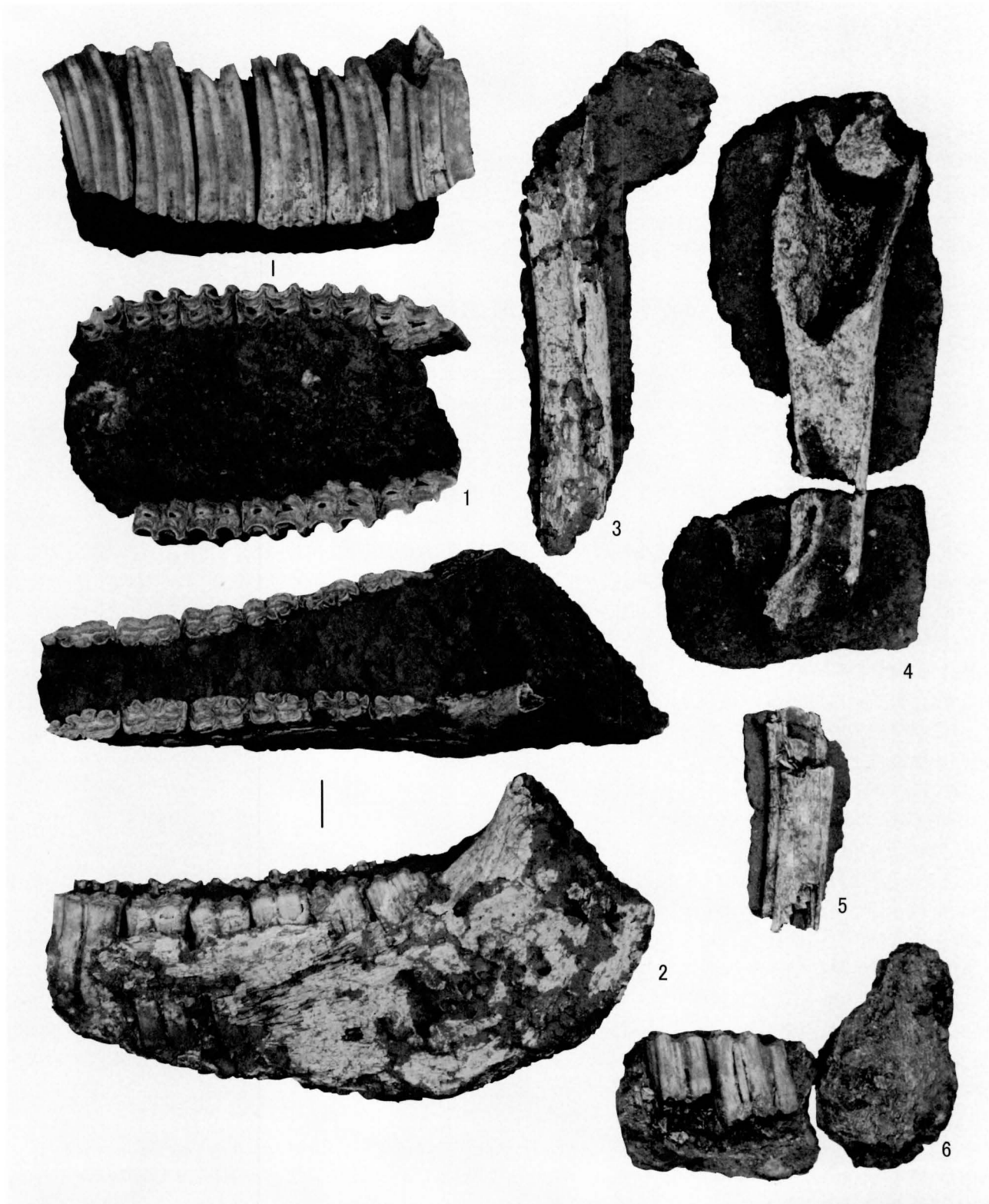
整理番号	遺構	グリッド	区・層	No.	時期	種	部位	位置	左右	数	通し番号 (植月)	備考	年齢	咬耗	咬痕	焼け
1	M1		I区	骨	中世	哺乳類	不可				299					
2	M1		I区	骨	中世	ウマ	下顎歯	M1	左	1	306-1	306-2と同一個体か				
2	M1		I区	骨	中世	ウマ	下顎歯	M2	左	1	306-2	306-1と同一個体か				
3	M1		I区	骨	中世	ウマ	上顎歯	M1/2	右	1	302					
4	M13		I区		近世	ウマ	切歯	破片	?	1	309					
5	M1		II区		中世	ウシ/ウマ	四肢骨				300					
6	M1		II区		中世	ウマ	下顎歯	P2	左	1	303-3					
6	M1		II区		中世	ウマ	下顎歯	P2	右	1	303-4					
6	M1		II区		中世	ウマ	下顎歯	P3/4	右	1	303-5					
6	M1		II区		中世	ウマ	上顎歯	P2	右	1	303-1					
6	M1		II区		中世	ウマ	上顎歯	P3/4	右	1	303-2					
6	M1		II区		中世	ウマ	切歯		?	11	303-6					
7	M1		II区	骨	中世	ウマ	下顎歯	M3	左	1	304-2	304-3と同一個体				
7	M1		II区	骨	中世	ウマ	下顎歯	M3	右	1	304-3	304-2と同一個体				
7	M1		II区	骨	中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	304-1					
7	M1		II区	骨	中世	ウマ	切歯		?	3	304-4					
8	M1		II区		中世	哺乳類	四肢骨				297					
9	M1		II区	骨	中世	ウマ	下顎歯	P2	左	1	305-1	305すべて同一個体か				
9	M1		II区	骨	中世	ウマ	下顎歯	P4?	左	1	305-2	305すべて同一個体か				
9	M1		II区	骨	中世	ウマ	下顎歯	M1	左	1	305-3	305すべて同一個体か				
9	M1		II区	骨	中世	ウマ	下顎歯	M2	左	1	305-4	305すべて同一個体か				
10	M1		II区	骨	中世	ウマ	切歯		?	2	307					
11	M1		II区		中世	ウマ	下顎歯	P/M 破片	左	1	308	近心				
12	M1		II区	4	中世	哺乳類	不可				301					
13	M1			5	中世	ウマ	橈骨	骨幹	左	1	375					
14	M1		II区	骨6	中世	哺乳類	四肢骨				298					
15	M1		II区	7	中世	哺乳類	不可				296					
16	M1		II区	骨8	中世	ウマ	上腕骨	遠位端	右	1	332					
17	M1			9	中世	ウマ	橈骨	骨幹	左	1	377					
18	M1		II区	骨10	中世	ウマ?	中手骨?	近位端?	左	1	329					
19	M1		II区	骨11	中世	ウマ	上顎歯	P2-M3, 切歯X2	左+右	1	294	原位置。骨質部消失				
20	M1		III区	骨12	中世	ウマ	岩骨		左右	1	333					
21	M1		II区	骨13	中世	ウマ	下顎骨	[P234M123]	左+右	1	293	骨質部ほぼ消失		弱		
22	M1		II区	14	中世	ウマ	切歯		?	6	326		若	弱		
23	M1		II区	15	中世	哺乳類	?	破片	?	?	334					
24	M1		II区	骨16	中世	哺乳類	?	破片	?	?	331					
25	M1		II区	17	中世	哺乳類	?	破片	?	?	335					
26	M1		II区	18	中世	ウマ	下顎歯	M3	右	1	343	他に骨片あり				
27	M1		II区	19	中世	ウマ	下顎歯	P3/4	左	1	328					
28	M1		III区	骨No.1	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	330					
29	M1			骨No.2	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	325					
30	M1			3	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	324					
31	M9		III区		古代	哺乳類	?	破片	?	1	316					+
32	M9		I区		古代	哺乳類	?	破片	?	2	315					+
33	M10		II区		古代	ウマ	切歯		?	1	319					
35	M14			1	近世	ウマ	下顎歯	M1/2	右	1	312					
36	M14			2	近世	ウマ	下顎歯	P/M 破片	?	1	318					
37	M14			3	近世	?	?	破片	?	3	317					
38	M14			4	近世	ウマ	上顎歯	M3	右	1	320					
39	M14			5骨	近世	ウマ	上顎歯	P3/4	左	1	323					
40	M17				中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	378					
41	M18			1	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	311					
42	M18			3	中世	ウシ?	距骨?		?	1	321					
43	M18			4	中世	ウマ	下顎歯	P/M 破片	?	1	314					
44	M18			5(骨)	中世	ウマ	下顎歯	P2-M3	右	1	310		若			
45	M18				中世	ウマ	上顎歯	P/M 破片	?	1	322					
46	M18			骨	中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	313					
47	M27				中世	哺乳類	?	破片	?	1	336					
48	M27	XV II-1		骨	中世	ウシ	下顎骨	[M23]	左	1	283	骨消失進む				
49	M27	XV II-5			中世	哺乳類	不可	破片			278					
50	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	M1/2	右	1	284-1		若			
50	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	P2	左	1	284-2					
50	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	284-3					
51	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	M3	左	1	282-1	282内に複数個体分				
51	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	P3/4	左	1	282-2					
51	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	P3/4	左	1	282-3					

51	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	M3	右	1	282-4	歯根部肥大				
51	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	282-5					
51	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	P3/4	左	1	282-6		老	強		
52	M27	X-21			中世	ウマ	上顎歯	M1/2	右	1	288					
53	M27	XV I-5			中世	ウマ	下顎歯	P3/4	左	1	287					
54	M27	XV II-5			中世	ウマ	上顎歯	M3?	右	1	290	近心				
55	M27	XV II-2			中世	ウマ	上顎歯	破片	?	1	291					
56	M27	I X-25	骨		中世	ウマ	下顎歯	M1/2	右	1	281-1					
56	M27	I X-25	骨		中世	ウマ	下顎歯	M1/2	左	1	281-2					
57	M27	X-22			中世	ウマ	下顎歯	P3/4	左	1	289					
58	M27	XV II-4			中世	ウマ	下顎歯	M1/2	右	1	280					
59	M27	XV II-1			中世	ウマ	歯	破片		1	292	整理番号、種名確認(抜けていた)				
60	M27	XV II-4		骨	中世	ウマ	下顎歯	M1/2	左	1	285					
61	M27	XV I-5	骨		中世	ウマ	歯	m1/2/3	右・上	1	286	整理番号確認(抜けていた)				
62	M27	XV I-5			中世	ウマ	上顎歯	M1/2	右	1	279-1					
62	M27	XV I-5			中世	ウマ	切歯		?	2	279-2					
63	M29				中世	ウマ	下顎歯	M1/2	左	1	372					
64	M33			2	中世	ウマ	大腿骨	遠位部	右	1	379					
65	M33				中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	376					
66	M33				中世	哺乳類	?	破片			369					
67	M33				中世	ウマ	下顎歯	P2,3	右	1	370					
68	M33				中世	ウマ	切歯		?	1	371					
69	M35				古代	哺乳類	?	破片	?	1	374					
70	M62				近世	哺乳類	?	破片	?	1	373					+
71	M64			2	中世	哺乳類	?	破片	?		342					
72	M67			1	中世	哺乳類	?	破片	?		340					
73	M67			2	中世	ウシ	中足骨	骨幹	?	1	339					
74	M67			3	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	338					
75	M67			4	中世	ウマ	上顎歯	P3/4	右	1	341					
76	M67			5	中世	ウマ	大腿骨	近位部~遠位部	左	1	368					
77	M67			6	中世	哺乳類	?	破片	?		337					
80	検出		XII-I			ウマ	下顎歯	M1/2, M3	左	1	365					
80	検出		XII-I			ウマ	上顎歯	P/M 破片	右	1	366					
81	U11			2971	弥生	哺乳類	?	破片	?		363					+
82	U11			68	弥生	ウマ	P/M	破片	?	1	347	混入の可能性				
83	U11			712	弥生	ウマ	P/M	破片	?	1	346	混入の可能性				
84	U11			4338	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	356					
85	D3				弥生	ヒト	歯				361					
86	D3				弥生	土器片					362					
87	D9				中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	364					
88	D20				古代	ウマ	下顎歯	P2-M3、切歯X6	左右	1	380					
89	D48				弥生	哺乳類	?	破片	?		355					+
90	D48				弥生	哺乳類	?	破片	?		359					+
91	D48				弥生	哺乳類	?	破片	?		360					+
92	D48			4	弥生	哺乳類	?	破片	?		348					
93	D48			7	弥生	哺乳類	?	破片	?		357					+
94	D48			14	弥生	哺乳類	?	破片	?		358					+
95	D48			72	弥生	哺乳類	?	破片	?		350					+
96	D48			85	弥生	哺乳類	?	破片	?		351					+
97	D48			107	弥生	哺乳類	?	破片	?		352					+
98	D48			119	弥生	哺乳類	?	破片	?		353					+
99	D50				弥生	哺乳類	?	破片	?		354					+
100	D50				弥生	哺乳類	?	破片	?		349					+
101	D99				弥生	ウマ	下顎歯	P/M 破片	?	1	367	時期不確実				
?	M1		II区	8	中世	哺乳類	?	破片	?		327					
	Ta1		III区		古代	ウマ	P/M	破片	?	1	345					
	Ta1		I区		古代	ウマ?	P/M	破片	?	1	344					

表2 ウマ歯計測・年齢推定結果

整理番号	通し番号	上下	左右	歯種	備考	L咬合面	±	咬耗/萌出	HL	±	HC	±	HB	±	推定年齢				
															1	2	平均	個体平均	±未満
2	306-1	下	左	M1		23.5			24		27		25		14.5		14.5	14.3	
2	306-2	下	右	M2		24.5			29		30		30		14.1		14.1		
3	302	上	右	M1/2		24.1					X		43		7.8	9.0	8.4	8.4	
6	303-1	上	右	P2		32.5					X		30		9.8		9.8	11.0	
6	303-2	上	右	P3/4		27					34		35		11.2	12.0	11.6		
6	303-3	下	左	P2		29.6			23		25		25		11.1		11.1		
6	303-4	下	右	P2		29.4			20		23		23		11.9		11.9		
6	303-5	下	右	P3/4		26.5			33		35		36		10.2	10.8	10.5		
7	304-1	上	左	M1/2		25.6					X		64		3.6	4.9	4.3	4.3	
7	304-2	下	左	M3		X			X		X		X						
7	304-3	下	右	M3		X			64		X		X		5.2		5.2	5.2	
9	305-1	下	左	P2		34.1			23		24		24		11.5		11.5	10.4	
9	305-2	下	左	P4?		28.9			41		41		40		9.0		9.0		
9	305-3	下	左	M1		26.1			38		39		38		10.3		10.3		
9	305-4	下	左	M2		27.1			40		40		42		10.8		10.8		
19	294	上	左	P2	右側あり。省略										4.0		4.0	4.3	
19	294	上	左	P3	右側あり。省略										4.4		4.4		
19	294	上	左	P4	右側あり。省略										4.0		4.0		
19	294	上	左	M1	右側あり。省略										5.2		5.2		
19	294	上	左	M2	右側あり。省略										4.1		4.1		
19	294	上	左	M3	右側あり。省略										4.3		4.3		
19	294	上	右	P2	P2-P4 : 97.1, M1-M3 : 74.8, P2-M3 : 169.5	37.6					X		50		4.0		4.0		
19	294	上	右	P3		30.3					X		62		4.4		4.4		
19	294	上	右	P4		29.5					X		70		4.0		4.0		
19	294	上	右	M1		25.3					54		60		5.2		5.2		
19	294	上	右	M2		26.1					X		70		4.1		4.1		
19	294	上	右	M3		22.5		未完			X		63	+	4.3		4.3		未満
21	293	下	左	P2	ハミ痕(セメント消失)	33.2							45		4.8		4.8	4.8	
21	293	下	左	P3		29.5							57		5.1		5.1		
21	293	下	左	P4		29.6							69		4.4		4.4		
21	293	下	左	M1		26.5							植立						
21	293	下	左	M2		27.3							植立						
21	293	下	左	M3		26.3							植立						
21	293	下	右	P2	左側あり。省略										4.8		4.8		
21	293	下	右	P3	左側あり。省略										5.1		5.1		
21	293	下	右	P4	左側あり。省略										4.4		4.4		
21	293	下	右	M1	左側あり。省略														
21	293	下	右	M2	左側あり。省略														
21	293	下	右	M3	左側あり。省略														
26	343	下	右	M3		30.4			X		X		51		7.9		7.9	7.9	
27	328	下	右	P3/4		29.9			34		33		32		10.8	11.4	11.1	11.1	
35	312	下	右	M1/2		24.7			37		X		41		10.3	11.1	10.7	10.7	
38	320	上	右	M3	歯根未形成	24.6							60		4.8		4.8	4.8	
39	323	上	左	P3/4		30.3					X		57		5.3	5.7	5.5	5.5	
44	310	下	右	P2		33.8			43		45		44		4.8		4.8	4.4	
44	310	下	右	P3		30			64		66		65		3.8		3.8		
44	310	下	右	P4	歯根未形成	28.4													
44	310	下	右	M1		27.3			61		63		62		4.6		4.6		
44	310	下	右	M2	歯根未形成	27.7			68				69		4.4		4.4		
44	310	下	右	M3	歯根未形成	28.5		未完											
46	313	上	左	M1/2		23.4						32	35		11.1	12.1	11.6	11.6	
50	284-1	上	右	M1/2		X					X		61		4.0	5.3	4.7	4.7	
50	284-2	上	左	P2		X					41		40		6.1		6.1	6.1	
50	284-3	上	左	M1/2		23.8	±				X		43		7.8	9.0	8.4	8.4	
51	282-1	上	左	M3		25.6					33		32		11.6		11.6	11.6	
51	282-2	上	左	P3/4		26.5					42		43		8.8	9.3	9.1	9.1	
51	282-3	上	左	P3/4		27.8					X		67		3.6	4.3	4.0	4.0	
51	282-4	上	右	M3		X					44		46		8.3		8.3	8.3	
51	282-5	上	左	M1/2		24.5					48		51		6.5	7.8	7.2	7.2	
51	282-6	上	左	P3/4		25					25		22		14.2	15.6	14.9	14.9	
53	287	下	左	P3/4		28			52		55		52		5.4	6.0	5.7	5.7	
56	281-1	下	右	M1/2		25.6			66		X		65		4.2	4.9	4.6	4.8	
56	281-2	下	左	M1/2		25.8			63		X		61		4.7	5.5	5.1		
57	289	下	右	P3/4		31.3			68		X		67		3.7	4.5	4.1	4.1	
58	280	下	右	M1/2		X			48		X		X		7.7	8.5	8.1	8.1	
60	285	下	左	M1/2		25.4			X		45	±	44		8.5	9.3	8.9	8.9	
62	279-1	上	右	M1/2		25.3					X		55	+	5.1	6.4	5.8	5.8	未満
63	372	下	左	M1/2		25.7			34		35		37		11.6	12.4	12.0	12.0	
75	341	上	右	P3/4		25.6					38		38		9.9	10.6	10.3	10.3	
80	365	下	左	M1/2		25.3			38		38		40		10.6	11.4	11.0	11.0	
80	365	下	左	M3		30.6			46		48		48		8.6		8.6	8.6	
87	364	上	左	M1/2		24.5					59		X		4.4	5.7	5.1	5.1	
88	380	下	左	P2		32.1			29		32		32		8.6		8.6	8.6	
88	380	下	左	P3		27.9			46		45		48		7.5		7.5	7.5	
88	380	下	左	P4		27.6					植立		65		4.7		4.7	4.7	
88	380	下	左	M1		23.8					植立		51						
88	380	下	左	M2		24.2					植立		62		5.5		5.5	5.5	
88	380	下	左	M3		29.2			66		植立		66		4.8		4.8	4.8	
88	380	下	右	P2	左側あり。省略										8.6		8.6		
88	380	下	右	P3	左側あり。省略										7.5		7.5		
88	380	下	右	P4	左側あり。省略										4.7		4.7		
88	380	下	右	M1	左側あり。省略														
88	380	下	右	M2	左側あり。省略										5.5		5.5		
88	380	下	右	M3	左側あり。省略										4.8		4.8		





動物遺体

ウマ[1.P²³⁴M¹²³・左右(19)、2.P₂₃₄M¹²³・左右(21)、3.橈骨・左(17)、4.大腿骨・左(76)]
 ウシ[5.中手骨・左/右、6.M₂₃・左]
 スケールは10cm ()内は整理番号

第VI章 調査の総括

本遺跡の調査では、第IV章調査の成果で述べたとおり、縄文から近世・近代に至る長い時間幅の遺構・遺物が検出された。本章ではこれら今回の発掘調査により明らかとなった成果をまとめ総括としたい。内容はまず1点目として、遺跡の時代別利用状況を縄文、弥生、古代、中世についてまとめてみたい。なお、まとめにあたっては、近年調査報告された周辺遺跡の成果もふまえて概観したい。もう一点は、本文中でも触れたが弥生後期の所産と考えられる、縄文施文の土器についてである。外来からの影響と考えられるこのような土器がまとめて出土したのは本遺跡が佐久地域では初めてとなる。その発見意義等に触れてみたい。

第1節 大豆田遺跡Ⅳとその周辺地域の時代的概観

(1) 縄文時代

今回の調査では縄文時代の遺構として落とし穴と考えられる土坑2基と杭列遺構が検出された。調査面積から考えると非常に閑散とした風景であるが、近接する中部横断道分の周防畑遺跡群でも落とし穴が1基、北側に隣接する宮の前遺跡でも集落は発見されず、落とし穴が調査されている。近接する縄文集落は田切を隔てた北西側台地の近津遺跡群に立地すると考えられる。西近津遺跡Ⅶからは縄文後期の土坑群が検出され、石棒や土偶等が出土している。このように、縄文時代の本遺跡周辺は狩猟場として利用されていたと考えられる。

(2) 弥生時代

弥生時代になると中期後半の集落が形成されるが、場所は中部横断道側の調査地点で、尚且つ南側に広がる低地を超えた微高地上である。よって大豆田遺跡や宮の前遺跡が立地する台地上では中期後半の栗林期の集落は発見されていない。台地全体に生活の場が広がるのは弥生時代後期の箱清水期である。後期になると住居や周溝墓が台地上で検出されている。今回の大豆田遺跡Ⅳの調査範囲では住居址と土坑、掘立柱建物址が検出されたが、調査区を接する周防畑B遺跡のA地区とB地区、北に接する宮の前遺跡では、円形周溝墓や方形周溝墓が検出されている。これら集落と墓域はある程度の距離を持ち混在しないようであるが、先に述べた中期後半の集落が調査された中部横断道調査範囲の5区については周溝墓と住居址が近接し、一部重複関係にある。これは低地内の限られた範囲の微高地上に遺跡が立地する為と考えられる。

周辺部で検出されている後期の集落は、田切や低地、或いは墓域に区切られて、各々一つの村落的な立地を示している(第1図参照)。今回の調査範囲である大豆田遺跡Ⅳも微視的にはU7.9.11遺物集中区の範囲は黒色土が堆積し、地形的にはやや低くなる。よって周防畑B遺跡の集落も含め、遺跡内で西側の集落エリアと東側の集落に分かれると考えられる。このように見ていくと、周辺で発見された集落グループは中部横断道2.3区で30軒以上、宮の前遺跡40軒以上、大豆田遺跡西側24軒、大豆田遺跡東側10軒以上となる。各グループはいずれも重複関係があり、一時期の集落数の把握は難しいが、大豆田遺跡西側グループは比較的重複が少なく、住居主軸方向もほぼ一致することから、同時併存を20軒前後と試算してもよいと考える。

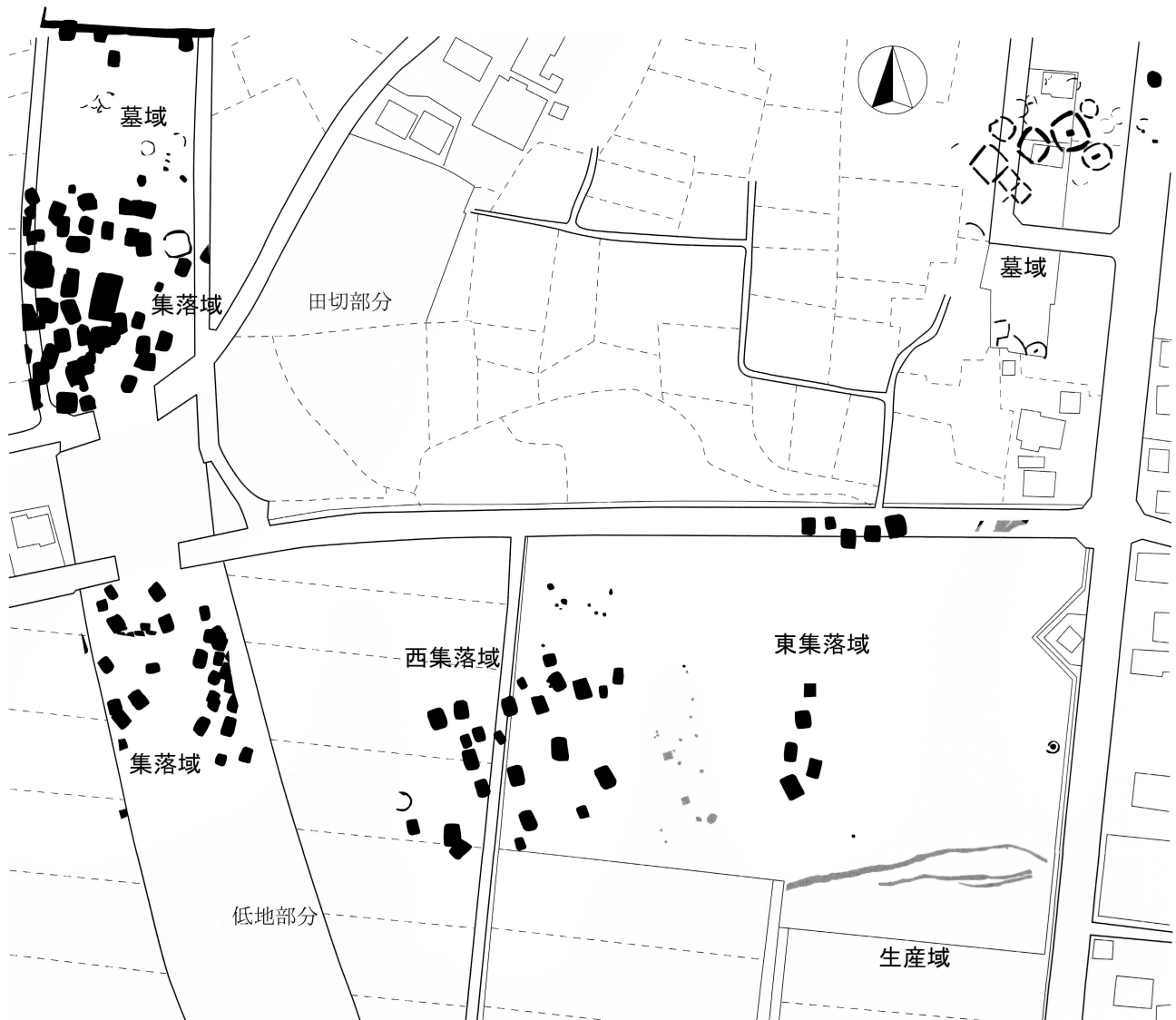
よって、中部横断自動車道に伴う調査の西近津遺跡群部分が未報告であるため、詳細は分からないが、住居規模が18.0×9.5mという超大型住居を含む西近津遺跡群の弥生後期集落を母村的な位置づけと捉えられれば、周辺の台地や微高地に20軒前後で立地する集落は、母村を取り囲む子村的な立地と推定できる。これら集落の集団が目指したものは、眼前に広がる濁川が形成した沖積低地の水田開発であろうことが想定される。

(3) 古墳時代

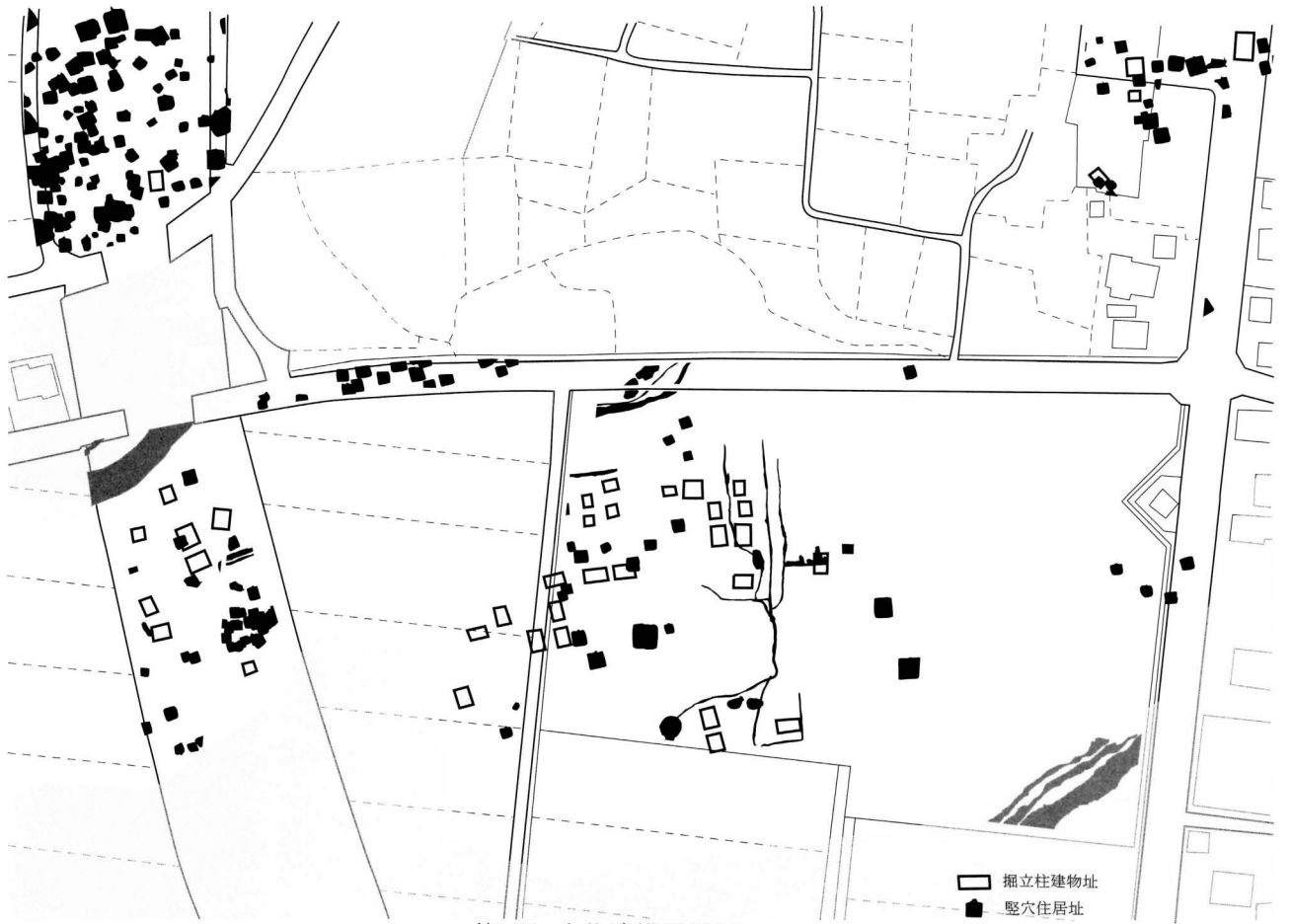
今回の調査では古墳時代の遺構として弥生末から古墳前期の住居址1軒、後期の住居址1軒、溝状遺構1本しか検出されず、古墳時代については不明な部分が多い。また、中部横断道側の2.3区においても古墳時代の住居址は検出されておらず、宮の前遺跡についても数は少ない。よって大豆田遺跡周辺の台地は古墳時代において積極的な土地利用は無かったと考えられる。ただ、本遺跡のM7号溝状遺構から5.6世紀の土器が出土し、当該期の所産と考えた。溝は東西方向に伸び、台地と沖積低地の境界付近に立地することから、何らかの土地区画を目的とした行為が考えられ、全くの無人の荒野的な情景ではなかったと考えられる。

(4) 古代(奈良・平安時代)

奈良・平安時代になると、弥生時代後期同様に台地全体に活動の場が広がる。検出された遺構としては住居址・掘立柱建物址・土坑・溝状遺構等である。遺跡全体の特徴としては、周防畑B遺跡も含めると住居址16軒に対して、掘立柱建物址が27棟と、掘立柱建物址の比率が高いことが挙げられよう。勿論、両遺構の同時併存の確定は非常に難しいが、累計として見た場合でも西隣りの中部横断自動車道調査地点が住居址41軒、掘立柱建物址11棟であり、比率の差は歴然である。これらの事から、今回調査が行われた大豆田遺跡IV周辺の台地上は集落域というよりも、掘立柱建物址を主に使用する生活域と考えられる。当遺跡の南側前面が沖積低地であり、水田としての生産活動域であろうことが予想されるため、この掘立柱建物址群は集落域と生産域の中間に位置し、水田耕作のための倉庫群と捉えられないだろうか。今一步想像をたくましくすれば、これら倉庫群に収められていたものは、もちろん生産品である「粃」を第一に、耕作にかかわる農具、水田維持の為の資材等が考えられ、主軸方位や形態の差は収蔵物の違いに起因するのではないであろうか。このことは集落内での集団と個人における農具保有・管理の問題を解明しなければもちろん証明できないことであるが、今回記載したことはあくまでも想像であり、何らの考古学的・文献史的な証拠は今のところないが一考の価値はあるように思う。



第1図 弥生後期遺構配置図



第2図 古代遺構配置図



第3図 中世遺構配置図

(5) 中世

今回の調査では中世の遺構として掘立柱建物址や溝状遺構や土坑が検出された。掘立柱建物址については4棟を比定したがいずれも確定的な出土遺物は無く、形態と覆土の状況からの判断である。ただ、掘立柱建物として組めなかった単独ピットが800個以上検出されており、これらの中に建物址となるものも多いと考えられる。土坑については特に井戸址と考えられるものが多かった。中でも木杵の形状が良好に残存しているものとしてD8.9.40.63号土坑があり、特にD40については埋め桶も残存していた。これら井戸址の深さは平均2mの深さで、北側に接する道常遺跡検出の井戸が平均3m以上の深さがあるのに対して浅かった。これは遺跡の立地の差であり、湧水層が低地に近い本遺跡の方が高いことに起因する。

次に、溝状遺構は本文中でも触れたが、南北と東西にそれぞれ伸びる溝が直行することが最大の特徴である。またこれらの溝は位置を少しずつ替えながら掘り直しが行われており、結果何本かの溝状遺構の集合体のような状況であった。本遺跡において古代までの溝状遺構は、北東方向から南西方向に斜めに地形を横切るものがほとんどであった。この中世段階になり、整然とした南北・東西方向を志向する溝状遺構が出現するという事は、この時期に新たな地割や水路建設がなされたことを意味し、条理的な風景がこの段階から現れたと考えたい。

これら中世所産の遺構から出土した遺物は青磁類や尾張・常滑系の陶器類、北関東や県内産の須恵質系すり鉢などがあった。これらはいずれも13～14世紀代のもので占められ、本遺跡の井戸や溝状遺構の帰属年代の根拠となっている。中でも特に注目される遺物として遺構外からの出土であるが、輸入陶磁器の緑釉盤がある。長野県内では中央道建設に伴う松本市の北栗遺跡より出土した破片に次ぐもので県内2例目となる。また、近世以降の溝状遺構からの出土であるが龍泉窯系の青磁香炉などもあった。

ただ、佐久地域においては特殊と考えられるこれらの遺物が出土しているが、遺構群の状況としては溝に囲まれた範囲に井戸と小規模な掘立柱建物址がまばらに建つ状態で、館や町屋といった様相は見受けられない。また、道常遺跡のような堅穴状遺構が密集するような一般的な集落域とも異なっている。ただ、形態的にしっかりした井戸はつくられている。これらの状況から本遺跡の性格づけに苦慮する。井戸の使用目的が日々の人々の暮らしにのみ使用されたものなのか、或いは何らかの生産活動と関連するのか、現状では答えを持ち合わせない。この点については今後の課題とした。しかし、佐久地域において発見例の少ない13～14世紀代の中世前期に比定される本遺跡は希少な発見例である。

(6) 近世・近代

近世・近代に属する遺構は溝状遺構が多く、その多くは圃場前の水田畦畔や水路と重なるものが多い。また、南北に伸びる中世の溝状遺構は圃場整備前の道路下に位置し、中世の区割りが道として近世・近代まで踏襲された好例であろう。なお、近世以降は水田として利用されていたと考えられるが、先に述べた水路や地割しか発見されていない。これは、昭和55年以降の大規模圃場整備による掘削や、基本層序で述べた近世の水田耕作土と考えられるIV・V層を表土剥ぎ段階で除去した為である。

注

1. 中部横断道自動車道関連で調査された西近津遺跡群の弥生・古代・中世の遺構配置図は、長野県埋蔵文化財センター 年報 27 に掲載された全体図から現地説明会資料等を参考に再トレースしたもので正確な帰属時期を示すものではない。詳細については長野県埋蔵文化財センター刊行の本報告を参照されたい。
2. 田切地形及び低地を示した範囲は、昭和55年の圃場整備以前の水田形状や水路、周防畑B遺跡の調査成果を参考として作成した。

第2節 弥生後期の縄文施文土器について

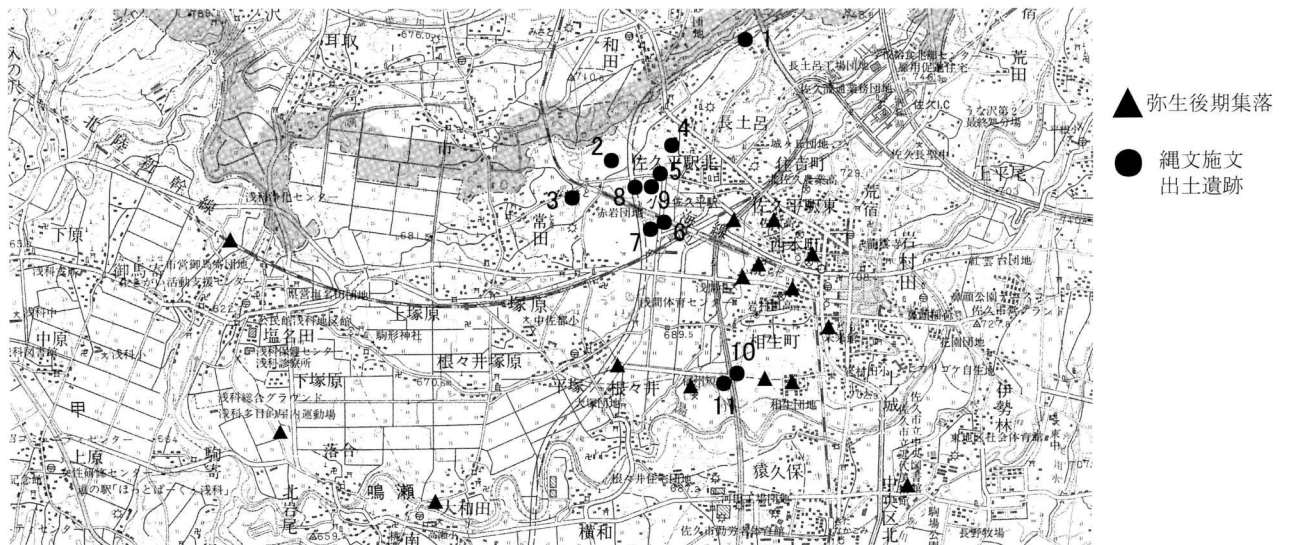
今回の調査では箱清水式土器と伴に弥生後期所産と考えられる縄文施文の土器が多く出土した。これらは、所謂関東に分布域をもつ「赤井戸式土器」や「吉ヶ谷式土器」と呼ばれる土器群に似る。今日までにこれらの土器が佐久地域において一遺跡からまとまって出土したことはなかった。ここでは、これら資料を今一度精査し、今回の出土資料の位置づけを試みたい。

大豆田遺跡Ⅳから出土した縄文施文の土器は主に土坑やU7やU11といった遺物集中区から出土しており、今回の調査された住居址からは出土していない。しかし、隣接する周防畑B遺跡からはY2号住居址やY16号住居址から全体の器形を知りうるような土器が出土し、また他の住居址からも破片資料であるが出土している。遺物集中区でも述べたが、U7やU11の土器群は西側に展開する集落址から持ち込まれた可能性が指摘できる為、これら縄文施文の土器群は今回の調査範囲でも西側に展開する集落や接する周防畑B遺跡の集落内で使われていたものと推測される。

佐久地域で弥生後期段階のこれら縄文施文土器の出土遺跡としては、管見に触れたものとして下記の表と地図にまとめた。

第1表 縄文施文土器出土遺跡一覧表

	遺跡名	遺構名	種別	形状	時期	
1	近津遺跡群	遺構外	甕	輪積み痕口縁部	折り返し甕	
2	西近津遺跡Ⅳ	D54	甕	頸部破片 縄文RL	覆土より	
3	上大豆塚遺跡	H1	甕	接合後にほぼ完形	甕	弥生後期後半
4	宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ	遺構外	甕	胴部破片 単節縄文RL	2片出土	
		D93	甕	胴部破片	弥生井戸	弥生後期
		H109	甕	胴部破片 単節縄文RL		弥生後期
5	大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ	M8	甕	破片		
6	辻の前遺跡	H7	甕	輪積み痕口縁部	2片出土	弥生後期後半
7	辻の前遺跡Ⅱ	H1	甕	口縁部破片	2片出土	古墳前期
		H3	壺	口縁部から頸部		弥生後期後半
		H3	甕	胴部破片	2片出土	弥生後期後半
8	周防畑遺跡群	SB55住居	不明	区画線あり、破片		弥生後期
		SB77住居	壺?	破片	4片覆土より出土	
		SM509方形集溝墓	甕	口縁部破片	覆土より	弥生後期
		SD05号溝址	甕	口縁部破片	覆土より	
9	周防畑B遺跡	Y2号	甕	口縁部から頸部		弥生後期前半
		Y16号	壺	頸部から胴部		弥生後期前半?
10	西一本柳遺跡ⅩⅠ	M1	甕	輪積み痕口縁部	十王台式出土	弥生後期
11	西一本柳遺跡Ⅹ	H27	壺	赤彩壺の頸部破片		弥生後期前半



第4図 縄文施文土器出土遺跡位置図

これらの分布図から解ることは、明らかに佐久地域内の弥生後期集落の中で縄文施文土器を出土する遺跡が偏るということである。一番の中心は今回調査が行われた大豆田遺跡周辺で、今一步微細にみると土器器形が解るようなものを出土するのは、低地に近い或いは低地内微高地に立地する遺跡であり、台地上に展開する大規模集落内からは今のところ出土報告がない。今一つの位置は西一本柳遺跡周辺である。ただ、こちらの範囲からはいずれも小片の出土に止まっている。このように、佐久地域における縄文施文土器を出土する遺跡は極めて限定された遺跡からの出土であり、尚且つその中心は今回調査が行われた大豆田遺跡IVの西側を含む周防畑B遺跡で検出された集落であることが予想される。

では、現在までに当地域においてどのような土器が出土しているか整理してみたい。先に掲載した表でも解るように、その主体は甕であり、少量の壺が含まれる。赤井戸並びに吉ヶ谷土器系譜と考えられる高坏や吉ヶ谷式で特徴的な壺口縁部の突帯状粘土帯に刻みを施した飾りの壺などは見られない。ただし、本遺跡のM10号溝状遺構出土の高坏脚部(第106-31)などは坏部と脚部の接合部に吉ヶ谷式に見られる突帯状の粘土帯が巡る。このような形状は箱清水式には見られず、或いは赤井戸・吉ヶ谷式の影響とも考えられる。まず壺については第5図に示した1~3が壺と考えられる。しかし、1と2は器形が箱清水式と考えられ、施文のみが影響を受けている。3は赤彩が施された壺で、縄文施文が段状になる赤井戸・吉ヶ谷式に近い。甕は今回多くの形態が出土している。ただし、全容を把握できる土器は少ない。4は壺か甕か判断に苦しむが、器形と縄文施文は赤井戸・吉ヶ谷式に近い。しかし、両形式が行わない沈線による区画を施す点は箱清水式的である。7はほぼ完形の甕で、口唇部に刻みを持ち、胎土も在地とは異なる感じがある。11~13は赤井戸・吉ヶ谷式に特徴的な輪積み痕を残す縄文施文の甕口縁部である。7と11~13は搬入品の可能性がある。他のものは器形が箱清水式的なものが多く、櫛描を縄文に置き換えたようなものも多い。また14のように赤井戸・吉ヶ谷式ではあまり見られない口縁部に無文帯を持つ土器がある。胎土も在地としてはやや異なる感がある。箱清水式の甕でも口縁部に無文帯を持つ資料はあまり見受けられない。このような文様構成は信州にあって中期栗林的な要素であり、関東側では後期の樽式や岩鼻式に見られる文様構成と理解している。14のような土器は在地化と考えるべきなのか、或いは群馬県前橋市荒砥北三木堂遺跡31号住居址から出土している中期後半の縄文系土器に似ていると思うのは無理があろうか。

このように、今回の大豆田遺跡からの出土資料の多くは縄文施文土器と一概に言っても、赤井戸・吉ヶ谷式がストレートに地域内に搬入されているというものではなさそうである。佐久地域で変容し、在地化とまでは言わなくともオリジナルからだいぶかけ離れた土器群と捉えられよう。では、なぜこのような土器が一遺跡からまとまって出土するのであろうか。住居址内から出土する多くの土器は在地箱清水式である。そこに混在するように縄文施文土器が出土することは、集落全体での人々の移入ということは考えづらい。とすれば婚姻や少人数の移動などが考えられるが現況の考古学的資料ではここまでである。ただ、今一度確認したいのは、大小さまざまな後期箱清水期の集落が展開するこの地域で、大豆田遺跡のみにこのような土器が集中して出土する理由は、今後考えていかなければならない大きな課題の一つである。

最後に今回の資料は、並行関係が追えれば赤井戸・吉ヶ谷式成立の問題にも一助となるのかもしれない。ただ、今回は縄文施文土器しか取り上げなかったが、この問題をまとめるにあたって、櫛描文土器である樽式や岩鼻式の土器の搬入について考えていかなければならない事に気づいた。従来より弥生中期栗林段階から北陸や北関東からの外来系土器については注視がされてきた。しかし、中期・後期段階における関東側からの竜見町式・樽式の地域内への搬入がどのような様相であるのか把握はされていない。この問題を扱うことが今回の縄文施文土器の位置づけをより一層深化させることにつながる。佐久地域はその立地から特に取り組まなければならないと考える。今回は紙面の都合上ここまでとして、改めて別稿としたい。

参考文献

- 大木紳一郎 1991 「赤井戸式の祖型について」『研究紀要』8 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
2007 「岩鼻式と樽式土器」『埼玉の弥生時代』 埼玉弥生土器観会
柿沼幹夫 1982 「吉ヶ谷式土器について」『土曜考古』 第5号 土曜考古学研究会

なお、大木紳一郎氏と柿沼幹夫氏には本資料の実見ご教示を頂いたが、本報告書でご意見を反映出来なかった。記してお詫びと御礼を申し上げます。



1.辻の前Ⅱ 7.上大豆塚 11.西一本柳XⅠ 12.近津遺跡群 13.辻の前 その他は大豆田Ⅳ

第5図 佐久地域出土の関東系縄文施文土器



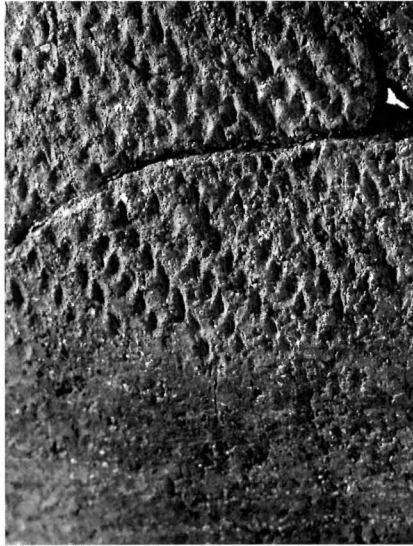
D22-5(口縁部)



U11-85



U11-57



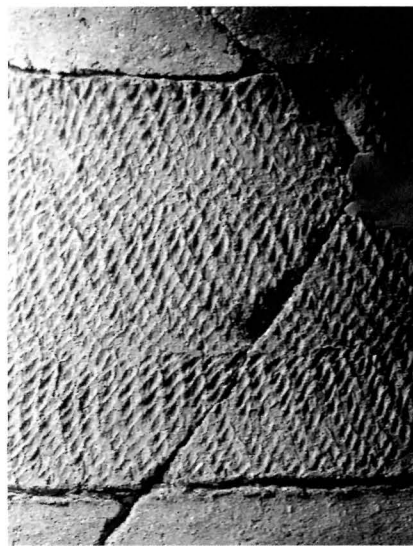
D22-5(胴部下半)



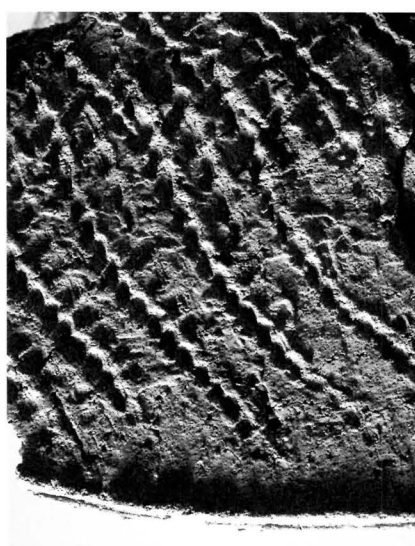
D48-7



U2-4



D104-1



U11-29



Gr-25

第1表 遺構計測表(1)

遺構名	検出位置	平面形態	規模			主柱	柱穴・深さ	カマド・炉		周溝	重複関係	時期・備考		
			主軸方位	長軸長	短軸長			壁残高	面積				柱間寸法	位置
H1	XV-18・19・23-24	正方形	N-3°-E (カマド)	6.80 南北	6.14 東西	0.29	43.91	P1-P2 4.26 P2-P3 3.87 P1-P4 3.80 P3-P4 4.11	①0.75-0.65 (幅)0.91-0.59 ②0.89-0.57 (幅)0.97-0.58 ③0.91-0.69 (幅)0.95-0.64 ④0.87-0.61 (幅)0.95-0.50	北中央	粘土	有	P38・P39	8C第IV
H2	XV-15・20・25 XVI-11・16	長方形	N-27°-W (炉)	8.78 南北	6.18 東西	0.30	(52.38)	P1-P2 4.69 P2-P3 2.32	①0.62-0.43 ②0.60-0.50 ③0.77-0.56 ④0.46-0.17 ⑤0.79-0.36 ⑥0.88-0.35 ⑦0.43-0.41 ⑧0.43-0.39 ⑨0.74-0.32 ⑩0.38-0.16 ⑪0.31-0.10 ⑫0.42-0.12 ⑬0.36-0.23 ⑭0.28-0.21 ⑮0.48-0.13 ⑯0.51-0.23 ⑰①-③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯すれあり 炉 0.48-0.14	北主柱六間	土器埋設	無		弥生後期後半 地殻によるすれ
H3	XIII-16・17	(正方形)	(N-11°-W) (南北)	(5.89) 南北	(5.87) 東西	0.06	(33.31)	P1-P2 3.51 P2-P3 3.10 P3-P4 3.13 P1-P4 2.85	①0.78-0.49 ②1.17-0.61 ③0.94-0.71 ④0.76-0.47 ⑤0.35-0.24 ⑥0.49-0.20	北中央 (S56年度調査分より)		有	P857・P865・P866・P867	S56年に一部調査
H4	XVI-24 XXII-4	(長方形)	N-16°-E (南北)	(1.88) 南北	(3.11) 東西	0.08	(4.48)	P1-P2 1.61	①0.30-0.06 ②0.29-0.04 ③(幅)0.21-0.08	-		無	M36	弥生後期?
H6	XIII-25	(長方形)	N-20°-W (南北)	(4.69) 南北	(3.99) 東西	0.08	(17.82)	P1-P2 1.69 P2-P3 2.43 P3-P4 1.86 P1-P4 2.49	①0.29-0.35 ②0.43-0.46 ③0.45-0.42 ④(0.43)・0.40 ⑤0.54-0.29 ⑥(0.32)・0.19	-		無	M20	弥生後期 地殻によるすれ
H8	XV-14・15・19	長方形	N-15°-E (南北)(炉)	(6.91) 南北(炉)	4.69 東西	0.15	(32.15)	P1-P2 2.29 P2-P3 4.69 P3-P4 2.56 P1-P4 4.72	①0.76-0.45 (幅)0.66-0.78 ②0.90-0.54 (幅)0.59-0.75 ③0.78-0.44 (幅)0.49-0.65 ④0.71-0.59 (幅)0.55-0.70 ⑤0.47-0.38 ⑥0.65-0.29 ⑦0.46-0.41 ⑧0.43-0.40 ⑨0.28-0.32 (幅)0.17- ⑩(幅)0.45-0.20 ⑪(幅)0.25-0.19 ⑫(幅)0.29-0.38 ⑬(幅)0.45-0.33 ⑭(幅)0.38-0.20 ⑮(幅)0.27-0.18 炉 0.44-0.15	北主柱六間	土器埋設	無		弥生後期後半 地殻によるすれ
H9	XII-17	-	N-5°-W (カマド)	(1.90) 南北	(4.50) 東西	0.22	(8.78)		①0.32-0.08 ②0.76-0.16 ③(幅)0.48-0.06 ④(幅)0.69-0.24 ⑤(幅)0.30-0.12 ⑥(幅)0.36-0.11	北中央		有		8C代
H10	XII-17・18	長方形	N-11°-W (南北)	(3.47) 南北	(2.71) 東西	0.05	(8.89)	P1-P2 1.68	①0.32-0.19 ②0.31-0.14	-		有	H9	古代?
H11	XII-17・18・22-23	長方形	N-2°-W (南北) (カマド)	6.36 南北	5.58 東西	0.21	32.70	P1-P2 3.33 P2-P3 2.97 P3-P4 3.37 P1-P4 2.90	第1床①0.59-0.56 ②0.55-0.51 ③0.44-0.62 ④0.56-0.61 第2床⑤ 0.78-0.67 ⑥0.63-0.67 ⑦0.70-0.63 ⑧0.86-0.62 ⑨0.38-0.20 ⑩0.45-0.17 ⑪0.96-0.28 ⑫0.68-0.27 ⑬0.54-0.13 ⑭0.47-0.43 ⑮0.25-0.15 ⑯0.25-0.23 ⑰0.54-0.23 ⑱(幅)0.31・ 0.27 ⑲(幅)0.72-0.25 ⑳(幅)0.53-0.40 ㉑-(幅)0.29-0.27 ㉒-(幅)0.31-0.20 ㉓-(幅)0.40-0.26	北中央	粘土	有	H9・H10・F9・P125	7C代 建替えあり
H12	XII-8・13	-	-	(3.93) 南北	(0.63) 東西	0.04	(2.33)		①(0.49)・0.51	-		無	P126・P127・P128・P868	不明
H13	IX-25 XV-4・5	(長方形)	(N-6°-W) (炉)	(6.63) 南北	(5.94) 東西	0.15	(37.13)	P1-P2 3.45 P2-P3 3.73 P3-P4 4.03 P1-P4 3.60	①0.45-0.33 ②0.32-0.33 ③0.34-0.26 ④0.38-0.11 ⑤0.34-0.07 ⑥0.38-0.18 ⑦0.43-0.28 ⑧(幅)0.71-0.19 ⑨(幅)0.45-0.21 ⑩(幅)0.21-0.11 炉1 0.13-0.14 炉2 0.48-0.12	北主柱六間	土器埋設	有		弥生後期後半 炉2ヶ所 D1 長0.93・幅0.75・深 0.12
H14	XVIII-3	-	(N-17°-W) (カマド)	(0.72) 南北	(2.31) 東西	0.08	(1.65)		①(幅)0.26)・0.16 ②0.11-0.08	北中央		有	F8・M91	古代?
H15	XV-4・5・9・10	(長方形)	(N-2°-W) (東西)	(6.92) 南北	(6.20) 東西	-	(41.81)	P1-P2 4.09 P2-P3 3.73 P3-P4 4.03 P1-P4 3.60	①0.81-0.26 ②1.12-0.11 ③0.87-0.32 ④0.77-0.39 ⑤0.36-0.21 ⑥0.32-0.24 ⑦0.23-0.14 ⑧0.23-0.10	-		有	M36	不明
H16	XII-23 XVIII-3	-	-	(2.31) 南北	(0.78) 東西	0.20	(1.81)		①0.19-0.33 ②0.18-0.30 ③0.15-0.18 ④0.11-0.16	-		有	F7	弥生後期
H17	XI-20-25	(長方形)	N-5°-W (カマド)	(4.95) 南北	(4.26) 東西	0.18	(20.53)	P1-P2 2.33 P2-P3 2.40 P3-P4 2.47 P1-P4 2.36	①0.57-0.68 ②0.61-0.56 ③0.60-0.43 ④0.45-0.21 ⑤0.83-0.10 (幅) -0.15	北中央	粘土	無	P187・F33・M30・M33	8C(後半)~9C初頃

第2表 遺構計測表 (2)

(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	平面 形態	規模			主柱 柱間寸法	柱 穴・炉 (径・深さ)	カマド・炉		周溝	重複関係	時期・備考
			主軸方位	長軸長	短軸長			壁残高	位置			
H18	XII-17・18	方形	(3.84) 南北	3.96 東西	0.23	P2-P3 1.91 P3-P4 0.96 P4-P5 2.04 P2-P5 1.15	①0.57-0.09 ②0.52-0.49 (軸)0.26-0.30 ③0.38-0.59 (軸)0.34-0.51 ④0.57-0.56 (軸)0.28-0.46 ⑤0.41-0.59 (軸)0.28-0.40 ⑥0.60-0.41 (軸)0.48-0.23 ⑦0.37-0.09 ⑧(軸)0.24・0.33 ⑨(軸)0.27-0.46	北東寄 土器埋設	無	H9・H10・H11・M31	古墳前期	
H19	XII-21・22 XVIII-1・2	(長方形)	(6.66)	(5.03)	-	P1-P2 2.18 P2-P3 3.74 P3-P4 2.19 P1-P4 3.33	①1.11-0.59 ② (0.48)・0.45 ③0.61-0.68 ④0.72-0.56 ⑤0.25-0.06 ⑥ (0.26)・0.41 ⑦ (0.21)・0.51	-	-	H11・F9・F10・P175	弥生後期	
H20	XV-10・15 XVI-6・11	(長方形)	(7.28) 南北	(4.75) 東西	-	P1-P2 0.77 P2-P3 2.94 P3-P4 1.28 P6-P7 3.87	①0.37-0.17 ②0.36-0.18 ③ (0.47)・0.52 ④0.33-0.20 ⑤ (0.30)・0.09 ⑥0.50-0.47 ⑦0.38-0.17 ⑧0.49-0.12 ⑨ 0.47-0.08	北柱柱穴間 (狹)	-	-	弥生後期	
H21	XI-13・18・19	(長方形)	(6.08) 南北	(3.74) 東西	0.06	P1-P2 2.15 P2-P3 2.94 P3-P4 2.11 P1-P4 2.52	①0.42-0.45 ②0.43-0.46 ③ (0.42)・0.35 ④0.37-0.39 ⑤0.59・0.51 ⑥0.62-0.62 ⑦ (0.63)・0.30 ⑧0.43-0.41 ⑨(軸)0.40-0.35 ⑩(軸)0.23-0.51 ⑪(軸)0.26-0.29 ⑫(軸)0.21-0.30 ⑬(軸)0.51・0.32	-	有	P121・P122・P123・P129	弥生後期	
H22	XI-19・24	(長方形)	(4.75) 南北	(3.22) 東西	-	P1-P2 1.51 P3-P4 0.77	①0.67-0.66 ②0.65-0.66 ③0.30-0.24 ④0.36-0.27 ⑤0.27-0.27 ⑥0.53-0.66 ⑦ 0.36-0.10	北柱柱穴間 (狹)	-	P126・P127・M30	弥生後期	
H23	XI-13	方形	4.19	4.17	0.13	P1-P2 2.21 P2-P3 2.39 P3-P4 2.33 P1-P4 2.29	①0.47-0.35 (第2柱)同じ ②0.49-0.46 (第2床)0.57-0.64 (軸)0.62-0.44 ③0.40-0.18 (第2床)0.69-0.54 (軸)同じ-0.47 ④0.60-0.43 (第2床)0.67-0.43 (軸)0.70-0.56 ⑤(第2床)0.66-0.30 (軸)第2床と同じ	北中央	有	P172	SC前半 建替えあり	
H24	XII-16・17・21	長方形	(6.86)	(5.40)	0.13	P1-P2 2.35 P2-P3 3.53 P3-P4 2.16 P1-P4 3.46 P6-P8 0.56	①0.74-0.36 ②0.64-0.49 ③0.80-0.55 ④0.50-0.52 ⑤0.65-0.57 ⑥0.52-0.51 ⑦1.01-0.27 ⑧(軸)0.51-0.47 ⑨0.48-0.39 ⑩0.37・0.32 ⑪0.33-0.30 ⑫ 0.39-0.10	北柱柱穴間 (狹)	無	D65・D66・H27・M12・M57	弥生後期	
H25	V-18・19・23・24	長方形	2.98	3.43	0.12		①(軸)0.28-0.20	北東寄	有	-	SC前半	
H26	XI-19・20・24・25	長方形	(7.23) 南北	(4.92) 東西	0.24	P1-P2 2.73 P2-P3 2.14 P3-P5 2.96 P1-P5 1.70	①0.57-0.81 テラス0.33 ②0.75-0.71 テラス0.40 ③ (0.64)・0.55 テラス0.36 ④0.37-0.57 テラス北側 0.15 南側 0.16 ⑤0.71-0.69 ⑥0.37-0.21 (軸)0.87-0.30 ⑦ (0.54)・0.35 テラス0.19 ⑧ (0.69)・0.35 ⑨ (0.52)・0.30 テラス0.21 ⑩ (0.27)・0.10 ⑪0.25-0.09 ⑫0.33-0.23 ⑬0.22-0.24 ⑭(軸)0.78-0.63 テラス北側 0.21 中央 0.49 東側 0.23 ⑮(軸)1.15-0.58 テラス0.17 ⑯(軸)0.50-0.17 ⑰(軸)0.79-0.35 ⑱ 0.88-0.14	北柱柱穴間 (狹)	無	H17・H17・M30・F33・P187	弥生後期前半	
H27	XII-16	方形	3.32 東西	3.24 南北	0.11		①0.45-0.35 ②0.70-0.20 テラス0.19	東北寄	無	M12・M57	SC前半	
H30	XII-11・12	方形	(4.60) 南北	(4.72) 東西	-	P1-P2 2.09 P2-P3 1.52 P3-P4 2.09 P1-P4 2.15 P5-P6 2.39 P7-P10 0.57	①0.72-0.61 ②0.50-0.42 ③0.43-0.61 ④0.72-0.63 ⑤0.29-0.36 ⑥0.31-0.38 テラス0.30 ⑦0.25-0.18 ⑧0.49-0.45 ⑨0.42-0.17 ⑩0.25-0.23	-	有	F16・F563・F690		
Ta1	X-20・21・25	-	6.75	3.86	0.30		①0.90-0.38 ②0.90-0.24	-	-	M29・M19	SC代	
Ta2	XVI-24・25 XXII-4・5	-	5.61	(3.56)	0.30		①0.22-0.18 ②0.28-0.06 ③ (0.42)・0.24 ④0.25-0.07 ⑤0.35-0.32	-	-	M21		
Ta3	XVI-25 XVII-21 XXII-5 XXIII-1	-	5.36	(2.93)	0.20			-	-	M21	SC代	

第3表 遺構計測表 (3)
(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	平面形態	規模				柱				重複関係	出土遺物
			長軸方位	桁行長	梁間長	面積	ヒット径	梁さ	桁行柱間寸法	梁間柱間寸法		
F1	XX I -9・10	長方形	N-77°-E	9.24	4.95	37.24	0.27~0.39	0.07~0.32	P8-P9 4.09 P5-P11 2.27	P4-P5 3.42 P6-P7 1.51		
F2	XX II -3・4・8・9	長方形	N-84°-E	7.94	4.23	31.63	0.60~1.57	0.23~0.66	P6-P7 3.85 P3-P4 1.79	P5-P13 4.23 P1-P8 1.93		P1須恵器環・甕、土師器甕、P2須恵器環・甕、P3土師器コクロ甕、P5弥生甕、P8武蔵甕、P10弥生甕、P13土師器甕
F3	XX III -1・2・6・7	長方形	N-14°-W	13.34	4.56	52.52	0.57~1.09	0.16~0.70	P17-P18 2.57 P7-P8 2.03	P1-P2 2.47 P2-P3 2.09	P94	P1須恵器環・甕、P2須恵器蓋・杯・高坏、甕、土師器甕、P3須恵器器蓋・杯・甕、土師器甕、P4須恵器蓋・杯、土師器甕、P5須恵器器蓋・杯、土師器甕、P6須恵器蓋・杯、土師器甕、P7須恵器器蓋・杯、土師器甕、P8土師器甕、P9須恵器器蓋・杯、高坏・甕、武蔵甕、P10須恵器器蓋・杯、土師器甕、P11須恵器器蓋・杯、土師器甕、P12土師器甕、P13須恵器器蓋・杯、土師器甕、P14須恵器器蓋・杯、土師器甕、P15須恵器器蓋・杯、高坏・甕、武蔵甕、P16須恵器器蓋・杯、土師器甕、P17須恵器器蓋・杯、土師器甕、P18土師器甕
F4	XV -20・25	方形	N-74°-E	2.74	2.52	6.69	0.59~0.91	0.31~0.45	P5-P6 1.38 P1-P2 1.24	P3-P4 2.52 P1-P6 2.39		P2弥生甕、P3須恵器甕、土師器甕、弥生甕、P4古墳坏、P5土師器甕、P6弥生高坏
F5	XX III -3・4・8・9	方形	N-3°-W	4.04	3.63	13.52	0.16~0.36	0.14~0.34	P7-P8 2.16 P1-P2 1.77	P6-P9 1.98 P1-P4 1.64		
F6	XVII -13	(長方形)	N-13°-W	6.26	2.74	(17.16)	0.28~0.45	0.26~0.33	P1-P2 1.69 P3-P4 1.33	P5-P6 2.74		
F7	XII -23 XIII -3	-	N-16°-W	-	-	-	0.67~0.84	0.46~0.67				
F8	XIII -2・3	(方形)	N-13°-W	3.49	2.07	(12.98)	0.42~(0.88)	0.12~0.69	P4-P7 2.06 P2-P7 1.48	P1-P2 2.07 P4-P5 1.74	F7-M91	P1須恵器環・甕、P2弥生甕、P3土師器甕、P6須恵器甕、弥生甕
F9	XII -21・22 XIII -1・2	長方形	N-82°-E	7.89	4.25	32.84	0.50~0.86	0.17~0.54	P9-P10 2.25 P1-P2 1.55	P4-P9 4.24 P1-P14 1.33	M12	P2弥生甕・甕、P3土師器内黒坏、武蔵甕、弥生甕、P4弥生高坏・甕、甕、P5弥生甕・甕、P6弥生甕・甕、P7弥生甕・甕、P8土師器厨文坏、P9須恵器甕、土師器内黒坏、武蔵甕、P10弥生甕、P11土師器甕、P12弥生甕、P13・P14 弥生高坏・甕・甕
F10	XII -21・22 XIII -2	長方形	N-83°-E	7.67	3.74	(29.63)	(0.41)~(1.00)	0.06~0.37	P1-P2 3.92 P5-P6 1.77	P2-P3 3.74	F9	P5弥生高坏、P6武蔵甕、弥生甕、P8弥生甕・甕
F11	XVI -12・17・18	長方形	N-80°-E	3.82	2.56	9.82	0.28~0.62	0.06~0.23	P2-P3 2.01 P1-P2 1.71	P1-P6 2.56 P3-P4 2.54	M86	
F12	XVII -4・5	長方形	N-82°-E	5.83	1.67	7.94	0.34~(1.00)	0.13~0.42	P1-P2 2.06 P3-P4 1.74	P1-P5 1.67 P4-P6 1.37	M27	P1須恵器蓋、武蔵甕、P4土師器坏、P5須恵器蓋、武蔵甕
F13	X-25X I -21 XV -5XIII -1	長方形	N-89°-E	6.26	4.16	25.43	0.63~1.17	0.33~0.59	P6-P7 2.48 P7-P8 1.75	P4-P5 4.16 P8-P9 2.04	M27・M28・M49	P1弥生甕・甕、P2弥生甕、P3須恵器蓋、武蔵甕、弥生甕・甕、P4武蔵甕、弥生甕・高坏、P5弥生甕・甕、P6弥生甕・甕、P7弥生甕、P8弥生甕・甕、P9弥生甕・甕
F14	V -17・18	長方形	N-19°-W	2.94	2.52	6.94	0.62~0.94	0.17~0.40	P3-P4 2.94 P1-P2 2.87	P1-P4 2.52 P2-P3 2.27		P1弥生甕
F15	V -22・23	方形	N-16°-W	2.59	2.39	5.70	0.63~(1.26)	0.40~0.48	P1-P2 2.59 P3-P4 2.37	P2-P3 2.39 P1-P4 2.22		
F16	XII -11・12	長方形	N-5°-W	3.33	3.13	(9.85)	(0.37)~0.88	0.33~0.68	P6-P7 1.74 P3-P4 1.51	P4-P5 1.57 P1-P2 1.39		P1須恵器甕、土師器甕、P2弥生甕、P4土師器甕、P5弥生甕、P7須恵器坏、土師器坏、高坏、弥生甕

第4表 遺構計測表 (4)

遺構名	検出位置	平面形態	規 模				柱				重複関係	出土遺物	
			長軸方位	桁行長	梁間長	面積	ピット径	深さ	桁柱間寸法				梁間柱間寸法
									幅	高			
F17	X-5・10 XI-1・6	長方形	N-2°-W	4.58	3.57	16.55	0.40~0.79	0.04~0.43	P1-P7 4.58 P3-P4 2.0	P1-P2 1.83 P5-P6 1.73	M19 P438-P479	P1弥生甕 P2武蔵甕 P3弥生甕 P6弥生甕 溝 須臾器 P10土師器 P9弥生甕	
F18	X-10・15 XI-6・11	長方形	N-2°-W	5.04	3.95	19.06	0.61~0.99	0.51~0.68	P9-P10 1.96 P5-P6 1.43	P1-P2 2.08 P2-P3 1.81	M62	P4須臾器 P7土師器 P8弥生甕 P10弥生甕	
F19	XII-1・6	長方形	N-78°-E	4.80	3.60	17.32	0.46~0.80	0.20~0.47	P3-P4 1.74 P2-P3 1.47	P4-P5 1.95 P5-P6 1.65	M56	P1弥生甕 P2須臾器 弥生高坏	
F20	X-15・20 XI-11・16	長方形	N-1°-E	7.06	5.15	36.47	0.76~0.99	0.46~0.64	P4-P5 3.13 P5-P6 1.95	P1-P2 2.70 P2-P3 2.40	M30・M19・M62 M65・P527	P1武蔵甕 P2武蔵甕 P3弥生甕 P4武蔵甕 P5弥生甕 P6弥生甕 P7須臾器 P8弥生甕 P9弥生甕 P10土師器 器内皿 P11弥生甕	
F21	XI-3・4・8・9	長方形	N-84°-E	4.55	3.18	13.39	0.34~0.57	0.13~0.29	P1-P2 4.55 P5-P6 1.81	P1-P7 1.64 P3-P4 1.41		P3土師器 P7弥生高坏	
F22	XI-9・14・15	長方形	N-1°-W	7.36	6.22	27.43	0.24~0.72	0.09~0.33	P9-P10 1.96 P1-P2 1.76	P1-P10 3.30 P8-P9 2.71		P1土師器 P8土師器 P9弥生甕	
F23	XI-19	方形	N-4°-W	2.58	2.52	6.28	0.43~0.57	0.41~0.58	P2-P3 2.58 P1-P4 2.55	P1-P2 2.52 P3-P4 2.38		P2土師器 P3須臾器	
F24	XII-6・11	長方形	N-10°-W	3.84	3.47	13.52	0.45~0.59	0.15~0.39	P6-P9 2.14 P1-P8 1.77	P6-P7 1.88 P5-P6 1.59	M57・M67	P4弥生甕	
F25	XII-7	長方形	N-8°-W	3.93	1.49	(5.49)	(0.36) ~0.91	0.26~0.44	P3-P4 1.99 P1-P4 1.94	P2-P3 1.49		P3須臾器 弥生鉢・甕	
F26	XI-2・3・7・8	方形	N-1°-W	6.32	5.90	37.18	0.33~0.91	0.19~0.69	P6-P15 2.42 P9-P10 1.81	P8-P15 2.28 P3-P14 1.59		P1武蔵甕 P2須臾器 P3弥生甕 P4弥生甕 P5弥生甕 P6弥生甕 P7須臾器 P8土師器 P9弥生甕 P10土師器 P11弥生甕 P12須臾器 P16弥生鉢	
F27	XI-6・7・11・12	長方形	N-5°-W	5.13	3.78	19.29	0.64~1.13	0.17~0.40	P5-P6 1.81 P1-P10 1.65	P1-P2 2.00 P7-P8 1.59		P3土師器 P4弥生甕 P5弥生甕 P6弥生甕 P7土師器 P8土師器 P10土師器	
F28	XI-11・12・16・17	長方形	N-6°-W	6.81	5.11	32.74	0.75~1.27	0.34~0.68	P1-P2 2.01 P11-P12 1.40	P8-P9 2.73 P1-P2 2.14		P1弥生甕 P2須臾器 P3弥生甕 P4須臾器 P5弥生甕 P6須臾器 P7須臾器 P8土師器 P9弥生甕 P10須臾器 P11須臾器 P12弥生甕	
F29	X-16	長方形	N-2°-E	3.47	3.91	13.22	0.53~0.85	0.16~0.33	P5-P6 1.82 P3-P4 1.54	P4-P5 3.84 P1-P2 3.91		P4弥生甕	
F30	X-17・22	長方形	N-1°-E	6.79	4.34	28.76	0.66~0.83	0.13~0.50	P1-P8 2.16 P3-P4 2.02	P2-P3 2.36 P1-P2 1.98	D86・D145 M28・M29・M36・M63	P1弥生高坏 P3弥生甕・S字甕 P6弥生甕	
F31	IX-19・20・25	(長方形)	N-1°-W	(4.91)	4.29	(20.89)	(0.43) ~0.78	0.20~0.52	P3-P4 2.46	P2-P3 2.18 P1-P2 2.11	M29	P2弥生甕 P3弥生高坏	
F32	XIII-6・11	長方形	N-77°-E	3.24	2.81	8.72	(0.31)~0.63	0.14~0.46	P5-P6 1.82 P6-P7 1.34	P1-P7 2.81 P3-P4 1.24			
F33	XI-25 XII-21	長方形	N-83°-E	6.85	4.34	(30.19)	0.62~0.79	0.20~0.40	P2-P3 4.90 P1-P2 1.95	P1-P8 2.22 P3-P4 2.17	D25 M12・M17・M29・M30		

第5表 遺構計測表 (5)

(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	平面形態	規模			出土遺物	重複関係	備考
			長軸方位	長軸長	短軸長			
D1	XV-17-18・23	長方形	N-61°-E	2.88	1.31	0.32		
D2	XV-22	長方形	N-53°-E	2.83	1.38	0.40	須臾器甕、弥生甕	
D3	XXI-2・3	隅丸方形	N-27°-E	1.28	1.17	0.42	弥生甕・甕	M7
D4	XX-22	楕円形	N-34°-W	0.96	0.87	0.34		
D5	XX-23	隅丸方形	N-58°-W	1.89	1.76	1.48	須臾器坏・甕、土師器坏、弥生甕	テラス深さ-1.09
D6	XX-1	方形?	N-35°-E	2.07	1.87	1.29		テラス深さ-北1.15 南1.19
D7	XV-23・24	-	-	1.43	(0.78)	0.19	弥生甕・甕	
D8	XX-11	隅丸方形	N-41°-E	2.52	2.23	1.93	須臾器甕、弥生甕・甕、古墳甕	テラス深さ-1.28
D9	XX-19・20	不整形	N-84°-W	3.48	3.10	2.18	須臾器、弥生甕・甕、かわらけ	テラス深さ-1.46
D10	XX-5	円形	N-44°-E	1.73	1.65	0.71	土師器甕、弥生甕、かわらけ	
D11	XV-13・18	-	N-83°-W	1.89	(1.34)	0.48		H1・F39
D12	XV-15 XVI-11	-	-	1.52	(0.62)	0.42		H2
D13	XXII-8	楕円形	N-9°-W	(2.51)	(1.98)	0.13	須臾器坏・甕、武蔵甕、弥生・かわらけ	M16
D14	XXII-4・5	不整形	N-85°-W	2.15	1.10	0.22	須臾器坏・甕、土師器内黒坏・甕、弥生甕・甕	PI 径-0.35 深さ-0.17
D15	XXII-4	楕円形	N-34°-E	1.21	0.84	0.08	土師器甕、ミニチュア	
D16	XXII-5	不整形	N-2°-E	0.77	0.75	0.28	須臾器坏・甕、土師器甕	
D17	XXII-5	楕円形	N-79°-W	0.92	0.45	0.21	須臾器甕、土師器甕、弥生甕	
D18	XXIII-1	不整形	N-75°-E	1.22	0.77	0.28	須臾器坏・甕、弥生甕	西側深さ-0.25
D19	XXIII-1	不整形	N-88°-W	0.97	0.59	0.29	須臾器蓋・甕、土師器甕、弥生甕・甕、ミニチュア	
D20	XXIII-3・4・8・9	円形	N-11°-E	(8.27)	7.35	1.26	須臾器皿・坏	F5
D21	XXIII-1	不整形	N-35°-E	1.20	0.89	0.34	弥生甕	
D22	XXIII-1	円形	N-8°-E	1.03	0.87	0.33	弥生鉢・甕(細文施文)・小型甕、台付甕	
D23	XXIII-8	不整形	N-67°-W	1.87	(1.41)	0.66	須臾器蓋・坏・甕、土師器坏・内黒坏・武蔵甕・ロクロ甕、 甕(伊勢系)	テラス深さ-0.37
D24	XVII-12・17	円形	N-13°-E	0.91	0.79	0.11		
D25	XI-25	-	-	(0.94)	0.77	0.45	弥生高坏・甕	M17
D26	XVI-19	-	N-6°-W	(1.32)	1.05	0.26	須臾器坏・甕、弥生甕、親文	テラス深さ-0.17
D28	XVI-18	-	-	1.70	(0.81)	0.14		
D29	XVI-18	円形	N-69°-W	0.90	0.86	0.20		
D30	XVI-13	方形	N-30°-E	1.15	1.06	0.60	弥生甕・甕	テラス深さ-北0.53 東0.21
D31	XVI-12	方形	N-58°-W	0.84	0.72	0.21		テラス深さ-0.16
D32	XII-2	-	-	0.93	(0.48)	0.31		
D33	XII-2	-	-	0.91	(0.47)	0.22		
D34	XVII-1・2 XII-21	不整形	N-58°-E	1.86	(0.78)	0.40		F9・P176
D35	XVI-9	楕円形	N-52°-E	2.01	(1.47)	1.02	武蔵甕、楕瓶	M25
D36	XVII-1	楕円形	N-14°-E	1.41	0.67	0.24		

第6表 遺構計測表 (6)

(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	棟位置	平面形態	規 模			出土遺物	重複関係	備 考
			長軸方位	長軸長	短軸長			
D37	XVII-5 XVII-1	楕円形	N-8°-W	1.45	0.41			
D38	XXII-1	楕円形	N-55°-W	0.82	0.59			
D39	XXII-1	-	-	1.57	(0.59)			
D40	XI-22・23	隅丸方形	N-39°-E	1.77	1.74			テラス深さ-134
D41	XVII-5 XVII-1	-	N-85°-E	(0.92)	0.79		M17	
D42	XVII-1	-	N-16°-E	(1.79)	(1.19)		M12・M17	テラス深さ-北0.60 西0.68
D43	XVII-6・7	方形	N-47°-W	1.03	0.89			
D44	XVII-1・2	楕円形	N-32°-W	1.19	0.76			
D45	XVII-7	円形	N-12°-E	0.79	0.72			須恵器甕、弥生甕・甗
D46	XVI-9	楕円形	N-22°-E	1.12	0.86			須恵器甕、土師器甕、弥生
D47	XVI-14・15	円形	N-38°-E	1.44	1.30			
D48	XVI-15 XVII-11	円形	N-24°-W	1.38	1.29			弥生高坏・甕・甗(縄文施文)
D49	XVII-6	-	-	0.90	(0.51)			弥生高坏
D50	XVI-10	隅丸方形	N-48°-W	1.10	1.07			弥生甕・甗
D51	XVI-5	円形?	N-61°-W	1.08	(0.80)		F13	P1 径-0.22 深さ-0.09
D52	XVI-10	円形	N-10°-E	1.14	1.09		M35	
D53	IV-14	-	-	0.76	(0.62)			
D54	IV-18	円形	N-2°-W	0.79	0.73			
D55	IV-17・18	円形	N-72°-E	3.60	3.18			須恵器坏・甗、弥生甕・甗、かわらけ
D56	IV-20	円形	N-58°-W	1.06	0.99			
D57	IV-14・15・20	円形	N-74°-E	3.35	2.95			須恵器蓋、弥生高坏、古墳甗
D59	V-17	長方形	N-71°-W	1.39	(1.03)			
D60	V-17	長方形	N-7°-E	1.47	0.60			テラス深さ-0.37
D61	V-13	長方形	N-6°-E	2.94	1.17			テラス深さ-0.21
D62	X-3・4	円形	N-3°-E	1.09	0.95			
D63	X-5	円形	N-13°-E	2.83	2.45		M82	
D64	IV-20	円形	N-37°-E	0.78	0.69			須恵質すり鉢、弥生甕・かわらけ
D65	XII-16・17	円形	N-15°-E	1.62	1.57			
D66	XII-16	方形	N-80°-E	1.41	1.25			
D67	XI-3	楕円形	N-70°-E	1.41	1.06			須恵器甕、弥生高坏・甗
D68	XI-4	楕円形	N-81°-E	1.68	1.03			土師器内黒坏、弥生鉢
D69	IV-25 V-21	円形	-	0.78				
D70	V-20	円形	-	1.10	(0.92)			テラス深さ-0.22
D71	V-24	円形?	-	2.43	(2.19)			土師器内黒坏、弥生甕・かわらけ、古墳甗
D72	XI-4	方形	-	1.03	(0.79)			D68
D73	XI-3	方形	N-31°-E	2.53	2.05			D67
D74	VI-21	不整形	N-58°-W	2.84	2.44			須恵器坏、弥生高坏・甗

第7表 遺構計測表 (7)

(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	平面形態	規模			出土遺物	重複関係	備考
			長軸方位	長軸長	短軸長			
D77	V-21・25	楕円形	N-16°-W	1.52	0.48	弥生壺	P399・P440	P1 径-0.33 深さ-0.14
D78	V-22	不整形	N-2°-W	(1.97)	0.75			
D79	X-3	円形	-	0.63	0.20			
D80	X-10	-	-	0.98	(0.54)		F18・M49	
D81	X I-6	不整形?	N-55°-W	3.23	(1.45)	須恵器坏、土師器坏、甕	M65	
D82	X-15	方形?	-	1.10	0.95	弥生壺・甕		
D83	X-20	-	-	(0.81)	(0.46)			
D84	X-20	-	N-31°-E	(1.04)	(0.88)	須恵器坏・甕、弥生壺・甕	F20・M30・M65	テラス深さ-0.31
D85	X-25	-	-	1.23	(0.78)	弥生高坏・甕	Ta1・M29	テラス大深さ-0.32 テラス中深さ-0.32
D86	VI-21	-	-	2.07	(0.96)	弥生甕		
D87	VI-21 X II-1	-	N-57°-W	2.83	2.09	弥生壺・甕	M67	
D88	X II-1	方形	N-69°-E	1.50	1.21	弥生壺、小型丸底甕		
D89	X II-1	隅丸長方形	N-82°-W	2.57	1.15	弥生壺・甕	F19 P616	P1-0.38-0.25 P2-0.44+0.31 P3-0.39+0.26
D90	X-18・23	不整形	-	(2.93)	-	弥生高坏		
D91	X-23	-	-	3.75	(0.78)		M29	
D92	X-22・23	不整形	-	(7.96)	(1.79)	弥生高坏	M29	
D93	V-15	不整形	-	(3.73)	-			
D94	X I-18	長方形?	N-18°-E	1.56	1.29	須恵器坏・甕、武蔵甕		テラス深さ-0.64
D95	X I-17・22	方形	N-69°-E	2.16	1.75	須恵器坏・甕、土師器坏、武蔵甕	M30	テラス深さ-0.94
D96	X-17・22	-	-	3.21	-	弥生壺	M28・M36・M63	
D97	X I-19	長方形	N-12°-E	1.33	0.68	須恵器甕		
D98	X-18	不整形	N-15°-W	1.61	0.76			
D99	X-18・19	-	-	3.03	-	弥生壺・甕		
D100	X II-7・12	円形	N-55°-W	1.39	1.27		M77	テラス北深さ 0.16 南 0.26
D101	VI-21	-	-	1.09	(0.62)		M42	
D102	X I-3	-	-	1.00	(0.86)			
D103	X I-4	-	-	1.28	(1.04)		D73	
D104	X I-4	円形	N-82°-E	1.53	1.40	弥生壺・甕	P462	
D105	X I-4・5	方形	N-28°-W	1.32	1.22	弥生鉢・甕		
D106	V-23・24	不整形	N-7°-E	(1.93)	1.51	弥生甕		
D107	X I-3	-	-	2.94	(0.87)		P454	
D108	X I-16	長方形	N-18°-W	1.21	0.65	須恵器甕、土師器甕	M39	
D109	X II-1	-	-	1.06	(0.31)			
D110	VI-21	不整形	N-19°-E	(1.58)	0.85			
D111	VI-21	長方形?	N-76°-E	1.77	0.75			
D112	X I-3	方形	N-67°-W	0.68	0.61		P655・D86	

第8表 遺構計測表 (8)

(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	平面形態	規模			出土遺物	重複関係	備考
			長軸方位	長軸長	短軸長			
D113	X I-3	円形	N-86°-W	1.03	0.91			
D114	V-18・23	不整形	N-5°-W	(2.24)	1.38			
D115	V-18	楕円形	N-25°-E	2.48	1.19			
D116	V-18	-	-	1.40	(0.52)			
D117	V-23	不整形	N-6°-E	(1.90)	1.22			
D118	IV-25 X-5	楕円形?	N-9°-E	(1.30)	1.28	弥生甕	P390・P392・P415	
D119	V-13	方形?	N-29°-W	1.49	1.27			テラス北深さ 0.46南 0.43
D120	X I-2	楕円形	N-16°-W	1.12	0.86			テラス深さ-0.15
D121	V-22	楕円形	N-27°-W	1.53	1.31			
D122	X I-1	不整形	-	(3.10)	(0.88)			M65・P439・P513
D123	V-18	-	-	1.54	(1.47)			
D124	IV-15	不整形	N-58°-W	1.34	1.06			テラス深さ-0.23
D128	IV-24 X-4	楕円形?	N-38°-W	2.74	1.58		M47	
D129	IV-15	楕円形	N-3°-E	1.37	0.82			
D130	IV-25	楕円形	N-2°-E	1.04	0.77			
D131	IV-24 X-4	楕円形	N-81°-W	1.94	0.98		M42	
D132	X-4	楕円形	N-81°-E	0.96	0.64			
D133	X-3	-	-	1.47	(0.91)		M66	
D134	X-4	方形?	N-50°-E	1.73	1.45		M42	
D135	IV-24	-	-	(0.58)	-		D128・M47	
D136	X-3	方形	N-73°-E	1.29	(1.18)	弥生甕	M64	
D137	X I-6・11	楕円形	N-87°-W	0.96	0.53			
D138	X-15 X I-11	楕円形	N-11°-E	(1.24)	1.00			
D139	X I-16・21	楕円形	N-78°-E	1.22	0.83		M62	
D140	X-18	楕円形?	N-65°-W	3.18	(1.19)		D90	
D141	V-13・14	楕円形	N-33°-E	1.41	1.06			
D142	V-14	円形	N-43°-W	1.30	1.22			
D143	X I-20 X II-16	長方形	N-67°-W	(2.23)	0.85		M12・M18・M67	P1-0.20・0.14 P2-0.21・0.14 P3-0.24・0.24
D144	X-23・24	不整形	-	(6.10)	(1.83)	須恵器杯・甕、弥生壺・甕	M29・M42	
D145	X-17・22	不整形	N-2°-E	(5.36)	3.08	須恵器蓋・甕、土師器甕、弥生甕		
D146	X VI-24・25	不整形	N-82°-W	2.58	(1.50)		Ta2	P1 径-0.36 深さ-0.16

第9表 遺構計測表 (9)

(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	規模			出土遺物	重複関係	備考
		最大長	幅	深さ			
M1	XV-22 XX I-2・6・7・11・12・16・17・21・22	(46.29)	1.48~2.35	0.61~0.75	須臾器甕、弥生蓋・甕・鉢、土製火鉢、かわらけ		南 0.60m低い P1 0.57~0.49 P2 0.48~0.73
M2	XV-17・22 XX I-2・7・12・17・22	(46.12)	0.11~1.24	0.33~0.53	須臾器蓋・鉢、土師器蓋・武蔵甕、弥生甕		南 0.53m低い
M3	XX I-22・23・24	(13.74)	0.35~0.65	0.15~0.16		M5	東 0.04m低い(ほとんど平ら)
M4	XX I-17・18	(10.19)	0.15~0.41	0.06~0.08			南 0.04m高い (ほとんど差がない)
M5	XX I-19・24	(7.22)	0.34~0.61	0.06~0.13			南 0.03m高い
M6	XIX-9・10 XX-6~10・14・15 XX I-6・7・11~15・19・20 XX II-11・16	(97.34)	0.87~4.93	0.67~0.74	弥生高坏・甕・甕	M1・M2・M9・M10	東 0.74m高い(西側に向かってだんだん低くなる)
M7	XIV-25 XV-21 XX I-1~5・9・10 XX II-6~10・12~15 XX III-6	(95.73)	1.20~2.00	0.38~0.88	須臾器、土師器甕、弥生蓋・甕	M1・M2・M15・M16・F3	北東 0.58m高い
M8	XIX-10 XX-6・11~13・17~19・24・25 XX VI-5	(46.30)	0.68~3.55	0.38~0.73		D8	南西 0.96m低い
M9	XIX-9・10・15 XX-11・12・16~18・23・24 XX VI-4	(52.85)	0.70~3.32	0.32~0.47		M6	南西 0.77m低い
M10	XIX-9・10・14・15・19・20 XX-11・16・17・21~24 XX VI-2~4	(41.23)	5.44~8.52	0.55~0.71		D4・D5・D9	南西 0.52m低い
M11	XIII-24 XIX-4	(8.68)	0.48~0.89	0.29~0.38	縄文	M15	南東 0.04m高い
M12	V-15・20・25 XI-5・10・15・20・25 XII-11・16・21 XVI-20・25 XVII-1 XX III-5・10	(113.84)	0.38~3.29	0.27~0.64	灰釉甕、土鍋、香炉、火鉢、須臾器坏・高坏・甕・甕、弥生甕	M20・M57・M89・M90	南 1.45m低い
M13	XVII-1・16・21 XVIII-20・25 XX III-5・10 XX IV-1・6	(50.32)	(0.92) ~3.88	0.48~0.87	土鍋、須臾器坏、土師器坏、弥生蓋、中皿鉢、土製円板	M12・M20・M89・M90	南 1.00m低い
M15	XIII-24	(5.52)	0.37~0.63	0.05~0.13			南 0.04m低い
M16	XVI-23 XX II-3・8~10	(29.44)	0.46~0.84	0.14~0.25	弥生高坏・甕・台付甕	F2・M36	南西 0.17m低い
M17	V-15・20・25 VI-11・16・21 XI-5・10・15・20・25 XII-21 XVII-5・25 XVIII-1・6・21 XX III-5・10 XX IV-1・6	(129.59)	(0.40) ~ (3.45)	0.23~0.90	須臾器坏・高坏・甕、弥生鉢、かわらけ	M12・M13・M20・M30・M89・M90	南 1.74m低い
M18	V-20・25 VI-11・16・21 XI-5・10・15・20・25 X II-1・21 XVII-1・16・21 XX III-10 XX IV-1・6	(116.95)	0.56~2.57	0.15~0.73		M12・M13・M17・M20・M89・F519	南 1.70m低い
M19	XVII-16・21 XX IV-1	(13.50)	0.12~0.60	0.15~0.42		M17・M18	南 0.39m低い
M20	XVII-24・25 XX III-5	(11.75)	0.51~1.18	0.18~0.48		M90	南 0.45m低い
M21	XX III-9・10	(8.77)	(0.12) ~ (0.96)	0.12~0.37			西 0.27m低い
M22	XIX-14・15 XX-11~15 XX I-11	(56.20)	0.99~2.36	0.16~0.93	弥生甕・甕	D8・M1・M8・M9・M10	西端と左端は差がない 中央は両端より低い
M23	XIX-14・15 XX-11~13・17	(27.99)	0.31~1.44	0.08~0.55	弥生鉢・高坏・甕	M8・M9・M10	西 0.19m低い
M24	XVI-25 XX II-5	(1.52)	0.28~0.31	0.08~0.10	須臾器甕、土師器甕、弥生甕・甕		北西 0.01m低い

第10表 遺構計測表 (10)

(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	規模			出土遺物	重複関係	備考
		最大長	幅	深さ			
M25	XVI-4・5・9・14・19・24・25 XVII-1・2・21・22 XXII-2・3	(86.95)	0.40~1.71	0.10~0.46	須恵器杯・高坏・甕・短頸甕、土師器内黒坏・坏・甕	D20・D26・M26・M27・M47	南西 0.59m低い、(D20付近)
M26	XVI-19・24・25 XXII-5・10	(24.25)	0.52~0.99	0.12~0.16	須恵器甕	Ta2	南 0.19m低い
M27	IX-25 X-21~25 XI-21~24 XVII-4・5 X VIII-1~5 XVIII-1	90.52	1.63~2.64	0.53~0.81	須恵器皿・甕、土師器内黒坏・甕、弥生甕	M17	西 0.72m低い
M28	X-17・22~25 XI-21~24	(73.47)	0.27~0.97	0.14~0.38	須恵器蓋・坏・甕、土師器甕、弥生高坏・甕	D40・M36	西 0.57m低い
M29	IX-24・25 X-21~25 XI-21~25	(87.07)	0.26~1.98	0.12~0.69	須恵器蓋・坏・甕、土師器坏・甕、弥生甕	D25・M30・M36・M62	西 0.84m低い
M30	X-13~15・18~20 XVI-5 XVII-1	(74.71)	0.33~1.00	0.08~0.43	須恵器坏・甕	M12	南西 0.86m低い
M31	XVII-1・6・11	(21.35)	0.32~0.94	0.05~0.11	須恵器坏・甕、土師器坏・甕		南 0.10m低い
M32	XVII-1・6・11・16	(27.22)	0.17~0.55	0.07~0.18	須恵器甕、土師器坏・甕	M31	南 0.18m低い
M34	XII-12・13・17	(10.97)	0.36~0.56	0.06~0.09	須恵器甕	P115・P116・H9・H10	南 0.11m低い
M35	XVI-4・5・9・10 XVII-6	(18.84)	0.52~2.47	0.07~0.22	須恵器坏・甕、武蔵甕、古墳甕	M31・M32・M41	東 0.05m低い
M36	X-16・17・21・22 XV-9・10 XVI-2・4・6~8・12・17・22~24 XXII-2・3・7・8・13	(111.33)	0.26~3.23	0.16~0.49	須恵器坏・甕、土師器甕、弥生甕		南 1.28m低い
M37	XVIII-2・3	(8.20)	(0.70)~1.26	0.22~0.37	須恵器坏・甕、武蔵甕	M38	東西ほぼ平ら
M38	XVIII-2・3	(7.41)	0.35~0.53	0.37	吹袖坏、須恵器坏・甕、土師器坏・武蔵甕		西 0.10m高い
M39	XII-1・2・3	(16.14)	0.92~1.59	0.15~0.42		D32・D33・M56・M67	西 0.06m高い
M40	XII-21	(0.72)	0.17~0.22	0.03~0.05		M17・M18	北西 0.01m低い
M41	XVI-4・5・9	(7.16)	0.76~0.96	0.16~0.28	須恵器坏・甕、甕、土師器甕	M25	南東 0.05m低い
M42	IV-24 X-4・9・14・19・24 XVI-4・9	(52.09)	0.24~1.35	0.12~0.34	須恵器蓋・坏・甕、甕、土師器甕、武蔵甕、縄文、古墳甕	M25・M27・M28・M29・M30・M36・M54・M66	南 0.90m低い
M43	XI-25 XVII-5	(1.25)	0.19~0.28	0.17~0.23	弥生甕	M17	西 0.11m低い
M44	XI-25 XVII-5	(1.55)	0.13~0.35	0.11			南 0.04m低い
M45	XII-23	(2.38)	-	0.27	弥生甕・甕	H11・F7	
M46	XII-23	(2.34)	-	0.24	弥生甕・甕、縄文	H11	
M47	IV-24・25 X-4・9・14・19・24 XVI-4・9	(56.95)	0.41~0.95	0.07~0.48	須恵器坏・甕、弥生甕	M27・M28・M29・M30・M54・M66・P851	南 1.30m低い
M48	X-25 XVI-5	(9.11)	0.18~0.75	0.09~0.19	須恵器蓋	M25・M27・M28・M29	南 0.09m低い
M49	IV-20・25 X-5・10・15・20・25 XI-1	(57.62)	0.32~1.84	0.15~0.47	須恵器坏・高台・甕、土師器坏・甕、弥生甕・甕・鉢、カ わらひ	D63・P376・P490・P517・P518・M27・M28・M29・M30	南 1.17m低い P1 0.36~0.20 P2 0.18~0.13
M50	XVI-24	(2.52)	0.20~0.38	0.05~0.11	須恵器甕、弥生甕		南 0.06m低い
M53	X-2・3	(9.58)	0.64~1.04	0.14~0.20	弥生甕		西 0.07m低い

第11表 遺構計測表 (11)

(重複関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	規模			出土遺物	重複関係	備考
		最大長	幅	深さ			
M54	X-2・3・4・5	(18.41)	0.44~0.77	0.10~0.25	須惠器甕、土師器坏、弥生甕	D63	西 0.25m低い
M56	X I-5 X II-1・2	(9.79)	0.18~0.32	0.04~0.20			西 0.23m低い
M57	X I-10・20 X II-6・11・16	(22.41)	0.27~0.90	0.09~0.29	焙烙、かわらけ		南 0.14m低い
M61	X-13	(6.08)	0.25~0.49	0.10~0.12	弥生甕		西 0.05m低い
M62	X-10・15 X I-6・11・16・21	(33.51)	0.18~1.92	0.07~0.19	須惠器蓋・坏・甕、土師器甕、弥生高坏・甕	M30	南 0.36m低い
M63	X-17・22	(9.74)	(0.20) ~0.96	0.11~0.24	須惠器坏、武藏甕	M27・M28・M29・M36	南 0.26m低い
M65	V-21 X I-1・6・11・16 X-20	(41.40)	0.36~1.55	0.17~0.73	須惠器坏・高坏・甕	M30・M49・M62	南東 0.81m低い
M66	IV-24・25 V-21 X-3・4・8・13・18 X I-1・2	(62.55)	0.33~0.66	0.06~0.20	須惠器坏・高坏・甕、弥生甕・甕	P404・P414・P514・P515・P516・M30・M49・M53・M54・M61	
M67	VI-11・16・21 V-25 X I-5・10・15・20 X II-1・11・16	(56.83)	(0.37) ~ (1.84)	0.20~0.85		M12・M17・M18・M56・M57	南 0.30m低い
M68	X-2・3	3.70	0.26~0.47	0.12~0.28	須惠器甕		西 0.01m低い
M70	X-20	(5.67)	0.34~0.49	0.04~0.17	弥生甕・鉢	D84・F20・M30・M49・M65	南 0.16m低い
M71	X-16・21	(5.02)	0.33~0.56	0.08~0.16	須惠器坏	M36	南 0.14m低い
M72	V-15・20・25	(23.49)	(0.30) ~0.60	0.42~0.64		M12・M17	南 0.23m低い
M73	V-14・15 VI-11	(17.02)	0.41~0.62	0.16~0.24		M12・M17・M18・M67・M72	西 0.18m低い
M74	V-13・15 VI-11	(25.50)	2.44~4.35	0.27~0.38		M12・M17・M18・M67・M72・M73・M78	西 0.37m低い
M75	VI-16	(3.70)	0.62~0.91	0.14~0.22		M67	西 0.04m低い
M77	X-18	(3.94)	0.25~0.98	0.17~0.35	須惠器坏、土師器坏、弥生高坏・甕		南 0.02m低い
M78	VI-11・16	(3.44)	0.73~0.90	0.28~0.30			西 0.04m低い
M79	X-19	(4.17)	0.29~0.66	0.04~0.08	弥生甕		南 0.02m低い
M80	X II-1	(5.59)	0.39~0.83	0.03~0.06		D88	西 0.05m低い
M81	VI-16	(3.57)	0.64~0.93	0.16~0.23		P588・P589・M67	西 0.04m低い
M86	X-10・15・19・20	(17.85)	0.21~0.48	0.08~0.11		M49・F18	南 0.21m低い
M87	XIX-14・15	(1.18)	0.37~0.43	0.12		M10	北西 0.03m高い
M88	XXIV-1・2	(12.53)	0.31~0.54	0.08~0.13		M18	東 0.03m低い
M89	XVII-19・20・23・24	(18.59)	0.29~1.24	0.12~0.38			西 0.49m低い
M90	XVIII-21・22・23・24・25	(36.50)	0.32~0.68	0.14~0.54			西 0.10m低い
M91	XVIII-1・2・3	(15.63)	0.99~1.54	0.22~0.46		M13・M37	西 0.09m低い